

北
山
遺
跡

北 山 遺 跡

縄文時代集落の調査

主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



二〇二二

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2012

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

北 山 遺 跡

縄文時代集落の調査

主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

北山遺跡は、わが国旧石器文化研究の出発点として著名な岩宿遺跡の近くにあります。この北山遺跡からは旧石器はもとより、縄文時代の遺構・遺物が見つかっており、かねてより縄文時代の大きな集落遺跡として知られていました。この地点に主要地方道桐生伊勢崎線の阿左美バイパスが整備されるのにあたり、関係各機関の調整を経て、発掘調査を行い埋蔵文化財を記録として残すこととなり、当事業団がその実施にあたることとなりました。

発掘調査は平成22年度に実施し、縄文時代前期の住居や土坑が検出され、縄文土器や石器が多く出土しました。また、関東ローム層の中から旧石器時代の土坑3基が見つかり、注目される調査となりました。調査面積はわずかでしたが、この発掘調査によって渡良瀬川右岸の低台地に広がる縄文時代集落の一端や旧石器時代人の生活の痕跡を明らかにすることができました。

発掘調査を実施するにあたり、多大なご理解とご協力をいただいた群馬県桐生土木事務所、群馬県教育委員会、みどり市教育委員会、ならびに地元の方々へ心より感謝を申し上げますとともに、本報告書が地域の歴史解明のため多くの人々によって利用されることを願い、序といたします。

平成24年9月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 榮 一

例 言

1. 本書は、平成21年度(主)桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)地域活力基盤創造交付金事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託で実施された発掘調査の成果を、平成23年度(主)桐生伊勢崎線阿左美バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財の整理委託で整理した北山遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県みどり市笠懸町阿左美592、658-1、658-2、658-3、658-4、661-1、661-2、661-3、661-6、664、665、669-1、669-2、669-3、670-1、670-2、696-1、696-2、697、698、701-1、701-2、701-3、701-4、701-5、701-6、701-7、701-8、702、703-1、703-2、703-3、705-1、705-2、706-1、706-2、706-3、707、708、713-1、713-2、714、715-2番地に所在する。
3. 事業主体は群馬県東部県民局桐生土木事務所である。
4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日に公益財団法人に組織改定。)である。
5. 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

調査履行期間 平成22年3月31日～平成22年8月31日(調査期間平成22年4月1日～平成22年6月30日)
発掘調査担当 上席専門員 谷藤保彦、調査研究員 古口晃敬
遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社
委託 地上測量：株式会社シン技術コンサル
6. 整理事業の期間と体制は次の通りである。

平成23年度
整理履行期間 平成23年11月1日～平成24年3月31日(整理期間平成23年11月1日～平成24年3月31日)
整理担当者 上席専門員 岩崎泰一

平成24年度
整理履行期間 平成24年3月30日～平成24年9月30日(整理期間平成24年4月1日～平成24年7月31日)
整理担当者 上席専門員 谷藤保彦
7. 本書作成の担当は、次の通りである。

編集 上席専門員 谷藤保彦
執筆 上席専門員 谷藤保彦(本文第1章第1節・第2節1～3、本文第4章第2節、遺物観察：縄文土器)
資料統括 小島敦子(本文第1章第2節4、第2章、第3章、第4章第1節)
上席専門員 岩崎泰一(本文第4章第3節、遺物観察表：石器・石製品)
デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦
遺物写真撮影 補佐(総括) 佐藤元彦
8. 石材同定の一部は、飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
9. 発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
10. 発掘調査及び報告書作成に際しては、群馬県東部県民局桐生土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、みどり市教育委員会文化財保護課、岩宿博物館、みどり市都市計画課、萩谷千明氏をはじめ、関係機関ならびに多くの方々からご協力・ご指導をいただいた。

凡 例

1. 北山遺跡の遺構測量は世界測地系国家座標(座標第IX区)を用いて測量した。

真北方向角は+0° 18' 38.58" (東偏)である。

2. 本書における遺構番号は、調査時のものをそのまま使用した。基本的には区ごとの通し番号である。
3. 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を使用している。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。

遺構図 住居 1 : 60 土坑 1 : 40 溝 1 : 80

遺物図 土器 1 : 3 土器拓影 1 : 3

石器・石製品 1 : 3、1 : 2 大形石器 1 : 6 小形石器 1 : 1

5. 遺物番号は、住居出土遺物は遺構(掲載図)ごとの連番で、土坑出土遺物は土坑ごとの連番で、包含層出土遺物は区ごとの連番で付した。番号は本文・挿図・表・写真図版とも一致する。

6. 図中で使用したマークは以下のことを表す。

遺構図 焼土  地割れ  攪乱 

遺物図 繊維包含縄文土器  石器磨り面 

7. 石錐の先端磨耗は黒丸ドットでその範囲を示した。磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は磨耗範囲を示す。その他の斜位定規線は線条痕の走行を示す。石皿については、使用部の磨耗および再生状態(再敲打)を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。

8. 遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/3あるいは1/4、石器のうち礫・剥片石器は大きさに応じて1/3あるいは1/2、石鏃等の小型のものは1/1に近づけるようにした。

9. 遺物の重量の計測にあたっては6000gまでは1g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用し、計測した。

10. 各地図の使用は以下のとおりである。

第1図 国土地理院発行、20万分の1地勢図「宇都宮」平成18年4月1日発行

第2図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「桐生」平成21年4月1日発行

第3図 田笠懸村発行、5千分の1地図「図2」「図4」昭和60年6月発行

第7図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「桐生」平成14年5月1日発行

第8図 第一軍管地方迅速測図、2万分の1「大間間町」「桐生新町」明治18年測量

第9図 田笠懸村発行、2千5百分の1地図昭和40年代測量

第10図 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「桐生」平成14年5月1日発行

第84図 田笠懸村発行、2千5百分の1地形図昭和40年代測量

また、第6図は、著者の澤口宏氏の許諾を受けて下記の文献から転載した。澤口宏2010「大間々扇状地—社会基盤としての自然環境—」『群馬県大間々扇状地の地域と景観』

11. 参考・引用文献は、第4章末に一括して掲載した。周辺遺跡一覧表(第1表)の文献№もこれに一致する。

目次

序
例言
凡例

第1章 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・	1	第4節 古代以降の遺構と遺物・・・・・・・・	117
第1節 発掘調査に至る経緯・・・・・・・・	1	1. 概要・・・・・・・・・・・・・・・・	117
第2節 調査の方法と経過・・・・・・・・	4	2. 2区・・・・・・・・・・・・・・・・	117
1. 調査の方法・・・・・・・・・・	4	3. 3区・・・・・・・・・・・・・・・・	118
2. 基本層序・・・・・・・・・・	5	4. 4区・・・・・・・・・・・・・・・・	122
3. 発掘調査の経過・・・・・・・・	6	5. 5区・・・・・・・・・・・・・・・・	122
4. 整理作業の経過と方法・・	9	6. 6区・・・・・・・・・・・・・・・・	122
第2章 遺跡の立地と歴史的環境・・・・・・・・	10	第4章 北山遺跡調査の成果(総括)・・・・	123
第1節 遺跡の位置と地理的環境・・・・	10	第1節 遺構について・・・・・・・・	123
1. みどり市笠懸町の地形・・・・	10	1. 縄文時代遺構の分布・・・・	123
2. 北山遺跡の立地・・・・・・・・	12	2. 旧石器時代の土坑・・・・	125
第2節 遺跡の歴史的環境・・・・・・・・	14	第2節 縄文土器について・・・・	127
1. これまでの北山遺跡の発掘調査・・	14	第3節 縄文時代石器について・・・・	128
2. 周辺の遺跡分布・・・・・・・・	16	参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・	130
第3章 検出された遺構と遺物・・・・・・・・	19	遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	131
第1節 遺跡の概要・・・・・・・・・・	19	石器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・	144
第2節 旧石器時代の調査・・・・・・・・	20	報告書抄録・・・・・・・・・・・・	152
1. 調査の結果・・・・・・・・・・	20	写真図版	
2. 旧石器時代の遺構・・・・・・・・	20		
第3節 縄文時代の遺構と遺物・・・・	25		
1. 1区・・・・・・・・・・・・・・・・	26		
2. 2区・・・・・・・・・・・・・・・・	26		
3. 3区・・・・・・・・・・・・・・・・	81		
4. 4区・・・・・・・・・・・・・・・・	83		
5. 5区・・・・・・・・・・・・・・・・	85		
6. 6区・・・・・・・・・・・・・・・・	102		

挿 図 目 次

第1図	北山道跡の位置	1	第44図	2区道構外出土遺物(2)	67
第2図	北山道跡と主要地方道榊生伊勢崎線	2	第45図	2区道構外出土遺物(3)	69
第3図	北山道跡周辺の地形と発掘区的位置	3	第46図	2区道構外出土遺物(4)	70
第4図	北山道跡の発掘区	4	第47図	2区道構外出土遺物(5)	72
第5図	北山道跡の基本層序	6	第48図	2区道構外出土遺物(6)	73
第6図	大間々扇状地の地形	10	第49図	2区道構外出土遺物(7)	75
第7図	みどり市笠懸町の地形	11	第50図	2区道構外出土遺物(8)	76
第8図	北山道跡の立地	13	第51図	2区道構外出土遺物(9)	78
第9図	北山道跡のおもな発掘地点	15	第52図	2区道構外出土遺物(10)	79
第10図	北山道跡周辺の道跡	17	第53図	2区道構外出土遺物(11)	80
第11図	北山道跡全体図	19	第54図	3区縄文時代遺構全体図	81
第12図	旧石器時代の土坑	21	第55図	3区1～3号土坑平・断面・出土遺物と道構外出土遺物	82
第13図	旧石器調査坑の位置と土層断面	22	第56図	4区縄文時代遺構全体図	83
第14図	縄文時代の道構全体図	25	第57図	4区1～4号・7～11号土坑平・断面と道構外出土遺物	84
第15図	1区道構外出土遺物	26	第58図	5区縄文時代遺構全体図	85
第16図	2区縄文時代遺構全体図	27	第59図	5区1号住居平・断面と出土遺物	86
第17図	2区1号住居平・断面と出土遺物	28	第60図	5区1～7号土坑平・断面と出土遺物	88
第18図	2区2号住居の遺物分布	29	第61図	5区8～14号土坑平・断面と出土遺物	90
第19図	2区2号住居平・断面	30	第62図	5区15～20号土坑平・断面と出土遺物	92
第20図	2区2号住居出土遺物(1)	32	第63図	5区21～27号土坑平・断面と出土遺物	94
第21図	2区2号住居出土遺物(2)	33	第64図	5区28～36号土坑平・断面と出土遺物	95
第22図	2区3号・5号住居平・断面	34	第65図	5区43～47号・59号・74～76号ピット平・断面と出土遺物	97
第23図	2区3号住居断面	35	第66図	5区道構外出土遺物(1)	99
第24図	2区3号住居出土遺物(1)	36	第67図	5区道構外出土遺物(2)	101
第25図	2区3号住居出土遺物(2)	37	第68図	6区縄文時代遺構全体図	102
第26図	2区4号住居平・断面と出土遺物	38	第69図	6区1～5号土坑平・断面と出土遺物	104
第27図	2区1号掘立柱建物平面と出土遺物	39	第70図	6区6～11号土坑平・断面と出土遺物	106
第28図	2区1号掘立柱建物断面	40	第71図	6区12号・13号土坑平・断面と出土遺物	107
第29図	2区1～3号土坑平・断面と出土遺物	42	第72図	6区14～17号土坑平・断面と出土遺物	109
第30図	2区4～8号土坑平・断面と出土遺物	44	第73図	6区18～22号土坑平・断面と出土遺物	111
第31図	2区9～11号土坑平・断面と出土遺物	46	第74図	6区23～29号土坑平・断面	113
第32図	2区12～14号・16号・17号土坑平・断面と出土遺物	47	第75図	6区30～32号・34号・35号・37号土坑平・断面	114
第33図	2区15号・18～22号土坑平・断面と出土遺物	49	第76図	6区36号・38号土坑平・断面	115
第34図	2区23～29号・32号土坑平・断面と出土遺物	51	第77図	6区103号ピット平・断面	116
第35図	2区30号・31号・33～35号土坑平・断面と出土遺物	53	第78図	6区道構外出土遺物	116
第36図	2区36号・37号・39～44号土坑平・断面と出土遺物	55	第79図	道構外出土遺物	117
第37図	2区45～52号土坑平・断面と出土遺物	57	第80図	2区1号溝平・断面	118
第38図	2区53～58号・60号土坑平・断面と出土遺物	58	第81図	2区古代以降全体図	119
第39図	2区61号・62号・71～75号土坑平・断面と出土遺物	60	第82図	3区・4区古代以降全体図	120
第40図	2区76～82号・84号土坑平・断面と出土遺物	62	第83図	5区・6区古代以降全体図	121
第41図	2区83号土坑・264号ピット平・断面と出土遺物	63	第84図	旧石器時代・縄文時代の遺構分布	124
第42図	2区-1区包含層の遺物分布	65	第85図	群馬県内で検出された旧石器時代の土坑	126
第43図	2区道構外出土遺物(1)	66			

表 目 次

第1表	北山道跡のこれまでの主な発掘調査	14	第5表	出土石器観察表	144
第2表	周辺の道跡一覧表	18	第6表	道構出土石器・割片の石材	149
第3表	道構一覧表	131	第7表	包含層出土石器・割片の石材	151
第4表	出土縄文土器一覧表	142			

写真図版目次

PL. 1	1区 調査区全景 南から	PL. 10	2区 27号土坑 東から
	2区-1 調査区全景 南から		2区 28号土坑 東から
PL. 2	2区-2 調査区全景 南から		2区 29号土坑 東から
	2区-3 調査区全景 南から		2区 30号土坑 東から
PL. 3	2区-4 調査区全景 北から		2区 31号土坑 北東から
	2区-1 旧石器調査坑No. 1 東壁上層断面		2区 33号土坑 北から
	2区-1 旧石器調査坑No. 2 東壁上層断面		2区 34・35号土坑 北東から
	2区-1 旧石器調査坑No. 4 確認状況		2区 36・37号土坑 南東から
	2区-1 旧石器調査坑No. 5 確認状況		2区 38・39・41号土坑 南東から
PL. 4	2区-2 旧石器調査状況全景 南から		2区 40・47号土坑 南東から
	2区-2 旧石器調査坑No. 1 東壁上層断面		2区 42号土坑 西から
	2区-2 旧石器調査坑No. 2 東壁上層断面		2区 43号土坑 西から
	2区-2 旧石器調査坑No. 3 東壁上層断面		2区 44号土坑 北から
	2区-3 旧石器調査坑No. 1 東壁上層断面		2区 45号土坑 北西から
	2区-3 旧石器調査坑No. 2 As-β層上面		2区 46・48号土坑 北西から
	2区-3 旧石器調査坑No. 3 東壁上層断面	PL. 11	2区 50・51号土坑 東から
	2区-4 旧石器調査坑 東壁上層断面		2区 52号土坑 東から
PL. 5	2区-1 遺構確認時の遺物出土状況 全景 南から		2区 53・54号土坑 東から
	2区-1 遺構確認時の遺物出土状況 南から		2区 55号土坑 東から
PL. 6	2区 1号住居 全景 南から		2区 56号土坑 北西から
	2区 1号住居 遺物出土状態 南から		2区 57号土坑 西から
	2区 1号住居 遺物出土状態 南から		2区 58号土坑 西から
	2区 1号住居 炉 南から		2区 59号土坑 南から
	2区 2号住居 全景 南から		2区 60号土坑 南から
	2区 2号住居 遺物出土状態 南から		2区 61号土坑 南から
	2区 2号住居 遺物出土状態 西から		2区 62号土坑 西から
	2区 2号住居 炉 西から		2区 71号土坑 南から
PL. 7	2区 3・4号住居 全景 東から		2区 72号土坑 南から
	2区 3号住居 全景 東から		2区 73号土坑 南から
	2区 3号住居 遺物出土状態 南から		2区 74・80号土坑 南から
	2区 3号住居 遺物出土状態 北から	PL. 12	2区 75号土坑 南東から
	2区 3号住居 遺物出土状態 北から		2区 76号土坑 南から
	2区 4号住居 全景 北から		2区 77号土坑 南から
	2区 4号住居 全景 南から		2区 78号土坑 南から
	2区 4号住居 炉 東から		2区 79号土坑 南東から
PL. 8	2区 1号孤立柱建物 全景 北東から		2区 81号土坑 南から
	2区 1号孤立柱建物 全景 北西から		2区 82号土坑 南から
	2区 1号土坑 西から		2区 83号土坑 南から
	2区 2・15号土坑 南から		2区 84号土坑 上から
	2区 3号土坑 東から		2区 1号溝西平 西から
	2区 4号土坑 東から		2区 1号溝東平 西から
	2区 5号土坑 東から	PL. 13	3区-1 調査区全景 南から
	2区 6・14号土坑 西から		3区-2 調査区全景 北から
	2区 7号土坑 南から	PL. 14	3区-1 旧石器調査状況全景 南から
	2区 8号土坑 南東から		3区-2 旧石器調査状況全景 北から
	2区 9号土坑 東から		3区-1 旧石器調査坑No. 1 東壁上層断面
PL. 9	2区 10号土坑 北から		3区-1 旧石器調査坑No. 2 東壁上層断面
	2区 11号土坑 東から		3区-1 旧石器調査坑No. 3 東壁上層断面
	2区 12号土坑 北から		3区-2 旧石器調査坑No. 1 東壁上層断面
	2区 13号土坑 北から		3区-2 旧石器調査坑No. 2 東壁上層断面
	2区 16号土坑 東から		3区-2 旧石器調査坑No. 3 東壁上層断面
	2区 17号土坑 北から	PL. 15	3区 1号土坑 南から
	2区 18号土坑 東から		3区 2号土坑 南から
	2区 19号土坑 東から		3区 3号土坑 南から
	2区 20号土坑 南から		3区-1 地割れ状況 西壁上層断面付近
	2区 21号土坑 東から		3区-2 地割れ状況 東壁上層断面付近
	2区 22号土坑 東から		4区南側 調査区全景 北から
	2区 23号土坑 東から	PL. 16	4区北側 調査区全景 南から
	2区 24号土坑 東から		4区北側 旧石器調査 西壁上層断面に確認された旧石器時代の土坑断面
	2区 25号土坑 北東から	PL. 17	4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-β層上面 北から
	2区 26・32号土坑 北東から		

	4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-砂層上面 南から	PL-26	6区-2 旧石器調査坑No.3 暗色帯上面 遺構確認状況
	4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-砂層上面 東から		6区-2 旧石器調査坑No.3 暗色帯上面 遺構確認状況
	4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-砂層上面 北東から		6区-2 旧石器調査坑No.3 拡張区 暗色帯上面 遺構
	4区 5号土坑(旧石器時代)遺構確認状況 東から		(33号土坑)確認状況 東から
	4区 6号土坑(旧石器時代)遺構確認状況 東から		6区-2 旧石器時代 暗色帯上面 33号土坑 北東から
	4区 5号土坑(旧石器時代)掘削状況 東から	PL-27	6区-2 旧石器時代 暗色帯上面 33号土坑 南から
PL-18	4区 5号土坑(旧石器時代)掘削状況 南東から		6区 1号土坑 南から
	4区 5号土坑(旧石器時代) 東から		6区 2号土坑 南から
	4区 6号土坑(旧石器時代) 東から		6区 3号土坑 南から
	4区南側 旧石器調査 As-砂層上面 北から		6区 4号土坑 南から
	4区 5・6号土坑(旧石器時代) 全景・土層断面 東から		6区 5号土坑 東から
PL-19	4区 1号土坑 南から		6区 6・7号土坑 南から
	4区 2号土坑 南から		6区 8号土坑 南から
	4区 3号土坑 南から		6区 9号土坑 西から
	4区 4号土坑 南から		6区 10号土坑 南から
	4区 7・8号土坑 南から		6区 11号土坑 南から
	4区 9・10号土坑 南から		6区 12号土坑 南から
PL-20	5区-1 調査区全景 南から		6区 13号土坑 南から
	5区-2 調査区全景 南から		6区 14号土坑 南から
	5区-1 旧石器調査坑No.1 西壁土層断面		6区 15号土坑 西から
	5区-1 旧石器調査坑No.2 西壁土層断面	PL-28	6区 16号土坑 西から
	5区-2 旧石器調査坑No.1 西壁土層断面		6区 17号土坑 南から
	5区-2 旧石器調査坑No.2 西壁土層断面		6区 18号土坑 西から
PL-21	5区 1号住居 全景 南東から		6区 19号土坑 東から
	5区 1号住居 遺物出土状態 東から		6区 20号土坑 南から
	5区 1号土坑 南から		6区 21号土坑 東から
	5区 2号土坑 南東から		6区 22号土坑 南から
	5区 3号土坑 南から		6区 23・24号土坑 南から
	5区 4号土坑 西から		6区 25号土坑 南から
	5区 5号土坑 南から		6区 26号土坑 南から
	5区 6・7号土坑 南東から		6区 27号土坑 南から
	5区 8・9号土坑 東から		6区 28号土坑 南から
	5区 10号土坑 南から		6区 29号土坑 南から
	5区 11号土坑 南から		6区 30・32号土坑 南から
PL-22	5区 12号土坑 南から		6区 31号土坑 南から
	5区 13号土坑 南から	PL-29	6区 34・35・38号土坑 東から
	5区 14号土坑 西から		1区 遺構外・2区1・2号住居出土遺物
	5区 15・16号土坑 東から	PL-30	2区2・3号住居出土遺物
	5区 17号土坑 東から	PL-31	2区3・4号住居、1号掘立柱建物、2区1・2・4・5号土坑出土遺物
	5区 19・20号土坑 南から	PL-32	2区6～9・11～18・23・25・29・33号土坑出土遺物
	5区 21・22号土坑 東から	PL-33	2区36・37・43～45・50～53・55・57・61・62・71・74・75・77号土坑出土遺物
	5区 23号土坑 南から	PL-34	2区82・83号土坑、2区遺構外出土遺物
	5区 24号土坑 東から	PL-35	2区遺構外出土遺物
	5区 25号土坑 西から	PL-36	2区遺構外出土遺物
	5区 26号土坑 東から	PL-37	2区遺構外出土遺物
	5区 28号土坑 東から	PL-38	2区遺構外出土遺物
	5区 29号土坑 南から	PL-39	2区遺構外出土遺物
	5区 30号土坑 東から	PL-40	2区遺構外出土遺物
	5区 35・36号土坑 南から	PL-41	2区遺構外出土遺物
PL-23	6区-1 調査区全景 南から	PL-42	2区遺構外出土遺物
	6区-2北側 調査区全景 南から	PL-43	2区遺構外、3区1号土坑、3区遺構外、4区遺構外、5区1号住居、5区1・4号土坑出土遺物
PL-24	6区-2南側 調査区全景 南から	PL-44	5区2・8～11・17・18・20・22・23・27・32・33・35号土坑、5区43・76号ピット、5区遺構外出土遺物
	6区-1 旧石器調査坑No.1 西壁土層断面	PL-45	5区遺構外出土遺物
	6区-1 旧石器調査坑No.2 西壁土層断面	PL-46	5区遺構外、6区1・4・9・11号土坑出土遺物
	6区-1 旧石器調査坑No.3 西壁土層断面	PL-47	6区12～14号土坑出土遺物
PL-25	6区-2(北側) 旧石器調査坑No.1 西壁土層断面	PL-48	6区14・16～20号土坑、6区遺構外、遺構外出土遺物
	6区-2(北側) 旧石器調査坑No.1 北壁土層断面		
	6区-2(南側) 旧石器調査坑No.2 西壁土層断面		
	6区-2(南側) 旧石器調査坑No.3 西壁土層断面		
	6区-2 旧石器調査坑No.3 暗色帯上面 遺構確認状況		
	6区-2 旧石器調査坑No.3 暗色帯上面 遺構確認状況および西壁土層断面		

第1章 調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

北山遺跡は、群馬県みどり市の北東部、渡良瀬川の右岸の台地上に立地する。標高は135m前後の地点である。

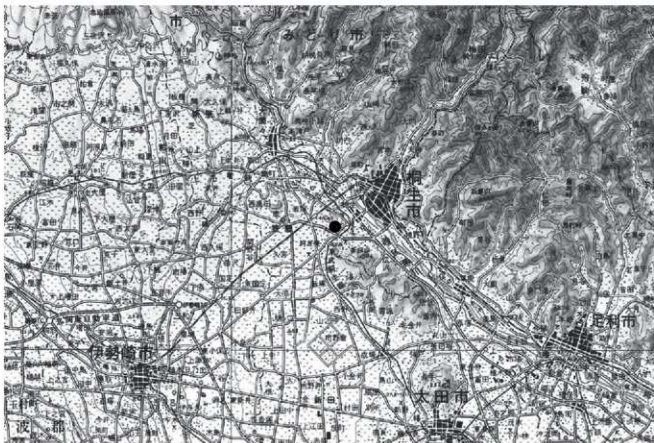
遺跡の西2kmほどの地点には日本旧石器研究の出発点となったことで著名な岩宿遺跡がある。北山遺跡は主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)地域活力基盤創造交付金事業に伴って発掘調査された。

主要地方道桐生伊勢崎線阿左美バイパスは、慢性的な交通渋滞の緩和と交通安全の確保を目的に、桐生市中心部と伊勢崎市を結ぶ現道を迂回し、桐生大橋線を延伸して国道50号に接続、さらに東武鉄道桐生線阿左美駅付近で現道と接続させる延長1500m、幅24mのバイパス事業として計画された。早期に事業効果を発現させるため桐生市境から国道50号までを1期工区(延長1100m)として、平成16年度に事業化された。2期工区(延長400m)は、

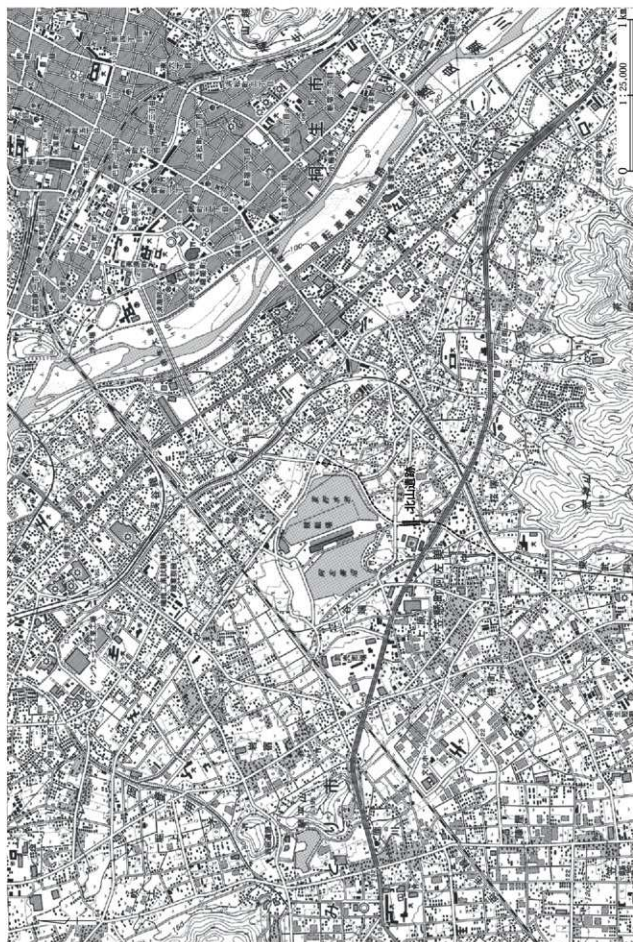
国道50号から東武鉄道桐生線阿左美駅付近の現道までである。

当該事業予定地について、群馬県教育委員会文化財保護課(以下、県文化財保護課と略す。)は群馬県東部県民局桐生土木事務所(以下、県桐生土木事務所と略す。)から照会を受け、平成19年度から22年度にわたり、8か所の試掘調査を実施している。このうち7か所は遺構・遺物の出土が無く、本調査の必要がないと判断され、県桐生土木事務所に通知された。今回調査・報告する地点は、県桐生土木事務所から依頼を受けた県教育委員会文化財保護課が、平成21年10月13日～15日に埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施し、一部本調査が必要とされた箇所である。

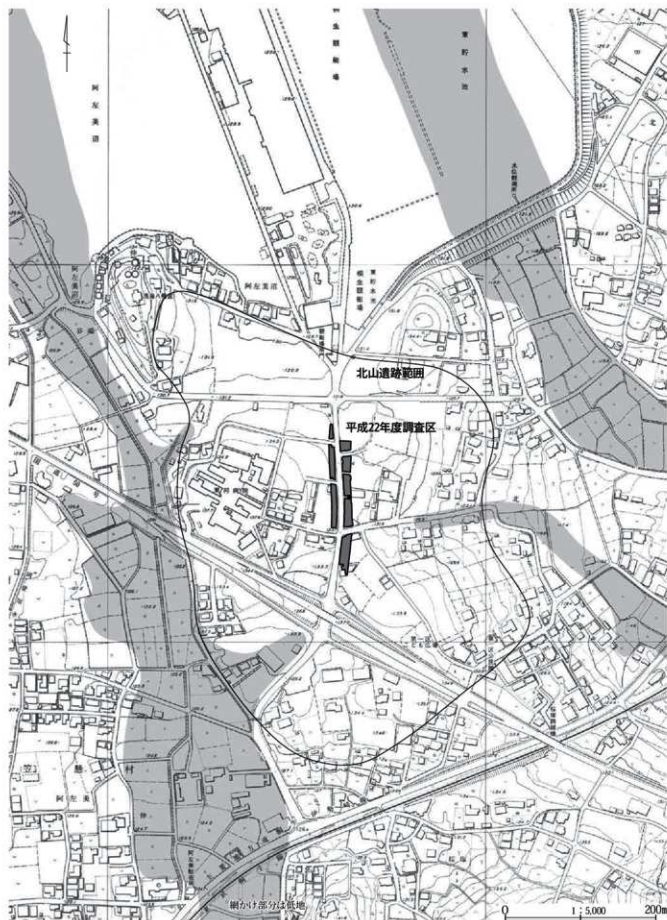
本地点の試掘・確認調査は、幅1mの試掘トレンチ6か所を設定し、ローム層上面まで掘り下げられたが、トレンチ1～3および16では縄文時代から古代の土層が削平されており、遺構・遺物が出土しなかったことから本



第1図 北山遺跡の位置(●印) 国土地理院、20万分の1地勢図「宇都宮」平成18年4月1日発行



第2図 北山道路と主要地方道榑生伊勢崎線 国土地理院発行、平成21年4月1日発行



第3図 北山道跡周辺の地形と発掘区の位置(網かけ部分は低地) 旧笠懸村発行、1/5,000地形図「図2・図4」昭和60年6月発行

調査は不要と判断された。トレンチ4～15については縄文時代の竪穴住居や土坑および遺物が確認され、本調査の必要があると判断された。この結果は、平成21年11月30日付けで県桐生土木事務所に通知され、両者の協議が始まった。この協議の結果、平成22年度に本調査が実施されることとなり、平成22年3月10日付けで県桐生土木事務所から県教育委員会文化財保護課へ発掘調査の依頼が出された。

県教育委員会文化財保護課の調整を経て財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日に公益財団法人に組織改定。以下、当事業団と略す。)が埋蔵文化財の発掘調査を受託することとなった。平成22年3月31日、県桐生土木事務所と当事業団との間に発掘調査の委託契約が締結され、平成22年4月1日から北山遺跡の本調査を実施する運びとなった。当初契約では調査期間は平成22年4月1日～5月31日、契約の履行期間は平成22年8月31日であった。

発掘調査は、平成22年4月1日から開始されたが、調査面積が増加したため、6月30日まで調査期間を延長する変更契約が、平成23年5月31日、県桐生土木事務所と当事業団との間に締結された。変更契約の通り、3か月間の発掘調査を実施し、8月31日付けで業務完了報告書を提出して発掘調査業務を完了した。

なお、南西隅6区南側の調査区1か所(※)については別途県教育委員会文化財保護課による試掘調査の結果を待って対応をはかることとなった。

第2節 調査の方法と経過

1. 調査の方法

主要地方道桐生伊勢崎線は東武鉄道桐生線阿左美駅付近から国道50号と交差し、桐生大橋を経て桐生市中心部へと延びる幹線道路である。北山遺跡における今回の調査地は、その拡幅部分にあたるため、調査地の中央を交通量の多い現道が縦断する。しかも、調査地の西側に東邦病院、北西側に桐生競艇場、東側に民家があり、調査地内にはそれらの施設に付随する駐車場および出入口を含み、さらに現道で分割されている。このため、調査



第4図 北山遺跡の発掘区

地内を1区から6区に分け、廃土置き場の確保と駐車場の使用状況(病院関係および競艇開催日)を考慮した上で、1～6区を12区画に小分割して調査を行った。

調査地を縦断する現道の東側を、北から順に1～3区とし、2区では北から2区-1～4、3区では3区-1・2に分割。縦断する現道の西側を、北から順に4～6区とし、4区では4区-北・南、5区では5区-1・2、6区では6区-1・2北・2南に分割した。なお、未買地部分を、仮に7区と設定した。

調査に用いたグリッドは、5m×5mを基本とした。グリッドの呼称は本遺跡特有の名称を設定せずに、国家座標IX系(世界測地系)を用い、X・Y座標の下3桁をそれに当てて表記することとし(X=43,590、Y=-46,980の場合、590-980)、その南東隅のポイント座標をグリッド名とした。さらに地点を細かく表示する場合は、この下3桁の数字をそのまま用いた(例:5mないし10mにこだわらず、1m単位で591-982と表している)。

予想される遺構が、竪穴住居や土坑等であったため、調査方法に特殊なものではなく、ごく標準的な方法を用いた。その概略は以下の通りである。

表土除去は、基本的に重機を用いた。表土除去終了後は、ジョレンを用いて遺構確認作業を行い、確認できた遺構について調査を行った。遺構確認作業は、基本的に縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。なお、遺構確認を行う際に、遺物の集中するか所は特に念入りを行った。遺物包含層についても同様である。検出された遺構の種類は、竪穴住居、掘立柱建物のほか、土坑、溝、ピットであり、竪穴住居は土層観察のための十字のベルトを設定し、土坑は半載して土層観察を行う等、それぞれに適した方法を用いた。数の多いピットについては、先ず半載し、遺構と判断されたものに限って記録することとし、土層も類別して注記した。

遺構名は、1～6区の調査区ごとに、通し番号で表した。遺構の測量は、調査担当者の指示のもと、土層断面図を作業員による手実測とし、平面図を測量業者に委託した。縮尺は、1/10、1/20、1/40を基本とし、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。写真撮影は、6×7版白黒フィルム、デジタル撮影データの2種類を基本とした。調査区的全景写真は、調査の進展にあわせて

調査区ごとに撮影したが、ラジコンヘリ等による空中撮影は調査地点の事情から行わなかった。

調査地の西側となる東邦病院北側の発掘調査(昭和54年、旧笠懸町教育委員会)において、旧石器時代の遺物が検出されていることから、本調査においても縄文時代の遺構調査が終了した後、旧石器時代の調査を行った。調査は、2×2m、2×3m、3×3mの調査坑を各調査区に応じて設定し、後述する基本土層Ⅲ層(いわゆる暗色帯下位の関東ローム層)中まで掘り下げた。その結果、遺物の出土はなかったものの、4区北側および6区-2南において旧石器時代の土坑の存在が確認された。そのため、確認された箇所(箇所)の調査坑を拡張して土坑の精査を行った。

2. 基本層序

北山遺跡は赤城火山の梨木岩屑流堆積物を基盤とする台地上に立地している。遺跡周辺には梨木岩屑流堆積物により形成された八幡山などの小丘陵があり、地形・地質は北西2kmほどのところにある金尾羅山や稲荷山と呼ばれる丘陵と共通している。いずれの丘陵も更新世の大間々扇状地内に島のように削り残された地形である。このような地形的な共通性から、北山遺跡内の基本層序は金尾羅山と稲荷山の裾部分が交わる部分にある岩宿遺跡の基本層序を参照して細分し、遺構の確認作業を行った。

また縄文時代以降の層序については周辺のみどり市教育委員会の成果等を参照した。ここでは2区南端東壁と6区南端西壁で記録した土層図を掲げた。

北山遺跡の基本層序は、以下の通りである。

I層は表土。

II層は黒色土で榛名山を給源とする榛名二ツ岳軽石(Hr-FP。以下記号で表記)を含む。

III層は茶褐色から暗茶褐色土で縄文時代の遺物を包含する。III層は地点によってⅢa層、Ⅲb層、Ⅲc層に細分できる。Ⅲa層は褐色土で、直径1～2cm以下の暗褐色土(Ⅲb層)塊を含む。Ⅲb層はしまりの良い暗褐色土。縄文時代遺物の包含層である。Ⅲc層は固く締まる褐色土でローム層への漸移層。IV層との下位に浅間板鼻黄色軽石(As-YP。以下記号で表記)塊が堆積している。上面で縄文時代遺構が検出された。

IV層は最上部のローム層で、その最も上部に浅間山を

第1章 調査の経過

給源とするAs-YPを含む。

V層は混入物の少ないやや硬質の黄色ローム層。浅間大窪沢軽石(As-0k 1・2)がまばらに含まれる。

VI層は浅間板鼻褐色軽石(As-BP。以下記号で表記)をわずかに混入する明黄色ローム。V層よりやや明るく、硬質。岩宿Ⅱ石器文化の石器群の出土層位である。

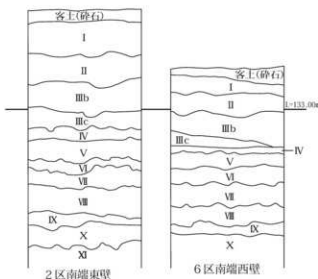
VII層はAs-BP塊を下部に含む暗黄褐色ローム。全体に暗く黄色ロームが塊状に混入する。

VIII層は混入物が少ないが、As-BPを少量含む。硬質。

IX層はVIII層よりやや白味を帯びた軟質黄白色ローム。

X層は上位にATを混入する明暗褐色ローム。暗色帯。硬質。岩宿Ⅰ石器文化の石器群の出土層位である。

XI層は混入物がなく、硬質な黄色ローム。



第5図 北山遺跡の基本層序

3. 発掘調査の経過

本調査は、平成22年4月1日から6月30日までの3か月間を発掘調査期間とした。調査地点の現地確認や調査事務所の設置、調査計画の策定、調査区内におけるアスファルトの撤去およびコンクリート基礎の撤去等といった調査準備の後、現地における発掘調査を開始したのは4月12日である。

調査地内を1区から6区に分け、廃土置き場の確保と駐車場の使用状況を考慮した結果、当初は1～6区を12区画に小分割して調査を進める計画を立て、まずは交通量の多い現道の東側となる3区-2、現道西側の6区-1の2か所を先行させ、やや遅れて1区および2区-2

も同時進行させることとした。順次、複数か所の調査を並行して進める予定で、安全対策を講じながら表土掘削を開始した。なお、調査を進める中で、廃土置き場の確保等により、当初計画であった12区画の小分割から14区画へと変更して調査を進行した。

以下、調査の経過にそって、小区画ごとに記述する。

3区-2とした調査区は、3区の南半で、全調査区の最南端に位置する。調査は4月12日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。遺物の出土が極めて少なく、検出された遺構は溝状の落ち込みが1条のみであった。いたる所に攪乱の痕跡と地震等による筋状の地割れ痕が検出された。このため、遺構調査終了後すぐに旧石器時代の調査を行った。調査は2×2mと2×3mのトレンチを調査区の中央に3か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して4月30日に調査および埋め戻しを終了した。

6区-1とした調査区は、6区の北半で、調査区の北側となる5区との境は道路で区切られる。調査は4月12日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物の出土量は、あまり多くはなかった。検出された遺構は、縄文時代の土坑2基(6区1～21号土坑)、ピットであり、これらの遺構調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×2mと2×3mのトレンチを調査区の中央に3か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月6日に調査および埋め戻しを終了した。

1区の調査は、4月15日から開始した。アスファルト下の砕石を撤去したところ、調査前は樹生競艇場に関わる民間駐車場であったことから、ローム層上位までが切り土整地されており、縄文時代までの遺構検出は不可能であった。このため、ローム層以下の旧石器時代の調査のみとなった。調査は他の調査区よりも優先し、3×3mのトレンチを調査区の中央に設けて行ったが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して4月19日に調査および埋め戻しを終了した。

2区-2とした調査区は、北側の2区-1と雨水排水

路を境とし、南は住宅の出入り口付近までとした。調査は4月12日から開始したが、表土掘削は4月14日からである。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物出土量は、調査区の南側ほど多く、このため遺構確認作業には時間を要した。検出された遺構は、縄文時代前期の竪穴住居1棟、土坑15基(2区1～15号土坑)、ピットであり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×2mと2×3mの調査坑を調査区の中央に3か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月12日に調査および埋め戻しを終了した。

3区-1とした調査区は、3区の北半で、調査区の北側となる2区との境は道路で区切られる。調査は5月6日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。遺物の出土も少なく、検出された遺構は土坑3基とピットであり、3区-2と同様に地震等による筋状の地割れの痕が顕著であった。これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に3か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月21日に調査および埋め戻しを終了した。

5区-2とした調査区は、5区の南半で、病院駐車場の出入り口に位置する。調査は5月7日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物の出土量は、あまり多くなかった。検出された遺構は、縄文時代の土坑16基(5区1～16号土坑)、ピットであり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に2か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月14日に調査および埋め戻しを終了し、5月17日に出入り口として復旧させた。

2区-4とした調査区は、2区の南端に位置し、調査区の南となる3区との境は道路で区切られる。調査は5月12日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄

文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層は厚く、遺物の出土量は比較的多かった。検出された遺構は、縄文時代の土坑18基(2区16～33号土坑)、ピット、古代以降とみられる溝1条、さらに地震等による筋状の地割れ痕および断層であった。これらの調査終了後に、旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に1か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月27日に調査および埋め戻しを終了した。

2区-1とした調査区は、2区の北端に位置し、駐車場の出入り口に当たる。また、調査区の北側となる1区との境は、道路で区切られる。調査は5月17日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物の出土量は、本調査の中で最も多く、特に北東部に集中し、住居の存在を暗示する状況であったが、遺構確認には難をきたした。検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居1棟、掘立柱建物遺構1棟、土坑29基(2区34～62号土坑)、ピットであり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mと3×4mの調査坑を調査区に5か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して6月22日に調査および埋め戻しを終了し、翌23日に出入り口として復旧させた。

5区-1とした調査区は、5区の北半で、5区-2と同様に病院駐車場の出入り口に位置する。調査は5月19日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物出土量は、基本土層Ⅲb層が薄かったため、あまり多くはなかった。検出された遺構は、縄文時代前期の竪穴住居1棟、土坑20基(5区17～36号土坑)、ピットであり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に2か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して5月29日に調査および埋め戻しを終了し、5月31日に

出入り口として復旧させた。

2区-3とした調査区は、先に調査した2区-2と2区-4の間で、住宅への入り口を含むことから、入り口の移設を行った後に調査を行った。調査は5月28日から開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層は厚く、遺物の出土量は比較的多かった。検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居3棟、土坑14基(2区71~84号土坑)、ピット、2区-4から続く古代以降の溝1条であり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mと2×4mの調査坑を調査区の中央に3か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して6月15日に調査および埋め戻しを終了した。

4区北とした調査区は、4区の北半で、台地の北縁付近に位置する。民間駐車場の入り口にあたり、競艇開催日の間をぬって、5月31日から調査を開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物の出土量は、少なかった。検出された遺構は、縄文時代の土坑4基(4区1~4号土坑)であり、遺構の調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×2mの調査坑を調査区の中央に1か所設けてXI層中位まで掘り下げたところ、調査坑の西壁断面に土坑状の遺構断面が確認された。土層断面の剥ぎ取りを行った後、面的な遺構確認を行うために、調査坑の拡張を行った。拡張の結果、旧石器時代の遺物は出土しなかったが、土坑2基を検出し、6月5日に調査および埋め戻しを終了した。この旧石器時代の土坑に関して、みどり市教育委員会の現地視察および新聞社の取材があり、平成22年6月10日付けの毎日新聞群馬版で新聞報道された。

6区-2南とした調査区は、6区-2の南半で、廃土置き場の都合上から6区-2を分割した。調査は5月31日から調査を開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。縄文時代の遺物包含層での遺物の出土量は、あまり多くはなかった。検出された遺構は、縄文時代の土坑

11基(6区22~32号土坑)、ピット、風倒木痕であり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に2か所設けてXI層中位まで掘り下げたところ、南端の調査坑において暗色帯上面に土坑状の遺構プランの一部が確認された。このため、面的な遺構確認を行うために、調査坑の拡張を行った。拡張の結果、旧石器時代の遺物は出土しなかったが、土坑1基を検出し、6月11日に調査を終了した。

4区南とした調査区は、4区の南半で、調査区の南側となる5区との境は道路で区切られる。4区北と同様に民間駐車場の入り口にあたるため、競艇開催日の間をぬって、4区北に引き続き6月5日から調査を開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。検出された遺構は、縄文時代の土坑5基(4区7~11号土坑)、ピットであり、これらの調査終了後に旧石器時代の調査を行った。調査は、4区北の状況を踏まえて、3×6mのトレンチを調査区の中央に設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して6月10日に調査および埋め戻しを終了し、翌11日に出入り口として復旧させた。

6区-2北とした調査区は、6区-2の北半で、6区-2南半の調査終了後となる6月11日から調査を開始した。表土掘削後の遺構確認作業は、縄文時代の遺物包含層である基本土層Ⅲb層から行い、ローム漸移層となる基本土層Ⅲc層中位を遺構確認面とした。検出された遺構は、縄文時代の土坑5基(6区34~38号土坑)、ピット、地震等による筋状の地割れ痕および断層であった。これらの調査終了後、旧石器時代の調査を行った。調査は、2×3mの調査坑を調査区の中央に1か所設けてXI層中位まで掘り下げたが、遺物・遺構の検出はなく、土層の堆積状況を記録して6月21日に調査および埋め戻しを終了した。

以上のような経過で、各調査区の発掘調査は2区-1の調査終了をもって終了し、その後に撤収準備を行い6月末日に全ての現地調査を終了した。なお、4月22日に、県樹生土木事務所から各調査区への調査期間を記した看板の設置要請があり、翌23日に仮看板を設置し、4月30日には各調査区および予定区に看板を設置した。

4. 整理事業の経過と方法

北山遺跡の発掘調査成果・出土資料の整理事業および報告書刊行業務は、平成23年度および平成24年度の2か年にわたって実施した。平成23年度は出土遺物、写真図面等の記録類の整理を行い、平成24年度には整理事業を継続し、発掘調査報告書を刊行した。

平成23年度整理事業は、県教育委員会文化財保護課の調整を経て、平成23年10月24日付けで県桐生土木事務所から当事業団に依頼があり、平成23年10月31日付けで、県桐生土木事務所と当事業団との間で委託契約を締結した。整理事業の期間および履行期間は平成23年11月1日～平成24年3月31日である。

平成23年度の整理事業は、写真および遺構図面の確認作業を基礎に、遺構台帳作成、遺構写真の選定、1～4区までの遺構図の修正、出土遺物の接合、復元、分類、写真撮影、拓本・実測、遺構図デジタル編集を行い、あわせて報告書原稿の執筆作業を行った。

平成24年度整理事業は、県教育委員会文化財保護課の調整を経て、平成24年3月21日付けで県桐生土木事務所から当事業団に依頼があり、平成24年3月29日付けで、県桐生土木事務所と当事業団との間で委託契約を、同年7月1日付で変更契約を締結した。整理事業の履行期間は平成24年3月30日～平成24年9月30日、整理事業期間は平成24年4月1日～平成24年7月31日である。

平成24年度の整理事業は、5区・6区の遺構図修正、出土遺物の接合、復元、分類、写真撮影、拓本・実測、遺構図デジタル編集作業について継続して実施した。最終的に作成した資料と本文原稿全体の編集作業と発掘報告書原稿のデジタル組版をおこなって、印刷・製本を外部業者に委託し報告書を刊行した。また、整理した遺物や写真類については管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業をおこなった。

遺物の整理は、土器と石器を対象とした。土器は遺構ごとに接合を行った。接合作業は遺構内の遺物出土状況を平面図および写真と確認しながら実施した。遺構外で出土した同時期同型式の遺物とも接合を試みた。次に遺物出土状態や個体数・形態差・構成比等を勘案し、報告書に掲載する遺物を選択した。今回選択した土器は749

点である。選択できなかった土器は遺構ごとに型式を分類し収納した。報告書掲載土器のうち、可能なものは復元したが、包含層出土の土器を中心として破片の状態に掲載した土器が多い。いずれの土器も当事業団写真室でデジタルカメラを用いて写真撮影した。土器実測図は等倍で作成した。完形に近い土器は3次元測定器で測点し、その印刷出力図を補測・製図した。破片の土器は断面実測をおこない、縄文原形や文様が読み取れるように留意して採拓した。土器のトレースは墨入れでおこなった。拓本とトレースは台紙に貼付し、スキャニングし縮小してデジタルデータとした。土器の観察は出土遺構・地点ごとに土器型式でまとめて、本文中に記載した。

石器類は全点を石器、剃片、礫・礫片に形態分類した。石器は165点が分類されたが、器種を網羅するように選択し、78点の実測図と写真、33点の写真、残りの125点の観察を報告書に掲載した。剃片、礫・礫片は出土位置ごとに計数し収納した。石器の実測図は大型品1/2、その他は等倍で作成した。石器を長焦点カメラで撮影し、その印刷出力図を補測・製図した。トレースは墨入れでおこない、一部の拓本とともにスキャニングして縮小しデジタルデータ化した。石器の属性—長さ・幅・厚さ・重さ・石材等は表形式にまとめた。石材の同定の一部は群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。形状・調整加工の特徴は属性表に記載した。

遺構図面については、現場で地上測量したデジタルデータの修正編集作業と、手実測した土層断面図のデジタルトレース図を作成した。全体図や遺跡位置図・遺跡分布図等はアドビ社のイラストレーターで作成しEPSデータとした。

遺構写真については、発掘調査で撮影したデジタル写真から掲載写真を選択し、サイズ調整・レベル補正を実施して、写真図版の原稿データを作成した。

本文・遺物観察表等の原稿は上記作業と平行して執筆した。上記で作成した各種デジタルデータをアドビ社インデザインにより組版し報告書のフルデジタル印刷原稿を作成した。印刷原稿データの推敲・校正・編集修正を実施し、報告書を刊行した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

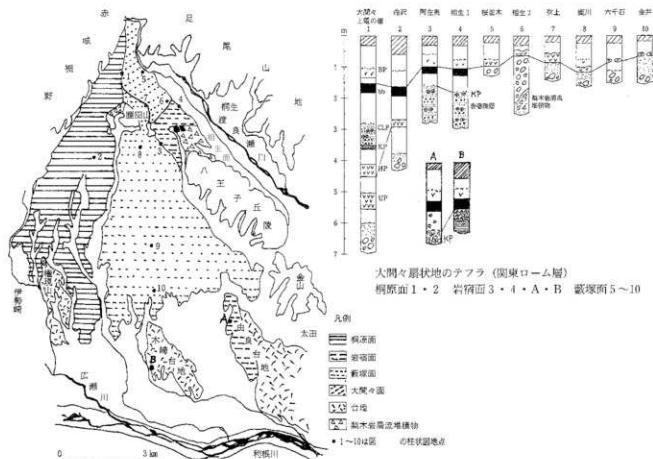
1. みどり市笠懸町の地形

北山遺跡のあるみどり市笠懸町は、群馬県東部の赤城山麓と足尾山地、八王子丘陵が接する地点に位置する。赤城山麓と足尾山地の間には渡良瀬川が流下しており、山地から平地に地形が変換する谷口以南に大きな扇状地が形成されている。町内は、このような丘陵性の地形と、扇状地と谷底平野からなる平野の地形に大きく分けられる。

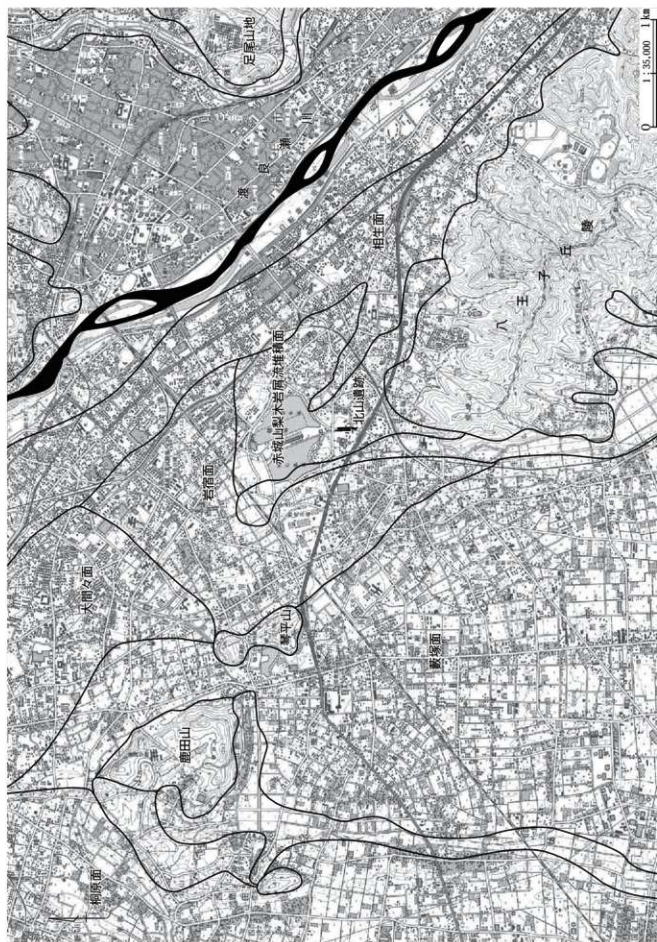
みどり市笠懸町内の中央北寄りには、鹿田山丘陵、天神山丘陵、稲荷山・琴平山丘陵の三つの丘陵が島状に分離しており、東南部には八王子丘陵最北端の荒神山がある。このうち、八王子丘陵の東北側、稲荷山・琴平山丘陵、鹿田山丘陵東南麓には秩父古生層が、鹿田山丘陵と天神

山、ならびに八王子丘陵北端部の荒神山付近には第三紀層が分布している。これらの丘陵は一見独立しているが、渡良瀬川東遷に伴った扇状地形成期に削り残された一連の古い地形である。丘陵の頂部や周辺裾野には、旧石器時代・縄文時時代の遺跡が集中して分布している。

一方、鹿田山丘陵西半部の緩斜面や、阿左美沼南岸から八王子丘陵北端の山麓斜面、阿左美東貯水池南岸から桐生市広沢一丁目に伸びる段丘状の低丘陵はや小丘は第四紀更新世の赤城火山梨木岩屑流堆積物で形成されている。梨木岩屑流堆積物は、古期赤城成層火山の山頂近く標高2500m付近から南東方向に崩落した岩屑流堆積物である。堆積物は凝灰角礫岩と呼ばれる地層で、火山砂と大小さまざまな火山岩を主とした角礫が淘汰されず不均一に半固結状態に堆積している。この堆積物はかつて梨木泥流堆積物と呼ばれたが、その成因から水の関与しない一種の粉体流と解釈され、岩屑流または岩屑なだれ



第6図 大間ヶ原扇状地の地形面(沢口2010「大間ヶ原扇状地-社会基盤としての自然環境-」図2・3を転載)



第7図 みどり市笠懸町の地形(地形図区分は標高2010を参照。) 国土地理院発行、2万5千分の1地形図「相生」平成14年5月1日発行

と呼ばれるようになった。(文献29)

この梨木岩屑流堆積物の南東末端にあたるのが北山遺跡のある阿左美沼周辺で、大間々扇状地形成以前に流出した梨木岩屑流堆積物の末端が、八幡山や諏訪山などの流れ山を形成している。岩屑流堆積物の上位には湯之口軽石層は見られないが、下部ローム層相当以上のローム層が堆積している。周辺には旧石器時代・縄文時代の遺跡が多く分布している。

平野部の地形は、渡良瀬川によって形成された扇状地と、谷底平野に分けられる。この扇状地は「大間々扇状地」と呼ばれており、伊勢崎市と太田市を結ぶ線を扇端部とし、みどり市大間々町を扇頂部とする大規模な地形で、関東地方でも有数の規模を誇る。古く渡良瀬川が八王子丘陵の西側を流れていた時に運ばれた河床礫を基盤として形成され、その上位に関東ローム層が堆積した複数の地形面で構成されている。堆積している関東ローム層の堆積層序から、下部ローム層以上が堆積した桐原面、中部ローム層以上が堆積した岩宿面、上部ローム層が堆積した藪塚面、渡良瀬川が現流路に変流した以降に形成された大間々面と相生面に分けられている。相生面は渡良瀬川現流路左岸の河岸段丘としても分類できる。(文献38)

北山遺跡のあるみどり市笠懸町域には大間々扇状地の桐原面、岩宿面、藪塚面が分布している。平野の地形はこれらの形成年代の異なる三つの扇状地面と谷底平野で構成されている。

桐原面はみどり市笠懸町寺内、金山、四津家を経て赤堀町へのびる地形面で、西側には早川の谷、東側には天神山の西側に間野谷南部からのびる浅い小さな谷が入り込んでいる。岩宿面は、岡登用水の南側、桐生市相生からみどり市笠懸町竹沢、岩宿、上原、仲町、生品神社に広がる地形面である。L字形をしており、形成過程が不明な地形面とされている。岩宿面の南東部には前述した赤城火山梨木岩屑流堆積物で形成された台地が接している。藪塚面は鹿田山と稲荷山の狭窄部からみどり市笠懸町鹿の川、久宮、前鹿田、桃頭、横町、下原、さらに南に広がる地形面である。ここには桐原面のような浸食谷は発達せず、最も扇状地らしい扇形の形態を見せている。藪塚面の東側には、扇側の谷底平野を隔てて、北山遺跡のある赤城火山梨木岩屑流堆積物で形成された台地が接している(文献29)。

2. 北山遺跡の立地

北山遺跡は、大間々扇状地形成以前に赤城山麓から流出した梨木岩屑流堆積物が形成した台地面に立地している。この堆積物は渡良瀬川の浸食作用を免れて削り残されたものである。遺跡の周辺には岩屑流堆積物によって形成された流れ山が残されており、起伏のある丘陵性の地形を形成している。梨木岩屑流堆積物の上位には湯之口軽石層は見られないが、下部ローム層相当以上のローム層が堆積している。

また、遺跡の北側には阿左美沼と東貯水池の二つの池がある。西側にある阿左美沼は自然の沼で、沼の中心部や沼の北側に複数の湧水池があり、一帯が地下水の湧出する湿地帯になっており、「七ツ井戸」と呼ばれる湧水群の周辺が沼になったと考えられている。この湧水は、「沼の方向へ向かって流下する地下水が、硬質かつ緻密な梨木泥流(ママ)堆積物にぶつかり、それに堰き止められて八幡山北方で湧出しているものと推察」されている(文献29)。

また、平成20(2008)年に編纂された『阿左美沼用水史』によれば、東側の東貯水池は阿左美新沼とも呼ばれ、「昭和14年(1939)年に群馬県が築造し、待次場兩堰普通水利組合が補給用溜池として利用したもので、水は岡登用水から引いている。現在は競艇場として使用されている。」(文献37)。

阿左美沼周辺が湿地帯になっていたことは、明治18年測量の迅速測図「大間間町」「桐生新町」図幅にも表わされている。この沼の西側には大間々扇状地扇側の谷底平野につながる帯状低地に開かれた水田があり、沼の北側にも伸びている。これは、梨木岩屑流堆積物の原形面に帯状の凹地があり、その周辺に湧出した水流が小規模な開析谷を形成したと考えられる。さらに、迅速測図には阿左美沼の東側にも大小3条の帯状低地に開かれた水田があらわされている。中央の谷には小さな湧水池があり、谷頭はさらに北にあったことがわかる。これらも梨木岩屑流堆積物面を開析した谷と考えられる。これらの谷を集めて八王子丘陵東側の沖積地につながる谷底平野が形成されていた。現在の東貯水池(阿左美新沼)はこの谷に岡登用水から引水して大きな溜池として整備されたものである。



第8図 北山遺跡の立地(黒塗り部分) 第1軍管地方迅速測量図、明治18年測量

北山遺跡は、阿左美沼のある谷と、東貯水池のある谷に挟まれた南北に長い台地上に立地する。阿左美沼の南縁には八幡山と呼ばれる流れ山があり、その南裾から台地が広がっている。台地の最高位は西側の北山と呼ばれる小丘にあり、現在は東邦病院が建てられている。台地には西側の谷から2条、東側の谷から1条の開析谷が入り込んでいる。北山遺跡は後述するように、国道50号の南側も含む台地全体に広がるが、今回の発掘地点は西側の谷から入り込む2条の小開析谷の間にある北山の東緩斜面で、東側からの小開析谷の谷頭西側にあたる。

発掘調査で検出された縄文時代の遺構の分布は、最も北側の1区では駐車場の造成により不明であったが、中央部の2区・5区・6区では住居や土坑等が多く検出され、北山のある台地の北端付近となる4区および南端付近となる3区においては希薄であった。このような状況から本調査地の西側にある北山(東邦病院の建物付近)を頂点とした東へ延びる緩傾斜の台地東端付近に、縄文時代前期の集落が展開していることが想定できる。

後述するように昭和44(1969)年に行われた国道50号桐生バイパス建設工事に伴う調査を皮切りに数次の発掘調査で、縄文時代早期の燃系土器をはじめとして前期を中心に、中・後期の遺物が出土している。こうしたことから、台地内に地点を異にして、時期の異なる縄文時代集落が点在することが予測される。また、北山遺跡の周囲には、北に阿左美沼遺跡、北東に北遺跡、南に阿左美遺跡と縄文時代の遺跡が知られており、帯状の低地に望む台地上が縄文時代における集落最適地であったことを物語っている。

第2節 遺跡の歴史的環境

1. これまでの北山遺跡の発掘調査

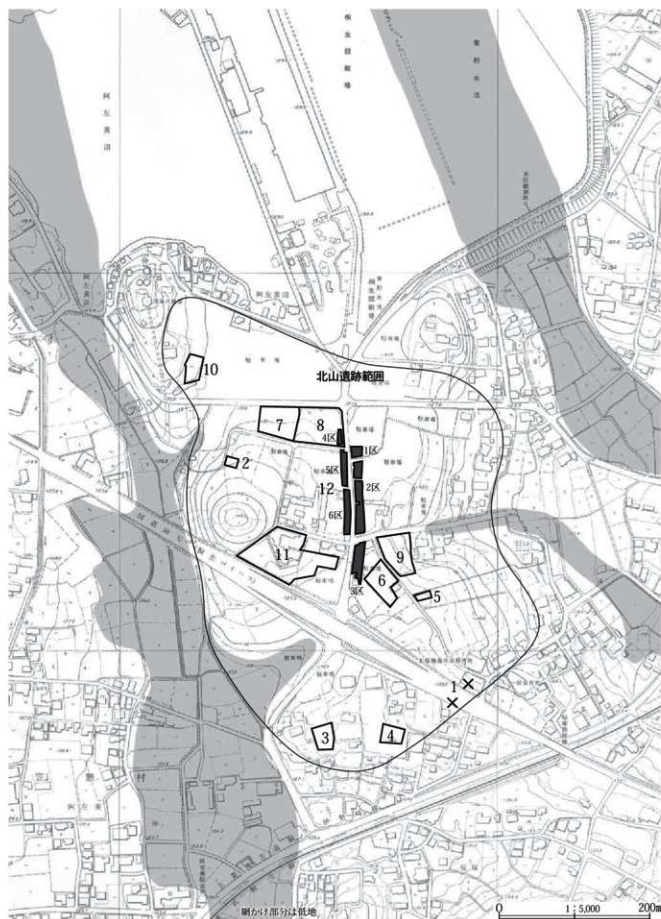
北山遺跡では、これまでに、桐生市教育委員会が中心になって組織された桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会によって1回(第1表1)、合併前の笠懸村教育委員会によって1回(第1表2)、笠懸町教育委員会によって2回(第1表3・4)、みどり市教育委員会によって7回の発掘調査が行われている^(注1)。

昭和44年(1969)におこなわれた国道50号桐生バイパスの建設用地内の発掘調査(1)は、道路建設工事が進んだ段階の調査だったために、路肩のトレンチ調査にとどまったが、関係者の尽力により、縄文時代早期の燃系土器や、前期を中心に中・後期の縄文土器の出土が確認された(文献2)。昭和54(1979)年におこなわれた阿左美沼競艇場に関係する有料駐車場造成工事に伴う発掘調査(第9図2)では、旧石器時代の遺物包含層が検出された。包含層は浅間板層褐色火山灰(As-BP)の上位の黄褐色ローム層(Ⅲ層上部)で検出された。30cm×30cm大の台石と思われる礫を中心にしてその北側40cmのところには敲石3点を含む石器ブロックがあった。他に掻器9点、削器2点、その他刮片・砕片が出土した。また、縄文時代前期を中心とした縄文土器が出土した(文献4)。

平成4(1992)年に笠懸村教育委員会によって実施された発掘調査(第9図3)では縄文時代中期加曾利E式期の土坑1基、住居1棟が検出された。それ以降、笠懸町教育委員会、みどり市教育委員会によって遺跡内の開発に

第1表 北山遺跡のこれまでの主な発掘調査

図中番号	調査年	検出遺構の概要	文献
1	1969	道路路肩部分の調査にとどまる。縄文時代早期の燃系土器、前期を中心に中後期の縄文土器が出土。	桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会1974『桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査報告書』
2	1980	旧石器ブロックが出土。縄文時代前期土器出土。	笠懸村1983『笠懸村誌資料編(一)』
3	1992	試掘のみ。縄文時代中期加曾利E式期の土坑1基・住居1棟検出	
4	1995	遺構なし。	
5	2006	遺構なし。	みどり市教育委員会2010『みどり市内遺跡1』
6	2008	古代のビット9か所検出。	みどり市教育委員会2012『みどり市内遺跡3』
7	2010	遺構なし。出土遺物なし。	
8	2010	縄文時代の土坑を試掘で確認したが、立会調査で根の攪乱と判明。	
9	2010	遺構なし。	
10	2011	縄文時代早期の炉穴、平安時代時代の土坑、地割れ跡を検出。	
11	2011・12	縄文時代前期諸磯c式期の住居1棟、諸磯b～c式期の土坑7基、ビット検出	
12	2011	縄文時代前期諸磯a式期の住居4棟、独立柱建物1棟、関山式期の住居1棟、縄文時代前期の土坑162基、ビット25基、古代以降のビット527基検出	本報告書(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『北山遺跡』)



第9図 北山遺跡のおもな発掘地点 旧笠懸村発行、2千5百分の1地図 昭和40年代測量(図2)昭和60年6月発行を合成

対して事前調査が順次実施されているが、平成19(2008)年調査区(第9図6)で古代のピットが9か所検出されただけであった。

その後、平成22(2011)年のみどり市教育委員会の調査で縄文時代早期の竪穴や平安時代の土坑が検出され(第9図10)、同年調査の別地点(第9図11)では縄文時代前期諸磯c式期の住居1棟、諸磯b～c式期の土坑7基、数基のピットを検出した。また、同年には本報告書で報告した地点(第9図12)で縄文時代前期の住居6棟、土坑162基が検出されて、台地中央から西半部にかけて縄文時代各時期の遺構群が散在している様相が明らかになってきた。これらの調査によって台地西側から入り込む小規模な谷地に区切られて、遺跡の内容が異なることも想定されている。(文献11)

さらに旧石器時代の遺物は出土しなかったが、今回の調査で旧石器時代の地層から土坑が検出された。層位的には笠懸村教委1992年調査区(第9図1)の旧石器出土層位との類似性があることから、北山遺跡内での今後の旧石器時代調査が期待されることとなっている。

注1 北山遺跡および周辺の遺跡については、みどり市教育委員会文化財課秋谷千明氏にご教示いただいた。

2. 周辺の遺跡分布

北山遺跡周辺には旧石器時代から古代・中世にいたる多くの遺跡が分布している。ここでは群馬県文化財情報システムに登録された遺跡情報から、北山遺跡周辺の72遺跡の位置を第10図に、その遺跡の内容を第2表に示した。

旧石器時代の遺跡は主として丘陵に立地している。岩宿遺跡(51)のある稲荷山・琴平山丘陵や、清水西丘陵遺跡(38)などのある鹿田山丘陵は安定した下部ローム以上の関東ローム層の堆積があり、旧石器時代の遺跡が立地する。また、北山遺跡(1)や北遺跡(7)は梨山岩屑堆積物からなる台地上にある。この地形面にも下部ローム相当層以上のローム層の堆積がある。地形面は異なるが両者ともに谷頭湧水や湿地群が近くにあり、遺跡立地の適地であったのであろう。

縄文時代の遺跡は多数分布している。72遺跡中52遺跡で縄文土器の出土がある。しかし、分布傾向を見ると、偏在する様相が看取できる。まず、縄文時代の遺跡は旧石器時代と同様に丘陵に多く立地する。同様な狩猟採集

社会の生活拠点としての遺跡立地は、たとえ定住生活に変化したとはいえ共通するのであろう。旧石器時代の遺跡が確認されていない八王子丘陵の北端地域にも多くの縄文時代遺跡が分布している。

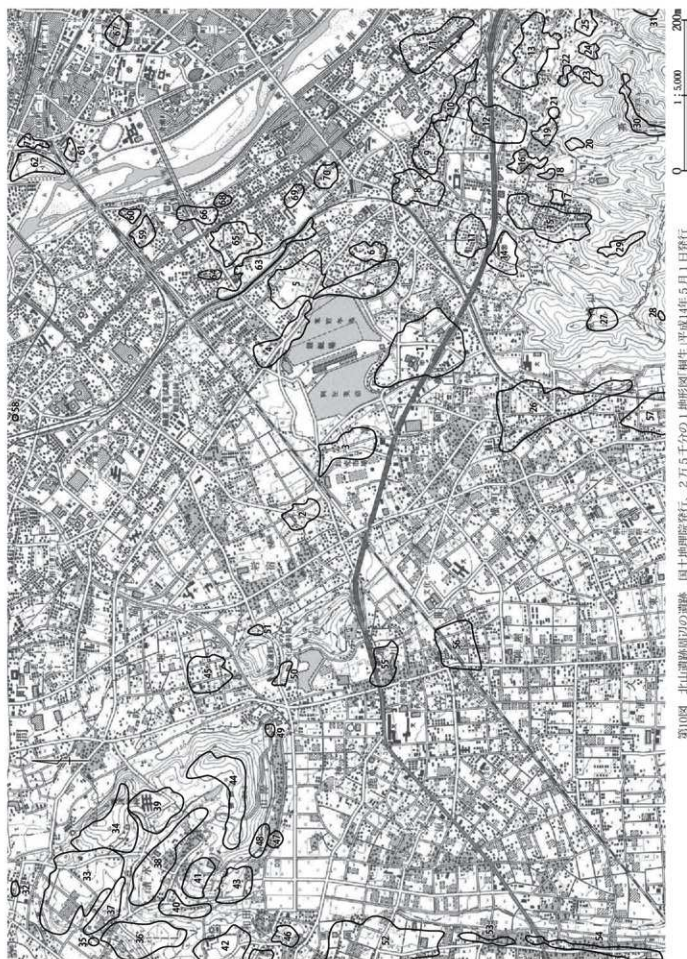
赤城火山梨山岩屑流堆積物堆積面の北山遺跡周辺や現渡良瀬川右岸の相生面、左岸の桐生市街地が広がる足尾山地の裾野にも縄文時代の遺跡は分布している。いずれも周辺には開析谷があり、生活環境として十分なところに遺跡があることがわかる。なお、北山遺跡の北側にはかつて阿左美沼北遺跡があったが、東貯水池整備の時に水没している。対照的に、大間々扇状地岩宿面や藪塚面に分類される地域には縄文時代の遺跡はほとんどない。乏水性の地形環境に起因しているのであろう。

弥生時代の遺跡も丘陵周辺の開析谷に面して立地する。検出された遺跡の時期は中期が多い。発掘された遺跡の多い稲荷山・琴平山丘陵や鹿田山丘陵周辺では、向山遺跡(36)で後期の住居、清水山遺跡(39)で中期中葉の土坑群、和田遺跡(42)では中期後半の住居がみつかった。また、八王子丘陵北側の梨山岩屑流堆積物が堆積した台地面でも弥生土器を出土する遺跡が分布している。

古墳時代の遺跡は多く挙げられていない。昭和13年発行の『上毛古墳総覧』には旧空懸村内の古墳が11基記載されているが、現存確認されているのは2基で、記載されていない調査された古墳(第10図の西側に位置する天神山古墳群等)を含めると、20基内外の古墳があったことが推定されている。(文献4)阿左美遺跡(26)では古墳時代前期の方形周溝墓と見られる遺構も検出されている。北山遺跡周辺では古墳時代の集落遺跡は未検出であるが、今後確認される可能性が大いである。

古代の遺物はほとんど遺跡で確認されている。丘陵の遺跡では、古代の遺構が縄文時代遺構や遺物とともに見つかる遺跡が多く、第2次新開の居住域と推定される(文献1)。山原瓦窯跡(48)は国分寺創建瓦が出土し、当時の工房跡と考えられている遺跡である。周辺には製鉄遺跡の存在も報告されており、古代の工房群は広がっている可能性も考えられている。古代の遺跡は岩宿面・藪塚面を除く地域全体に分布し、古代新田郡および山田郡の境界域の一角を占めていたと推定される。

また、本地域には中世の砦跡と言われている遺跡が点在する。



第10図 北山遺跡周辺の遺跡 国土地理院発行、2万5千分の1地形図 相生平蔵14年5月1日発行

第2表 周辺の遺跡一覧表

市町村 遺跡番号	遺跡名	凡例		●住居・土坑		○遺物		◇方形周溝墓		◆古墳		備考	文献番号
		旧石器 時代	縄文 時代	先史 時代	古墳時代 集落	古墳時代 墓	奈良 時代	平安 時代	中世	近世	時期 不明		
1	K0003	北山遺跡	○	○						○		本報告書	4
2	K0028	道土遺跡									○		4
3	K0048	谷蔵遺跡		○									4
4	A0255	足中西遺跡		○									1
5	A0256	伊勢原遺跡		○				○	○				1
6	A0189	愛宕山遺跡		○									1
7	K0050	北遺跡	○	○					○				4
8	A0191	富士ヶ丘1遺跡		○				○	○				1
9	A0192	富士ヶ丘2遺跡		○				○	○				1
10	A0193	富士ヶ丘3遺跡		○				○	○				1
11	A0195	神明遺跡		○				○	○				1
12	A0205	赤城神社前遺跡		○	○			○	○				13
13	A0206	大塚前遺跡		○	○	○		○	○				1
14	A0196	神明山遺跡		○	○	○		○	○				1
15	A0197	岡ノ上遺跡		○	○			○	○				1
16	A0201	古庭遺跡		○	○			○	○				1
17	A0199	古庭ノ入2遺跡		○	○								1
18	A0200	古庭ノ入1遺跡		○									1
19	A0203	一木遺跡						○	○				1
20	A0202	三堂ノ入遺跡		○				○	○				1
21	A0204	青尾遺跡		○				○	○				1
22	A0240	大塚院前遺跡		○						○			1
23	A0207	大塚院裏遺跡		○						○			1
24	A0208	足手遺跡		○						○			1
25	A0209	姥沢遺跡		○						○			1
26	K0006	阿左美遺跡	○	●	○		◇			○	○		5・6・10
27	K0052	荒神山古跡遺跡								○	○		1
28	Y0033	つつじ山1遺跡		○									1
29	A0198	寺ノ入遺跡		○									1
30	A0241	茶臼山古跡遺跡								○			1
31	A0213	屋敷前遺跡						○	○				1
32	B0232	新川-44遺跡									○		1
33	K0038	清水遺跡	○	○					○				6
34	K0043	道尾遺跡	○	○						○			1
35	K0023	向山遺跡											1
36	K0011	向山遺跡		●	●					●		先史時代後期の住居1棟	5・11
37	K0017	稲荷山V遺跡	○	●						●			3
38	K0016	清水西丘遺跡	○	●						●			5・6・17
39	K0039	清水山遺跡		●	●					●		先史時代中期の土坑部	19
40	K0041	北1古墳群遺跡	○	○			◆						4
41	K0018	清泉寺裏遺跡		●						○	○		4
42	K0035	和田遺跡	○	○	●		◆					先史時代中期後半の住居2棟	4
43	K0040	清水北1遺跡		●					○	○			4・6
44	K0044	徳山山古跡遺跡								○			1
45	K0047	堀土遺跡		○									4
46	K0037	坊谷F1遺跡		○					●			朝鮮製陶土。	4・6
47	K0030	山鹿製鉄跡遺跡									○		4
48	K0029	山鹿瓦窯跡							○	○			4・6
49	K0045	山鹿小山遺跡		○					●			奈良時代住居1棟	1
50	K0053	赤田遺跡		●							○		1
51	K0002	岩戸2遺跡	○	○									5・6
52	AK012	間野谷北原遺跡		○	○				○	○			18
53	AK011	間野谷谷根遺跡		○					○	○			1
54	AK009	間野谷かなくそ遺跡		○	○				○	○			1
55	K0042	徳の川遺跡		○	○							早期埴間土器。	4
56	K0046	岡土師塚遺跡									○		1
57	K0051	宮久保遺跡		○					●				1
58	A0264	愛宕神社内古墳					◆						1
59	A0249	中林遺跡							○	○			1
60	A0248	舟場遺跡		○									13
61	A0238	元宿代官所								○			1
62	A0236	丸山骨遺跡								○			1
63	A0254	清水西遺跡		○					○	○			1
64	A0252	足中東遺跡		○					○	○			1
65	A0253	西側ノ上遺跡		○					○	○			1
66	A0250	大迫遺跡		○					○	○			1
67	A0239	今井間の骨遺跡								○			1
68	A0251	東清水間々上遺跡		○									1
69	A0257	西側中遺跡		○									1
70	A0258	西側下遺跡		○									1
71	A0194	中里遺跡		○	○				○	○			1
72	A0237	新居屋敷遺跡									○		1

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

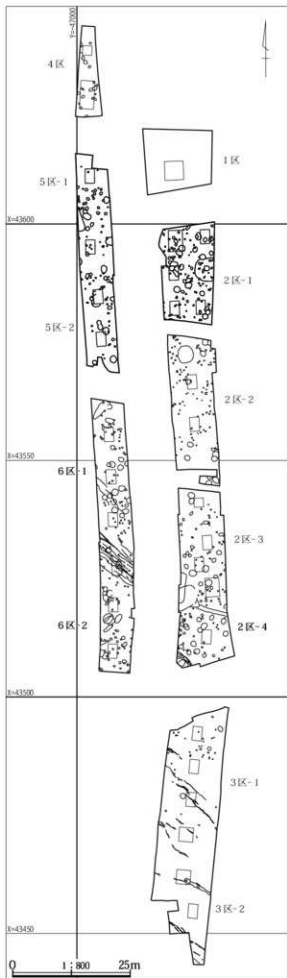
今回の北山遺跡の調査で検出された遺構は、旧石器時代の土坑が3基、縄文時代前期前葉から後半の竪穴住居が6軒、掘立柱建物1棟、土坑162基、縄文時代以降のピット552基、中世以降の溝1条である。出土した遺物は縄文時代前期の土器・石器がほとんどで、遺構および遺物包含層から出土した。

旧石器時代の土坑は、台地の北端となる4区北半でAs-BP層を掘り込む2基の土坑が、台地の南端付近となる6区-2南半の暗色帯上面で1基の土坑が検出された。この両地点の土坑は、検出された層位から、大きく時期が異なる遺構である。本調査では旧石器時代の遺物の出土はなかったが、第2章で記述したように周辺からは石器群が出土している。

縄文時代の遺構の分布は、1区では駐車場の造成により不明であるが、2区・5区・6区に住居や土坑が多く検出され、台地の北端付近となる4区および南端付近となる3区においては希薄であった。このような状況から本調査地の西側にある東邦病院の建物付近を頂点とした東へ延びる緩傾斜の台地東端付近に、縄文時代前期の集落が展開していることが想定できる。

ピットは全体で552基が検出されたが、縄文時代のピットと断定できる遺構はごく一部である。これらについては可能な限り、埋没土の分類を行って、時期の特定に務めたが、その多くの時期を確定することはできなかった。本書では1号掘立柱建物の柱穴としたピットや、明らかに縄文時代の遺構と考えられるものは縄文時代の遺構として報告したが、その他のピットについては、時期不明の1号溝とともに古代以降の全体図で位置を示し、埋没土の分類を遺構計測表に記載した。

また、3区および6区では北西から南東方向の地割れを10数条検出した。この時期についてはそれを確定できる遺物や遺構との関連をとらえることはできなかった。先述の時期不明のピットや1号溝とともに、古代以降の全体図にその位置を示すにとどまった。



第11図 北山遺跡全体図

本地域では弘仁九(818)年に大地震が起き、赤城山の山体崩壊が起きたことが旧新里村(現桐生市)の発掘調査で明らかにされている(文献17)。今回の発掘調査で検出された地割れは、この時の地割れである可能性が高いと推定される。

第2節 旧石器時代の調査

本調査地がローム層の堆積が良好な台地であったことと、すぐ西側の地点で昭和54年に行われた旧笠懸村教育委員会の調査において、第三層とされた黄褐色ローム中に石器群が出土していることから、調査範囲内全域を対象として、旧石器時代の調査を実施した。

本遺跡周辺で旧石器時代の遺構・遺物が出土した遺跡には、日本の旧石器研究の先駆けとなった岩宿遺跡や岩宿Ⅱ遺跡、阿左美遺跡元屋敷第2地点、阿左美沼北遺跡第1地点、大雄院前遺跡等があり、それぞれの発掘調査では複数の文化層の存在が確認されている。

1. 調査の結果

調査は、第10図に示すように、 $2 \times 2 \text{ m}$ 、 $2 \times 3 \text{ m}$ 、 $3 \times 3 \text{ m}$ の調査坑を各調査区に応じて設定して行った。土層の記録は、1～3区の調査坑においては東壁を、4～6区の調査坑においては西壁を対象として、土層断面の記録を作成した。

昭和54年の旧笠懸村教育委員会の調査例から、同等層位までは、特に留意して調査に当たった。その結果、いずれの調査坑からも、遺物の出土はみられなかった。しかし、4区北半No1調査坑と6区-2南半のNo5調査坑において、土坑状の遺構と考えられる落ち込みが検出された。このことにより、遺構の確認作業として調査坑の拡張を行い、遺構調査を行った。

2. 旧石器時代の遺構

先述したように、旧石器時代の遺構は、4区北半で土坑2基と、6区-2南半で土坑1基が検出された。両調査区での土坑の検出層位が異なることから、時期の異なる遺構であることは明らかであるが、いずれの時期の土坑も県内での検出例はきわめて少ない。

(1) As-BP層を掘り込む遺構

4区北半での旧石器時代調査の際に、西壁の土坑断面でAs-BPを含むⅦ層上面で確認された土坑である。Ⅶ層中位から掘り込まれていると推定できる。

4区5号土坑(第12図 PL.17・18)

位置(座標) X軸=43,637、Y軸=-46,999

旧石器調査4区No1調査坑内

形状 全体形状は検出できなかったが、楕円形と推定される。断面形は逆台形。

規模 長径0.6m以上 短径0.6m 残存壁高1.02m

底面 底面はほぼ平坦である。

長軸方位 N-82°-W

重複 なし

埋没土 As-BPを含む暗黄褐色土ロームで埋まっていた。壁際に、Ⅶ層に近いAs-BPを含む暗黄褐色ロームが三角堆積を示しており、人為的に掘削された遺構と推定される。埋没土層は、As-BPを含む基本土層のⅥ層より明るい色調であった。塊状の埋没土砂の混入が認められないことから自然埋没と推定されるが、旧石器時代の土坑は類例が少なく断定できない。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 旧石器時代の調査坑を掘り下げた際に、西壁の土層断面As-BP層の下位の土層(Ⅶ層)を土坑状に掘り込んでいることが確認されたので、東側半分を掘り下げたところ、土坑状の落ち込みとなった。旧石器調査区No1で掘り下げたため、東壁が検出できなかったことから全体形状は不明である。東西方向に長い楕円形と推定される。

4区6号土坑(第12図 PL.17・18)

位置(座標) X軸=43,638、Y軸=-46,999

旧石器調査4区No1調査坑内。5号土坑の北側に隣接する。

形状 全体形状は検出できなかったが、楕円形と推定される。断面形は皿状。

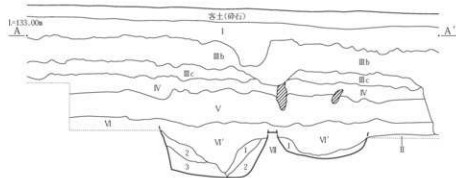
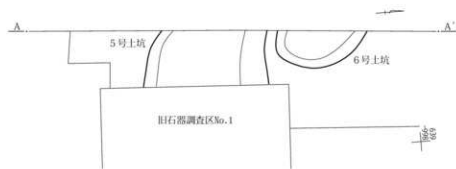
規模 長径0.64m以上 短径0.72m 残存壁高0.77m

底面 底面はやや湾曲していた。

長軸方位 N-37°-W

重複 なし

4区5・6号土坑



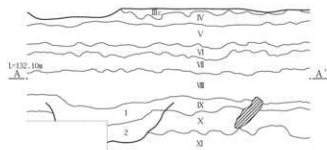
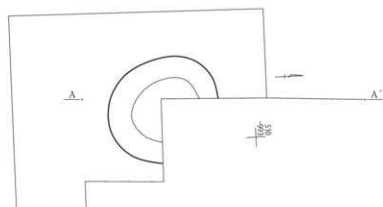
4区5号土坑

- 1 暗黄褐色ローム。3層に比べやや明るい、As-部をまばらに含む。硬質。
- 2 暗黄褐色ローム。全体的に暗い、As-部を多く含む。硬質。
- 3 暗黄褐色ローム。2層に比べやや明るい、また2層に比べAs-部の混入は少ない。硬質。
- VI' 明黄色ローム。VI層に比べやや明るい、上半部にはV層に類似するロームが落ち込んでいる。

4区6号土坑

- 1 暗黄褐色ローム。3層に比べやや明るい、As-部をまばらに含む。硬質。

6区33号土坑



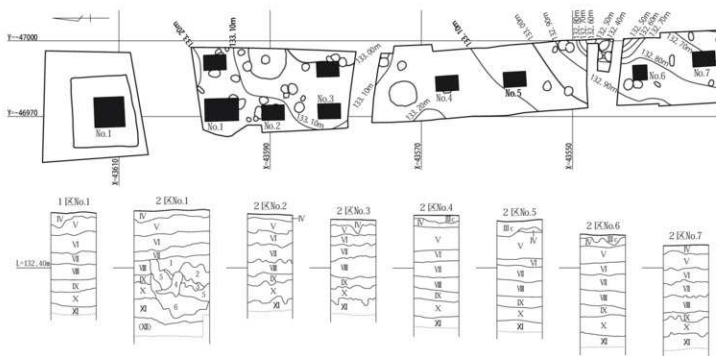
6区33号土坑

- 1 黄白色ローム。VII層よりやや明るい、黄色ローム塊(直径2～3cm)をまばらに含む。軟質。
- 2 黄白色ローム。VII層よりやや明るい。やや硬質。

0 1:40 1m

第12図 旧石器時代の土坑

第3章 検出された遺構と遺物



旧石器 調査坑

IIIc 褐色土 IIIb層からローム層への漸移層的な地層。IV層との境界付近にAs-YPの塊が多量に分布している。細まり硬い、粘性ほとんどなし。

IV 暗褐色ローム As-YPを含む黄色塊上の塊を主とし、やや漸移層化した土。

V 黄色ローム 混入物の少ないローム。やや硬質。

VI 明黄色ローム As-IPをわずかに混入する2層より明るく、やや硬質。

VII 暗褐色ローム 全体に暗く、黄色ロームが現状に混入。

VIII 黄色ローム 混入物なく、硬質。

IX 黄白色ローム VII層よりやや白味を帯び、軟質。

X 明暗褐色ローム 上位にATを混入。硬質。

XI 黄色ローム 混入物なく硬質。

2区No.1 東壁

1 褐色土 VII層に類似し、IX・X層が混入する。青灰色粒(直径0.2~0.3cm)を多量に含む。硬質。

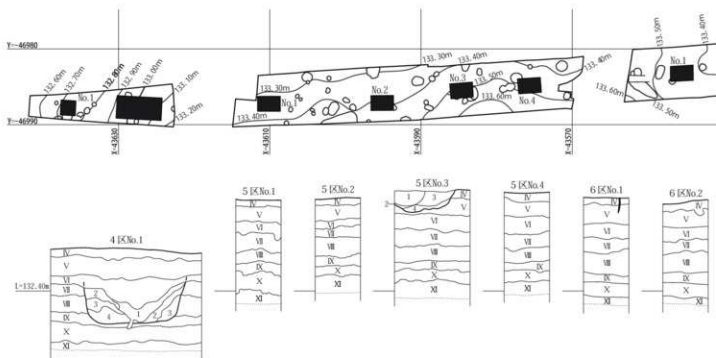
2 黄褐色土 X I層に類似し、X層が混入する。硬質。

3 暗褐色土 暗色帯(X層)を主体とする。ローム粒を微量含む。硬質。

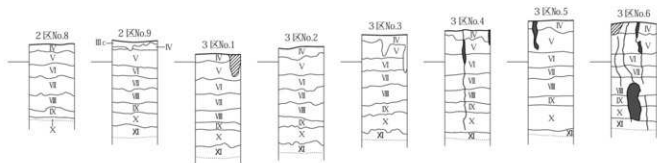
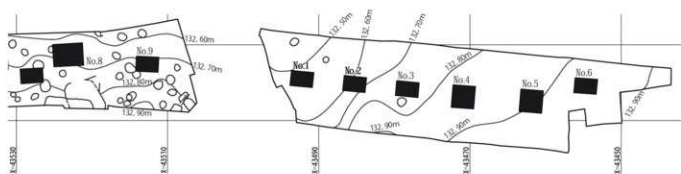
4 にふい黄色土 層位の周辺に鉄分が残る。(根痕か)

5 暗褐色土 黄色ローム塊・明褐色の軽石を多量に含む。硬質。

6 暗褐色土 黄色ローム粒を多量に含む。硬質。

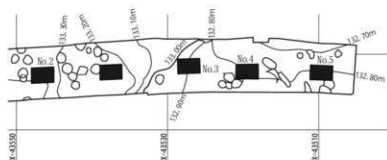


第13図 旧石器調査坑の位置と土層断面



4区No.1西壁

- 1 明黄色ローム 3層に比べ、やや暗い。硬質。(5号土坑)
- 2 暗黄褐色ローム 4層に比べやや明るい。BPをまばらに含む。硬質。(5号土坑)
- 3 暗黄褐色ローム 全体的に暗い。BPを多く含む。硬質。(5号土坑)
- 4 黄白色ローム 3層よりさらに明るい。BPの混入は微量となる。やや軟質。(5号土坑)

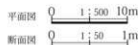
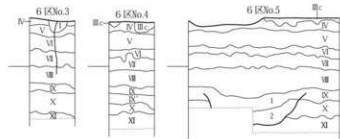


5区No.3西壁

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊、白色粒を僅かに含む。(15号土坑)
- 2 暗灰褐色土 ローム粒・塊を多く含む。(15号土坑)
- 3 にぶい黄褐色土 ローム塊と汚れたローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。(16号土坑)
- 4 にぶい黄褐色土 ローム塊と汚れたローム粒を多量に含む。締まり・粘性あり。(16号土坑)

6区No.5西壁

- 1 黄白色ローム VIII層よりやや明るい。黄色ローム塊(直径2~3cm)をまばらに含む。軟質。(33号土坑)
- 2 黄白色ローム VIII層よりやや明るい。やや硬質。(33号土坑)



埋没土 As-BPを含む暗黄褐色土ロームで埋まっていた。壁脇や底面にⅦ層に近いAs-BPを含む暗黄褐色ロームが三角堆積等を示しており、人為的に掘削された遺構と推定される。埋没土上層は、As-BPを含む基本土層のⅥ層より明るい色調であった。塊状の埋没土砂が認められないことから自然埋没と推定されるが、旧石器時代の土坑は類例が少なく断定できない。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 旧石器時代の調査坑を掘り下げた際に、西壁の土層断面As-BP層の下位の土層(Ⅶ層)を土坑状に掘り込んでいることが確認されたので、掘り下げたところ、土坑状の落ち込みとなった。西半分は調査区域外となるため、全体形状は不明である。東西方向に長い楕円形と推定される。

(2) 暗色帯上面で検出された遺構

6区-2南半での調査の際に、暗色帯(X層)で検出された土坑である。

6区33号土坑(第12図 PL.26)

位置(座標) X軸=43.509、Y軸=-46.994

旧石器調査6区No.5調査坑内

形状 全体形状は検出できなかったが、円形と推定される。断面形は皿状。

規模 長径1.20m 短径1.06m 残存壁高0.42m

底面 底面はほぼ平坦である。

長軸方位 N-18°-W

重複 なし

埋没土 黄色ローム塊を含む黄白色ロームで埋まっていた。基本土層のⅧ層より暗い色調であった。塊状の埋没土砂が認められないことから自然埋没と推定されるが、旧石器時代の土坑は類例が少なく断定できない。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

所見 旧石器時代の調査坑を掘り下げた際に、西壁の土層断面で基本土層Ⅹ層を土坑状に落ち込んでいる状態が確認されたので、西部の調査坑を拡張して調査した。全体形状は不明であるが、円形と推定される。



調査区を拡張して掘り下げ作業



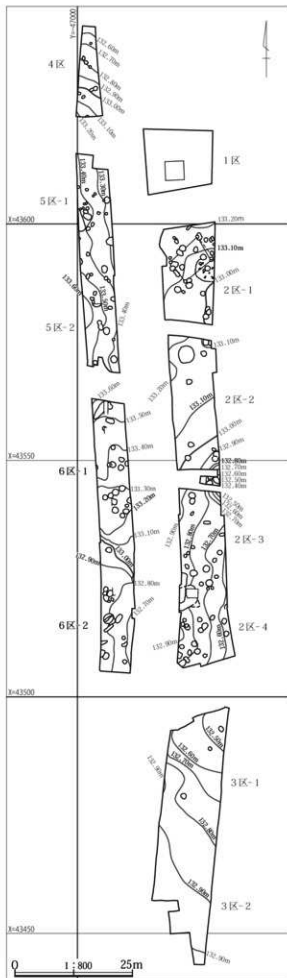
6区33号土坑精査作業

第3節 縄文時代の遺構と遺物

北山遺跡は、昭和44年の国道50号桐生バイパス建設工事に伴う調査で、縄文時代早期の撫系文土器である稲荷台式土器、夏島式土器、前期の黒浜式土器、諸磯式土器、浮島式土器、中期の阿玉台式土器、加曽利E式土器、後期の堀之内式土器が出土している。(文献2)昭和54年の旧笠懸村教育委員会の調査では、早期の田戸下層式土器、前期の黒浜式土器、諸磯式土器、中期の加曽利E式土器が出土している。(文献4)しかし、いずれの発掘調査でも遺構は検出されておらず、遺跡の実態が不明瞭なままであった。本調査地への県教育委員会文化財保護課による試掘結果においても、可能性は指摘されていたものの、明確な遺構の把握はなされてはいなかった。また、近年のみどり市教育委員会による本調査地隣接地での調査においても、遺構の検出はごく少なく、遺物の出土のみにとどまっていたのが現状であった。

しかし、今回の調査の結果、1区を除く各調査区から縄文時代の竪穴住居が計6棟、掘立柱建物が1棟、土坑が合計162基検出された。また、遺構内から縄文時代前期を主とした土器・石器が出土したほか、基本土層Ⅲb層における遺物包含層も検出された。これによって北山遺跡における縄文時代集落の内容がより明らかになったといえよう。

調査区内の竪穴住居は、1区と南部の3区と6区を除く発掘区全体に散在していた。いずれも縄文時代前期の住居で、2区には諸磯a式期の2棟、黒浜式期の2棟、時期不明1棟が、5区には間山式期の1棟が検出されている。4区の西側は平成22年度のみどり市教育委員会の発掘調査では竪穴住居の検出が見られなかったことから、北西側への遺構の広がりには希薄になると推定される。掘立柱建物1棟は2区1号住居に後出して1棟が検出された。土坑は竪穴住居の周辺に検出される傾向があり、南部の3区で検出された縄文時代の土坑は3基にとどまった。不整円形・楕円形の土坑が多いが、陥穴や断面フラスコ状の貯蔵穴も含まれている。時期のわかる土坑はいずれも縄文時代前期で、竪穴住居の時期と対応していた。また、2区-1の北半部では2号住居と1号掘立柱建物の検出面の上層に遺物包含層があり、2,652点の遺物が出土した。以下、区ごとに検出された遺構について記載する。



第14図 縄文時代の遺構全体図

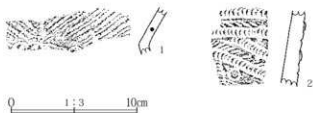
1. 1区

駐車場の造成によりローム層上位まで削平されていたため、縄文時代の遺構を検出することはできなかった。しかし、本区の南端となる現道との段差部分において、僅かながら縄文時代の土器が採集されており、遺構が存在した可能性は高い。

(1) 遺構外出土土器(第15図 PL. 1・29)

造成により包含層は存在していないが、調査区の南端斜面で2点表採されており、本来は後述する2区北側(2区-1)に続く遺構・遺物があったものと推定される。

1は胎土に繊維を含み、頸部にR Lの附加条(rの1本附加)とL Rの附加条(lの1本附加)による羽状縄文を施し、頸部下の括れ部に半截竹管具でコンパス文を巡らせる黒浜式土器である。2は胎土に繊維を含まず、幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間に刻みを有し、円形刺突を配する諸磯b式土器である。



第15図 1区遺構外出土遺物

2. 2区

2区で検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居4棟、掘立柱建物1棟、土坑74基である。竪穴住居は北側の2区-1で1棟、2区-2の北半で1棟、2区-3の西部で2棟が重複して検出された。全体としては散在していた。掘立柱建物は2区-1の2号住居に後出して重複していた。土坑は中央部に分布が希薄になる部分があり、竪穴住居の周辺に偏在する傾向があった。また2区-2と3の間には東側に窪む谷頭があり、どちらの谷頭の周辺にも偏在する傾向があった。(第16図)

土坑の形態は、楕円形及不整形のものが多く、長軸0.6mほどの小型土坑と、1.2mほど大型土坑に大別できる。断面形は、小型土坑は皿状、大型土坑は逆台形のものが多かった。18号土坑は袋状で貯蔵用、31号土坑は狩猟用の陥穴である。他の土坑については性格を特定するための顕著な特徴は見られなかった。

(1) 竪穴住居

2区-1で2号住居、2区-2で1号住居、2区-3で3号・4号住居が検出された。

2区1号住居 (第17図 遺構一覧表P.131 PL. 6・29)

位置(座標)X軸=43,571~43,575

Y軸=-46,976~46,979

形状 楕円形

規模 長辺3.60m 短辺3.30m 壁高24cm

長軸方向 N-10°-W

床面積 7.5㎡

重複 1号掘立柱建物より古い。

埋没土 上層はローム粒を微量含む黒褐色土で、下層はローム粒を少量含む暗褐色土で埋まっていた。

柱穴 検出されなかった。

炉 北東部床面で焼土を確認したが、炉であったかどうかは確定できなかった。

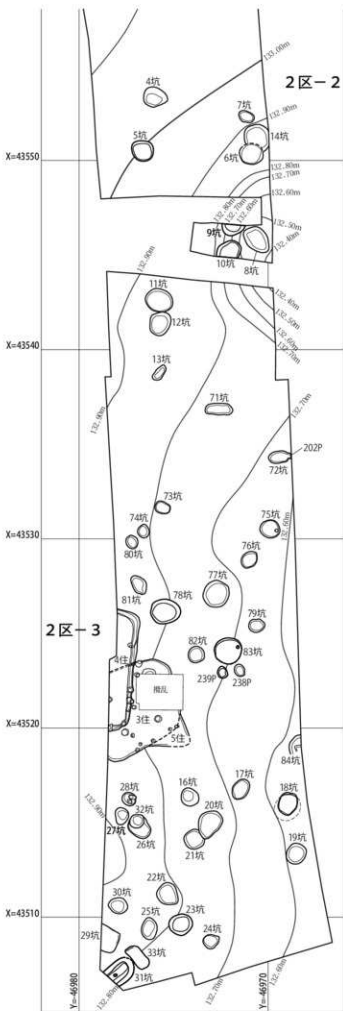
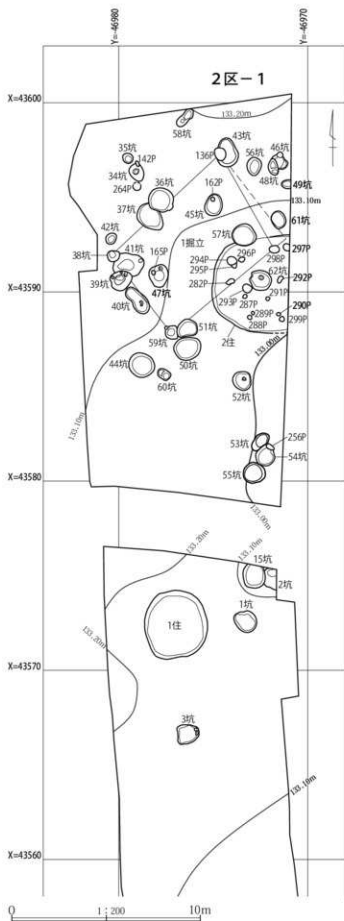
周溝 検出されなかった。

床面 一部に硬化面は認められたが、凹凸も認められた。

遺物出土状態 土器は全体で43点が出土した。内訳は黒浜式土器破片30点、諸磯a式土器破片13点である。石器類は敲石1点、凹石1点、黒色頁岩剥片2点、黒色頁岩剥片1点が出土した。これらの遺物は住居内南東部に偏って出土した。図示した1・4・20が床面直上で出土した。2・3・5・7は床面から数cm上で、他は埋没土中から出土した。

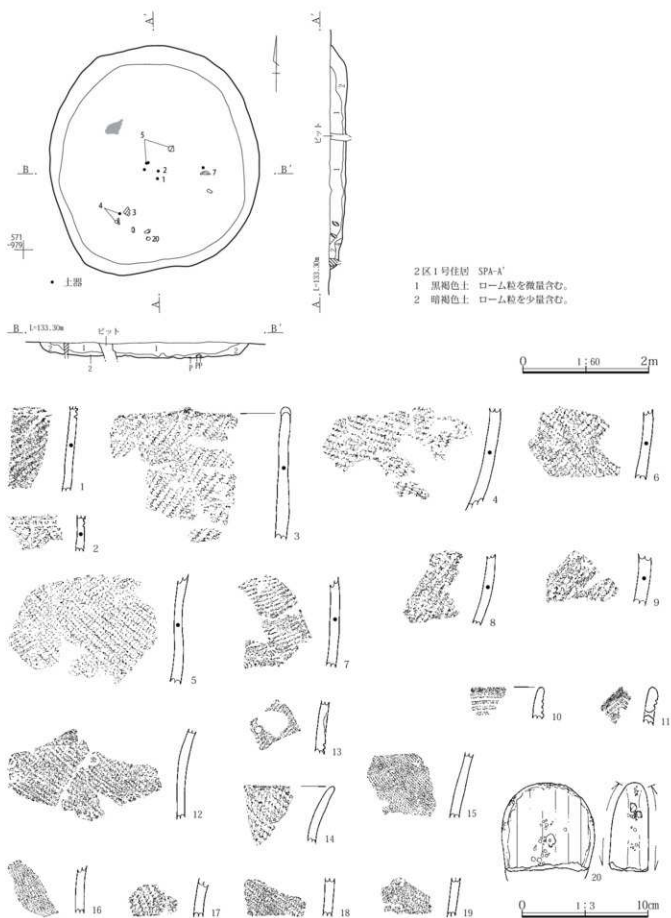
出土遺物 出土した土器43点のうち19点を図示した。

1~9は胎土に繊維を含む。1・2は頸部に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴部以下にL Rの縄文を施す。3は小突起をもつ平口縁で、口縁以下にL Rの縄文を施す。4~9は胴部に縄文を施すもので、4~6はR LとL Rによる羽状縄文を、7~9はL Rの縄文を施す。10~19は胎土に繊維を含まない。10



第16図 2区縄文時代遺構全体図

第3章 検出された遺構と遺物



第17図 2区1号住居平・断面と出土遺物

は平口縁で、口縁部に半截竹管具による平行沈線を数条巡らせる。11は波状口縁となる波頂部で、波頂下に孔を有し、口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段描く。12・13は胴部に竹管具による縦位の円形刺突をもち、地文に12はR Lの縄文を、13はL Rの縄文を施す。14は外反する平口縁で、口縁以下にR Lの縄文を施す。15～19は胴部にR Lの縄文を施すものであるが、15・16はかなり細い原体が用いられている。これらは、1～9が黒浜式土器で、10～19は諸磯a式土器である。

また、石器は1点を図示した。20は輝石安山岩製の凹石である。

調査所見 本竪穴住居の時期は、住居形状および出土土器から諸磯a式期と考えられる。

2区2号住居(第18～21図 遺構一覧表P.131 PL.6・29・30)
位置(座標)X軸=43,588～43,593

Y軸=-46,971～46,976

形状 東半が調査区域外となり、全形がとらえられなかったが、不整形円形と推定される。

規模 長辺4.35m 短辺5.14m 壁高16cm

長軸方向 N-85°-W

重複 1号掘立柱建物、57号土坑、62号土坑より古い。

埋没土 上層は多量のローム粒、微量の炭化物粒を含む暗褐色土、下層はローム塊・粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。その上位を基本土層Ⅲb層が覆っていた。Ⅲb層中には多量の縄文時代前期の土器・石器類が包含されていた。

柱穴 明確な柱穴は検出されなかったが、床面精査で、縄文時代と推定される土砂で埋まった7基のピットを検出した。これらは壁に沿った位置にあり、住居柱穴の可能性はあるが、確定はできなかった。なお、282号ピットは縄文時代の土砂で埋まっていたが、その位置から重複する1号掘立柱建物の南辺中央の柱穴と判断したピットである。291号ピットは古代以降の埋没土で埋まったピットである。

炬 住居ほぼ中央部の床面に焼土が楕円形に残っていた。炬と推定される。

周溝 検出されなかった。

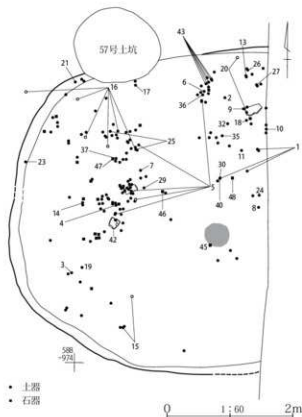
床面 中央部が硬化していた。

遺物出土状態 土器は全体で246点が出土した。内訳は黒浜式土器破片5点、諸磯a式土器破片239点、諸磯b式土器(浮線文)破片1点、不明1点である。石器類は打製石斧1点、石鏃2点、石錐1点、削器1点、加工痕ある剥片1点、黒曜石剥片12点、チャート剥片6点、黒色頁岩剥片3点、灰色黒色安山岩剥片1点が出土した。

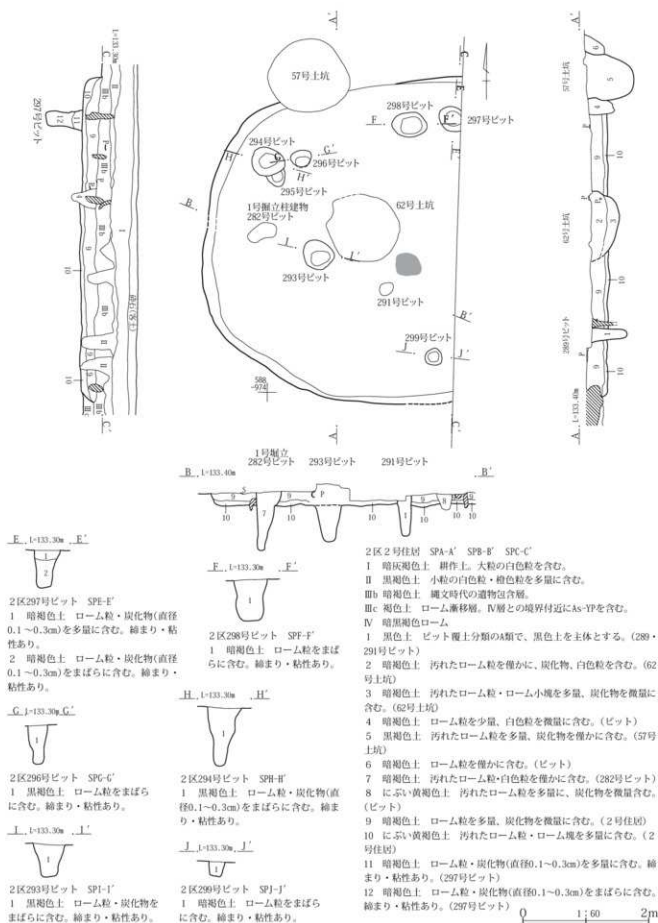
これらの遺物は住居北半部にやや偏って出土した。特に中央やや西側に集中していた。第18図で出土位置を図示したが、土器・石器類ともに床面直上で出土した遺物はなく、いずれも数～10数cm床面から浮いた位置で出土した。これ以外の大半の遺物は埋没土中からの出土である。また、本住居の上層のⅢb層では後述するように2,625点におよぶ縄文土器が出土した遺物包含層が検出されている。その包含層出土遺物との接合例も確認できた。

出土遺物 住居内で出土した土器は246点である。そのうち、44点を第20・21図に図示した。

1～44は胎土に繊維を含まない。1～8は口縁部文様に波状沈線を描く類。1は大きく外反する平口縁で、口縁部に5条の平行沈線と4条の波状沈線を交互に数段巡



第18図 2区2号住居の遺物分布



第19図 2区2号住居平・断面

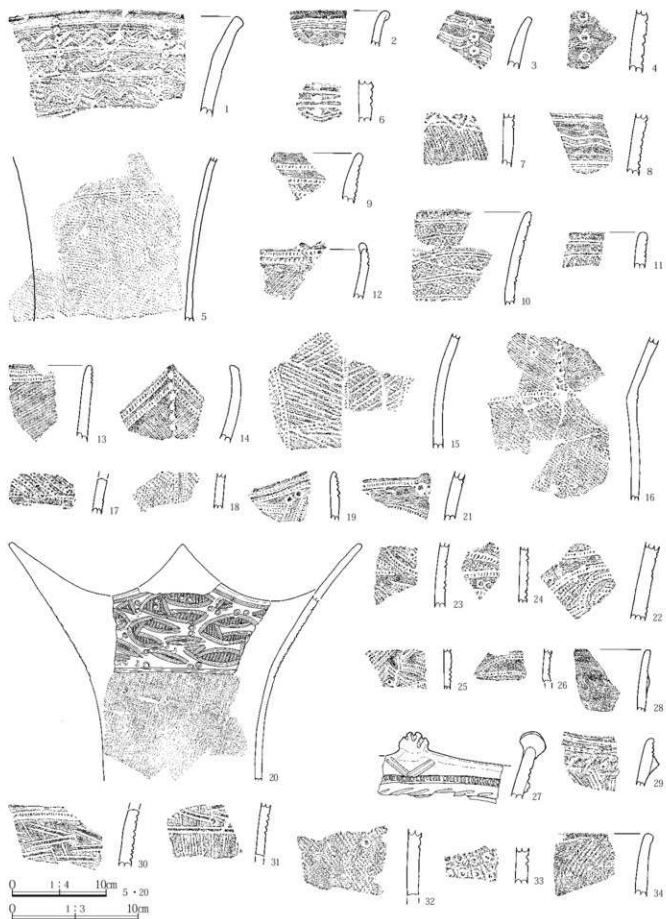
らせ、竹管具による縦位の円形刺突を有する。2は平口縁で、口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を巡らせている。3は波状口縁で、口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を巡らせ、竹管具による縦位の円形刺突を有する。4・5は口縁部に5条の平行沈線と4条の波状沈線を交互に数段巡らせ、竹管具による縦位の円形刺突をもち、5の胴部以下にR L(横回転)とL R(縦回転)の縄文を施す。6は口縁部に半載竹管具による平行沈線と波状沈線を巡らせ、竹管具による縦位の円形刺突を有する。7は口縁部に半載竹管具による平行沈線と波状沈線を巡らせ、胴部以下にR Lの縄文を施す。8は口縁部に3条の平行沈線と波状沈線を巡らせる。9～11は口縁部文様に平行沈線を巡らせる類。9は僅かに外反する平口縁で、口縁部に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段描く。10・11は同一個体の外反する平口縁で、口縁部に半載竹管具による平行沈線を数段巡らせ、地文にL Rの縄文を施す。12～18は口縁部文様に肋骨文を描く類。12はやや内反ぎみの平口縁で、口唇部に小突起をもち、口縁下に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、以下の口縁部に左下がりの条線を描く。13は平口縁の口縁下に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、以下の口縁部に左下がりの条線を描く。14は波状口縁の波頂部で、口縁下に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、以下の口縁部に右・左下がりの条線を描き、波頂下に竹管具による縦位の円形刺突を有する。15は大きく外反する波状口縁を呈するようで、口縁下に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、波頂下がりが変状となるように半載竹管具による右・左下がりの平行沈線を描き、波頂下を軸に半載竹管具による爪形刺突をもつ縦位の平行沈線および横位の平行沈線で文様を区画し、地文には縄文を施す。16は大きく外反する口縁部に右・左下がりの条線を描き、竹管具による縦位の円形刺突、半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を1条巡らせて文様区画し、胴部以下にR Lの縄文を施す。17は口縁部に右下がりの爪形刺突をもつ平行沈線を描き、横位の爪形刺突をもつ平行沈線で文様区画し、地文に縄文を施す。18は地文にR Lの縄文を施し、縦位の爪形刺突をもつ平行沈線で文様区画する。19～26は口縁部文様に木の葉文を描く類。19は波状

口縁で、口縁下に細い半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、口縁部に同様の平行沈線で曲線的な木の葉文を描き、竹管具による円形刺突を配する。20は大きく外反する波状口縁で、波頂部を欠く。口縁下および頸部に細い半載竹管具による平行沈線を巡らせ口縁部文様帯を区画し、文様帯内に同様の平行沈線で曲線的な木の葉文を描き、竹管具による円形刺突を配する。文様帯内には地文の縄文が施されているが、木の葉文内の縄文を残し、それ以外の文様帯内の地文縄文は摺り消す。胴部には地文であるL Rの縄文が施されている。21～25は口縁部文様に半載竹管具による平行沈線で曲線的な木の葉文を描き、竹管具による円形刺突を配する。22～25の木の葉文内には地文の縄文が残る。26は口縁部文様に木の葉文を描く浅鉢の頸部片である。27～29は口縁下に降帯を巡らせる類。27は外反する平口縁の口唇部に球状の刻みをもつ突起を有し、突起下にV字状の平行沈線、口縁下に半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と刻みをもつ降帯を巡らせる。28は平口縁の口縁下を無文帯とし、爪状の刻みをもつ降帯を巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。29は波状口縁の口縁下に細い半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条と刻みをもつ降帯を巡らせ、以下に沈線で文様を描く。30・31は同一個体で、地文に摺り糸文を施し、半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と爪形刺突のない平行沈線を巡らせて文様帯区画し、区画内に横位矢羽根状の平行沈線を描く。32・33は胴部に竹管具による円形刺突をもち、R Lの縄文を施す。34～36は平口縁で、口縁以下にR LないしL Rの縄文を施す。37～41はR Lの縄文を施す胴部片。42は平底となる深鉢の胴下半で、胴部に端部処理痕が付くL Rの縄文を施す。43は浅鉢の底部で、胴下半にR Lの縄文が施されている。44は器厚がかなり薄く、胴部にシュロ状の幅広い爪形が施されている。これらは、1～43は諸磯a式土器、44は北白川下層式土器である。

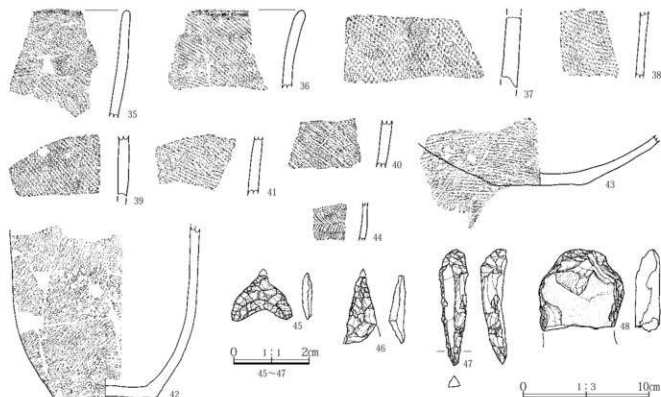
石器は4点を図示した。45・46はチャート製の石礫、47はチャート製の石錘、48はホルンフェルス製の打製石斧東部破片である。

調査所見 本壑穴住居の時期は、住居形状および出土土器から諸磯a式期と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第20図 2区2号住居出土遺物(1)



第21図 2区2号住居出土遺物(2)

2区3号住居(第22~25図 遺構一覧表P.131 Pl. 7・30・31)

位置(座標) X軸=43,519~43,524

Y軸=-46,975~46,979

形状 北西部が調査範囲外となり、全形はとらえられなかったが、隅丸の方形と推定される。

規模 長辺5.00m 短辺4.30m 壁高18cm

長軸方向 N-13°-W

重複 4号・5号住居より新しい。

埋没土 上層はローム塊・白色粒・ローム粒を含む暗褐色土で、下層はローム塊・白色粒・ローム粒を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。その上層をⅢb層が覆っていた。

柱穴 床面で主柱穴を推定される3基のピットと、住居中央に1基のピットを検出した。主柱穴と推定されるピットはP1・P2・P3で、4本柱穴のうち北東の1基を攪乱で欠いているものと推定される。中央のP4は断面がやや不定形で、他の3基とは形態が異なる。床面にはこのP4を塞ぐように粗粒輝石安山岩製の石皿(第25図)が正置されていた。検出されたピットの規模(長軸×短軸×深さ)は、P1(0.36×0.36×0.61m)、P2(0.39×0.37×0.55m)、P3(0.34×0.18以上×0.31m)、P

4(0.24×0.18×0.43m)である。

灰 調査できた範囲の中では灰は検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

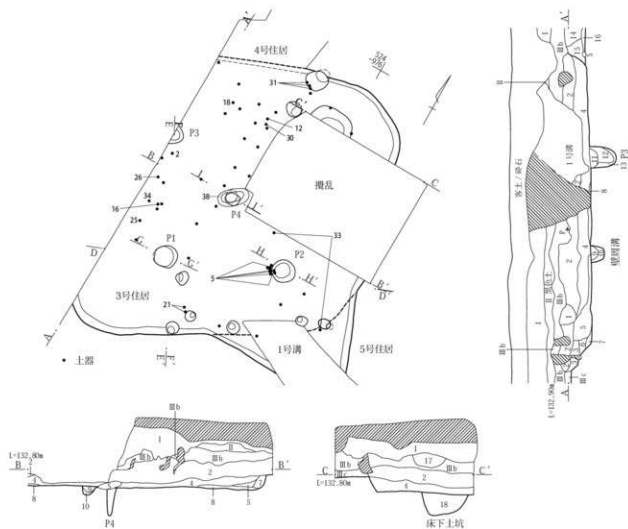
床面 顕著な硬化面が認められた。

遺物出土状態 土器は全体で249点が出土した。内訳は黒浜式土器破片234点、諸磯a式土器破片15点である。石器類は磨製石斧1点、石鏃1点、削器1点、加工痕ある剥片1点、磨石1点、石皿1点、チャート剥片1点が出土した。

これらの遺物は住居ほぼ全体に散在していた。第22図で出土位置を図示したが、石皿(第25図38)、黒浜式土器(25)が床面直上で出土した他は、土器・石器類ともに数~10数cm床面から浮いた位置で出土した。これ以外の大形の遺物は埋没土中からの出土である。

出土遺物 出土した土器は249点を数え、この内34点を図示した。

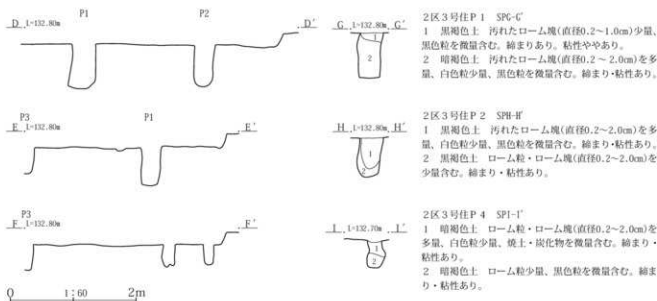
1~4は平口縁で、口縁下にコンパス文を巡らせ、1にはLRの附加条(Rの1本附加)、2はRLの縄文が施される。5は深鉢の頸部から平底となる底部で、頸部に平行沈線とコンパス文が巡り、以下の胴上半にRLの附加条(rの1本附加)、胴下半にLRの縄文を施す。6



2区3号住居 SPA-A' SPB-B' SPC-C'

- I 暗灰褐色土 耕作用。白色粒(直径0.2~0.5cm)を多量に含む。締まり非常に硬い。粘性なし。
- II 黒褐色土 白色粒(直径0.1~0.2cm)・褐色粒を多量に含む。締まりあり。粘性ほとんどなし。
- IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物(瓦)層。締まり良。粘性ほとんどなし。
- IIIc 褐色土 IIIb層からローム層への漸移的な地層。IV層との境界付近にAs-YPの塊が多量に分布している。締まり硬い。粘性ほとんどなし。
- 1 黒褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~1.0cm)・白色粒少量、ローム粒微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)・白色粒を多量、ローム粒を少量、黒色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 3 黒褐色土 白色粒を多量、ローム粒・汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)・黒色粒を少量含む。締まり・粘性あり。
- 4 濃い黄褐色土 汚れたローム塊(直径2.0cm)・白色粒を多量、ローム粒・黒色粒を少量含む。締まり・粘性あり。
- 5 褐色土 ローム粒・ローム塊(直径0.2~3.0cm)を多量、白色粒・黒色粒を少量含む。締まり・粘性あり。
- 6 暗褐色土 ローム粒を多量、白色粒・黒色粒を少量含む。締まり・粘性あり。
- 7 暗褐色土 ローム粒を多量、白色粒少量、黒色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 白色粒少量、黒色粒を微量含む。暗褐色土が少量混入する。締まりやや強い。粘性あり。
- 9 黒褐色土 ローム粒を少量、炭化物を微量含む。締まり・粘性あり。
- 10 褐色土 ローム粒・汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)を多量、白色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 11 黒褐色土 ローム粒少量、汚れたローム塊(直径2~2.0cm)・黒色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 12 黒褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)を多量、ローム粒を少量、黒色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 13 暗褐色土 汚れたローム粒・ローム塊(直径0.2~3.0cm)を主体とする。黒色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 14 暗褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~3.0cm)・白色粒を多量、焼土・炭化物少量、ローム粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 15 黒褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)少量、焼土・炭化物・白色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 16 暗褐色土 焼土を多量、ローム粒・炭化物・白色粒を微量含む。締まりあり。粘性ややあり。
- 17 暗褐色土 白色粒少量、汚れたローム粒を微量含む。締まりあり。粘性ややあり。
- 18 褐色土 汚れたローム塊(直径0.2~2.0cm)を多量、ローム粒・白色粒(直径0.1~0.3cm)・黒色粒を少量含む。締まり・粘性あり。

第22図 2区3号・5号住居平・断面



第23図 2区3号住居断面

～8は頭部にコンパス文が巡り、8は以下にR Lの附加条(1本附加)を施す。9は口縁部文様に半截竹管具による平行沈線を横位に巡らせて文様区画し、区画内に平行沈線で鋸歯状の文様を描く。10は胴部に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を3条巡らせ、円形文等の文様を描き、胴部文様の上下にR LとL Rによる羽状縄文を施す。11は横位の平行沈線を数条巡らせて口縁部文様帯を区画し、区画内に平行沈線で菱状の文様を描く。12は半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、以下の胴部にR LとL Rによる羽状縄文を施す。13はやや内反ぎみとなる小波状口縁で、口縁以下にL Rの附加条(Lの1本附加)とR Lの附加条(Rの1本附加)による羽状縄文を施す。14～16は平口縁で、口縁以下にR LないしL Rの縄文を施す。17～32は胴部に縄文を施す類。17～26はL Rの附加条(Lの1本附加)とR Lの附加条(Rの1本附加)による羽状縄文、L RとR Lによる羽状縄文が施される。22には0段多条の原体が用いられている。27はRの閉端環付縄(ループ縄文)を施す。28はR Lの附加条(Rの1本附加)、29は0段多条のR L、30・31はL R、32はRの縄文を施す。33は無文の平口縁の深鉢を呈し、口縁下に降帯を1条巡らせる。34は上げ底となる底部片で、胴部には0段多条のR LとL Rによる羽状縄文を施す。これらは、黒浜式土器である。

石器は4点を図示した。35はチャート製の石鏃、36は

変玄武岩製の磨製石斧、37は変質安山岩製の磨石、38は粗粒輝石安山岩製の石皿である。

調査所見 本壑穴住居の時期は、住居形状および出土土器から黒浜式期と考えられる。

2区5号住居(第22図 遺構一覧表P.131)

位置(座標) X軸=43.520~43.521

Y軸=-46.975~46.976

形状 3号住居の南東隅に重複して検出された。北西部は3号住居に壊されているために全形はとらえられなかったが、方形と推定される。

規模 長辺(2.50)m 短辺(1.80)m 壁高0.20m

主軸方向 N-77°-W

重複 1号溝・3号住居より古い。

埋没土 3号住居の埋没土に類似する。

柱穴 検出されなかった。

が 検出されなかった。

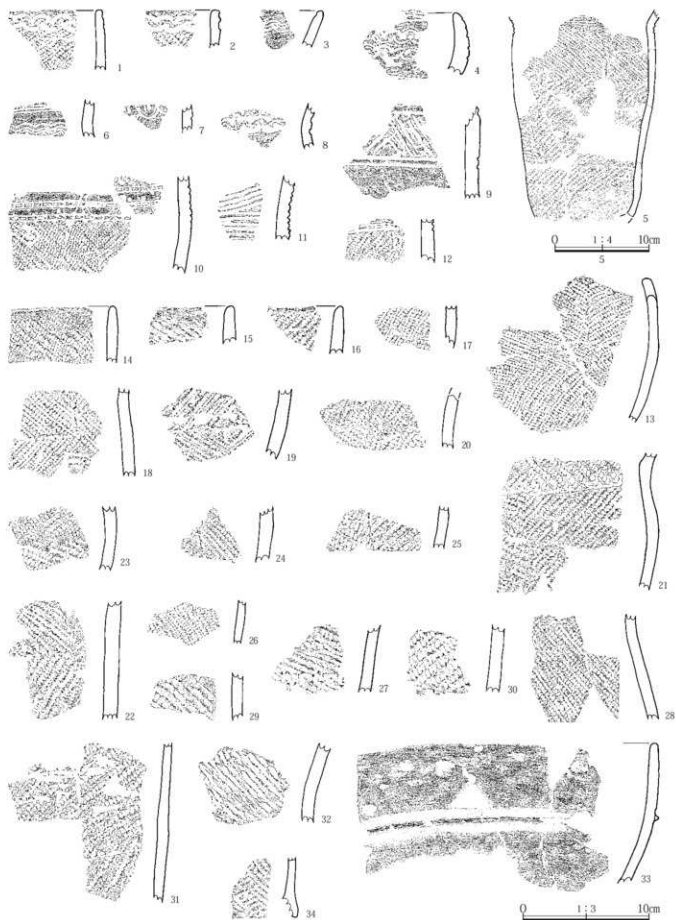
周溝 検出されなかった。

床面 顕著な硬化面は検出されなかった。

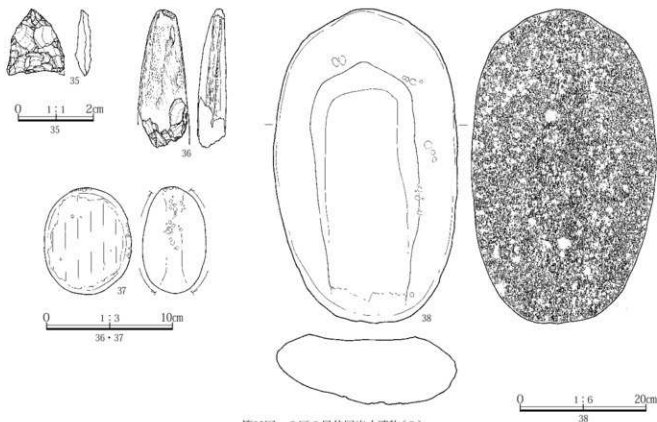
遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

調査所見 壑穴住居内の大半を、重複する3号住居・1号溝で壊されているために、詳細な住居のデータを得ることはできなかったが、本壑穴住居の時期は、一部の埋没土の状況からは縄文時代前期と推定される。

第3章 検出された遺構と遺物



第24図 2区3号住居出土遺物(1)



第25図 2区3号住居出土遺物(2)

2区4号住居(第26図 遺構一覧表P.131 PL. 7・31)

位置(座標) X軸=43,520~43,527

Y軸=-46,977~46,979

形状 東壁周辺のみ調査に限られたため、全形をとらえられなかったが、方形と推定される。また3号住居と南東隅が重複する部分では、壁周溝のみが残存しており、東壁周辺の形状を確認することができた。

規模 長辺6.54m 短辺(1.44)m 壁高24cm

長軸方向 N-3°-E

重複 3号住居より古い。

埋設土 上層はローム塊・粒、白色軽石、焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土で、下層はローム塊・粒を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。その上位を基本土層のⅢb層が覆っていた。

柱穴 調査できた床面の範囲では検出されなかった。

が 住居内東中央に焼土を多量に含む暗褐色土(土層断面A-A' 15層)が堆積しており、がの堆積の可能性が高い。周溝 検出できた壁に全周して、壁周溝が検出された。周溝内には間隔が一定しないが、ピットが5基検出された。いずれも0.45mほどの深さがある。住居構造に関わるピットの可能性があるが、全体構造は不明である。

床面 全体に顕著な硬化面が認められた。

遺物出土状態 土器は全体で15点が出土した。内訳は黒浜式土器破片12点、諸磯a式土器破片3点である。石器類は磨石が1点出土したのみである。

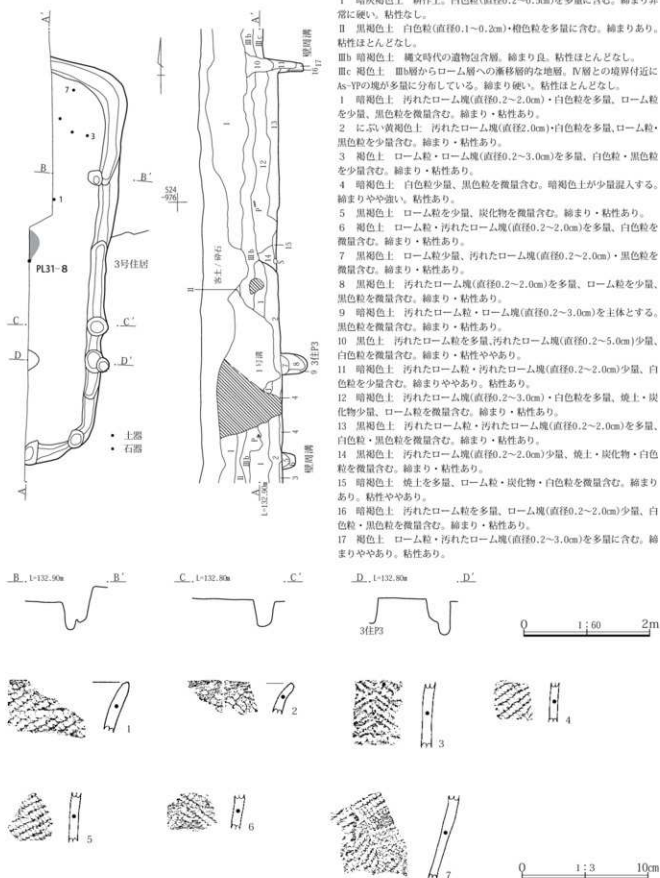
これらの遺物は住居北東部にやや偏在する傾向がみられたが、埋没土中から出た遺物もあった。磨石(PL.31-8)はがの南端、床面直上で出た。

出土遺物 3号住居と重複しているため、出土した土器は15点と少なく、このうち7点を図示した。石器は出土した磨石1点を写真で示した。

1~7は胎土に繊維を含む。1・2は平口縁で、1は口縁以下にL Rの閉端環付縄(ループ縄文)を施し、2は口縁以下にL Rの縄文を施す。3~7は胴部に縄文を施すもので、3はR LとL Rによる羽状縄文とR Lの閉端環付縄(ループ縄文)を施す。4・5はL Rの縄文を施す。6はR Lの縄文を施す。7はL Rの縄文地に、一部にR Lの縦回転を施す。これらは、黒浜式土器である。

8は粗粒輝石安山岩製の磨石である。

調査所見 本整穴住居の時期は、住居形状および出土土器から黒浜式期と考えられる。



第26図 2区4号住居平・断面と出土遺物

(2) 掘立柱建物

2区1号掘立柱建物(第27・28図 遺構一覧表P.131 PL. 8・31)

位置(座標)X軸=43,589~43,598

Y軸=-46,972~46,981

形状 桁行き2間、梁行き1間の長方形の建物と推定される。1号住居調査後、主柱穴の検出精査を実施中に柱軸にのるピットを複数確認したことから、周辺のピットを精査したところ、柱穴と推定される7基のピットと土坑を検出した。柱筋はやや傾くものの、一定の深さをもつことから、掘立柱建物の柱穴跡と判断した。東隣柱穴は297号ピットの可能性もある。

桁行方向 N-20°-W

規模 東西7.0~7.84m 南北5.2~5.8m

重複 1号住居より新しい。

埋没土 検出されたピット6基はいずれもローム粒・塊を多量に含む暗褐色・暗黒色土で埋まっており、人為的埋没の状態と推定された。

柱穴 各柱穴の規模(長軸×短軸×残存深)は下記の通りである。2区263号・282号・297号ピットは重複遺構面底面での計測である。

2区38号土坑 0.64×0.58×0.6m

2区263号ピット 0.40×0.25×0.46m

2区136号ピット 0.71×0.59×0.53m

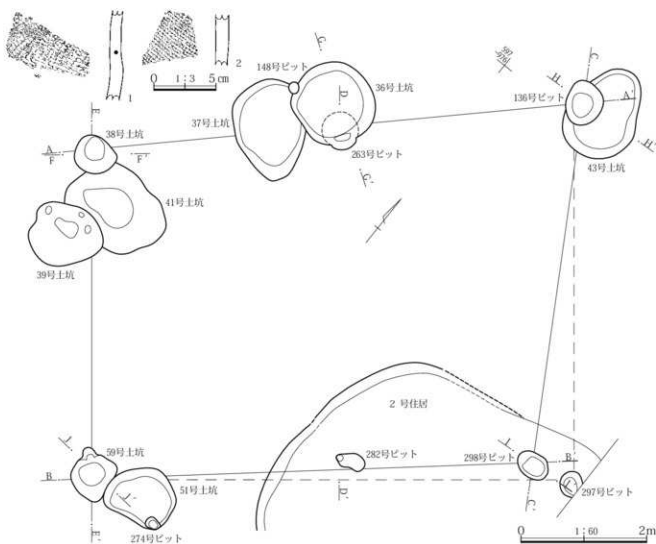
2区298号ピット 0.54×0.39×0.69m

2区297号ピット 0.45×0.38×0.60m

2区282号ピット 0.48×0.22×0.77m

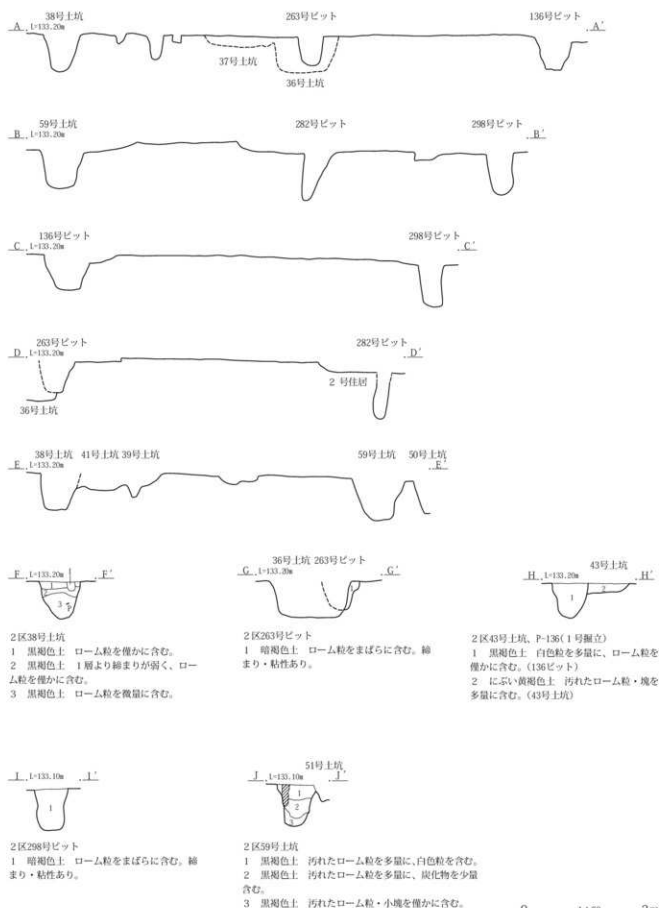
2区59号土坑 0.86×0.76×0.32m

遺物出土状態 遺物は2区38号土坑埋没土中から黒浜式土器破片1点、諸磯a式土器破片2点が出土した。他の



第27図 2区1号掘立柱建物平面と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第28図 2区1号掘立柱建物断面

ピット内からは遺物は出土しなかった。

出土遺物 38号土坑から出土した2点のうち、1は胎土に繊維を含み、胴部にRとLの羽状縄文を施す黒浜式土器。2は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文を施す諸磯a式土器。他に諸磯a式土器1点が出土している。
調査所見 本遺構の時期は、重複関係から1号住居より新しいことは判明したが、38号土坑出土の土器も小破片であることから、建物の特定することはできなかった。周辺の包含層から土器出土状況からすれば諸磯式期内と推定される。建物の形態は2×3本柱で、36棟もの同時期の掘立柱建物が出発された安中市中野谷松原遺跡の分類におけるC形態にあたと考えられる。中野谷松原遺跡では「この形態は、規格に比較的ばらつきが大きい。掘立柱建物の中では、最も柱穴が深く掘り込まれており。」とされ、「最も汎用性の高い建物」と見られている。(文献45)

(3)土坑

2区で検出された縄文時代の土坑は、調査時に1～84号までの番号を付したが、63～70号までは欠番であったことから計74基となった。2区全体に分布するが、2区中央となる2区-2での分布がやや希薄で、南北の両端側に多く検出されている(第16図)。土坑には、断面形状がフラスコ形を呈する袋状土坑や、底面に逆茂木のピットを有する陥穴も存在した。

遺物が出土した土坑は74基中41基で、埋没土中から型式の異なる縄文土器破片が少量ずつ混在して出土する状況であった。完形に近い遺物が出土することはほとんどなかったことから、土坑の時期を確定することは困難であった。出土土器の型式一覧表(P.142 第4表)を見ると、土坑出土土器は概ね黒浜式土器か諸磯a式土器に集中することから、2区で検出された土坑の時期は、縄文時代前期、黒浜式期あるいは諸磯a式期の間にあるものと推定される。遺物が出土しなかった35基の土坑の埋没土の特徴は、縄文土器が出土した土坑と共通していたことから、同様な時期の遺構であると推定される。

以下、土坑ごとに概略を記載する。なお、各土坑の位置(座標)、形態、長軸方位、規模、時期はP.131・132の土坑一覧表に記載した。

2区1号土坑(第29図 遺構一覧表P.131 PL. 8・31)

2区1号土坑は、不整楕円形の土坑で、1号住居の東側で検出された。埋没土上位に上端の一部が欠損した石皿(第29図2)が斜位に立った状態で出土した。埋没土中から黒浜式土器2点とチャートの破片1点が出土した。
出土土器(1・2)

1は胎土に繊維を含み、胴部にR Lの縄文を施す胴部片で、黒浜式土器である。他に黒浜式土器が1点出土している。2は粗粒輝石安山岩製の石皿。裏面には漏斗状の小穴が多数認められた。

2区2号土坑(第29図 遺構一覧表P.131 PL. 8・31)

2区2号土坑は、東側が調査区域外となり、全形が不明である。埋没土上層にⅢb層は覆っていない。埋没土中から黒浜式土器1点、諸磯a式土器4点が出土した。

出土土器(1～3)

1～3は胎土に繊維を含まず、胴部にR LないしL Rの縄文を施す胴部片で、諸磯a式土器である。他に黒浜式土器が1点、諸磯a式土器が1点出土している。

2区3号土坑(第29図 遺構一覧表P.131 PL. 8)

2区3号土坑は、不整楕円形の土坑で、2区1号住居の南7mほどの地点で検出された。ローム粒を含む黒褐色土、にぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土の特徴から縄文時代の土坑と判断した。

2区4号土坑(第30図 遺構一覧表P.131 PL. 8・31)

2区4号土坑は、不整楕円形の土坑で、2区1号住居の南18mほどの地点で検出された。上層は白色粒、炭化物粒を含む黒色土で、下層壁沿いはローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器1点が出土した。

出土土器(1)

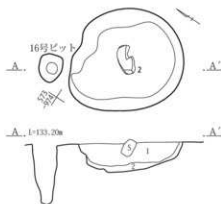
1点のみの出土で、1は胎土に繊維を含み、胴部にL Rの縄文を施す胴部片で、黒浜式土器である。

2区5号土坑(第30図 遺構一覧表P.131 PL. 8・31)

2区5号土坑は、方形基調の不整形な土坑で、2区4号土坑の南側で検出された。残存深は浅く、上半部は削

第3章 検出された遺構と遺物

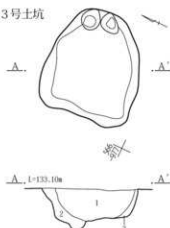
2区1号土坑



2区1号土坑

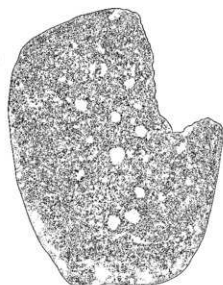
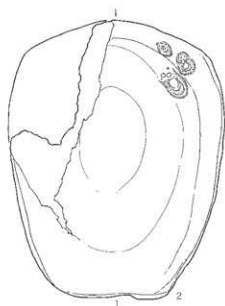
- 1 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。
2 にぶい黄褐色土 ローム塊、汚れたローム粒を多量に含む。

2区3号土坑



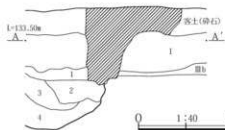
2区3号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒とローム粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多く含む。



0 1:4 10cm
2

2区2号土坑



2区2号土坑

- 1 暗灰褐色土 耕作土。白色粒(直径0.2~0.5cm)を多量に含む。締まり非常に硬い。粘性なし。

- IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。締まり良。粘性ほとんどなし。

- 1 暗褐色土 白色粒を少量、ローム粒を微量に含む。
2 黒褐色土 ローム粒、白色粒を少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒を多量、ローム小塊、白色粒を少量含む。
4 褐色土 ローム粒・小塊と暗褐色土の混土。



0 1:3 10cm

第29図 2区1~3号土坑平・断面と出土遺物

平されているものと推定される。ローム塊・粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器2点、頁岩の加工痕ある剥片1点が出土した。

出土土器(1)

6は胎土に繊維を含まず、口縁部文様に波状沈線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施した諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器1点が出土している。

2区6号土坑(第30図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

2区6号土坑は不整形の土坑で、断面形は整ったU字形である。2区-2の南東隅で検出された。2区14号土坑と重複するが、2区6号土坑が新しい。土坑中央部はローム小塊、白色粒、炭化物粒を含む黒褐色土で、側縁部はローム粒・塊を含むにぶい黄褐色土で、底面に近い下層部は少量のローム粒と炭化物粒を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片21点、諸磯a式土器破片17点が出土した。

出土土器(1~9)

1~5は胎土に繊維を含み、1は平口縁の口縁以下にLの縄文を施す。2・3は胴部にLとRないしL RとR Lによる羽状縄文を施し、4・5は胴部にLの縄文を施す。6~9は胎土に繊維を含まず、6は外反する平口縁の口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を4段巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。7は平口縁の口縁部に細い半截竹管具による平行沈線を数段巡らせる。8・9は胴部にR Lの縄文を施す。これらは1~5が黒浜式土器で、6~9が諸磯a式土器である。他に黒浜式土器15点、諸磯a式土器13点、諸磯b式土器1点が出土している。

2区7号土坑(第30図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

2区7号土坑は楕円形の土坑で、断面形は浅い皿状である。2区6号土坑の北側で検出された。ローム塊・粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1点のみの出土で、1は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文を施した諸磯a式土器である。

2区8号土坑(第30図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

2区8号土坑は不整形な土坑で、断面形は逆台形である。2区-2の南東隅の窪んだ地点で検出された。ローム粒、白色粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片18点が出土した。

出土土器(1~6)

1~6は胎土に繊維を含まず、1は平口縁の口縁下に円形刺突を1段巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。2は平口縁となる無文部。3は口縁部文様に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下の胴部にR Lの縄文を施す。4は口縁部に右下がりの平行沈線を描く。5・6は胴部にR Lの縄文を施す。これらは諸磯a式土器である。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器12点が出土している。

2区9号土坑(第31図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

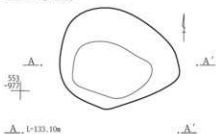
2区9号土坑は北半分が調査区域外になり全形がとらえられなかった。南半分の形状からして楕円形と推定される。断面形整った逆台形で、残存高も0.85mと比較的深かった。上層はローム中塊、白色粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。ローム粒、白色粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。塊状の土砂が多くみられることから、一括埋没の可能性がある。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片32点、諸磯b式土器破片1点が出土した。

出土土器(1~9)

1~9は胎土に繊維を含まず、1は平口縁の口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を4段巡らせる。2は口縁部に刻みをもつ平行沈線で木の葉文を描く。3は口縁部に4条の波状沈線を数段巡らせ、地文にR Lの縄文を施す。4は口縁部に数条の平行沈線と弧状の平行沈線を巡らせる。5は口縁部に7条の平行沈線を巡らせ、以下の胴部にR Lの縄文を施す。6は平底となる胴下半部で、胴部にR Lの縄文が施される。7~9は胴部にR Lの縄文が施され、9は平底の底部である。これらは諸磯a式土器である。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器23点、諸磯b式土器1点が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

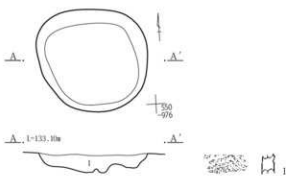
2区4号土坑



2区4号土坑

- 1 黒色土 白色粒、炭化物粒を含む。
- 2 黒褐色土 汚れたローム粒を含む。

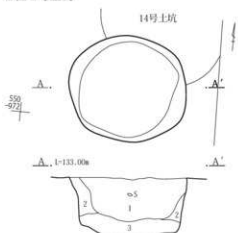
2区5号土坑



2区5号土坑

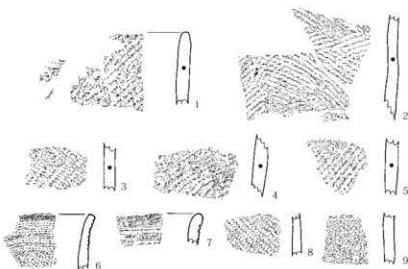
- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を含む。

2区6号土坑

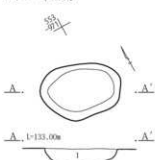


2区6号土坑

- 1 黒褐色土 ローム小塊、白色粒、炭化物を含む。
- 2 にがい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム小塊を多量に含む。
- 3 黒色土 ローム粒を微量、炭化物を多量に含む。

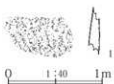


2区7号土坑

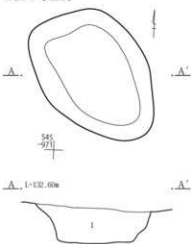


2区7号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を含む。

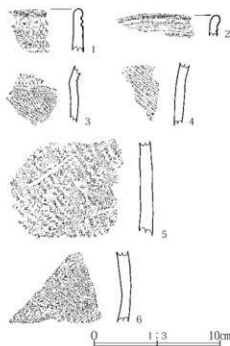


2区8号土坑



2区8号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒・炭化物を含む。



第30図 2区4～8号土坑平・断面と出土遺物

2区10号土坑(第31図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区10号土坑は南側が調査区域外となり、全形はとらえられなかったが、北側の形状からすれば不整形円形の土坑と推定される。断面形は整った逆台形である。2区-2の南東隅の窪んだ地点で検出された。中央部は多量のローム粒と少量の白色粒、炭化物粒を含む暗褐色土で、側縁部はローム粒・塊を主体とするふい黄褐色土で埋まっていた。遺物は埋没土から頁岩の剥片が1点出土したのみであったが、埋没土の特徴から、縄文時代の土坑と判断した。

2区11号土坑(第31図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区11号土坑は楕円形の土坑で、断面形は整った逆台形である。2区-3の北端で検出された。土坑内はローム小塊、白色粒、炭化物粒を斑状を含む黒褐色土で埋まっており、底面脇にはローム塊・粒を含むふい黄褐色土が堆積していた。埋没土中から黒浜式土器破片7点、諸磯a式土器破片3点が出土した。

出土土器(1~3)

1・2は胎土に繊維を含み、1は胴部にR、2はR Lの縄文を施す。3は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文を施す。1・2は黒浜式土器、3は諸磯a式土器である。他に黒浜式土器5点、諸磯a式土器2点が出土している。

2区12号土坑(第32図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区12号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区11号土坑の南側に接して検出された。2区12号土坑の方が新しい。ローム粒・塊、白色粒を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片3点、諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1・2)

1は胎土に繊維を含み、胴部にL Rの縄文を施す黒浜式土器。2は胎土に繊維を含まず、平口縁の口縁部に細い半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と円形刺突を巡らせる諸磯a式土器。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器1点が出土している。

2区13号土坑(第32図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区13号土坑は不整形な楕円形の土坑で2区-3の2

区12号土坑の南側で検出された。ローム塊・粒を含む黒色土、黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点、諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1・2)

1は胎土に繊維を含み、胴部にL RとR Lの羽状縄文を施す黒浜式土器。2は胎土に繊維を含まず、波状口縁の波頂部両側に小突起をもち、口縁下には細い半載竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と円形刺突を巡らせ、波頂下に縦位の円形刺突を配し、地文にR Lの縄文を施す諸磯a式土器である。

2区14号土坑(第32図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

2区14号土坑は楕円形の土坑で、断面形は整った逆台形である。2区-2の南東端で検出された。2区6号土坑と重複するが、ローム小塊、白色粒、炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片15点、粗粒輝石安山岩製の凹石(第32図7)が出土した。

出土土器(1~6)

1~6は胎土に繊維を含まず、1は平口縁の口縁部以下にR Lの縄文を施す。2は口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施す。3~6は胴部にR Lの縄文を施し、5・6は口縁部に数条の平行沈線を巡らせる。これらは諸磯a式土器である。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器9点が出土している。

2区15号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 8・32)

2区15号土坑は楕円形の土坑で、2区-2の北端で検出された。端部は調査区域外にかかっていた。土坑内はローム小塊、ローム粒、白色粒を含む暗褐色土、褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1・2)

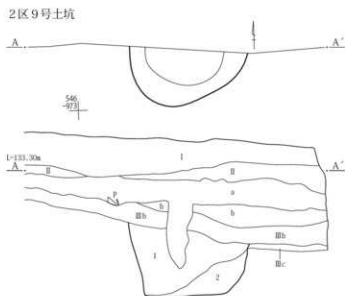
1・2は胎土に繊維を含まず、1は平口縁の口縁部以下にR Lの縄文、2は胴部にR Lの条を施す諸磯a式土器である。

2区16号土坑(第32図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区16号土坑は楕円形の土坑で、断面形は広いU字形である。2区-3の3号住居南東3mほどのところで検

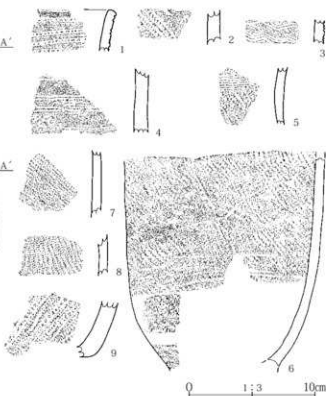
第3章 検出された遺構と遺物

2区9号土坑



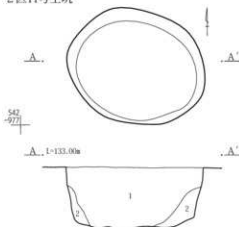
2区9号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
 II 黒褐色土 小粒の白色粒・橙色粒を多量に含む。
 IIIa 黒褐色土 白色粒を微量含む。b層に比べ、やや赤みを持つ。
 b 黒色土 炭化物・白色粒を微量含む。
 IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。
 IIIc 褐色土 ローム漸移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
 1 黒褐色土 ローム中塊。白色粒を含む。(9号土坑)
 2 ぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム小塊を多量に含む。(9号土坑)



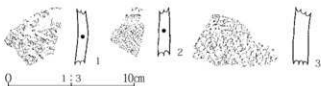
0 1:3 10cm

2区11号土坑



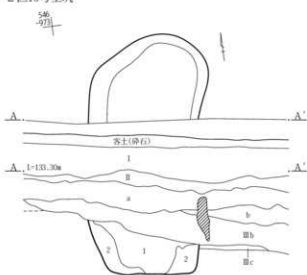
2区11号土坑

- 1 黒褐色土 ローム小塊・白色粒・炭化物を斑状に含む。
 2 ぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。



0 1:3 10cm

2区10号土坑



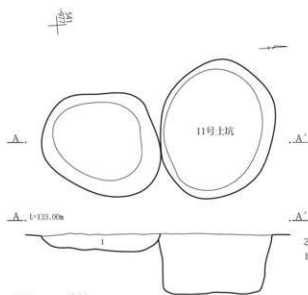
2区10号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
 II 黒褐色土 小粒の白色粒・橙色粒を多量に含む。
 a 黒褐色土 白色粒を微量含む。b層に比べ、やや赤みを持つ。
 b 黒色土 炭化物・白色粒を微量含む。
 IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。
 IIIc 褐色土 ローム漸移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
 1 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。炭化物・白色粒を僅かに含む。(10号土坑)
 2 ぶい黄褐色土 ローム粒・塊を主体とする。白色粒を僅かに含む。(10号土坑)

0 1:40 1m

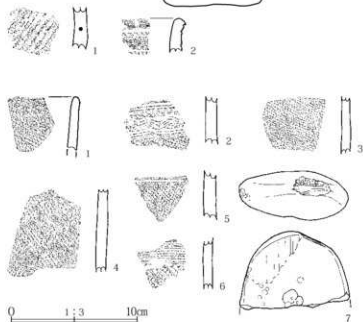
第31図 2区9～11号土坑平・断面と出土遺物

2区12号土坑

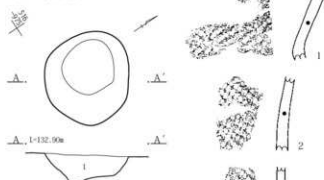


2区12号土坑

1 黒色土 汚れたローム粒・塊を含み、白色粒を僅かに含む。



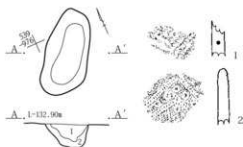
2区16号土坑



2区16号土坑

1 黒褐色土 汚れたローム粒、白色粒、炭化物を僅かに含む。

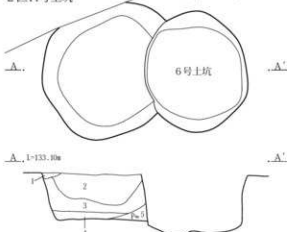
2区13号土坑



2区13号土坑

1 黒色土 ローム粒・塊を僅かに含む。
2 黒褐色土 ローム粒・塊をやや多く含む。

2区14号土坑



2区14号土坑

1 暗褐色土 白色粒を多量、ローム粒・炭化物を微量に含む。
2 暗褐色土 褐色土中塊を斑状に多く含む。白色粒を多量、炭化物少量、ローム粒を微量含む。
3 暗褐色土 褐色土中塊、白色粒、炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
4 暗褐色土 ローム粒を多量、ローム中塊を少量、炭化物、白色粒を微量に含む。
5 暗褐色土 白色粒大量、炭化物少量、ローム粒を微量含む。締まり・粘性あり。
6 褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒、炭化物を微量含む。

2区17号土坑



2区17号土坑
1 黒褐色土 ローム粒・塊を含む。



第32圖 2区12~14号・16号・17号土坑平・断面と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

出された。ローム粒、白色粒、炭化物粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片4点が出土した。

出土土器(1~3)

1~3は胎土に繊維を含み、1は胴部にしとR Lの羽状縄文、2・3はR Lの縄文を施す黒浜式土器。他に黒浜式土器1点が出土している。

2区17号土坑(第32図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区17号土坑は楕円形の土坑で、断面形は浅い逆台形である。2区16号土坑の東側で検出された。ローム塊・粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に微量の繊維を含み、口縁部に半截竹管具による平行沈線とコンパス文を描く黒浜式土器。他に黒浜式土器が1点出土している。

2区18号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区18号土坑はほぼ円形の土坑で、断面形は袋状を呈する、いわゆるフラスコ形土坑で貯蔵用と考えられる。2区-3の2区3号住居南東7mほどのところで検出された。底面付近の壁を側方へ15cmほど掘り込んでいた。底面付近は炭化物粒を微量に含むにぶい黄褐色土、中央部は多量の炭化物と微量のローム粒、側縁部はローム粒、炭化物粒を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片10点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含み、1は胴部にL RとR Lの羽状縄文、2はR Lの縄文を施す黒浜式土器。他に黒浜式土器8点が出土している。

2区19号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区19号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。2区18号土坑の南側で検出された。白色粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区20号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区20号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区16号土坑の南東側で、2区21号土坑と重複し

て検出された。2区20号土坑が新しい。ローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区21号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区21号土坑は隅丸方形の土坑で、断面形は皿状である。2区16号土坑の南側で、2区20号土坑と重複して検出された。2区21号土坑が古い。中央部はローム粒を含む黒褐色土で、側縁部はローム塊・粒を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区22号土坑(第33図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区22号土坑は不整形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の南端部で検出された。上層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区23号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区23号土坑は円形の土坑で、断面形は椀形である。2区-3の南端部で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土、ローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にL R(0段多糸)の縄文を施す黒浜式土器である。

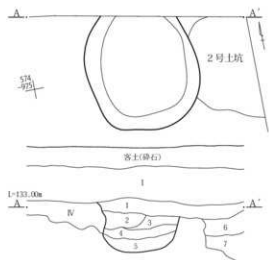
2区24号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区24号土坑は不整形の土坑で、断面形も中央部が窪み不整形であった。2区-3の南端部、2区23号土坑の東側で検出された。ローム粒・塊をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区25号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 9・32)

2区25号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の南端部、2区22号土坑の南西部で検出された。ローム粒、白色粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。2区103号ピットと重複していたが、2区103号ピットの方が新しい。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

2区15号土坑

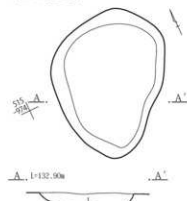


2区15号土坑

- 1 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
 IV 暗黒褐色ローム
 1 暗褐色土 白色粒を少量、ローム粒を微量に含む。(15号土坑)
 2 暗褐色土 ローム小塊、白色粒を多量、ローム粒を少量含む。(15号土坑)
 3 暗褐色土 ローム小塊、白色粒を少量、ローム粒を微量に含む。(15号土坑)
 4 褐色土 ローム粒・小塊を少量、白色粒を微量に含む。(15号土坑)
 5 にふい黄褐色土 ローム粒・中塊を主体とする。白色粒を少量含む。(15号土坑)
 6 暗褐色土 ローム粒を多量、ローム小塊を少量、白色粒を微量に含む。(2号土坑)
 7 黄褐色土 ローム粒を主体とし、暗褐色土が少量混入する。(2号土坑)
 8 褐色土 ローム粒・中塊と暗褐色土の混土层。(2号土坑)



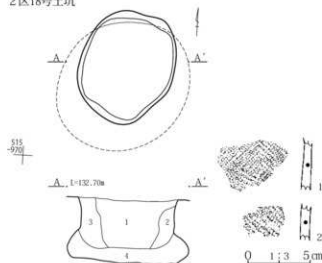
2区20号土坑



2区20号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を含む。

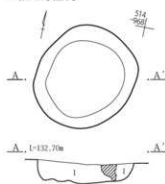
2区18号土坑



2区18号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物を多量に、ローム粒を微量に含む。
 2 暗褐色土 汚れたローム粒・炭化物を僅かに含む。
 3 にふい黄褐色土 汚れたローム粒、白色粒、炭化物を多量に含む。
 4 にふい黄褐色土 黒褐色土を僅かに含み、炭化物を微量に含む。

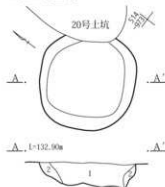
2区19号土坑



2区19号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を僅か、炭化物を微量に含む。

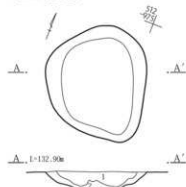
2区21号土坑



2区21号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊を微量に含む。
 2 にふい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。

2区22号土坑



2区22号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。
 2 にふい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。



第33図 2区15号・18~22号土坑平・断面と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、平口縁の口縁部以下にR Lの縄文を施す黒浜式土器である。

2区26号・32号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 9)

2区26号土坑は楕円形の土坑、2区32号土坑は円形の土坑で、重複して検出された2区32号土坑が新しい。26号土坑は断面形が皿状、32号土坑は逆台形である。2区3号住居の南3mのところ検出された。26号土坑はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で、32号土坑はローム粒、白色粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。両土坑とも遺物は出土しなかった。

2区27号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 10)

2区27号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は不整碗状である。2区-3の南端部、2区26号土坑の西に接して検出された。ローム粒を多量に含む黒褐色土、ローム塊・粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区28号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 10)

2区28号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の南端部、2区27号土坑の北部で検出された。ローム粒・塊を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。2区130号・135号ピットと重複していたが、両ピットの方が新しい。遺物は出土しなかった。

2区29号土坑(第34図 遺構一覧表P.131 PL. 10・32)

2区29号土坑は西半部が調査区域外となるため全形はとらえられなかったが、隅丸方形と推定される。断面形も中央部に穿たれた地割れによって壊されており、不整形であったが、残存部の形状から逆台形と推定される。2区-3の南端で検出された。上層はローム粒を多量に含む黒褐色土、下層はローム塊・粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片8点、諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1~3)

1・2は胎土に繊維を含み、1は胴部にLの縄文、2はR LとL Rの羽状縄文を施す黒浜式土器。3は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文を施す諸磯a式土器で

ある。他に黒浜式土器6点が出土している。

2区30号土坑(第35図 遺構一覧表P.131 PL. 10)

2区30号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の南端部、2区29号土坑の北側で検出された。ローム粒を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区31号土坑(第35図 遺構一覧表P.131 PL. 10)

2区31号土坑は西半部が調査区域外になり全形をとらえられなかったが、楕円形の土坑と推定される。断面形は漏斗状である。底面のほぼ中央と推定される位置には直径15cm、深さ72cmの小ピットが検出された。これらの特徴から、本土坑は逆茂木を立てた狩猟用の陥穴と判断された。2区-3の南西端部で検出され、長軸が等高線に平行する位置に掘られていた。上層は暗褐色土、下層は黒褐色土が堆積し、埋没土を基本土層のⅢc層が覆っていた。埋没土中から2区29号土坑の北側で検出された。埋没土中から珪質頁岩の割片1点が出土した。

2区33号土坑(第35図 遺構一覧表P.131 PL. 10・32)

2区33号土坑は地割れによって寸断されていたが、隅丸方形と推定される。断面形も中央部に穿たれた地割れによって壊されていたが、残存部の形状から逆台形と推定される。2区31号土坑の北側に接して検出された。上層はローム粒を微量に含む黒褐色土、下層はローム塊・粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点、諸磯a式土器破片1点が出土した。

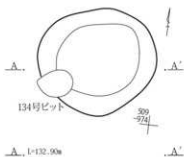
出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にL RとR Lの羽状縄文を施す黒浜式土器である。他に諸磯a式土器1点が出土している。

2区34号土坑(第35図 遺構一覧表P.131 PL. 10)

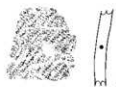
2区34号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は漏斗状である。2区-1の2号住居の北西6mのところ検出された。上層はローム粒、白色粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。2区142号ピットと重複していたが142号ピットが

2区23号土坑

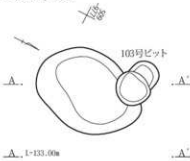


2区23号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。



2区25号土坑



2区25号土坑, 103号ピット

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒, 白色粒を多量に含む。(103号ピット)
- 2 黒褐色土 ローム粒, 白色粒を僅か, 炭化物を微量に含む。(25号土坑)



2区26・32号土坑



2区26号・32号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒, 白色粒を僅かに含む。(32号土坑)
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。(26号土坑)

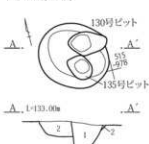
2区24号土坑



2区24号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊, 白色粒を僅かに含む。

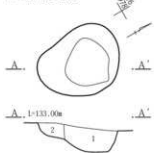
2区28号土坑



2区28号土坑

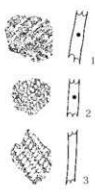
- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。

2区27号土坑

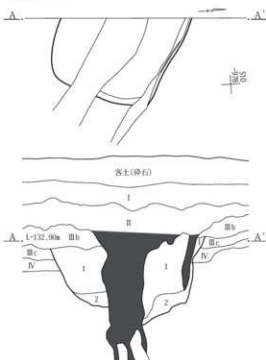


2区27号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。

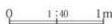


2区29号土坑



2区29号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
- II 黒褐色土 耕作土。小粒の白色粒を多量に含む。
- IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
- IIIc 褐色土 ローム層移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
- IV 暗黒褐色土ローム
- 1 黒褐色土 ローム粒, 白色粒を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム塊を僅かに含む。



第34図 2区23～29号・32号土坑平・断面と出土遺物

新しい。埋没土中からホルンフェルスの剥片1点が出土した。

2区35号土坑(第35図 遺構一覧表P.131 PL.10・32)

2区35号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。34号土坑の北西側で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器1点が出土している。

2区36号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10・33)

2区36号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区37号土坑と重複していたが、2区36号土坑が新しい。また、2区1号掘立柱建物の北西中央の柱穴と推定される2区263号ピットと重複していたが、本36号土坑が新しい。上層はローム小塊を多量に含む暗褐色土で、下層はローム塊を多量に含むにふい黄褐色土で埋まっていた。塊状の埋没土であることから、人為的埋没の可能性がある。埋没土中から諸磯a式土器破片10点、諸磯c式(爪形文)土器破片2点、チャート製の石核1点が出土した。

出土土器(1~3)

1~3は胎土に繊維を含まず、1は胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器。2は口縁部に太い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と直線ないし曲線的に文様を描き、平行沈線との間はやや隆帯のみで斜位の刻みをもつ。3は口縁部に横位の刻みをもつ低い隆帯と太い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、下位に右下がりとなる平行沈線を施す。この2・3は諸磯b式土器である。他に諸磯a式土器9点が出土している。

2区37号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10・33)

2区37号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区36号土坑と重複していたが、37号土坑が古い。ローム粒・塊を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、縄文が僅かに施された諸磯式土器である。

2区39号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10)

2区39号土坑は楕円形の土坑で、断面形は漏斗状である。2区41号土坑と重複していたが、2区39号土坑が古い。上層はローム粒、黒色土粒をわずかに含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区40号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10)

2区40号土坑は細長い不整楕円形の土坑で、断面形は皿状である。上層はローム粒を多量に含む暗褐色土、下層はローム粒を多量に含むにふい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区41号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10)

2区41号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形はすり鉢状である。2区1号掘立柱建物北西隅の柱穴である38号土坑と重複していたが、2区41号土坑が古い。2区39号土坑と重複していたが、41号土坑が新しい。上層はローム粒・塊を多量に含むにふい黄褐色土で、下層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区42号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10)

2区42号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区1号掘立柱建物北西隅の柱穴である2区38号土坑の北側で検出された。ローム塊をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

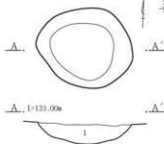
2区43号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10・33)

2区43号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区136号ピットと重複していたが、43号土坑が古い。ローム粒・塊を多量に含むにふい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片3点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器2点が出土している。

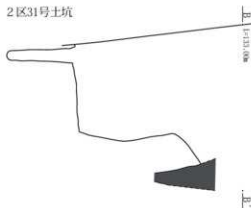
2区30号土坑



2区30号上坑

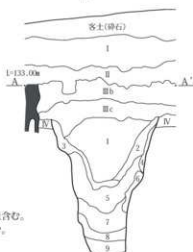
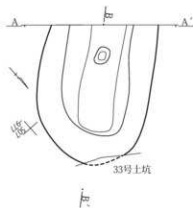
1 黒褐色土 ローム粒を多量に含む。

2区31号土坑

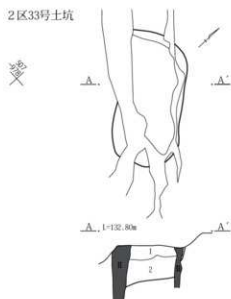


2区31号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
 - II 黒褐色土 小粒の白色粒、褐色粒を多量に含む。
 - IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
 - IIIc 褐色土 ローム層移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
 - IV 暗黒褐色ローム
- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を多量に含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒、白色粒を多量、ローム小塊を微量に含む。
 - 3 灰黄褐色土 ローム粒・小塊、白色粒を少量含む。
 - 4 にくい黄褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒を少量含む。
 - 5 褐色土 ローム粒・中塊を多量、白色粒を少量含む。
 - 6 明黄褐色土 ロームを主体とし、暗褐色土が少量混入。
 - 7 暗褐色土 ローム粒を多量、白色粒を微量に含む。
 - 8 暗褐色土 ローム粒を多量、黒色土を少量、ローム小塊、白色粒を微量含む。
 - 9 灰黄褐色土 ローム粒を多量、黒色土を少量、ローム小塊を微量に含む。

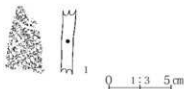


2区33号土坑

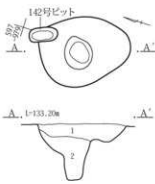


2区33号上坑

- I 黒褐色土 小粒の白色粒、褐色粒を多量に含む。
- II 黒褐色土 ローム粒を微量含む。
- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を僅かに含む。



2区34号土坑

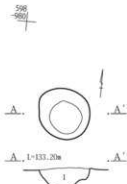


2区34号上坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。

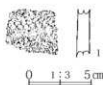


2区35号土坑



2区35号上坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。



第35図 2区30号・31号・33～35号土坑平・断面と出土遺物

2区44号土坑(第36図 遺構一覧表P.131 PL.10・33)

2区44号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区2号住居の南西4mほどのところで検出された。上層は白色粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土、黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点と黒色頁岩の破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にLR(0段多条)の縄文を施す黒浜式土器である。他に黒浜式土器1点が出土している。

2区45号土坑(第37図 遺構一覧表P.131 PL.10・33)

2区45号土坑は楕円形の土坑で、断面形はすり鉢状である。2区2号住居の北西1.6mほどのところで検出された。ローム粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1・2)

1は胎土に繊維を含み、胴部にRLの縄文を施す黒浜式土器。2は胎土に繊維を含まず、平口縁の口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を巡らせ、縦位の円形刺突を配する諸磯a式土器である。

2区46号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.10)

2区46号土坑は不整形の土坑で、断面形は浅い逆台形である。2区2号住居の北3.4mほどのところで2区48号土坑と重複して検出された。46号土坑が新しい。2区163号ピットとも重複していたが、46号土坑が古い。ローム粒・塊を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区47号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.10)

2区47号土坑は不整形の土坑で、断面形はすり鉢状である。2区2号住居の西2.2mほどのところで2区165号ピットと重複して検出された。47号土坑が古い。ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区48号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.10)

2区48号土坑は楕円形の土坑で、断面形は碗状であ

る。2区2号住居の北3.4mほどのところで2区46号土坑と重複して検出された。48号土坑が古い。ローム粒を微量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区49号土坑(第37図 遺構一覧表P.132)

2区49号土坑は東側が調査区域外となって全形をとらえられなかったが、残存部の形状から楕円形の土坑と推定される。断面形は逆台形である。2区2号住居の西2.4mほどのところで検出された。基本土層IIIb層を掘り込んでおり、ローム粒を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区50号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区50号土坑は楕円形の土坑で、断面形は箱形である。2区2号住居の南西1.5mほどのところで検出された。中央部はローム粒・塊をわずかに含む黒褐色土で、側縁部・底面直上部ではローム粒を多量に含む黒褐色土や暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点と砂質頁岩の破片が1点出土した。また、隣接する51号土坑と分離できなかった遺物として諸磯a式土器破片3点が出土した。

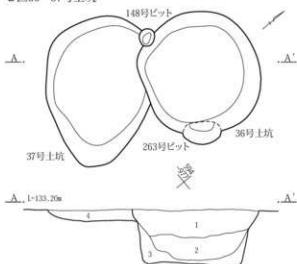
出土土器(1~3)

1・2は胎土に繊維を含まず、1は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を3段と刻みをもつ隆帯を巡らせ、隆帯下の口縁部に爪形刺突をもつ平行沈線を2段巡らせ、その下に縦位の円形刺突を配し、左下がりの単沈線と右下がりの細い半截竹管具による平行沈線、さらに地文に縄文を施す。2・3は同一個体で、外反する平口縁の口縁下に刻みをもつ隆帯を巡らせ、隆帯下に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、文様帯内に平行沈線で菱形の文様を描き、縦位の円形刺突を配する。胴部にはRLの縄文を施す。いずれも諸磯a式土器である。

2区51号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.11)

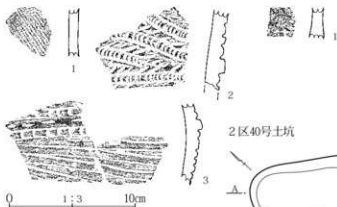
2区51号土坑は不整形円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区50号土坑の北側に接して検出された。ローム塊・粒を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。確実な本土坑出土遺物はなかったが、隣接する51号土坑と分離

2区36・37号土坑

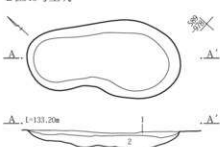


2区36号・37号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小塊を多量に、白色粒を含む。(36号土坑)
- 2 黒褐色土 ローム塊を僅かに含む。(36号土坑)
- 3 に近い黄褐色土 ローム塊を多量に含む。(36号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。(37号土坑)



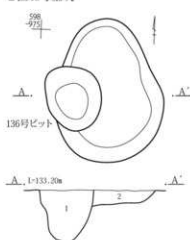
2区40号土坑



2区40号土坑

- 1 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に、白色粒を僅かに含む。
- 2 に近い黄褐色土 ローム粒を多量に含む。

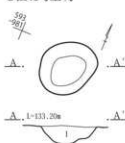
2区43号土坑



2区43号土坑、P-136(1号掘立)

- 1 黒褐色土 白色粒を多量に、ローム粒を僅かに含む。(136ピット)
- 2 に近い黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。(43号土坑)

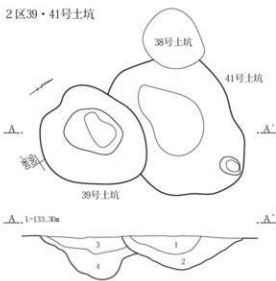
2区42号土坑



2区42号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊を僅かに含む。

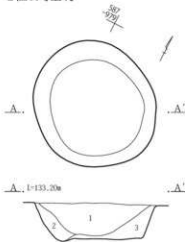
2区39・41号土坑



2区39号・41号土坑

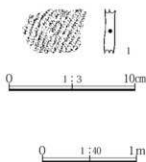
- 1 に近い黄褐色土 ローム粒・塊を多量に、白色粒を微量に含む。(41号土坑)
- 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。(41号土坑)
- 3 黒褐色土 ローム粒、黒色土粒を僅かに含む。(39号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。(39号土坑)

2区44号土坑



2区44号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を僅かに含む。
- 2 に近い黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。
- 3 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。



第36図 2区36号・37号・39～44号土坑平・断面と出土遺物

できなかった遺物として諸磯a式土器破片3点が出土した。

2区52号土坑(第37図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区52号土坑は楕円形の土坑で、断面形はすり鉢状である。2区2号住居の北西1.6mほどのところで検出された。ローム粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点とホルンフェルスの破片1点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含み、胴部にLRとRLの羽状縄文を施す黒浜式土器である。他に黒浜式土器5点が出土している。

2区53号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区53号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区2号住居の南5.2mほどのところで検出された。54号土坑と重複していたが、新旧関係は不明である。ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土遺物(1)

1は胎土の繊維を含まない底部の小片で、文様はないものの諸磯式土器と考えられる。

2区54号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区54号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区53号土坑、55号土坑と接して検出された。53号土坑と重複していたが、新旧関係は不明である。55号土坑とも重複していたが、54号土坑が新しい。また256号ピットと重複していたが、54号土坑が新しい。上層は白色粒を多量に含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区55号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区55号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は箱状である。2区54号土坑と重複して検出された。55号土坑が古い。中央部はローム粒を多量に含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。

2区56号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区56号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。1号掘立柱建物の東側で検出された。白色粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区57号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区57号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区2号住居の北壁に重複して検出された。57号土坑が新しい。上層は多量のローム小塊、白色粒、炭化物粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒、炭化物粒を含む黒褐色土、暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片28点、諸磯b式(爪形文)土器破片4点、黒曜石の剣片3点が出土した。

出土土器(1~8)

1~8は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に数条の平行沈線と波状沈線を巡らせ、胴部にRLの縄文を施す。2は口縁部に平行沈線で文様を描く。3は口縁部に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて文様帯区画し、区画内に同様な沈線で斜位等の文様を描く。4~8は胴部にRLないしLRの縄文を施し、7・8は平底の底部である。これらは1・2・4~8は諸磯a式土器、3は諸磯b式土器である。他に諸磯a式土器21点、諸磯b式土器3点が出土している。

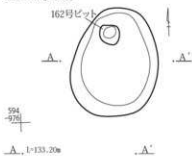
2区58号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区58号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は有段状である。2区-1の北端で検出された。ローム粒をわずかに含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区60号土坑(第38図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区60号土坑は楕円形の土坑で、断面形は有段状である。2区44号土坑の東側で検出された。ローム粒をわずかに含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区45号土坑

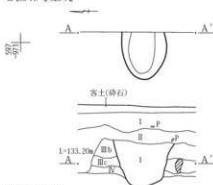


2区45号土坑

1 にぶい・黄褐色土 ローム粒を多量に含む。



2区49号土坑



2区49号土坑

1 黒褐色土 ローム粒を多く含む。

2区52号土坑

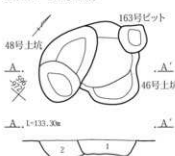


2区52号土坑

1 暗褐色土 汚れたロームを多量に含む。締まりが弱く、植栽前か。
2 黒褐色土 ローム粒・塊を僅かに含む。締まり・粘性あり。
3 にぶい・黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。締まり・粘性あり。



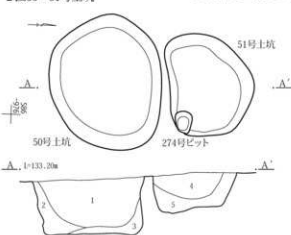
2区46・48号土坑



2区46・48号土坑

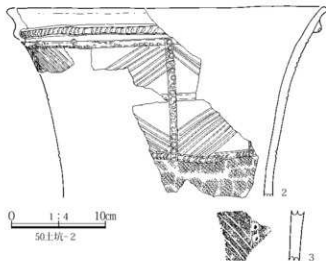
1 暗褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。(46号土坑)
2 暗褐色土 ローム粒を微量含む。(48号土坑)

2区50・51号土坑



2区50・51号土坑

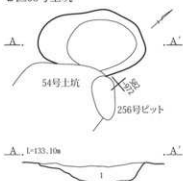
1 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を僅かに含む。(50号土坑)
2 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。(50号土坑)
3 黒褐色土 ローム粒・塊を含む。(50号土坑)
4 黒褐色土 ローム塊を微量含む。(51号土坑)
5 黒褐色土 ローム塊・粒を僅かに含む。(51号土坑)



第37図 2区45～52号土坑平・断面と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

2区53号土坑

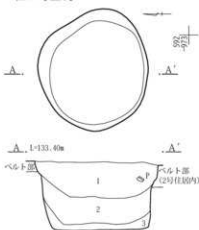


2区53号土坑

1 黒褐色土 汚れたローム粒・塊を含む。

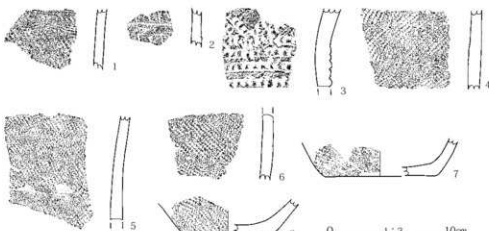


2区57号土坑

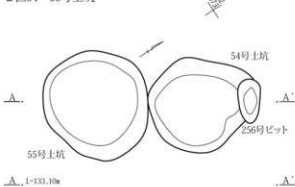


2区57号土坑

- 1 黒褐色土 暗褐色ローム小塊を多量、白色粒、炭化物を含む。
 2 黒褐色土 汚れたローム粒・暗褐色ローム塊を僅かに、炭化物を少量含む。
 3 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に、ローム小塊を僅かに含む。



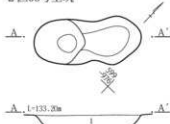
2区54・55号土坑



2区54・55号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を多量に、ローム粒を僅かに含む。(54号土坑)
 2 にぶい黄褐色土 ローム粒を多量に含む。(54号土坑)
 3 黒褐色土 白色粒を多量に含む。下にローム中塊がみられる。(55号土坑)
 4 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。(55号土坑)
 5 暗褐色土 汚れたローム粒を多量、炭化物を微量に含む。(55号土坑)
 6 暗褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。(55号土坑)

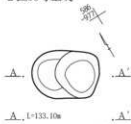
2区58号土坑



2区58号土坑

1 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。

2区60号土坑



2区60号土坑

1 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。

第38図 2区53～58号・60号土坑平・断面と出土遺物

2[K61]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区61号土坑は楕円形の土坑で、断面形は有段状である。2区2号住居の北側0.5mほどのところで検出された。ローム粒を多量、炭化物粒を少量含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片7点、諸磯b式(爪形文)土器破片1点、諸磯b式(浮線文)土器破片1点、黒曜石剥片1点が出土した。

出土土器(1～5)

1～5は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に半截竹管具による平行沈線と波状沈線を巡らせる。2は口縁部に縦位に細い半截竹管具による平行沈線で区画し、区画内に右下がりとし左下がりの平行沈線で文様を描き、地文に縄文を施す。3は口縁部に太い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、平行沈線との間に斜位の刻みをもつ。4は胴部に刻みをもつ細い隆帯(浮線文)を数段巡らせ、地文にR Lの縄文を施す。4は胴部にR Lの縄文を施す。これらは1・2・5は諸磯a式土器、3・4は諸磯b式土器。他に諸磯a式土器4点が出土している。

2[K62]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区62号土坑は不整形の土坑で、断面形は椀状である。2区2号住居の中央部で住居に重複して検出された。62号土坑が新しい。上層はローム粒と炭化物粒、白色粒を含む暗褐色土で、下層はローム粒・小塊を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文が施された諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器1点が出土している。

2[K71]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区71号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の北半部で2区201号ピットと重複して検出された。71号土坑が新しい。中央部はローム粒・塊を多量に含む暗褐色土で、下層はローム粒・塊を含む黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にRの縄文を施す黒浜式土器である。

2[K72]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区72号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の北半部東端で検出された。上層はローム粒・小塊・白色粒を多量に含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2[K73]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区73号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区-3の4号住居の北東部5.2mほどのところで検出された。多量のローム粒・白色粒と、少量のローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2[K74]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.11・33)

2区74号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。2区73号土坑の南西に近接して検出された。上層は多量のローム粒と微量の白色粒を含む黒褐色土で、下層はロームを主体とする黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点が出土した。

出土土器(1・2)

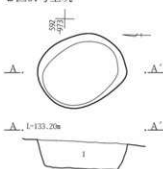
1・2は胎土に繊維を含み、1は平口縁の口縁部以下にR Lの縄文、2は胴部にR Lの縄文を施す黒浜式土器である。

2[K75]号土坑(第39図 遺構一覧表P.132 PL.12・33)

2区75号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区72号土坑の南3mほどのところで検出された。上層は多量のローム粒と微量の白色粒を含む黒褐色土で、下層はロームを主体とする黄褐色土で埋まっていた。底面東脇には直径20cm、深さ24cmほどの小ピットが検出された。土坑底面に堆積したにふい黄褐色土と同様な土で埋没しており、縄文時代のピットと判断できる。土坑に伴う施設かどうかは確定できなかった。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片9点が出土した。

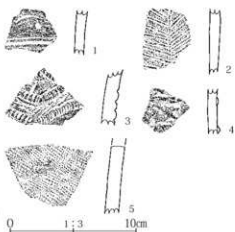
第3章 検出された遺構と遺物

2区61号土坑



2区61号土坑

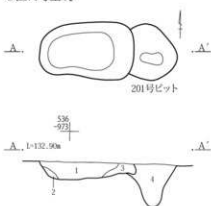
1 暗褐色土 汚れたローム粒を多量、炭化物を微量に含む。



2区62号土坑



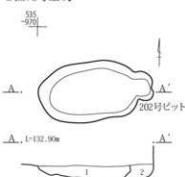
2区71号土坑



2区71号土坑、201号ビット

1 暗褐色土 ローム粒・小塊、白色粒を多量、黒色粒を少量含む。(71号土坑)
2 にふい黄褐色土 ローム小塊と暗褐色土の混土層。(71号土坑)
3 黄褐色土 ローム主体に暗褐色土が少量混入する。(71号土坑)
4 黒褐色土 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。(201号ビット)
5 黄褐色土 ロームと暗褐色土の混土層。白色粒を少量含む。(201号ビット)

2区72号土坑



2区72号土坑、202号ビット

1 黒褐色土 ローム粒・小塊、白色粒を多量に含む。
2 暗褐色土 ローム粒・小塊と暗褐色土の混土層。

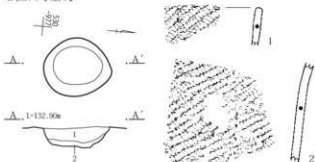
2区73号土坑



2区73号土坑

1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を多量、ローム小塊を少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒、白色粒を多量に含む。

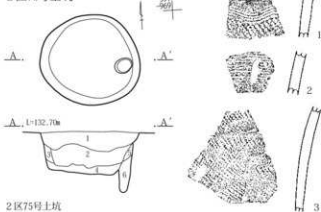
2区74号土坑



2区74号土坑

1 黒褐色土 ローム粒を多量、白色粒を微量含む。
2 黄褐色土 ロームを主体とし、暗褐色土が少量混入。

2区75号土坑



2区75号土坑

1 黒褐色土 白色粒を多量、ローム粒・小塊を少量含む。
2 黒褐色土 ローム粒、白色粒を少量、ローム小塊を微量含む。
3 暗褐色土 ローム小塊と暗褐色土の混土層。
4 にふい黄褐色土 ローム主体に暗褐色土が少量混入。
5 暗褐色土 ローム粒、白色粒を多量に含む。
6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土層。



第39図 2区61号・62号・71～75号土坑平・断面と出土遺物

出土土器(1~3)

1~3は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施す。2は口縁部に半截竹管具による平行沈線を数条巡らせ、縦位の円形刺突を配し、地文に縄文を施す。3は胴部にR Lの縄文を施す。これらは諸磯a式土器である。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器6点が出土している。

2区76号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12)

2区76号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。2区75号土坑の南西で検出された。多量のローム粒・小塊と少量の白色粒を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区77号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12・33)

2区77号土坑は不整形円形の土坑で、断面形は皿状である。2区76号土坑の南西で検出された。上層は多量の白色粒と微量のローム粒・小塊。微量の炭化物粒を含む黒褐色土で、下層は多量のローム粒・小塊、少量の白色粒を含むにふい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片18点、チャート製の加工痕ある剝片(6)が出土した。

出土土器(1~5)

1~5は胎土に繊維を含み、1は平口縁の口縁部以下にR Lの縄文を施す。2は頸部にLの縄文を施す。3は胴部にL RとR Lの羽状縄文、4はLの縄文、5はRの縄文を施す。これらは黒浜式土器である。他に黒浜式土器13点が出土している。

2区78号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12)

2区78号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区4号住居の東0.6mほどのところで検出された。上層の大半はローム粒・小塊と少量の炭化物粒・白色粒を含む黒褐色土で、下層は多量のローム粒・小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区79号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12)

2区79号土坑は不整形楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区77号土坑の南東で検出された。上層は多量のローム粒・小塊と少量の白色粒を含む暗褐色土で、下層

は多量のローム粒・小塊を含む黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2区80号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.11)

2区80号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。2区74号土坑の南西に隣接して検出された。ローム小塊と白色粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。塊状の埋没土が顕著で人為的埋没状態の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

2区81号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12)

2区81号土坑は楕円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区80号土坑の南側で検出された。上層は多量の白色粒を含む黒褐色土で、中層はローム粒・小塊を多量に含む暗褐色土で、下層はローム小塊を多量に含む黄褐色土で埋まっていた。塊状の埋没土が顕著で人為的埋没状態の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

2区82号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12・34)

2区82号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。2区78号土坑の南東側で検出された。上層は多量の白色粒・ローム塊を含む黒褐色土で、中層はローム粒・小塊を多量に含む暗褐色土で、下層はローム小塊を多量に含む褐色土で埋まっていた。塊状の埋没土が顕著で人為的埋没状態の可能性が高い。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

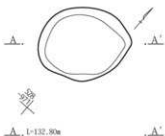
1は胎土に繊維を含み、胴部にL RとR Lの羽状縄文を施す黒浜式土器である。

2区83号土坑(第41図 遺構一覧表P.132 PL.12・34)

2区83号土坑は楕円形の土坑で、断面形は袋状である。2区82号土坑の東側で近接して検出された。上層は多量の白色粒を含む黒褐色土で、中層はローム粒・小塊を多量に含む暗褐色土で、下層はローム小塊を多量に含む黄褐色土で埋まっていた。南側の一部の底面の近くがやや掘り込まれており、袋状を呈していた。埋没土中から黒浜式土器破片14点、諸磯a式土器破片2点が出土した。他の土坑に比較してやや大型の破片が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

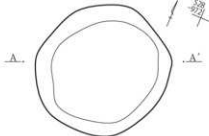
2区76号土坑



2区76号土坑

1 暗褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒を少量含む。

2区77号土坑

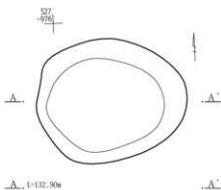


2区77号土坑

1 黒褐色土 白色粒を多量、ローム粒・小塊を少量、炭化物を微量に含む。

2 にぶい黄褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒を少量含む。

2区78号土坑



2区78号土坑

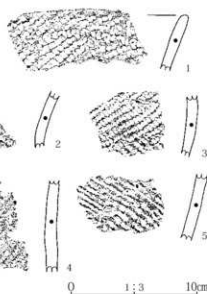
1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を多量、ローム小塊を少量含む。
2 褐色土 ローム粒・中塊と暗褐色土の混土層。
3 黄褐色土 ロームを主体とする。

2区81号土坑



2区81号土坑

1 黒褐色土 白色粒を多量、ローム粒を少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒・小塊を多量に含む。
3 黄褐色土 ローム小塊をかなり多量に含む。



2区79号土坑



2区79号土坑

1 暗褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒を少量含む。
2 黄褐色土 ローム粒・小塊を多量、白色粒を微量に含む。

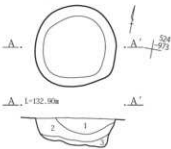
2区80号土坑



2区80号土坑

1 暗褐色土 ローム小塊、白色粒を多量に含む。

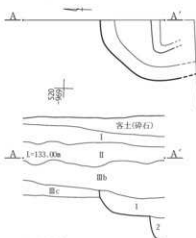
2区82号土坑



2区82号土坑

1 黒褐色土 汚れたローム小塊、白色粒を多量、炭化物を少量含む。
2 暗褐色土 汚れたローム小塊、白色粒を多量、炭化物を微量含む。
3 褐色土 ローム小塊を多量、白色粒を少量含む。

2区84号土坑



2区84号土坑

1 黒褐色土 汚れたローム小塊を多量、ローム粒・白色粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 汚れたローム小塊、ローム粒を多量、白色粒を微量に含む。



第40図 2区76～82号・84号土坑平・断面と出土遺物



第41図 2区83号土坑・264号ピット平・断面と出土遺物

出土土器(1~6)

1~6は胎土に繊維を含み、1は平口縁の口縁部以下にR Lの縄文を施す。2は口縁部に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴部にL Rの縄文を施す。3・4は同一個体で、胴部にL R(0段多条)とR Lの羽状縄文を施す。5は胴部にRの縄文を施す。6は平底の底部で、底部付近に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線が巡り、L Rの縄文が施される。これらは黒浜式土器である。他に黒浜式土器8点、諸磯a式土器2点が出土している。

2区84号土坑(第40図 遺構一覧表P.132 PL.12)

2区84号土坑は2区-3の南部東壁沿いで検出された。東部・南部が調査区域外となったため、全形はとらえられなかった。断面形は有段状である。基本土層Ⅲc層を掘り込み、Ⅲb層が埋没土上に覆っていた。土坑内上層は多量のローム塊、少量のローム粒・白色粒を含む黒褐色土で、下層は多量のローム粒・小塊を含む黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(4)ピット

2区では284基のピットが検出されたが、埋没土を分類して記録した。その分類によって大半が古代以降のピットであることが判明したが、15基のピットが古墳時代以降の軽石粒を含まない固く締まった埋没土で埋まっており、縄文時代住居の埋没土と共通していることから、縄文時代の遺構である可能性が高いと判断し、土層断面図を作成した。

このうち、2区293号~296号ピット、299号ピットは2区2号住居に関連する遺構として第19図(P.30)に、2区136号ピット、263号ピット、282号ピット、297号ピット、298号ピットは1号掘立柱建物の柱穴として第27図(P.39)に掲載し報告した。

残りの5基が単独のピットであるが、142号ピットは34号土坑(第35図)と、162号ピットは45号土坑(第37図)と、165号ピットは47号土坑(第37図)と、256号ピットは54号土坑(第38図)と重複していることから、それぞれの土坑の図と併載した。264号ピットは単独のやや大型のピットで、第41図に平・断面図を掲載した。

264号ピットを除く4基のピットは小規模で詳細は明

らかにできなかった。264号ピットは長軸0.44m、短径0.30m、深さ0.51mの円形の土坑で、ローム粒を含む、締りのある暗褐色土で埋まっていた。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

(5) 遺構外出土遺物

2区では、現道で分断された3つの区で、遺構に伴わない状態で縄文時代の遺物が出土した。出土した遺物は北部の2区-1で土器破片2,652点、石器78点、2区-2で土器破片1,215点、石器31点、剥片79点、2区-3で土器破片305点、石器2点、剥片14点、2区-4で土器破片26点、石器4点、剥片1点である。土器の細別型式や石器類の器種ごとの点数は第4表(P.142)、第7表(P.151)遺物一覧表に記載した。

このうち、2区-1で出土した遺物群は、基本土層Ⅲb層中に集中する遺物包含層を形成していた。この地点ではⅢc層上面で住居や土坑が検出された。遺物包含層中の遺物と2号住居出土遺物との接合例はあったが、遺構との直接的関連はみられなかった。

ここでは、2区の遺構外の出土土器・土製品を集めて型式を分類した上で、全体像を示せるように土器312点、土製品4点、石器46点を選択して、図化・報告した。また、28点の石器については写真を掲げ、残りの40点の石器は観察記載をおこなった。

土器・土製品の個々の観察については本文中で、石器の観察は第5表(P.144~147)に記載した。出土した縄文土器および石器の全体的な特徴については、第4章でまとめた。

出土土器(1~313)

(第43~51図 遺物一覧表P.143 PL.34~41)

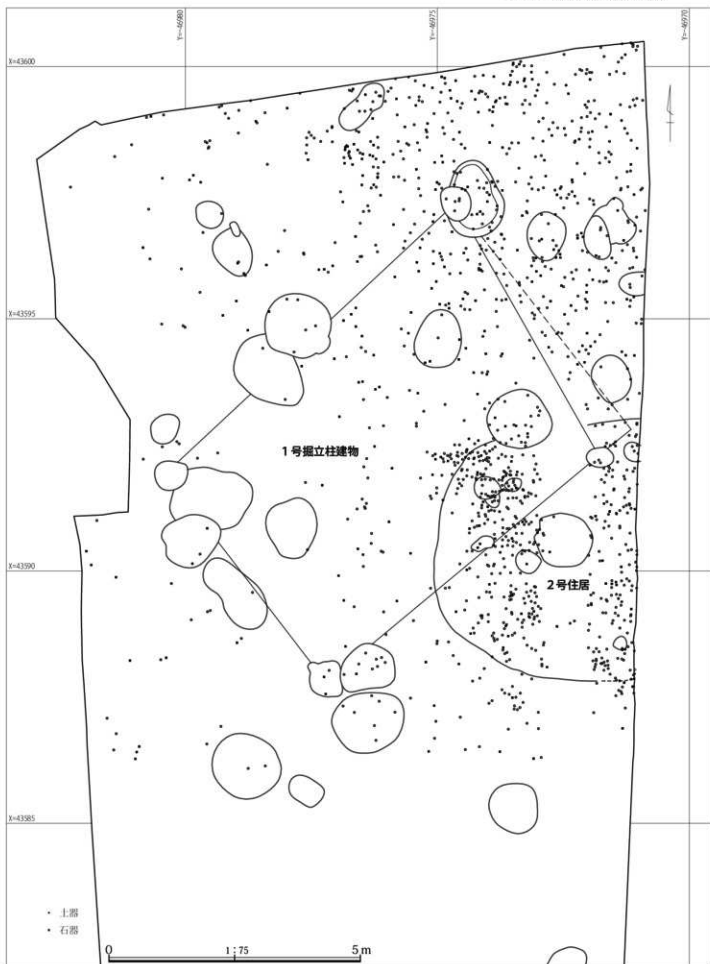
包含層中からの出土土器量は、各調査区の中で最も多くその総量は4,195点を数え、早期縄文Ⅱ期2点、前期中葉期382点、前期後葉期3745点、中期前半期7点、中期後半期1点、後期前半期2点、時期不明16点となっている。出土の傾向としては、2区の最も北側(2区-1)から出土した土器が全体の半分以上を占め、次いでその南側(2区-2)が多く、最も南側(2区-4)では非常に少ない状況にあった(第42図)。また、早期の縄文系土器は2区-1から、前期中葉期の土器は住居の検出され

た2区-3に比較的多く出土したものの、他の地点では極端に少ない。ちなみに、早期の縄文Ⅱ期の土器は2区-1から、中期および後期の土器は2区-1・2からわずかに出土している。

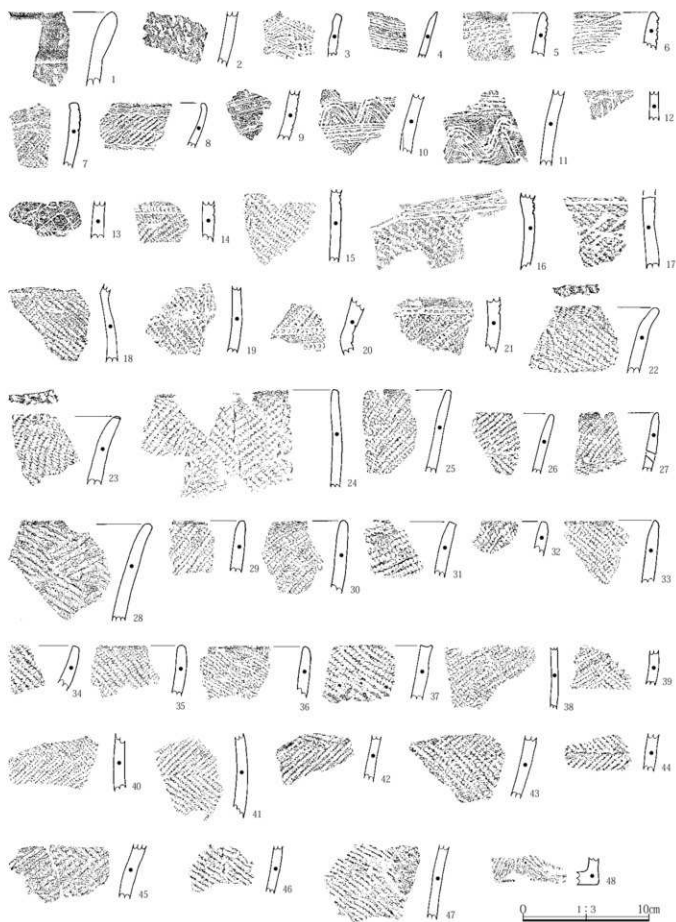
出土土器の内、312点を図示し以下に記す。

1・2は胎土に繊維を含まず、1は平口縁の口縁下を無文帯とし、以下に撚り糸文を施す。2は胴部に撚り糸文を施す。これらは早期の稲荷原式土器である。

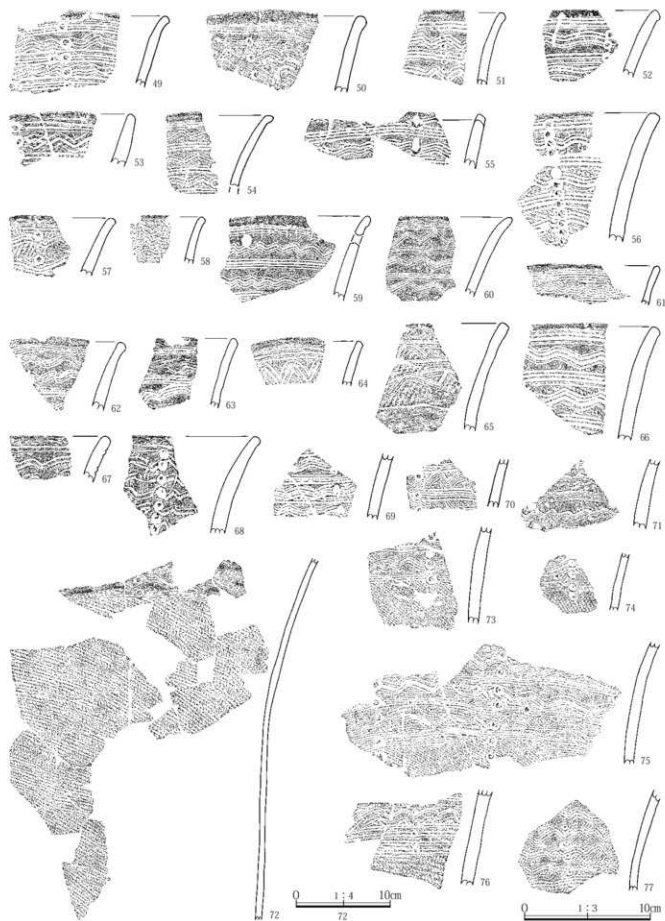
3~48は胎土に繊維を含む。3・4は波状口縁の口縁部に平行沈線で菱状等の文様を描く。5は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、口縁以下にL Rの縄文を施す。6は平口縁の口縁下に平行沈線を数条巡らせる。7は波状口縁の口縁下にコンパス文を巡らせ、以下にL RとR Lによる羽状縄文を施す。8は平口縁の口縁下に4本歯の櫛状工具による波状文を数段巡らせ、口縁以下に0段多条のL Rの縄文を施す。9は口縁部文様に平行沈線で菱状等の文様を描く。10・11は同一個体で、口縁部文様に櫛状工具でコンパス文と平行沈線を数段巡らせる。12・13は口縁部文様に平行沈線で文様を描くもので、13は平行沈線と単沈線で格子状の文様を描く。14・15は頸部の屈曲部に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下の胴部に14はL R、15はL RとR Lによる羽状縄文を施す。16・17は頸部の屈曲部に平行沈線を巡らせ、以下の胴部に16はR L、17はL RとR Lによる羽状縄文を施す。18は頸部の屈曲部にコンパス文を巡らせ、以下の胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施す。19は胴上半に爪形刺突をもつ平行沈線で縦位と右下がりの斜位に文様を描き、地文にR Lの縄文を施す。20は胴部の屈曲部に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴上半に同様の平行沈線を左下がりの斜位に描き、地文にL Rの縄文を施す。21は胴部の屈曲部に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴下半に同様の平行沈線を左下がりの斜位に描き、地文にL Rの縄文を施す。22・23は平口縁の口唇部に刻みをもち、口縁以下に0段多条のL RとR Lによる羽状縄文を施す。24は平口縁の口縁以下にL RとR Lによる羽状縄文を施す。25は平口縁の口縁以下にR Lの附加条(Rの1本附加)とL Rによる羽状縄文を施す。26は0段多条のR LとL Rによる羽状縄文を施す。27は平口縁の口縁以下にL RとR Lによる羽状縄文を施し、補修孔を有する。28は平口縁の口縁以下にLとRによる



第42図 2区-1包含層の遺物分布



第43図 2区遺構外出土遺物(1)

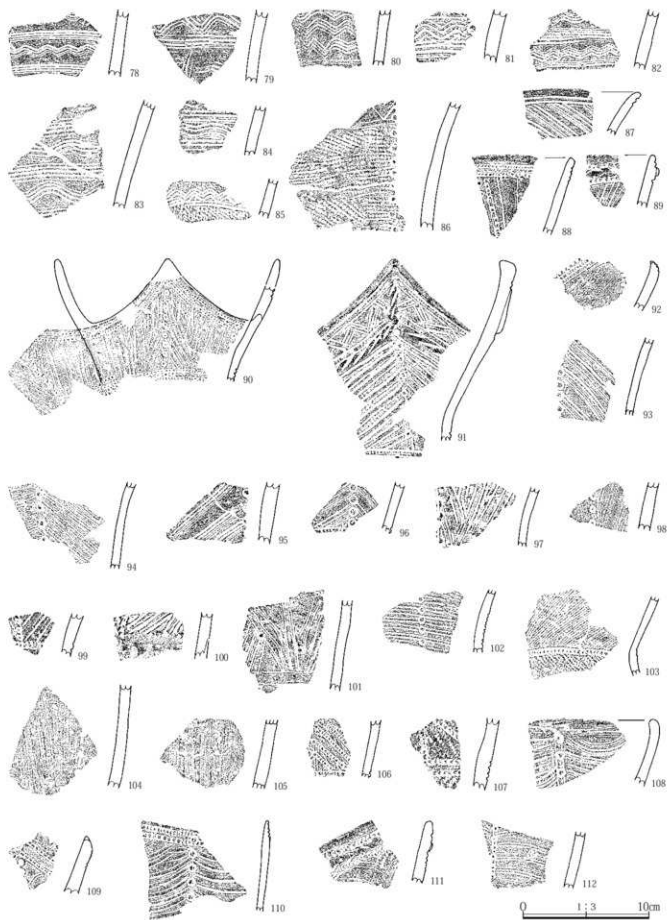


第44図 2区遺構外出土遺物(2)

羽状縄文を施す。29～32は平口縁の口縁以下にL Rの縄文を施すもので、29・30・32は附加条(Lの1本附加)。33～35は平口縁の口縁以下にR Lの縄文を施し、36はRの縄文を施す。31は胎土に砂粒を多く含み、平口縁の口縁以下にR Lの縄文を施す。38～44は胴部にL RとR Lによる羽状縄文を施すもので、39・40は附加条。45は胴部にLとRによる羽状縄文を施す。46・47は胴部にR Lの縄文を施す。48は平底の底部で、胴下端に沈線で文様が描かれている。これら3～48は黒浜式土器である。

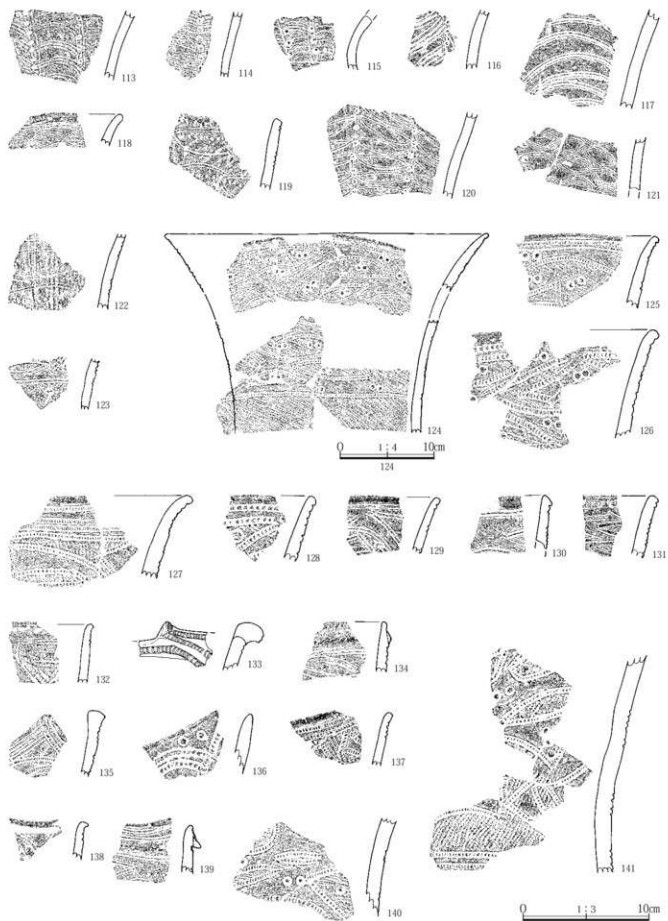
49～312は胎土に繊維を含まない。49～86は口縁部文様に波状沈線を巡らせる類。49～66は平口縁の口縁部に3ないし4条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、49～58には円形刺突を縦位に配する。55の平口縁には突起を有し、59の口縁下には補修孔をもつ。また、56～58・64～66は地文にL RないしR Lの縄文を施す。67・68は平口縁の口縁部に細い半截竹管具による波状沈線が数段巡り、68には縦位の円形刺突と地文に縄文が施される。69～86は口縁部に数条ないし細い半截竹管具で平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、69～77・86には円形刺突を縦位に配する。76・77・85は地文にL RないしR Lの縄文を施し、72～76・85・86の胴部にL RないしR Lの縄文を施す。87～123は口縁部文様に肋骨文を描く類。87～107は直線的な文様を描くもので、87は平口縁の口縁下に平行沈線を巡らせ、以下に右下がりの斜位の条線を施す。88は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下に縦位に円形刺突と爪形刺突および単沈線を描く。89は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と刻みをもつ降帯を巡らせ、以下に左下がりの斜位沈線を施す。90は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、波頂下および波底下に縦位の円形刺突を配して区画し、区画帯内に沈線と条線を縦位ないし斜位に施す。頸部の括れ部には爪形平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画する。91は波状口縁の波頂下および口縁下に刻みをもつ降帯を巡らせて口縁部文様帯を区画し、降帯下部には波頂下に縦位の円形刺突を配して区画すると共に左右の斜位な平行沈線を描き、地文にR Lの縄文をもつ。また、頸部の括れ部には爪形平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画する。92は波状口縁とな

る口唇部に刻みをもち、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線が巡り、波頂下に円形刺突を配し、左下がりの斜位な平行沈線を施す。93～100は口縁部に縦位の円形刺突を配し、条線ないし平行沈線で左右の斜位な沈線を施す。96・99では頸部の括れ部に爪形平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画する。101は口縁部に細い半截竹管具で縦位の平行沈線を2条配して区画し、左右の斜位な平行沈線を施す。102は口縁部に右下がりの斜位な平行沈線を施し、縦位の円形刺突を配する。103は口縁部に左下がりの斜位な条線を、頸部の括れ部に爪形平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、以下の胴部にR Lの縄文を施す。104・105は胴部に縦位に近い条線を施す。106・107は爪形刺突をもつ平行沈線で縦位と横位に文様帯内を区画し、区画内に左右の斜位な爪形平行沈線を描き、地文に縄文を施す。108～117は弧線を描くもので、108は平口縁の口縁下に数条の条線を巡らせ、以下に縦位の条線と円形刺突を配して区画し、区画内に弧状の条線を数段描く。109は波状口縁の口唇部に刻みをもち、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、波頂下に円形刺突を配し、弧状の平行沈線を描く。110は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、縦位の円形刺突を配し、弧状の平行沈線を数段描く。111は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と刻みをもつ降帯を巡らせ、以下に弧状の平行沈線を描く。112～117は口縁部に縦位の円形刺突や平行沈線を配して区画し、区画内に弧状の条線や平行沈線を数段描く。118～123はレンズ状の弧線を描くもので、118は平口縁の口縁下に数条の条線を巡らせ、以下に条線でレンズ状の弧線を描く。119は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突を巡らせ、横系・縦位の平行沈線で文様帯内を区画し、区画内に平行沈線でレンズ状の弧線を描く。120は波状口縁と考えられ、口縁部に縦位の平行沈線と円形刺突を配して区画し、区画内にレンズ状の弧線を数段描く。121は口縁部に4条の条線でレンズ状の弧線を数段描き、縦位の円形刺突を配する。122・123は口縁部にレンズ状の弧線を描き、123では口縁部文様帯の下端を平行沈線を巡らせて区画する。124～173は口縁部文様に木の葉文を描く類。124は平口縁の口縁下と頸部下に細い半截竹管具による



第45図 2区遺構外出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

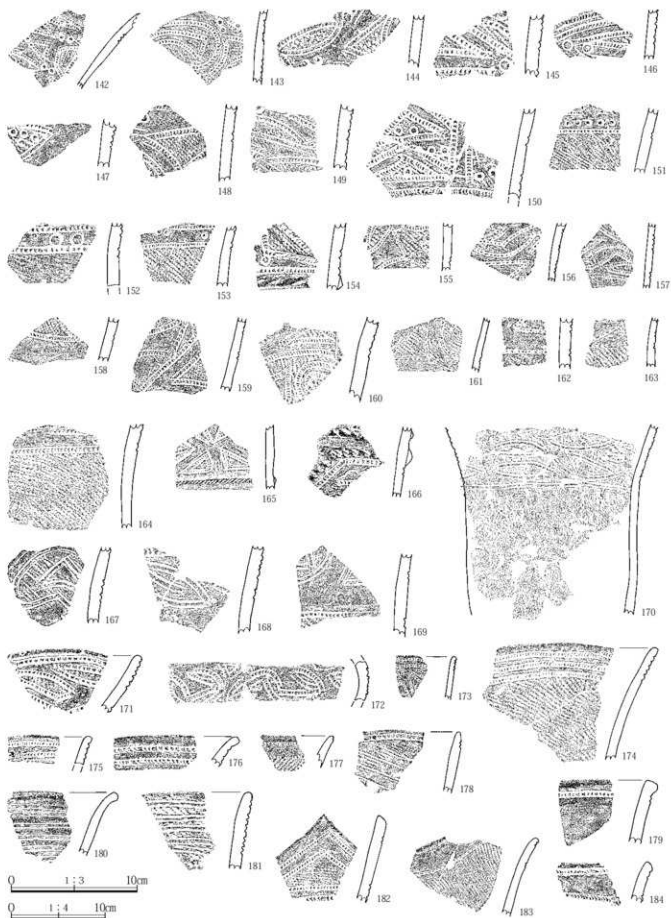


第46图 2区遺構外出土遺物(4)

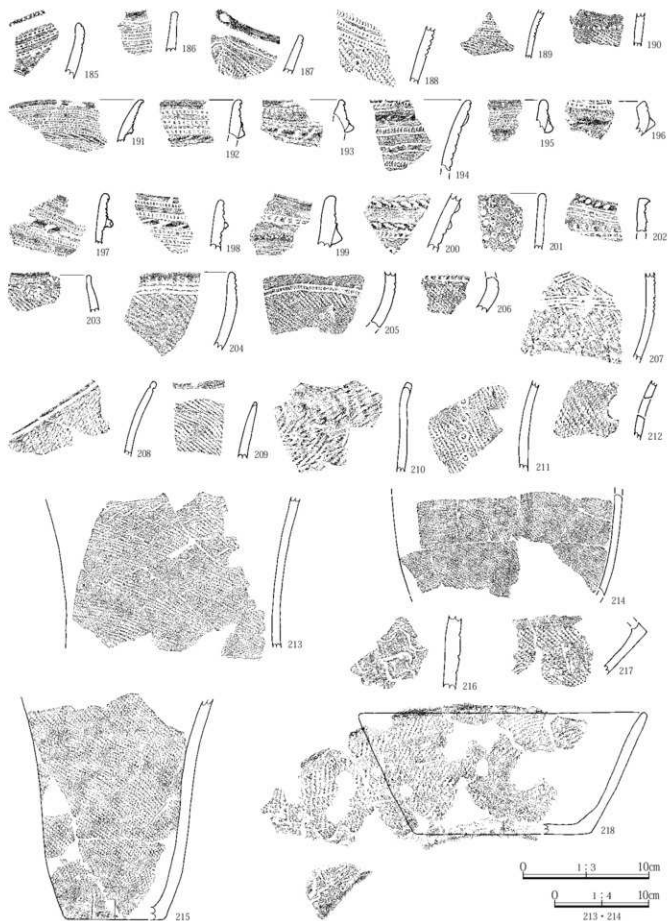
爪形刺突をもつ平行沈線を1条巡らせて口縁部文様帯を区画し、口縁部文様に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内にR Lの縄文をもち、円形刺突を配する。胴部以下はR Lの縄文を施す。125・126・128は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を1条巡らせ、口縁部文様に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内にR Lの縄文をもち、円形刺突を配する。127は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を3条巡らせ、口縁部文様に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内にR Lの縄文をもち、129～132は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線を1条巡らせ、口縁部文様に同様の平行沈線で木の葉文を描き、132は木の葉文内に縄文をもち、133は突起を有する平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描く。134は平口縁の口唇部に刻みを有し、口縁下に刻みをもつ隆帯を巡らせ、以下に細い半截竹管具による平行沈線で木の葉文を描く。135は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、口縁部文様に木の葉文を描き、円形刺突を配する。136は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、円形刺突を配する。137は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、口縁部文様に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文をもち、138は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線で木の葉文を描く。139は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線と隆帯を巡らせ、以下に同様の平行沈線で木の葉文を描く。140～164は口縁部文様に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文をもち、円形刺突を配するものが多い。141・150～153・164では頸部下に同様の爪形平行沈線が巡り、口縁部文様帯を区画すると共に、胴部に施されたR Lの縄文が観察できる。154では頸部下に刻みをもつ隆帯を巡らせて口縁部文様帯を区画する。165は口縁部文様に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、頸部下に刻みをもつ隆帯で口縁部文様帯を区画する。166は口縁部に刻みをもつ隆帯を巡らせ、以下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描く。167～169は口縁部文様

に細い半截竹管具による平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文をもち、169では頸部下に同様の爪形刺突をもつ平行沈線が巡り、口縁部文様帯を区画すると共に、胴部に施されたR Lの縄文が観察できる。170は頸部下に細い半截竹管具による平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、口縁部文様に同様の平行沈線で木の葉文を描き、地文に粗いR Lの縄文が施される。171は平口縁となる浅鉢で、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を1条巡らせ、以下に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描く。172は浅鉢の大きく湾曲する胴部で、胴部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描く。173は小型土器で、平口縁の口縁下に極めて細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2条巡らせ、以下に同様の爪形平行沈線で木の葉文を描く。174～200は口縁部に平行沈線を巡らせる類。174～179は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせ、174・178は以下にR Lの縄文を、177はL Rの縄文を施す。180・181は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線を数段巡らせ、181は地文にR Lの縄文を施す。182～185は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせ、182は同様の爪形平行沈線を横位に巡らせて波頂下の三角状区画内にR Lの縄文を施す。183には胴部にR Lの縄文が施される。186・187は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線を数段巡らせ、187は地文にR Lの縄文を施す。188～189は波状口縁と考えられ、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせ、以下にR Lの縄文を施し、188には縦位に円形刺突が配される。191～200は口縁下に刻みを有する隆帯と細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせるもので、191～196は平口縁、197～199は波状口縁を呈し、200は平口縁と考えられる。201は平口縁の口縁下に円形刺突を充填する。202は波状口縁の口唇部に刻みを有し、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と円形刺突を巡らせる。203は平口縁の口縁下に刺突を鋸歯状に巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。204～207は浅鉢となるもので、204は平口縁の口縁下に平口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線を巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。205・206は胴部上位に細い半截竹管具による爪

第3章 検出された遺構と遺物



第47図 2区遺構外出土遺物(5)

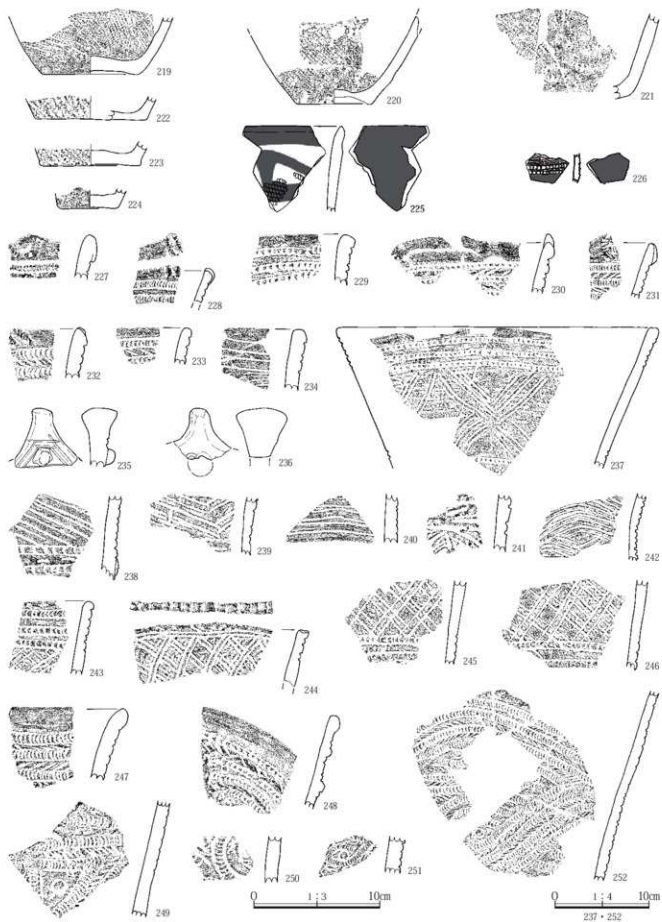


第48図 2区遺構外出土遺物(6)

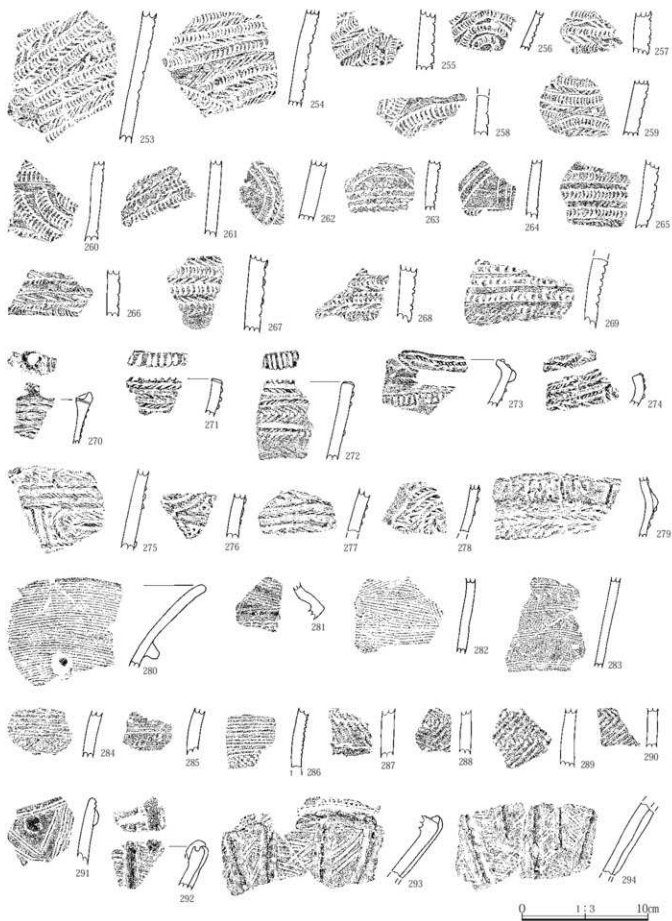
形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下にR Lの縄文を施す。207は胴部上位に平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、口縁部文様に平行沈線を斜位に描き、地文に縄文をもつ。208～210は波状口縁の口縁以下に縄文を施し、211は頸部に縦位の円形刺突、212は円形の孔を有する。213～215は胴部にR Lの縄文を施す。216は結節部を施文する。217は胴部が屈曲する浅鉢で、胴部以下にR Lの縄文を施す。218は湾曲や屈曲部をもたない浅鉢で、口縁以下にL Rの縄文を施す。219～224は平底となる底部で、胴部下位にR Lの縄文を施す。225・226は赤色の彩色を施したもの。225は平口縁の浅鉢の可能性をもち、外面には口縁下に赤彩帯を巡らせ、以下に木の葉文に類する曲線的な赤彩文様を描き、併せてR Lの縄文をまばらに施す。内面にも赤彩が施されている。226は小型土器と考えられ、外面の口縁部文様に条線が施され、細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、以下の胴部を赤彩する。内面にも赤彩を施す。これら49～226は諸畿a式土器である。

227～246は口縁部文様に爪形刺突をもつ平行沈線ないし平行沈線で文様を描くもので、227は平口縁に突起状の小波状をもち、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせる。228は平口縁の口唇部に隆帯を貼付し、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせる。229は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせる。230は平口縁の口唇部に曲線的な隆帯を貼付し、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みを有する。231は平口縁の口唇から口縁直下に刻みをもつ隆帯を溝状に貼付し、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みを有する。232は平口縁の口唇部に刻みをもつ隆帯を貼付し、口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みを有する。233は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みを有する。234は平口縁の口縁下に平行沈線を巡らせる。235は波状口縁の波頂部が厚く肥厚し、波頂下に瘤状の貼付を有し、口縁下に平行沈線を巡らせる。236は波状口縁の波頂部厚く肥厚し、波頂下に円形の孔を有する。237は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を3段、頸部下にも同様の爪形平行沈線を巡らせて口縁部文様帯を区画し、区画内に平行沈線で上下の鋸歯状(菱状)の文様を描き、地文に斜位回転の縄文を施す。238

～241は口縁部文様に斜位の平行沈線を描き、文様帯の下端を爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて区画する。242は平行沈線で曲線的な文様を描く。243～246は口縁部文様に平行沈線で格子目文を描く類。243は平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ平行沈線を3段巡らせ、以下に平行沈線で格子目文を描く。244は平口縁の口唇部に刻みをもち、口縁下に平行沈線を巡らせ、以下に平行沈線で格子目文を描き、地文にL Rの縄文を施す。245・246は口縁部文様に平行沈線で格子目文を描き、文様帯の下端を爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて区画し、地文にまばらに縄文をもつ。247～269は口縁部文様に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描く類。247は平口縁の口縁下に爪形平行沈線を数段巡らせ、沈線間に刻みを有する。248は波状口縁となる口縁下に爪形平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みをもつ隆帯を有する。249～252は口縁部に爪形平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間の刻みや円形刺突を配する。253～264は口縁部に爪形平行沈線で曲線的な文様を描く。265～268は口縁部文様帯の下端に爪形平行沈線を巡らせて区画し、沈線間には刻みを有する。269は口縁部文様帯の下端に爪形平行沈線を巡らせて区画し、以下の胴部にL Rの縄文を施す。270～279は浮線文で文様を描く類。270は突起をもつ平口縁の口唇部に刻みを有し、口縁下に刻みをもつ浮線を数段巡らせる。271・272は平口縁の口唇部に刻みを有し、口縁下に刻みをもつ浮線を数段巡らせ、272には地文に結束羽状縄文を施す。273は平口縁(緩い波状口縁?)の口縁部が大きく屈曲して内反し、屈曲部に刻みをもつ深い隆帯を巡らせ、屈曲下に刻みをもつ隆帯を横位の梯子状に巡らせる。274は内反する波状口縁の口唇部に刻みをもつ隆帯が蛇行し、口縁下に刻みをもつ隆帯を巡らせ、以下に同様の刻み隆帯で曲線的な文様を描く。275は胴部に刻みをもつ隆帯を巡らせて文様帯を区画し、口縁部に曲線的、胴部に縦位の直線および弧状の文様を描く。276～278は刻みをもつ隆帯で曲線的な文様を描く。279は胴部が僅かに屈曲し、屈曲部に刻みをもつ隆帯を横位の梯子状に巡らせる。280～286は集合沈線で文様を描く類。280は大きく開く平口縁の口縁下に集合沈線を巡らせ、瘤状の貼付を有する。281は口縁部が大きく屈曲して内反し、口縁部に集合沈線を巡らせると共に曲線的な文様を描く。282は胴部に集合沈



第49図 2区遺構外出土遺物(7)



第50図 2区遺構外出土遺物(8)

線を巡らせて区画し、区画内に平行沈線で曲線的な文様を描く。283～286は胴部に集合沈線を数段巡らせ、地文にL RないしR Lの縄文を施す。287～290は胴部に縄文を施すもので、287はR Lの縄文、288～290は結束羽状縄文を施す。これら227～290は諸磯b式土器である。

291～295は器面に貼付文を多用して加飾する類。291は波状口縁の口縁下に平行沈線を巡らせ、以下に平行沈線で鋸歯状の文様を描き、三角状の無文部に円形の貼付文を配する。292は平口縁の口唇部に貼付文と太い沈線が巡り、口縁下に横位の平行沈線を地文とし、縦長の貼付文をもつ。293・294は同一個体で、平口縁の口縁部が大きく屈曲し、口縁下から屈曲部にかけて結節浮線を横位に、屈曲部下には斜位の平行沈線を地文とし、縦長の貼付文をもつ。295は胴部に縦位と斜位の平行沈線が描かれ、貼付文を配する。296は胴部に縦長な菱状となる斜位の平行沈線が描かれる。297～301は結節浮線文で文様を描く類。297～300は口縁部に結節浮線文で渦状の文様を描き、298には地文に斜位の平行沈線をもつ。301は胴部に結節浮線文で縦位と縦位の弧状に文様を描き、地文に横位の平行沈線をもつ。これら291～301は諸磯c式土器である。

302は有孔浅鉢の頸部片。303は胴部に横位の爪形刺突をもつ平行沈線を描き、地文にアナダラ属の貝殻腹縁文を施した浮島式土器である。

304は胴部に押し引き沈線で横位に連続する弧状の文様を描き、地文にL Rの縄文を施す。305・306は同一個体で、平口縁の口端部と胴部上半が僅かに有段となり口縁部文様帯を区画する。この有段部に刻みが巡り、口縁部文様には横位の刺突が巡ると共に縦位に円形の貼付がつく。胴部以下にはL Rの縄文が施される。307～309は胴部の括れ部に爪形刺突が巡る。これら304～309は中期中葉の土器である。

310は胴部に沈線で懸垂文が描かれ、区画内にR Lの縄文を施した中期後葉の土器である。

311は胎土に繊維を含まず、鉢形器形を呈し、胴部屈曲部上は無文帯で、屈曲部下はR Lの縄文が施された加曾利E式土器である。

312は平口縁の口端内面が沈線状に凹み、外面に孔を有する把手が縦位につく。器面は丁寧に研磨され、注口土器片と考えられる。313は無文地に刻みをもつ細い隆

帯を巡らせる。これら312・313は後期前葉の土器である。

出土土製品(314～317)(第51図 遺物一覧表P.143 PL.41)

314はミニチュア土器である。胎土に繊維を含まず、平口縁の器高の低い器形で、半截竹管具による曲線的な文様が描かれる。

315は土器片を利用した楕円形を呈する板状土製品である。胎土に繊維を含まず、R Lの縄文は施され、周囲を丁寧に研磨している。

316は土器片を利用した土製品で、形状は不明。胎土に繊維を含まず、僅かに縄文が観察でき、角を作り出すように周囲は丁寧に研磨が認められる。

317は匙状土製品の匙部を欠損した柄部と考えられる。胎土に繊維を含まず、柄の表面中央は太い沈線上に抉れ、先端に刻みをもつ。側面および裏面には指圧痕が顕著に残る。

出土石器(318～431)

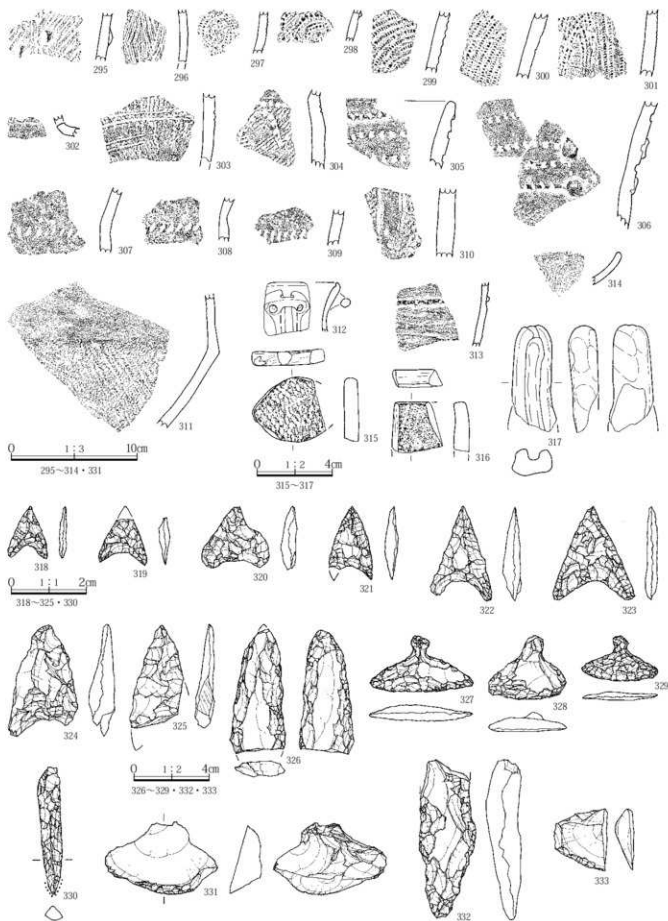
(第51～53図 石器観察表P.144～147 PL.41～43)

2区の遺構外出土の石器類の出土量は石器114点、剥片類423点(3864.4g)であった。内訳は2区-1で石器73点、剥片類329点(1159.8g)、2区-2で石器31点、剥片類79点(2618.8g)、2区-3で石器2点、剥片類14点(84.2g)、2区-4で石器4点、剥片類1点(1.6g)であった。2区内に位置が不明な石器4点があったが、石器・剥片類ともに2区-1で圧倒的な数が出土した。その偏在傾向は土器と同様であり、遺構上層の遺物包含層を形成していた。

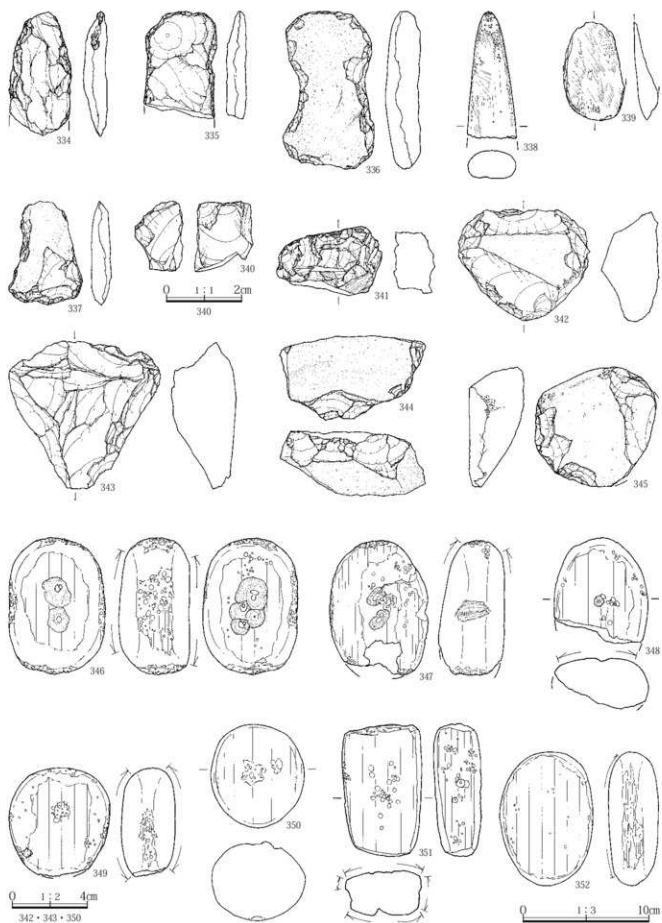
整理作業にあたっては、石器類全点を分類した。分類できた石器は石鏃15点、石槍? 1点、石匙3点、石鏝1点、削器8点、打製石斧13点、磨製石斧3点、石核15点、加工痕ある剥片30点、凹石8点、磨石6点、敲石4点、石皿2点、多孔石1点、スタンプ形石器2点、玉1点、扶状耳飾り1点である。このうち石材や石器形態を考慮して全体像がわかるように46点を図示・報告した。この他に写真のみ掲載した資料が28点、観察のみ記載した資料が40点である。

包含層出土の剥片系石器(磨石など礫石器を除く)については、その帰属時期が常に問題とされるが、北山遺跡では、鍬形鏃や分銅型の打製石斧など時期が明らかにも

第3章 検出された遺構と遺物



第51図 2区遺構外出土遺物(9)



第52図 2区遺構外出土遺物(10)

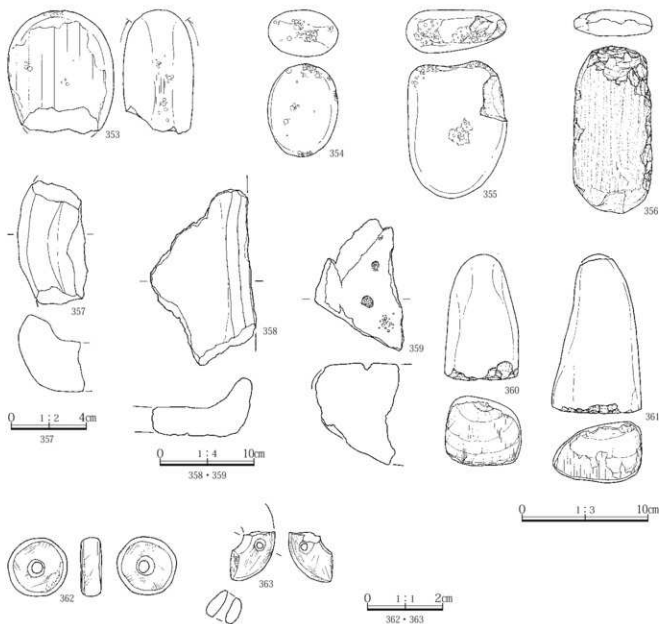
第3章 検出された遺構と遺物

のを除いた石器類の大部分は、出土土器量の最も多い前期後半期(黒浜式期～諸磯a式期)のものとする事ができる。

また、剥片・破片の石材と石材別重量は、2区-1で黒曜石167点(1269.03g)、チャート94点(206.14g)、黒色安山岩4点(44.01g)、褐色碧玉1点(1.47g)、黒色頁岩25点(313.65g)、ホルンフェルス30点(431.89g)、珪質頁岩4点(14.41g)、頁岩1点(11.77g)、砂質頁岩1点(0.52g)、玉髓1点(8.14g)、粗粒輝石安山岩1点(20.10g)であった。2区-2では黒曜石5点(15.00g)、チャート21点(184.804g)、黒色頁岩6点(231.30

g)、石英1点(18.30g)、ホルンフェルス38点(1826.50g)、黒色安山岩2点(103.50g)、珪質頁岩1点(18.40g)、砂岩4点(217.30g)、粗粒輝石安山岩1点(3.70g)が出土した。2区-3で黒曜石1点(0.06g)、チャート12点(47.22g)、灰色安山岩1点(36.96g)が、2区-4でチャート1点(1.61g)が出土した。

このなかで、黒曜石製剥片・破片が2区-1で167点、1269.03g、チャート製剥片類も94点、206.14g(平均重量2.1g)と多量に出土したが、黒曜石とチャートの剥片類の分布は、特定範囲に集中することは確認できなかった。



第53図 2区遺構外出土遺物(11)

3. 3区

3区で検出された縄文時代の遺構は、土坑3基である(第54図)。北東から南西にかけての緩やかな斜面の上方に3基の土坑が散在していた。2区の南部にあった土坑群の南の端を示しているかと推定される。(第11図)

(1) 土坑

3区1号土坑(第55図 遺構一覧表P.132 PL.15・43)

3区1号土坑は不整形円形の土坑で、断面形は逆台形である。3区で最も北側で検出された。上層は少量のローム塊、微量の白色粒を含む黒褐色土で、下層はローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にR L(Rの1本附加)の縄文を施す黒浜式土器である。

3区2号土坑(第55図 遺構一覧表P.132 PL.15)

3区2号土坑は円形の土坑で、断面形はU字形である。3区1号土坑の4mほど南西側で検出された。上層はローム粒を微量に含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

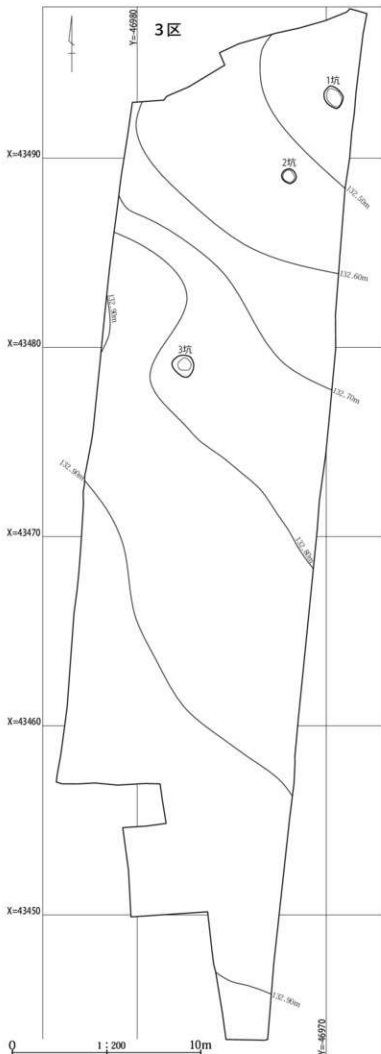
3区3号土坑(第55図 遺構一覧表P.132 PL.15)

3区3号土坑は不整形形の土坑で、底面に凹凸が著しく断面形も不整形である。3区2号土坑から10.5mほど南西側に離れた地点で検出された。ローム粒・塊を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(2) 遺構外出土遺物

3区でも、遺構に伴わない状態で縄文時代の遺物が出土した。出土した遺物は北部の3区-1で土器破片40点、石器類2点、南半の3区-2で土器破片1点であった。土器の細別型式や石器類の器種ごとの点数は第4表(P.142)遺物一覧表に記載した。

遺物の出土状態は散在しており、集中が所は認められなかった。ここでは、3区の遺構外の出土遺物を土器型式や器種で分類した上で、全体像を示せるように土器8点、石器1点を選択して、掲載・報告した。



第54図 3区縄文時代遺構全体図

第3章 検出された遺構と遺物

土器・土製品の個々の観察については本文中で、石器の観察は第5表(P.147)に記載した。

出土土器(1~8)(第55図 PL.43)

包含層中からの出土土器量は総量41点と少なく、前期中葉期29点、前期後葉期11点、中期後半期1点である。出土の傾向としては、3区の北側(3区-1)からの出土がほとんどを占め、南側(3区-2)からは1点のみ。

出土土器の内、8点を図示し以下に記す。

1~5は胎土に繊維を含む。1は平口縁の口縁下に半截竹管具による平行沈線を巡らせ、地文に縄文を施す。2は胴部の膨らみ部に半截竹管具による平行沈線を巡ら

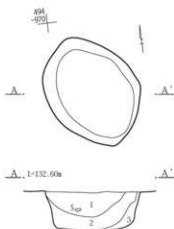
せ、以下は無文となる。3は平口縁の口縁部以下にLの縄文を、4は胴部にR LとL Rの羽状縄文を施す。5は平底となる底部で、底部付近には半截竹管具による平行沈線が数条巡る。これら1~5は、黒浜式土器である。

6~7は胎土に繊維を含まない。6は胴部にR Lの縄文を施す諸磯a式土器。7は口縁部が屈曲して内反する平口縁で、口縁以下にLの縄文を施す諸磯b式土器。8は胴下半に沈線による懸垂文で区画し、区画内に条線を縦位に施す加曽利E式土器である。

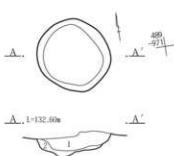
石器(9)(第55図 石器観察表P.147 PL.43)

3区で出土した石器類は、ホルンフェルス製の打製石斧(第55図9)1点、チャートの刮片1点のみであった。

3区1号土坑



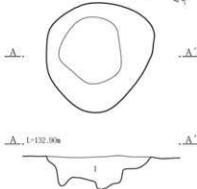
3区2号土坑



3区2号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。

3区3号土坑



3区3号土坑

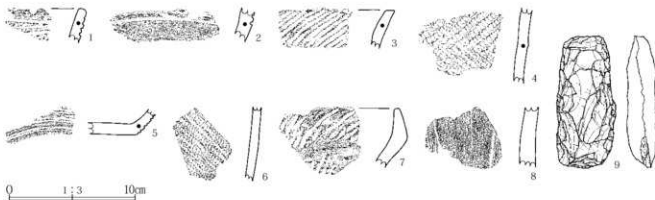
- 1 黒色土 ローム粒・塊を微量に含む。

3区1号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊を少量、白色粒を微量に含む。
- 2 黒褐色土 汚れたローム粒、ローム小塊を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。



0 1:40 1m



0 1:3 10cm

第55図 3区1~3号土坑平・断面・出土遺物と遺構外出土遺物

4. 4区

4区で検出された縄文時代の遺構は、土坑9基である(第56図)。土坑は北から南にかけての緩やかな斜面に散在していた。発掘範囲の北西隅にあたり、遺構の分布がさらに北および西にひろがることを示唆している。(第11図)

(1) 土坑

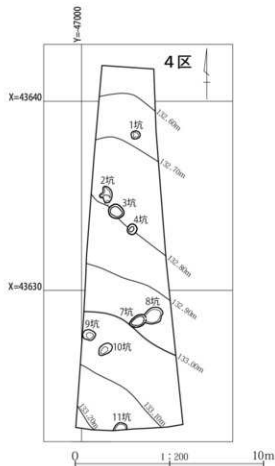
本調査区で検出された土坑は、1～11号までのうち、前述した旧石器時代の5号・6号土坑を除く計9基である。

4区1号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区1号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。4区で最も北側で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区2号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区2号土坑は不整形の土坑で、断面形も不整形であ



第56図 4区縄文時代遺構全体図

った。特に南北方向の断面形は不定形であり、掘り足らなかった可能性も残す。4区1号土坑の3mほど南西側で検出された。ローム粒を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区3号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区3号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。4区2号土坑の南東に隣接して検出された。ローム粒・塊を多く、白色粒を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区4号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区4号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。4区3号土坑の0.5m南東で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区7号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区7号土坑は不整形の土坑で、断面形も不整形であった。4区4号土坑の南に4.4m離れて検出された。4区8号土坑と重複していたが、7号土坑が新しい。ローム小塊を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区8号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区8号土坑は不整形の土坑で、断面形は皿状である。4区7号土坑と重複して検出されたが、8号土坑が古い。ローム粒多量に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区9号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区9号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。4区9号土坑の南西1.8mほど南西のところで検出された。上層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、ローム粒を多量に含むにふい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区10号土坑(第57図 遺構一覧表P.132 PL.19)

4区10号土坑は楕円形の土坑で、断面形もU字形であった。4区9号土坑の南東0.5mのところで検出された。

上層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

4区11号土坑(第57図 遺構一覧表P.132)

4区11号土坑は4区の南端で検出され、南半分が調査区域外となるため、全形がとらえられなかったが、残存部の形状から方形と推定される。断面形は逆台形Ⅲb層上面で掘り込まれ、Ⅲc層が埋没土を覆っていた。上層の大半はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

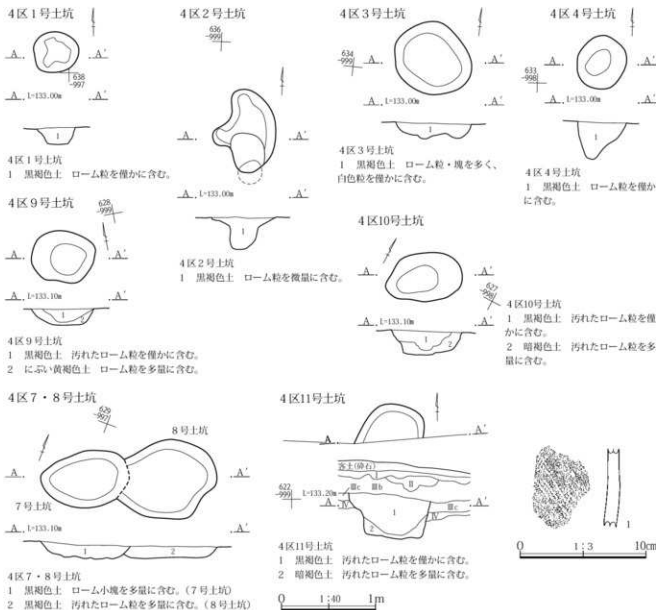
(2)遺構外出土遺物

4区でも、遺構に伴わない状態で縄文時代の遺物が出土した。出土した遺物は土器破片2点のみであった。土器の細別型式ごとの点数は第4表(P.142)遺物一覧表に記載した。ここでは、4区の遺構外の出土遺物を土器型式で分類した上で、土器1点を図示・報告した。

出土土器(1)(第57図 PL.43)

包含層中からの出土土器量は、前期後葉期2点と極めて少ない。このうち、1点を図示した。

1は胎土に繊維を含まず、胴部にR.Lの縄文を施した諸磯a式土器である。



第57図 4区1～4号・7～11号土坑平・断面と遺構外出土遺物

5. 5区

5区で検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居1棟、土坑36基である(第58図)。住居は北半部の西側にあり、その大半は調査区域外になり、方形の住居の東壁付近のみの調査になった。土坑は西から東に緩やかに傾斜する5区全体に分布しており、住居周辺にはやや集中する傾向があった。遺構の分布状況は発掘範囲の西側に遺構の分布がさらにひろがることを示唆している。(第11図)

(1) 竪穴住居

5区1号住居(第59図 遺構一覧表P.131 PL.21・43)

位置(座標)X軸=36,549~36,551

Y軸=-39,268~39,271

形状 東壁周辺のみでの調査に限られたため、全形をとらえられなかったが、方形と推定される。

規模 長辺(1.65)m 短辺2.05m 壁高43cm

長軸方向 N-83°-E

重複 なし

埋没土 上層はローム粒、白色軽石をわずかに含む暗褐色土で、下層はローム粒・塊、白色粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。その上位を基本土層のⅢc層が覆っていた。

柱穴 調査できた床面の範囲では検出されなかった。

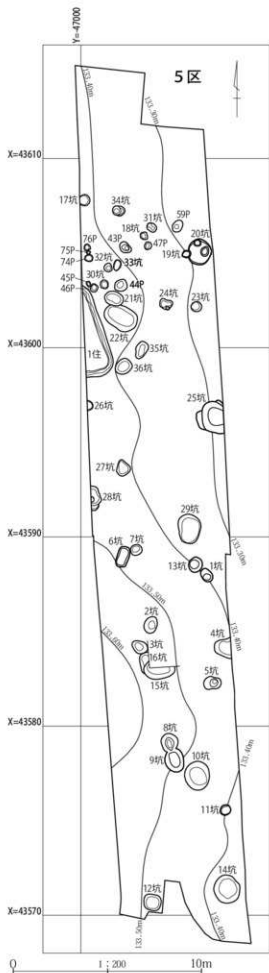
竪 調査できた床面の範囲では検出されなかった。

周溝 検出できた壁に全周して、壁周溝が検出された。周溝内には間隔が一定しないが、ピットが5基検出された。いずれも0.45mほどの深さがある。住居構造に関わるピットの可能性があるが、全体構造は不明である。周溝内はローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

床面 全体に顕著な硬化面が認められた。

遺物出土状態 土器は全体で13点が出土した。内訳は関山Ⅰ式土器破片1点、黒浜式土器破片3点、諸磯a式土器破片9点である。石器類は黒色頁岩の剝片1点出土したのみである。

これらの遺物は住居北東部に偏在する傾向がみられたが、埋没土中から出土した遺物もあった。図示した第59図1・2・4も床面から7~12cm浮いた位置で出土した。
出土遺物 出土した土器は11点を数え、このうち土器5点、円板状土製品2点を図示した。



第58図 5区縄文時代遺構全体図

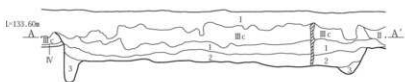
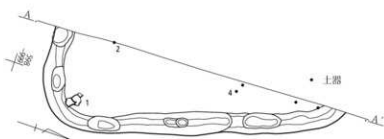
第3章 検出された遺構と遺物

1～3は胎土に繊維を含み、1は平口縁の口縁以下にLRの閉端環付繩(ループ繩文)を幅狭に重畳する。2は胴部にLRの附加条(Lの1本附加)を、3は胴部にLR(0段多条)を施す。4・5は胎土に繊維を含まず、4は平口縁の口縁下に半截竹管具による平行沈線を描らせ、以下に斜位の平行沈線で文様を描き、地文に繩文を施す。5は胴部に細いRLの繩文を施す。1は関山I式土器、2・3は黒浜式土器、4・5は諸磯a式土器である。

6・7は、共に土器片を利用した円板状土製品である。6は胎土に繊維を含み、LR(0段多条)とRL(0段多条)による羽状繩文を施した胴部片を利用し、周囲を細

かく敲打して円形に加工している。7は胎土に繊維を含まず、細いRLの繩文を施した底部に近い胴部片を利用し、周囲を細かく敲打および研磨して楕円形に加工している。

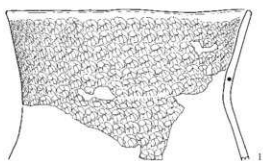
調査所見 出土した遺物は全て埋没土中からで、第59図1が壁近くから、それ以外は住居中央の上層からであった。本竪穴住居の時期は土器から決め難いが、竪穴住居覆土が下層のⅢc層であることや方形の住居形状、および1の大型破片が関山I式土器であることから関山I式期と考えられる。



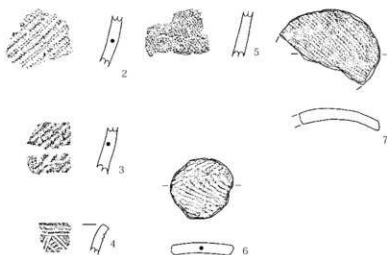
5区1号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒、白色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・塊、白色粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土 汚れたローム粒を少量含む。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm



0 1:3 10cm

第59図 5区1号住居平・断面と出土遺物

(2)土坑

5区で検出された土坑は、36基である。長軸長0.5m前後の小型楕円形・円形の土坑と、長径1.0m前後の中型の楕円形土坑、長径1.0mを超える大型の楕円形土坑に大別される。大型・中型の土坑は、5区のほぼ全体に分布していたが、小型の土坑は5区北西部にある1号住居周辺位偏在する傾向があった(第58図)。

遺物が出土した土坑は36基中15基で、埋没土中から型式の異なる縄文土器破片が少量ずつ混在して出土する状況であった。完形に近い遺物が出土することはほとんどなかったことから、土坑の時期を確定することは困難であった。出土土器の型式一覧表(P.142 第4表)を見ると、土坑出土土器は概ね黒浜式土器が諸磯a式土器に集中することから、5区で検出された土坑の時期は、縄文時代前期、黒浜式期あるいは諸磯a式期の間にあるものと推定される。遺物が出土しなかった21基の土坑の埋没土の特徴は、縄文土器が出土した土坑と共通していたことから、同様な時期の遺構であると推定される。

以下、土坑ごとに概略を記載する。なお、各土坑の位置(座標)、形態、長軸方位、規模、時期はP.132・133の土坑一覧表に記載した。

5区1号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21・43)

5区1号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は有段U字形である。5区中央部東寄りで検出された。上層は微量のローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、頸部の屈曲部に3本歯の櫛歯状工具で平行沈線を巡らせ、沈線上に刺突を施す諸磯a式土器である。

5区2号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21・44)

5区2号土坑は楕円形の土坑で、断面形はU字形である。5区中央部やや南側で検出された。北東隅はトレンチで切られていた。上層は微量のローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片3点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、胴部にR.Lの縄文を施す諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器1点が出土している。

5区3号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21)

5区3号土坑は楕円形の土坑で、断面形はU字形である。5区2号土坑の南側で検出された。5区21号ピットと重複していたが、21号ピットが新しい。上層は微量のローム粒、白色粒を含む黒褐色土、下層はローム粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区4号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21・43)

5区4号土坑は東側が調査区域外となったため、全形がとらえられなかったが、方形を基調とすると推定される。断面形は逆台形である。5区3号土坑の3.3mほど東側で検出された。上層は微量のローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土の上を基本土層Ⅲc層が覆っていた。埋没土中から諸磯a式土器破片2点、諸磯b式(爪形土)土器破片1点が出土した。

出土土器(1～3)

1～3は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、胴部にR.Lの縄文を施す。2は胴部にR.Lの縄文を施す。3は口縁部に幅広の半截竹筥具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、平行沈線間に刻みを有する。1・2は諸磯a式土器、3は諸磯b式土器である。

5区5号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21)

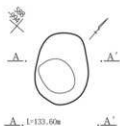
5区5号土坑は不整形の土坑で、断面形はV字形である。5区4号土坑の0.10m南側で検出された。微量のローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区6号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21)

5区6号土坑は隅丸の長方形の土坑で、断面形は不整なV字形である。5区のほぼ中央部で7号土坑と接して検出された。上層はローム粒・塊を少量含む暗褐色土で、

第3章 検出された遺構と遺物

5区1号土坑

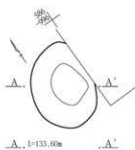


5区1号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む。
2 黒褐色土 ローム粒・塊を含む。



5区2号土坑

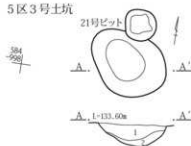


5区2号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を微量含む。
2 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。



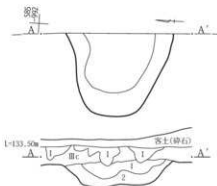
5区3号土坑



5区3号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を微量に含む。
2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。

5区4号土坑

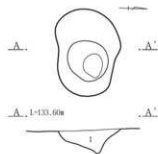


5区4号土坑

- IIIc 褐色土 ローム層移層、IV層との境界付近にAs-YPを含む。
1 黒褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。
2 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊を多量に含む。



5区5号土坑



5区5号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を僅かに含む。

5区6・7号土坑



5区6・7号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊を微量含む。(6号土坑)
2 暗褐色土 ローム粒・塊を少量含む。(6号土坑)
3 にぶい黄褐色土 ローム粒を主体とする。(6号土坑)
4 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む、締まり・粘性あり。(7号土坑)



第60図 5区1～7号土坑平・断面と出土遺物

下層はローム粒を主体とするにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区7号土坑(第60図 遺構一覧表P.132 PL.21)

5区7号土坑は隅の丸い方形基調の土坑で、断面形は逆台形である。5区のほぼ中央部で6号土坑と接して検出された。ローム粒をまばらに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区8号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.21・44)

5区8号土坑は不整形の土坑で、断面形はU字形である。5区南部中央で、5区9号土坑と重複して検出された。8号土坑が新しい。上層は少量のローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。

5区9号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.21・44)

5区9号土坑は楕円形の土坑で、断面形は不整形な有段である。5区南部中央で、5区8号土坑と重複して検出された。9号土坑が古い。上層は少量のローム粒を含む黒褐色土、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。

5区10号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.21・44)

5区10号土坑は円形の土坑で、断面形は不整形である。5区南部中央で、5区9号土坑の南東に接して検出された。5区40号・41号ピットと重複していたが新旧関係は不明である。上層はローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸

磯a式土器である。

5区11号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.21・44)

5区11号土坑は円形の土坑で、断面形は円筒形である。5区南部で、5区10号土坑の南東1.0mほどのところで検出された。ローム塊、白色粒を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。底部付近には黒色土がレンズ状に堆積していた。埋没土中から黒浜式土器破片1点、黒曜石製石核1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、口縁部に半截竹管具による平行沈線巡らせ、胴部に縄文を施す黒浜式土器である。

5区12号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.22)

5区12号土坑は隅丸の方形の土坑で、断面形は不整形である。5区南端で検出された。少量のローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区13号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.22)

5区13号土坑は円形の土坑で、断面形はU字形である。5区のほぼ中央部で1号土坑と接して検出された。上層はローム粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多く含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区14号土坑(第61図 遺構一覧表P.132 PL.22)

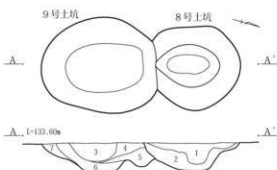
5区14号土坑は不整形の土坑で、断面形も不整形である。5区の南東隅で検出された。ローム粒・塊を微量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区15号土坑(第62図 遺構一覧表P.132 PL.22)

5区15号土坑は楕円形の土坑で、断面形は底面に凹凸が著しく不整形である。5区3号土坑の南東に接して検出された。5区16号土坑と重複していたが、15号土坑が新しい。上層はローム粒・塊、白色粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多く含む暗灰褐色土で埋まっていた。埋没土中からチャート製の加工痕ある破片3点、チャート剥片2点が出土した。

第3章 検出された遺構と遺物

5区8・9号土坑

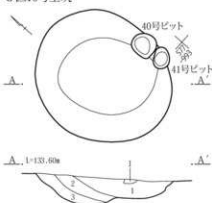


5区8・9号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。(8号土坑)
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。(8号土坑)
- 3 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。(9号土坑)
- 4 黒褐色土 1・3層より明るい。ローム粒を多く含む。(9号土坑)
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む。(9号土坑)
- 6 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多く含む。(9号土坑)
- 7 にぶい黄褐色土 ローム粒を主体とする。(9号土坑)



5区10号土坑

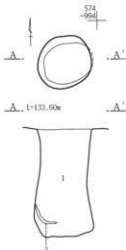


5区10号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・塊を少量含む。やや砂質。
- 2 暗褐色土 汚れたローム塊を多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。



5区11号土坑

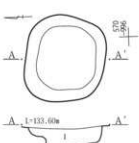


5区11号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊を僅かに、白色粒を微量含む。底部付近に黒色土がレンズ状に堆積。
- 2 黒褐色塊(10Y2/2)



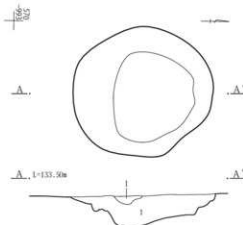
5区12号土坑



5区12号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

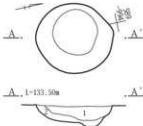
5区14号土坑



5区14号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・塊を微量に含む。

5区13号土坑



5区13号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多く含む。



第61図 5区8～14号土坑平・断面と出土遺物

5K16号土坑(第62図 遺構一覧表P.132 PL.22)

5区16号土坑は5区15号土坑と重複して検出された。16号土坑が古い。南東部分を15号土坑に壊されており、全形はとらえられなかったため、平面形は不明である。断面形は残存部の形状から逆台形と推定される。上層はローム粒・塊を微量に含むふい黄褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含むふい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5K17号土坑(第62図 遺構一覧表P.133 PL.22・44)

5区17号土坑は円形の土坑で、断面形は円筒形である。5区北西部で検出された。上層はローム粒・塊を多量に含む黒褐色土で、下層は炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。土坑は基本土層Ⅲb層を掘り込んで、埋没土の上位をⅢc層が覆っていた。埋没土中から諸磯a式土器破片14点が出土した。

出土土器(1～5)

1～5は胎土に繊維を含まず、1は平口縁となる口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を描き、口縁部に同様の平行沈線と木の葉文を描き、区画内に縄文、文様帯内に円形刺突を配する。2は口縁部に斜位の平行沈線と円形刺突を配する。3は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を描き、胴部にR Lの縄文を施す。4は胴部に細いR Lの縄文を、5は平底となる底部付近にR Lの縄文を施す。これらは諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器9点が出土している。

5K18号土坑(第62図 遺構一覧表P.133 PL.44)

5区18号土坑は方形の小型土坑で、断面形は円筒形である。5区北部で検出された。上層は多量のローム粒、わずかな炭化物粒を含む黒褐色土で、下層は多量のローム粒・塊、微量の炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。下層中位にはローム粒、炭化物粒を微量に含む黒褐色土が縦方向に堆積しており、柱痕の可能性が高い。埋没土中から黒浜式土器破片1点、諸磯a式土器破片6点、諸磯b式(爪形文)土器破片3点が出土した。

出土土器(1～3)

1～3は胎土に繊維を含まず、1は小型土器の胴部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を描き、

胴部以下にR Lの縄文を施す諸磯a式土器。2は波状口縁となる口縁下に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を描き、口縁部に同様の平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間に刻みを有する。3は平口縁の口唇部に刻みを有し、口縁下に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を描き、その交点に円形刺突を配する。2・3は諸磯b式土器である。他に黒浜式土器1点、諸磯a式土器5点、諸磯b式土器1点が出土している。

5K19号土坑(第62図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区19号土坑は円形の土坑で、断面形は円筒形である。5区北東部で検出された。20号土坑と重複して検出されたが、19号土坑が新しい。上層はローム粒・塊を微量に含む暗褐色土で、下層はローム塊、炭化物粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5K20号土坑(第62図 遺構一覧表P.133 PL.22・44)

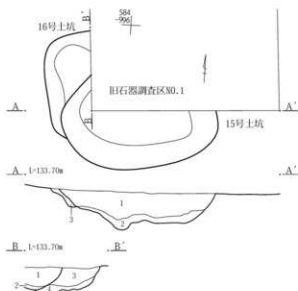
5区20号土坑は円形の土坑で、断面形は袋状である。5区北西部で19号土坑と重複して検出された。20号土坑が古い。上層は多量の暗褐色土塊、わずかな白色粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。底部付近の壁は掘り込まれてローム粒や塊を含む黒褐色土、暗褐色土が堆積していた。埋没土中から諸磯a式土器破片19点、諸磯b式(爪形文)土器破片5点、諸磯b式(浮線文)土器破片3点、下鳥式土器破片1点、黒曜石剥片1点、チャート剥片7点、黒色頁岩剥片1点、ホルンフェルス剥片1点が出土した。

出土土器(1～7)

1～7は胎土に繊維を含まず、1は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による平行沈線を描き、口縁部に平行沈線と木の葉文を描き、地文に縄文を施す。2・3は胴部にR Lの縄文を施す。4・5は口縁部に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間に刻みを有し、5の胴部にはR LとL Rによる結束羽状縄文が施される。6は口縁部に刻みをもつ浮線文で曲線的な文様を描く。7は口縁部に平行沈線で文様を描く。これら1～3は諸磯a式土器、4～7は諸磯b式土器である。他に諸磯a式土器16点、諸磯b式土

第3章 検出された遺構と遺物

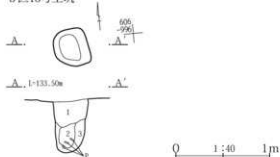
5区15・16号土坑



5区15・16号土坑

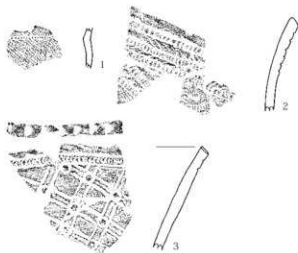
- 1 黒褐色土 ローム粒・塊、白色粒を僅かに含む。(15号土坑)
- 2 暗灰褐色土 ローム粒・塊を多く含む。(15号土坑)
- 3 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を含む。(16号土坑)
- 4 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・塊を多量に含む。(16号土坑)

5区18号土坑

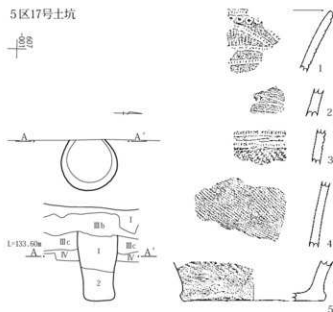


5区18号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を多量に、炭化物を僅かに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒、炭化物を微量に含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・塊を多量に、炭化物を微量に含む。



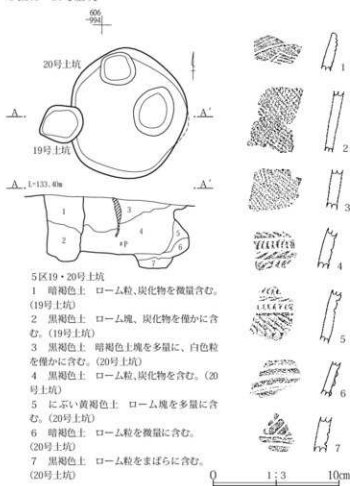
5区17号土坑



5区17号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム小塊を多量に含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を少量含む。

5区19・20号土坑



5区19・20号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物を微量含む。(19号土坑)
- 2 黒褐色土 ローム塊、炭化物を僅かに含む。(19号土坑)
- 3 黒褐色土 暗褐色土塊を多量に、白色粒を僅かに含む。(20号土坑)
- 4 黒褐色土 ローム粒、炭化物を含む。(20号土坑)
- 5 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。(20号土坑)
- 6 暗褐色土 ローム粒を微量に含む。(20号土坑)
- 7 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む。(20号土坑)

第62図 5区15～20号土坑平・断面と出土遺物

器4点、諸磯c式土器1点が出土している。

5区21号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区21号土坑は楕円形の土坑で、断面形はU字形である。5区北東部1号住居から0.6mほどのところで検出された。22号土坑と重複していたが、21号土坑が新旧関係は不明である。上層はローム粒を微量含む暗褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含む暗褐色土、にぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区22号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22・44)

5区22号土坑は楕円形の土坑で、断面形は逆台形である。21号土坑と重複して検出された。新旧関係は不明である。上層はローム粒を少量含むローム粒を含む黒褐色土で、下層はローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片3点、諸磯c式土器破片1点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、1は胴部にR Lの縄文を施す諸磯a式土器。2は口縁部に斜位の平行沈線を施し、縦長の貼付文をもつ諸磯c式土器。他に諸磯a式土器2点が出土している。

5区23号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22・44)

5区23号土坑は円形の土坑で、断面形は円筒形である。5区19号土坑の南東2.2mほどのところで検出された。ローム粒、炭化物粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯b式(浮線文)土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、口縁部に刻みをもつ浮線文で文様を描き、地文に縄文を施す諸磯b式土器である。

5区24号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区24号土坑は不整形の土坑で、断面形は逆台形である。5区23号土坑の西側で検出された。ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区25号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区25号土坑は不整形の土坑で、断面形はすり鉢状である。5区中央やや北部の東壁際で検出された。東半部が調査区域外となり、全形がとらえられなかった。上層はローム塊、白色粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム小塊を微量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒曜石破片1点が出土した。

5区26号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区26号土坑は円形の土坑で、断面形はU字形である。5区中央やや北部の1号住居の南1mのところで検出された。西半部が調査区域外となり、全形がとらえられなかったが、円形と推定される。上層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含むにぶい褐色土で埋まっていた。基本土層Ⅲc層を掘り込んで、Ⅲb層が埋没土を覆っていた。遺物は出土しなかった。

5区27号土坑(第63図 遺構一覧表P.133 PL.44)

5区27号土坑は不整形の土坑で、断面形は皿状である。5区26号土坑の3mほど南東のところで検出された。ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯c式(爪形文)土器破片1点、下鳥式土器破片1点が出土した。

出土土器(1・2)

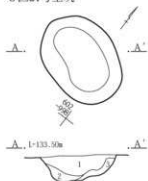
1・2は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間に刻みを有する諸磯b式土器である。2は口縁部に爪形刺突をもつ細い貼付文で渦巻き状の文様を描き、地文に横位の平行沈線を施す諸磯c式土器である。

5区28号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区28号土坑は不整形の土坑で、断面形は漏斗状である。5区27号土坑の南西1.2mほどのところで検出された。西半部が調査区域外となり、全形がとらえられなかった。上層はローム粒を多く含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を含むにぶい褐色土、黒褐色土で埋まっていた。基本土層Ⅲc層を掘り込んでいた。遺物は出土しなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

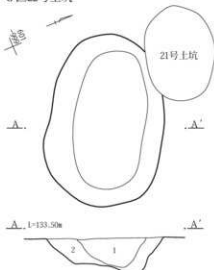
5区21号土坑



5区21号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。

5区22号土坑

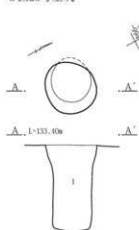


5区22号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。

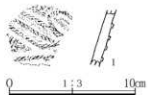


5区23号土坑

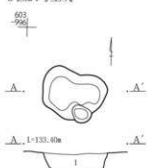


5区23号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、炭化物を僅かに含む。



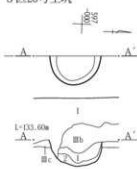
5区24号土坑



5区24号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。

5区26号土坑



5区26号土坑

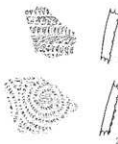
- IIb 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
- IIc 褐色土 ローム薄移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多量含む。

5区27号土坑

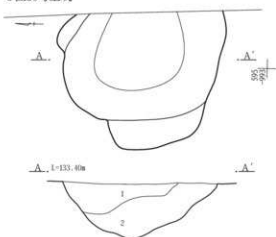


5区27号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。



5区25号土坑



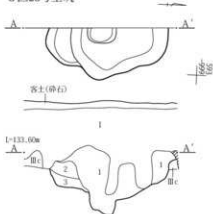
5区25号土坑

- 1 黒褐色土 ローム塊、白色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ローム小塊を微量に含む。



第63図 5区21～27号土坑平・断面と出土遺物

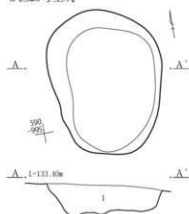
5区28号土坑



5区28号土坑

- I 暗褐色土 耕作土。
 IIb 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。
 IIIc 褐色土 ローム漸移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
 1 黒褐色土 基本層II層とIII層が混じり、ローム粒を多く含む。
 2 に近い黄褐色土 ローム塊とローム粒を多く含む。
 3 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。

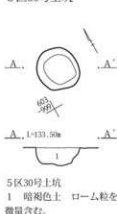
5区29号土坑



5区29号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。

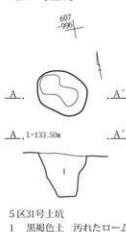
5区30号土坑



5区30号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を微量含む。

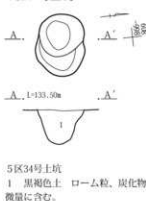
5区31号土坑



5区31号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。

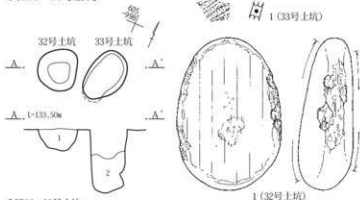
5区34号土坑



5区34号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、炭化物を微量に含む。

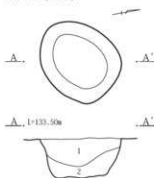
5区32・33号土坑



5区32・33号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・小塊を多量に含む。(32号土坑)
 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。(33号土坑)

5区36号土坑



5区36号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。
 2 に近い黄褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。

5区35号土坑



5区35号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。

第64図 5区28～36号土坑平・断面と出土遺物

5区29号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区29号土坑は楕円形の土坑で、断面形は逆台形である。5区28号土坑の南東4.2mほどのところで検出された。ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区30号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区30号土坑は円形の土坑で、断面形はU字形である。5区1号住居の北東1.0mほどのところで検出された。ローム粒を微量に含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区31号土坑(第64図 遺構一覧表P.133)

5区30号土坑は円形の土坑で、断面形はやや深いU字形である。円筒形の断面形状をもつ5区18号土坑の北東側で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

5区32号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.44)

5区32号土坑は円形の土坑で、断面形はU字形である。5区30号土坑の北側で33号土坑と隣接して検出された。ローム粒・小塊を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から粗粒輝石安山岩製の凹石破片1点(第64図 石器観察表P.147)が出土した。

5区33号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.44)

5区33号土坑は円形の土坑で、断面形は円筒形である。5区32号土坑に隣接して検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含み、胴部にLR(0段多条)の附加条(Lの1本附加)を施す黒浜式土器である。

5区34号土坑(第64図 遺構一覧表P.133)

5区34号土坑は楕円形の土坑で、断面形はU字形である。5区17号、18号土坑の間で検出された。ローム粒・炭化物を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒曜石剥片3点が出土した。

5区35号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.22・44)

5区35号土坑楕円形の土坑で、断面形はすり鉢状である。5区1号住居の東1.2mほどのところで検出された。ローム粒を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点、粗粒輝石安山岩製の多孔石破片1点(第64図 石器観察表P.148)が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、胴部にRLの縄文を施す諸磯a式土器である。

5区36号土坑(第64図 遺構一覧表P.133 PL.22)

5区36号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。5区1号住居南東隅の東側で検出された。上層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含むふい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中からチャート剥片1点が出土した。

(3)ピット(第65図 遺構一覧表P.138・139 PL.44)

5区では全部で76基のピットが検出されたが、埋没土を分類して記録した。その分類によって、大半は古代以降のピットであることが判明したが、5区43~47号ピット、59号ピット、74~76号ピットの9基のピットは、古墳時代以降の軽石粒を含まない固く締まった埋没土の特徴から、縄文時代のピットである可能性が高いと判断し、土層断面図を記録した。

これらのピットは直径0.3~0.7mほどの円形で、0.6~0.9mの深さに掘られていた。いずれのピットもローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっており、他の縄文時代の住居や土坑と類似していた。5区44号ピットはやや大型のピットで、中央に縦方向に異なった土層堆積を残しており柱痕の可能性が高い。周辺には5区17号、18号、19号、23号、33号土坑のような小型で円筒形の土坑が偏在しており、43号ピット等とともに、何らかの建物があつた可能性もあるが、調査では明確にできなかった。

出土土器

43号ピット(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、1は胴部に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、以下にRLの縄文を施す。2は胴部にLRとRLによる結束羽状縄文を施す。1・2共に諸磯b式土器である。他に諸

磯a式土器3点が出土している。

76ピット(1)

1は胎土に繊維を含まず、波状口縁の口縁下に幅広い半截竹管具による平行沈線を巡らせ、沈線間に刻みを有する諸磯b式土器である。

図示した他に、46号ピット埋没土中から諸磯a式土器

の細片が1点、74号ピット埋没土中から諸磯a式土器の細片が7点、75号ピット埋没土中から諸磯a式土器の細片が2点出土している。

なお、縄文土器が出土していても埋没土分類で古代以降と判断したものについては第4章で記載した。出土した土器破片は掲載遺物からは割愛した。



5区43号ピット

- 1 暗褐色土 汚れたローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・炭化物を微量含む。締まり・粘性あり。



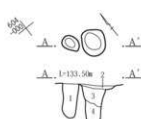
5区44号ピット

- 1 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。
- 2 にふい黄褐色土 ローム塊を主体とし、黒褐色土(10W3/2)塊を微量含む。締まり・粘性あり。



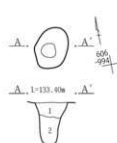
5区47号ピット

- 1 暗褐色土 炭化物を微量含む。ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。



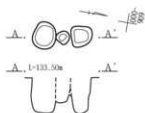
5区45・46号ピット

- 1 黒褐色土 炭化物を微量含む。ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。(45号ピット)
- 2 暗褐色土 ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。(46号ピット)
- 3 にふい黄褐色土 ローム粒・ローム塊(直径2.0~3.0cm)を多量に含む。(46号ピット)
- 4 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり(46号ピット)。



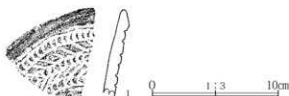
5区59号ピット

- 1 暗褐色土 ローム粒・ローム塊(直径0.2~2.0cm)を多量、黒色土少量、白色粒を微量含む。締まり・粘性あり。
- 2 にふい黄褐色土 ローム塊(直径0.2~2.0cm)を多量、黒色土少量、白色粒を微量含む。締まり・粘性あり。



5区74~76号ピット

- 1 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む。炭化物を微量含む。締まり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 基本層序田b層に類似する。締まり・粘性あり。
- 3 黒褐色土 ローム粒をまばらに含む。締まり・粘性あり。



第65図 5区43~47号・59号・74~76号ピット平・断面と出土遺物

(4) 遺構外出土遺物

5区でも遺構に伴わない状態で縄文時代の遺物が出土した。出土した遺物は北部の5区-1で土器破片633点、石器13点、剥片76点、南部の5区-2で土器破片21点、石器2点、剥片1点で、合計土器破片654点、石器15点、剥片77点である。土器の細別型式や石器類の器種ごとの点数は第4表(P.142)、第7表(P.151)遺物一覧表に記載した。遺物の出土位置は記録できなかったが、概ね遺構確認作業に基本土層Ⅲb層中から出土した。

ここでは、5区の遺構外出土土器・土製品と石器類をそれぞれ型式・器種を分類した上で、全体像を示せるように土器44点、土製品1点、石器12点を選択して、掲載・報告した。また石器1点は写真のみ、2点は観察のみ掲載した。

土器・土製品の個々の観察については本文中で、石器の観察は第5表(P.148)に記載した。土器および石器の全体的な特徴は、第4章でまとめた。

出土土器(1~59)

(第66-67図 遺物一覧表P.143 PL.44~46)

包含層中からの出土土器量は、2区に次いで多く総量653点を数え、前期前葉期1点、前期中葉期5点、前期末葉期646点、時期不明1点となっている。出土の傾向としては、5区の北側(5区-1)から出土するものが主体を占め、南側(5区-2)では非常に少ない状況にあった。

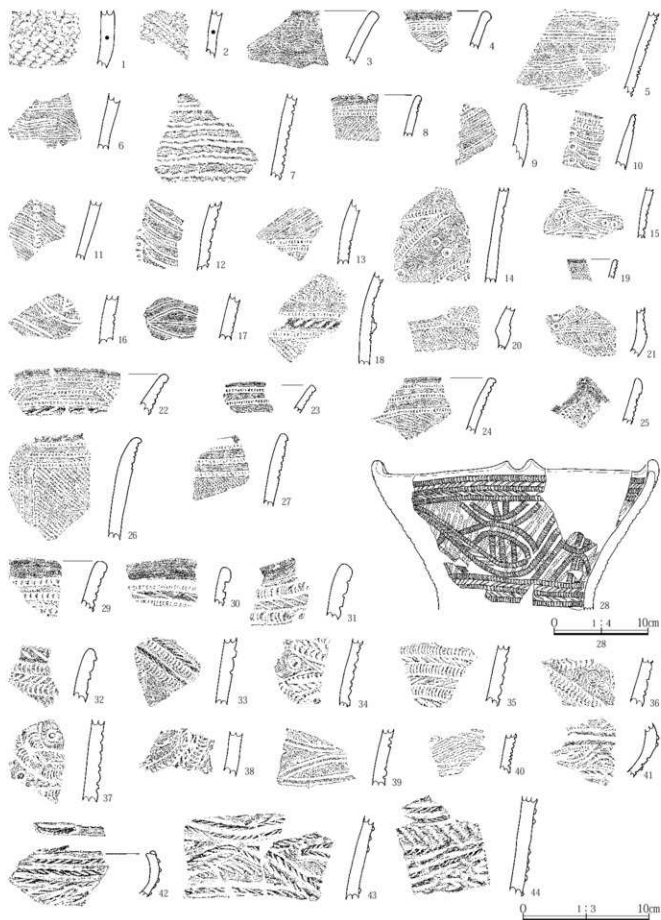
出土土器の内、59点を図示し以下に記す。

1・2は胎土に繊維を含み、1は胴部にL・Rの閉端環付縄(ルーブ縄文)を幅狭に施する圓山1式土器、2は胴部にR・Lの縄文を施す黒浜式土器である。

3~59は胎土に繊維を含まない。3~7は口縁部文様に波状沈線を巡らせる類。3・4は平口縁の口縁部に3ないし4条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、4には4本歯の櫛状工具による刺突を有する。5・6は口縁部に4条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせる。7は口縁部に細い半截竹管具による波状沈線が数段巡る。8~13は口縁部文様に肋骨文を描く類。8は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、口縁部に3ないし4条の平行沈線を斜位に施す。9・10は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突

をもつ平行沈線を巡らせ、9は口縁部に5条の平行沈線を斜位に施し、縦位に円形刺突を配する。10は口縁部に半截竹管具による平行沈線を弧状に施し、縦位に円形刺突を配する。11は口縁部に4条の平行沈線を斜位に施し、縦位に円形刺突を配する。12は口縁部に半截竹管具による平行沈線を弧状に施し、縦位に円形刺突を配する。13は口縁部に5条の平行沈線を斜位に施し、口縁部文様帯下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせる。14~21は口縁部文様に木の葉文を描く類。14は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文をもち、円形刺突を配する。15~17は口縁部に細い半截竹管具による平行沈線で木の葉文を描き、15は円形刺突を、16は縄文をもつ。18は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文を、口縁部文様帯下端に刻みをもつ隆帯と爪形平行沈線を巡らせて区画し、胴部にR・Lの縄文を施す。19は小型土器で、平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、木の葉文を描く。20・21は胴部が屈曲する浅鉢で、口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、円形刺突を配し、口縁部文様帯下端に爪形平行沈線を巡らせて区画させ、胴部にR・Lの縄文を施す。22~27は口縁部に平行沈線を巡らせる類。22~24は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせ、24は胴部にR・Lの縄文を施す。25~27は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を数段巡らせ、26はその下を縦位の区画沈線をもつ。26・27にはR・Lの縄文が施される。これら3~27は諸磯a式土器である。

28~38は口縁部文様に幅広く半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描く類。28は2ヶ所対の小突起を有する平口縁で、口縁下と口縁部文様帯下端に爪形平行沈線を3段巡らせ、沈線間に刻みを有し、口縁部に爪形平行沈線で曲線的な文様を描き、地文にL・Rの縄文を施す。29・30は平口縁で、29は爪形平行沈線間に刻みをもたず、30は刻みを有する。31・32は波状口縁で爪形平行沈線間に刻みを有し、32は口唇にも刻みをもつ。33~38は口縁部に爪形平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間の刻みや円形刺突を配する。39・40は口



第66図 5区遺構外出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

緑部文様に平行沈線で文様を描く類。39は口縁部に弧状の曲線的な文様を描き、文様内にR Lの縄文をもつ。40は口縁部に直線的な文様(菱状?)を描く。41は浅鉢で、胴部に刻みをもつ浮線文を数段巡らせて文様帯区画し、区画帯内に半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描く。42~47は浮線文で文様を描く類。42は内反する平口縁の口唇部に蛇行する浮線文をもち、口縁下に平行する浮線文を巡らせ、口縁部に曲線的な文様を浮線文で描く。43・44は口縁部に曲線的な文様を浮線文で描き、地文にR Lの縄文を施す。45~47は胴部に平行な浮線文を数段巡らせ、地文にR Lの縄文を施す。48~50は細い半截竹管具による条線で文様を描く類。48は口縁部に条線を横位に巡らせて文様帯区画し、区画帯内に条線で曲線的な文様を描き、地文に縄文を施す。49は胴部に条線を横位に巡らせて文様帯区画し、区画帯内に平行沈線で鋸歯文を描く。50は胴部に条線を横位に数段巡らせ、地文にR Lの縄文を施す。これら28~50は諸磯b式土器である。

51は平口縁の口縁部に横位の平行沈線を地文とし、縦長の貼付文をもつ。52は波状口縁の口縁部に結節浮線文で渦状の曲線的な文様を描く。53は胴部に横位の平行沈線を地文とし、結節浮線文で縦位にレンズ状の文様を描く。これら51~53は諸磯c式土器である。

54は平口縁の口縁下に爪形刺突を1段巡らせ、以下にLの縄文を施す。55は波状口縁の口唇部に刻みを有し、口縁以下に貝殻背圧痕を横位に施す浮島式土器である。

56~59は胴部に縄文を施す諸磯式土器で、56・59は平底となる胴部にR Lの縄文が、57はR LとL Rによる結束羽状縄文、58はL Rの縄文が施される。

出土土製品(60) (第67図 PL.46)

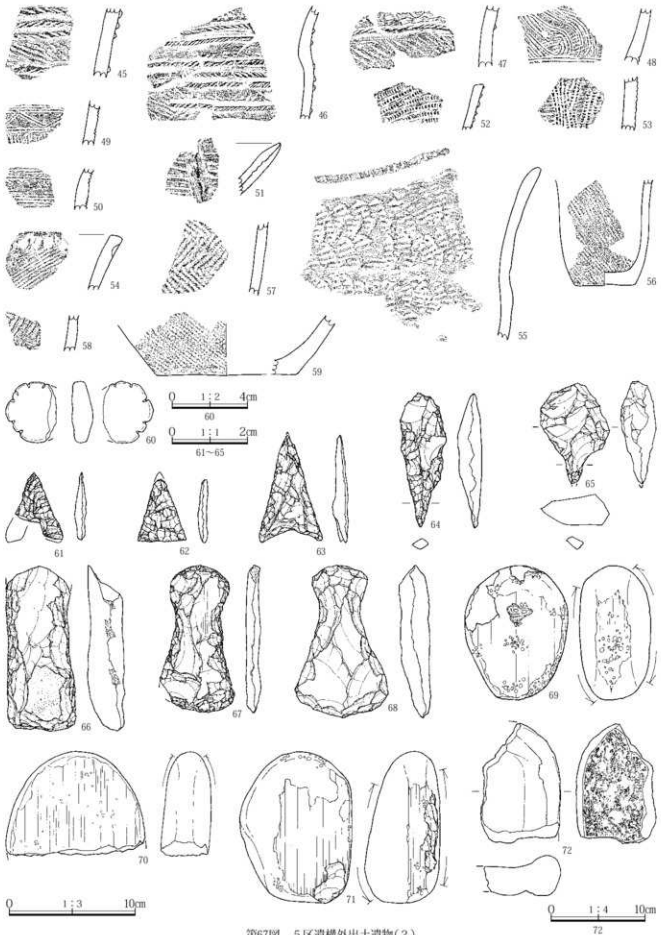
1点出土している。胎土に繊維は含まず、円形に近い板状で、中央部がやや厚くなる。周囲には刻みを有する。

出土石器(61~75) (第67図 石器観察表P.148 PL.46)

5区の遺構外出土の石器類の出土量は石器15点、剥片類77点(752.2g)であった。内訳は5区-1で石器13点、剥片類76点(743.51g)、5区-2で石器2点、剥片類1点(8.69g)であった。石器は5区-1に偏在する傾向があった。

整理作業にあたっては石器類全点を分類した。分類できた石器は石鏃4点、石錐2点、打製石斧3点、加工痕ある剥片2点、凹石1点、磨石2点、石皿1点である。このうち石材や石器形態を考慮して全体像がわかるように12点を図示・報告した。この他に写真のみ掲載した資料が1点、観察のみ記載した資料が2点である。

また、剥片は黒曜石16点(17.12g)、チャート18点(92.69g)、黒色安山岩2点(36.32g)、黒色頁岩9点(84.35g)、ホルンフェルス20点(376.55g)、珪質頁岩2点(16.26g)、砂岩3点(77.57g)、玉髓2点(2.23g)、石英1点(0.31g)、雲母石英片岩1点(15.92g)、砂質頁岩1点(8.79g)、頁岩1点(15.40g)、黒色安山岩1点(8.69g)であった。このうち5区-2で出土した剥片は黒色安山岩1点のみである。



第67图 5区遺構外出土遺物(2)

6. 6区

6区で検出された縄文時代の遺構は、土坑37基、ピット1基である(第68図)。他に風倒木痕跡が1基検出された。遺構は北から南に緩やかに傾斜しており、土坑を主体とする遺構が全体に分布していた。中央やや北側と、南西隅に遺構がやや集中する傾向がある。遺構の分布状況は発掘範囲の西側に遺構の分布がさらにひろがることを示唆している。(第111図)

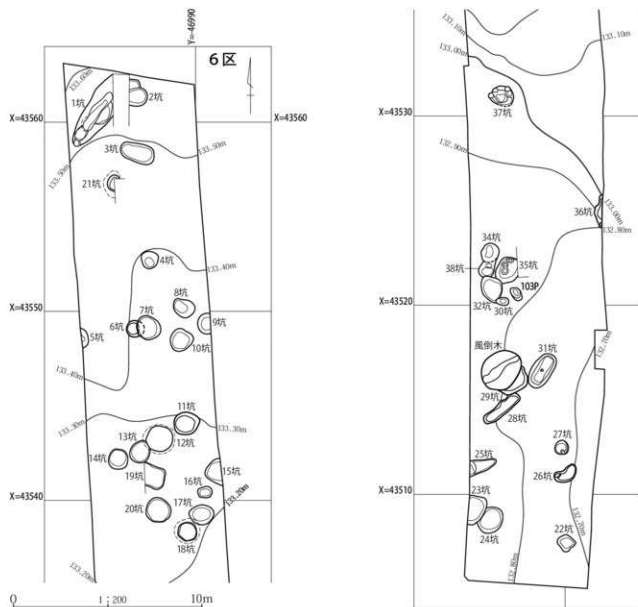
(1) 土坑

6区で検出された土坑は、1～38号までのうち、前

述した旧石器時代の33号土坑を除く計37基である。

長軸長1.2～1.8mの大型円形土坑が多く、6区中央やや北寄りと、南西部西壁際に群在する傾向があった。大型土坑には袋状の断面形状をもつ土坑が3基、陥穴が1基含まれている。(第68図)

遺物が出土した土坑は37基中13基で、埋没土中から型式の異なる縄文土器破片が少量ずつ混在して出土する状況であった。6区12号土坑だけは156点の諸磯a式土器が出土しており、特異な出土状況を示していた。その他の土坑は完形に近い遺物が出土することはほとんどなかったことから、土坑の時期を確定することは困難であった。出土土器の型式一覧表(P.143 第4表)を見ると、



第68図 6区縄文時代遺構全体図

土坑出土土器は概ね黒浜式土器か諸磯a式土器に集中することから、6区で検出された土坑の時期は、縄文時代前期、黒浜式期あるいは諸磯a式期の間にあるものと推定される。遺物が出土しなかった24基の土坑の埋没土の特徴は、縄文土器が出土した土坑と共通していたことから、同様な時期の遺構であると推定される。

以下、土坑ごとに概略を記載する。なお、各土坑の位置(座標)、形態、長軸方位、規模、時期はP.133の土坑一覧表に記載した。

6区1号土坑(第69図 遺構一覧表P.133 PL.27・46)

6区1号土坑は細長い楕円形の土坑で、断面形は不整形である。中央が帯状に深く掘られていた。6区の北端で検出された。北東端が試掘トレンチで壊されたため全形はとらえられなかった。上層はローム粒・小塊、白色粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒を含むふい褐色土や黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点、諸磯b式(沈線文)土器破片1点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に平行沈線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施す諸磯a式土器である。2は胴部に半截竹管具による条線状の平行沈線を数段巡らせ、地文にL Rの縄文を施す諸磯b式土器である。

6区2号土坑(第69図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区2号土坑は不整形の土坑で、断面形は皿状である。6区1号土坑の東側で検出された。底面の凹凸が著しかった。西端が試掘トレンチで壊され、全形はとらえられなかった。ローム粒・小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中からチャートの剥片1点が出土した。

6区3号土坑(第69図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区3号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区2号土坑の南側で検出された。上層はローム小塊・白色粒を含む黒褐色土で、ローム粒・塊を含むふい褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区4号土坑(第69図 遺構一覧表P.133 PL.27・46)

6区4号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区2号土坑の南側で検出された。上層は白色粒を少量含む黒褐色土で、ローム小塊を少量含むふい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片1点、チャートの剥片1点が出土した。

出土土器(1)

1は胎土に繊維を含まず、平口縁の口縁下にR Lの縄文を施す諸磯a式土器である。

6区5号土坑(第69図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区5号土坑は円形の土坑で、断面形は椀状である。6区の北部で検出された。西半分が調査区域外となり全形はとらえられなかったが、円形と推定される。黒褐色土で埋まっていた。基本土層のⅢc層を掘り込んで、Ⅲb層が埋没土を覆っていた。遺物は出土しなかった。

6区6号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区6号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の北部で検出された。6区7号土坑と重複していたが、6号土坑が新しい。白色粒を全体に含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区7号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区7号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。6区の北部で検出された。6区6号土坑と重複していたが、7号土坑が古い。底面は平坦で比較的深い土坑である。上層はローム粒・塊、白色粒を含む暗褐色土で、下層はローム粒を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

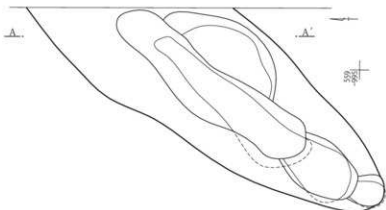
6区8号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区8号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の北部で検出された。白色粒、炭化物粒を少量含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

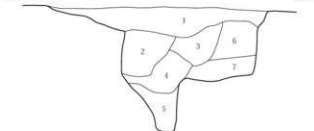
6区9号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27・46)

6区9号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。

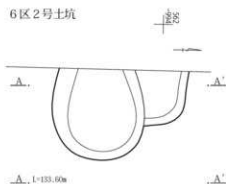
6区1号土坑



A, l=133.00m



6区2号土坑



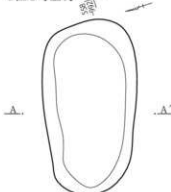
A, l=133.00m



6区2号土坑
1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を含む。

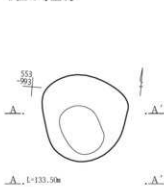
- 6区1号土坑
- 1 黒褐色土 白色粒を含む。
 - 2 黒褐色土 ローム小塊、白色粒を含む。
 - 3 黒褐色土 汚れたローム粒を少量含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を含む。
 - 5 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。
 - 6 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。
 - 7 黒褐色土 ローム粒を微量に含む。

6区3号土坑



- 6区3号土坑
- 1 黒褐色土 ローム小塊を少量、白色粒を全体に含む。
 - 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒、ローム塊を多量に含む。

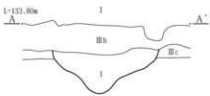
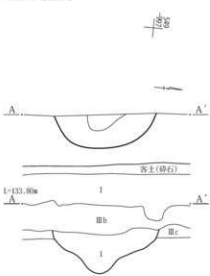
6区4号土坑



- 6区4号土坑
- 1 黒褐色土 白色粒を少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土 ローム小塊を少量含む。



6区5号土坑



- 6区5号土坑
- I 暗灰褐色土 耕作土。
 - IIb 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。
 - IIIc 褐色土 ローム漸移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
 - 1 黒褐色土 基本層のIII層を主体とする。

0 1:40 1m

第69図 6区1～5号土坑平・断面と出土遺物

6区の北部で検出された。東半分が調査区域外となり全形はとらえられなかったが、円形と推定される。上層は白色粒を少量含む黒褐色土で、下層はローム粒・小塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。基本土層のⅢc層を掘り込んで、埋没土はⅢb層で覆われていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片1点が出土した。

出土土器(1～3)

1～3は胎土に繊維を含まず、1・2は胴部にR Lの縄文を、3はRの縄文を施す諸磯式土器。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器1点が出土している。

6区10号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区10号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の北部で検出された。上層は白色粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区11号土坑(第70図 遺構一覧表P.133 PL.27・46)

6区11号土坑は円形の土坑で、断面形は逆台形である。6区の中央やや北で検出された。上層は白色粒を含む黒褐色土で、下層は炭化物粒を微量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片2点、諸磯a式土器破片42点、諸磯b式(爪形文)土器破片1点、黒色頁岩製の打製石斧1点(第70図 石器観察表P.148)、チャートの破片1点、黒色頁岩の剥片1点、ホルンフェルス製の剥片2点が出土した。

出土土器(1～9)

1～9は胎土に繊維を含まず、1～3は平口縁の口縁部に3ないし4条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、縦位に円形刺突を配する。4は平口縁の口縁下に平行沈線を巡らせ、口縁部に平行沈線を左下がりの斜位に施す。5は口縁部に平行沈線を弧状に施し、縦位の刺突を配する。6は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、口縁部に斜位の平行沈線を、地文にR Lの縄文を施す。7・8は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせる。9は波状口縁の口縁下に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と刻みをもつ降帯を巡らせ、口縁部に爪形平行沈線で曲線的な文様を描く。これらは諸磯a式土

器。他に黒浜式土器2点、諸磯a式土器33点、諸磯b式土器1点が出土している。

6区12号土坑(第71図 遺構一覧表P.133 PL.27・47)

6区12号土坑は円形の土坑で、断面形は袋状である。6区の中央やや北で検出された。6区13号土坑と重複していたが、12号土坑が古い。中央部はローム粒、炭化物を少量含む黒褐色土で、底面輪の下層部はローム粒を多量に含む黒褐色土やローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片6点、諸磯a式土器破片156点が、ホルンフェルス製の打製石斧2点(第71図 石器観察表P.148)、粗粒輝石安山岩製の磨石1点(同)、黒曜石の剥片1点、チャートの剥片1点、ホルンフェルスの剥片4点が出土した。また13号土坑と混在して取り上げられた諸磯a式土器破片9点とホルンフェルス製の打製石斧1点がある。

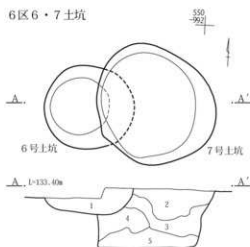
出土土器(1～29)

1・2は胎土に繊維を含み、共に胴部にL Rの附加条(Lの1本附加)とR Lの附加条(Rの1本附加)による羽状縄文を施す黒浜式土器である。

3～27は胎土に繊維を含まない。3～10は口縁部文様に波状沈線を描く類で、4は平口縁の口縁下に4本の平行沈線と波状沈線を数段巡らせる。3・5～7は口縁部に3ないし4本の平行沈線と波状沈線を数段巡らせ、縦位の円形刺突を配し、胴部にR LないしL Rの縄文を施す。9は4本歯の櫛歯状工具による。10は平口縁の口縁部に半截竹管具による平行沈線と波状沈線を数段巡らせる。11・12は口唇部に刻みを有する平口縁で、口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2段巡らせ、その間に鋸歯文を描き、口縁部に平行沈線で弧状の文様と縦位の円形刺突を配する。13は口縁部に平行沈線で弧状の文様を描き、縦位の円形刺突を配する。14～16は口縁部に木の葉文を描く類で、14は刻みをもつ降帯を巡らせ、この下に平行沈線で直線のおよび曲線的な文様を描く。15・16は細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、木の葉文内に縄文、円形刺突を配する。17～19は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と、刻みをもつ降帯を巡らせる。20・21は小型土器で、口縁部文様下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴

第3章 検出された遺構と遺物

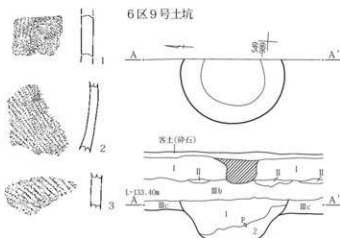
6区6・7土坑



6区6・7号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を全体的に含む。
- 2 黒褐色土 白色粒を全体的に含む。
- 3 暗褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を含む。
- 4 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム中塊を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒を少量含む。

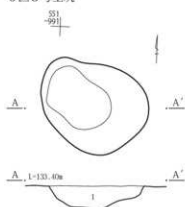
6区9号土坑



6区9号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。大粒の白色粒を含む。
- II 黒褐色土 小粒の白色粒、褐色粒を多量に含む。
- IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
- IIIc 褐色土 ローム漸移層。IV層との境界付近にAs-YPを含む。
- 1 黒褐色土 白色粒を僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。

6区8号土坑

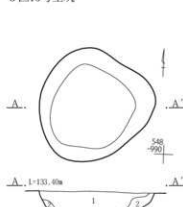


6区8号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を僅かに。炭化物を微量に含む。

0 1:40 1m

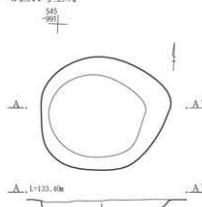
6区10号土坑



6区10号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を含む。

6区11号土坑



6区11号土坑

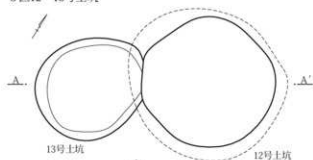
- 1 黒褐色土 白色粒を全体的に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を微量に含む。



(6区11号土坑出土遺物)

第70図 6区6～11号土坑平・断面と出土遺物

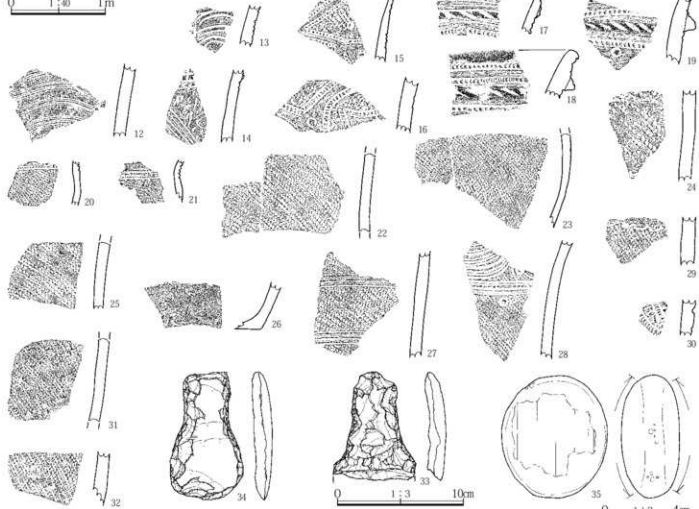
6区12・13号土坑



6区12・13号土坑

- 1 黒色土 汚れたローム粒、炭化物を少量含む。(12号土坑)
 2 黒褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。(12号土坑)
 3 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。(12号土坑)
 4 黒褐色土 白色粒を全体的に含む。(13号土坑)
 5 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。(13号土坑)

0 1:40 1m



第71図 6区12・13号土坑平・断面と出土遺物

0 1:2 4cm
35

部に R L の縄文を施し、21には円形刺突をもつ。22～26は胴部に R L の縄文を施し、26は平底の底部。これら 3～26は諸磯 a 式土器。27は胴部に半截竹管具による条線状の平行沈線を数段巡らせ、地文に R L の縄文を施す諸磯 b 式土器。他に黒浜式土器 4 点、諸磯 a 式土器 131 点が出土している。

28・29は重複する13号土坑と混在して取り上げられた土器で、胎土に繊維を含まない。28は口縁部に 5 条の平行沈線で曲線的な文様を描き、円形刺突を配し、胴部に R L の縄文を施す。29は胴部に R L の縄文を施す。他に諸磯 a 式土器 7 点が出土している。

6区13号土坑(第71図 遺構一覧表P.133 PL.27・47)

6区13号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の中央やや北で検出された。6区12号土坑と重複していたが、13号土坑が新しい。中央部は白色粒を全体に含む黒褐色土で、下層はローム粒を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片 4 点、諸磯 a 式土器破片 20 点、黒曜石の剥片 3 点、チャートの剥片 1 点が出土した。ほかに13号土坑と混在して取り上げられた諸磯 a 式土器破片 9 点がある。

出土土器(30～32)

30～32は胎土に繊維を含まず、30は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、31・32は胴部に R L の縄文を施す諸磯 a 式土器。他に黒浜式土器 4 点、諸磯 a 式土器 17 点が出土している。

6区14号土坑(第72図 遺構一覧表P.133 PL.27・47・48)

6区14号土坑は円形の土坑で、断面形は箱形である。6区の中央やや北で検出された。中央部はローム粒を含む黒褐色土で、下層はローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片 3 点、諸磯 a 式土器破片 57 点、諸磯 b 式(爪形文)土器破片 1 点、諸磯 c 式土器破片 1 点、チャートの剥片 2 点、ホルンフェルスの剥片 1 点が出土した。

出土土器(1～15)

1～15は胎土に繊維を含まない。1～5は口縁部に 3 ないし 5 条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせる類で、1～4は平口縁、5は波状口縁をなし、1・6には縦位

の円形刺突が配され、4は地文に縄文が施されている。7～9は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で木の葉文を描き、8・9は木の葉文内に縄文をもつ。10・11は平口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、10は口唇に刻みを、口縁部に縦位の円形刺突を配する。12・13は胴部に R L の縄文を施し、12には円形刺突をもつ。これら 1～13は諸磯 a 式土器。14は幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と、沈線間に刻みを有する諸磯 b 式土器。15は波状口縁の口縁下に僅かな段をもち、口縁部には条線が幅広く巡り、横位条線帯以下に条線により縦位のレンズ状等の文様が描かれる諸磯 c 式土器である。他に黒浜式土器 3 点、諸磯 a 式土器 44 点が出土している。

6区15号土坑(第72図 遺構一覧表P.133 PL.27)

6区15号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の中央部やや北で検出された。東半分は調査区域外となり全形はとらえられなかったが、円形と推定される。白色粒、炭化物粒を微量に含む黒褐色土で埋まっていた。基本土層Ⅲc層を掘り込んで、Ⅲb層で覆われていた。遺物は出土しなかった。

6区16号土坑(第72図 遺構一覧表P.133 PL.27・48)

6区16号土坑は小型の隅丸方形の土坑で、断面形は皿状である。6区の中央やや北で検出された。ローム粒・塊を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片 1 点、諸磯 a 式土器破片 2 点が出土した。

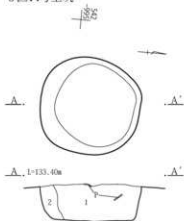
出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に 4 条の平行沈線と波状沈線を数段巡らせる。2は胴部に R L の縄文を施す。共に諸磯 a 式土器。他に黒浜式土器 1 点が出土している。

6区17号土坑(第72図 遺構一覧表P.133 PL.28・48)

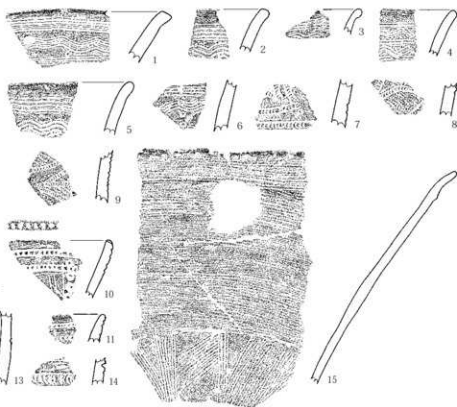
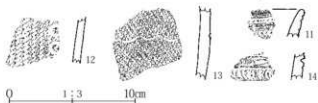
6区17号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の中央やや北で検出された。上層はローム粒を含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片 3 点、諸磯 a 式土器破片 3 点が出土した。

6区14号土坑

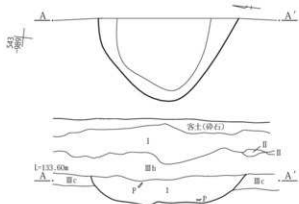


6区14号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 ローム塊を多量に含む。

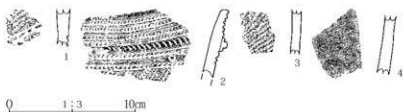


6区15号土坑



6区15号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作土。
II 黒褐色土 小粒の白色粒、棕色粒を多量に含む。
IIIa 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
IIIb 褐色土 ローム漸移層。層下位にAs-YPを含む。
1 黒褐色土 白色粒、炭化物を微量に含む。



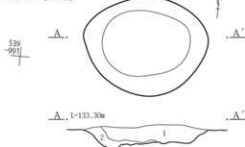
6区16号土坑



6区16号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。

6区17号土坑



6区17号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を含む。
2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。



第72図 6区14～17号土坑平・断面と出土遺物

出土土器(1~4)

1は口縁部に爪形刺突をもつ斜位の平行沈線と、地文にR Lの縄文を施す黒浜式土器。2~4は胎土に繊維を含まず、2は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線と刻みをもつ降帯を巡らせ、口縁部に斜位の爪形平行沈線を描き、円形刺突を配する諸磯a式土器である。3は胴部にL Rの縄文を施し、4は無文の胴部片。他に黒浜式土器2点が出土している。

6区18号土坑(第73図 遺構一覧表P.133 PL.28・48)

6区18号土坑は円形の土坑で、断面形は袋状である。6区の中央やや北で検出された。中央部はローム粒を全体的に少量含む黒褐色土で、下層はローム粒をわずかに含む黒褐色土で、底部脇部分にはぶい黄褐色土で埋まっていた。埋没土中から黒浜式土器破片1点、諸磯a式土器破片13点、諸磯b式(爪形文)土器破片1点が出土した。

出土土器(1~5)

1~5は胎土に繊維を含まず、1は口縁部に平行沈線で文様を描く。2は口縁部に幅広い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線で曲線的な文様を描き、沈線間に刻みを、さらに円形刺突を有する諸磯b式土器。3~5は胴部にR LないしL Rの縄文を施し、5は平底の底部。他に黒浜式土器1点、諸磯a式土器9点が出土している。

6区19号土坑(第73図 遺構一覧表P.133 PL.28・48)

6区19号土坑は隅丸方形の土坑で、断面形は皿状である。6区の中央やや北で検出された。西半分が試掘トレンチで壊されているため全形をとらえられなかったが、隅丸の長方形と推定される。ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片5点が出土した。

出土土器(1・2)

1・2は胎土に繊維を含まず、胴部にR Lの縄文を施す。他に諸磯a式土器3点が出土している。

6区20号土坑(第73図 遺構一覧表P.133 PL.28・48)

6区20号土坑は円形の土坑で、断面形は箱状である。6区の中央やや北で検出された。上層は白色粒を微量に含むぶい黄褐色土で、下層はローム粒を少量含む黒褐

色土、ローム粒、黒色粒を微量に含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から諸磯a式土器破片14点が出土した。

出土土器(1~5)

1~5は胎土に繊維を含まず、1は口縁部の口縁部に爪形刺突をもつ平行沈線で文様帯区画し、区画内に条線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施す。2は口縁部に条線を巡らせる。3は口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、円形刺突を配する。4は小型土器で、波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせ、胴部にR Lの縄文を施す。5は胴部にR Lの縄文を施す。これらは諸磯a式土器である。他に諸磯a式土器9点が出土している。

6区21号土坑(第73図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区21号土坑は円形の土坑で、断面形は袋状である。6区の北部1号土坑の2.8m南で検出された。南東部は試掘トレンチで壊されたため全形はとらえられなかったが、円形と推定される。上層は炭化物をまばらに含む灰黄褐色土で、中層にはぶい黄褐色土で、下層はわずかなローム粒と炭化物を多く含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

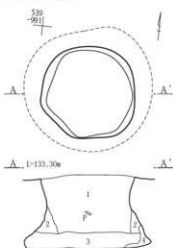
6区22号土坑(第73図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区22号土坑は不整形の土坑で、断面形は椀状である。6区の南端部で検出された。6区70号ピットと重複して検出されたが、22号土坑が古い。ローム粒を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区23号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区23号土坑はやや膨らんだ方形に近い形態の土坑で、断面形は皿状である。6区の南西端部で検出された。6区24号土坑と重複して検出されたが、23号土坑が新しい。また6区79号ピットと重複していたが、23号土坑が古い。南西部が調査区域外となり全形がとらえられなかった。上層はローム粒をまばらに含む暗褐色土で、下層はローム粒を備かに含むぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

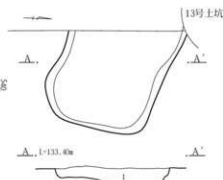
6区18号土坑



6区18号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を全体的に、暗褐色土塊を少量含む。
 2 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を多量に含む。
 3 黒褐色土 ローム粒を全体的に僅かに含む。
 4 にぶい黄褐色土 汚れたローム粒を主体とする。崩落土か。

6区19号土坑

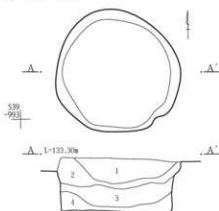


6区19号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を含む。



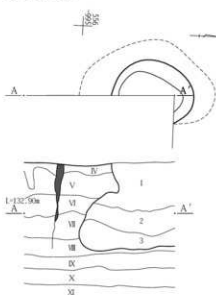
6区20号土坑



6区20号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、白色粒を微量に含む。
 2 暗褐色土 ローム塊を少量、白色粒を微量に含む。
 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。
 4 暗褐色土 ローム粒を少量、黒色粒を微量に含む。

6区21号土坑



6区21号土坑

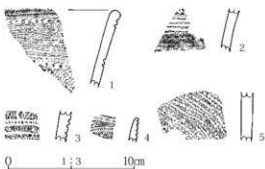
- 1 灰黄褐色土 炭化物をまばらに含む。
 2 にぶい黄褐色土 ローム層の1・2層を主体とし、白色系のAs-YFを多く含む。
 3 黒褐色土 汚れたローム粒を僅かに、炭化物を多く含む。

6区22号土坑



6区22号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊を多く含む。



第73図 6区18～22号土坑平・断面と出土遺物

6IX24号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区24号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の南西端部で検出された。6区23号土坑と重複して検出されたが、24号土坑が古い。また、6区77号ピットと重複していたが、24号土坑が古い。ローム塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX25号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区25号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区の南西部で検出された。6区23号土坑の北1mのところ検出された。西半分が調査区域外となり全形がとらえられなかった。6区94号ピットと重複して検出されたが、25号土坑が古い。ローム塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。基本土層のⅢc層を掘り込んで、Ⅲb層が埋没土を覆っていた。遺物は出土しなかった。

6IX26号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区26号土坑は不整形の土坑で、断面形は皿状である。6区の南部で検出された。6区22号土坑の北2.6mほどのところで検出された。6区84号ピットと重複していたが、26号土坑が新しい。また6区85号ピットと重複していたが、26号土坑が古い。ローム粒を多く含む黒褐色土、黒褐色土塊を多く含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX27号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区27号土坑は円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の南部で検出された。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX28号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区28号土坑は長楕円形の土坑で、断面形は皿状である。6区の南部で検出された。6区29号土坑の南側に接して検出されたが、28号土坑が古い。また6区99号ピットが重複して検出されたが新旧関係は不明である。ローム塊をまばらに含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX29号土坑(第74図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区29号土坑は隅丸方形の土坑で、断面形は椀状と推定される。6区の南部で、風倒木痕跡と重複して検出された。29号土坑が古い。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX30号土坑(第75図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区30号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区の南部で、風倒木痕跡の北2.4mほどのところで検出された。6区32号土坑と重複して検出されたが新旧関係は不明である。ローム粒を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX31号土坑(第75図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区31号土坑は楕円形の土坑で、断面形は漏斗状である。6区の南部で、6区29号土坑の東側に接して検出された。新旧関係は不明である。底面中央部に直径14cm、深さ36cmのピットが検出された。上層はローム粒、白色粒を含む黒褐色土で、中位はローム粒・塊を含む黒褐色土やにぶい黄褐色土で、下層はローム粒をわずかに含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。逆茂木を立てた陥穴であろう。

6IX32号土坑(第75図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区32号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区の南部で、6区30号土坑と重複して検出されたが新旧関係は不明である。ローム粒をわずかに含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

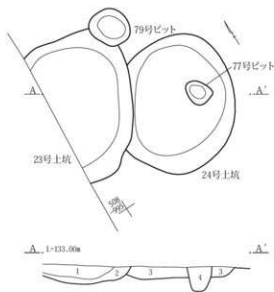
6IX34号土坑(第75図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区34号土坑は円形の土坑で、断面形はすり鉢状である。6区の南部で、6区38号土坑と重複して検出された。34号土坑が新しい。上層はローム粒・塊を少量含む暗褐色土で、下層はローム粒・塊をわずかに含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6IX35号土坑(第75図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区35号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状である。

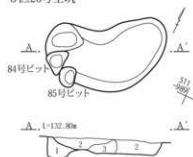
6区23・24号土坑



6区23・24号土坑、77号ピット

- 1 黒褐色土 ローム塊をまばらに含む。(23号土坑)
- 2 ぶい黄褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。(23号土坑)
- 3 暗褐色土 ローム塊を多く含む。(24号土坑)
- 4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。(77号ピット)

6区26号土坑



6区26号土坑、84号ピット

- 1 暗褐色土 ローム粒を多く含む。(84号ピット)
- 2 黒褐色土 汚れたローム粒を多く含む。(26号土坑)
- 3 ぶい黄褐色土 汚れたローム粒、黒褐色土塊を多く含む。(26号土坑)

6区27号土坑



6区27号土坑
1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。

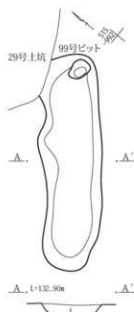
6区25号土坑



6区25号土坑

- I 暗灰褐色土 耕作上。
- II 黒褐色土 小粒の白色粒、橙色粒を多量に含む。
- IIIa 暗褐色土 縄文時代の遺物包含層。
- IIIc 褐色土 ローム層移動。層下位にAs-YPを含む。
- I 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
- IV 暗黒褐色ローム。

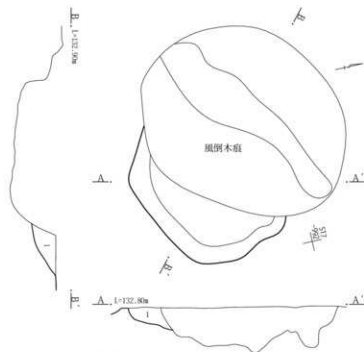
6区28号土坑



6区28号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊をまばらに含む。

6区29号土坑



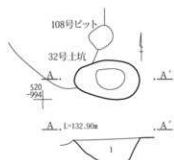
6区29号土坑
1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。



第74図 6区23～29号土坑平・断面

第3章 検出された遺構と遺物

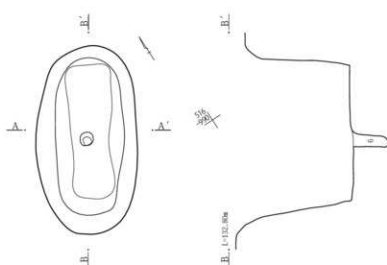
6区30号土坑



6区30号土坑

1 暗褐色土 ローム粒を多く含む。

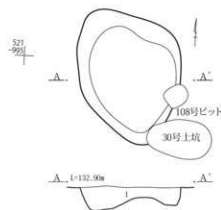
6区31号土坑



6区31号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、白色粒を含む。
- 2 黒褐色土 汚れたローム粒を多く含む。
- 3 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム小塊を多く含む。
- 4 にぶい、黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒を多く含む。

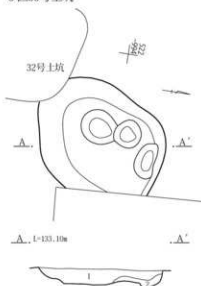
6区32号土坑



6区32号土坑

1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。

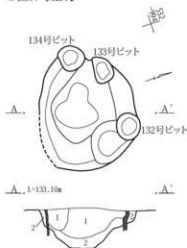
6区35号土坑



6区35号土坑

- 1 暗褐色土 汚れたローム粒を多く含む。
- 2 暗褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多く含む。

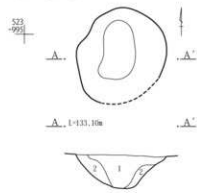
6区37号土坑



6区37号土坑

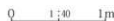
- 1 黒褐色土 ローム粒・小塊を多く含む。
- 2 にぶい、黄褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を多量に含む。

6区34号土坑



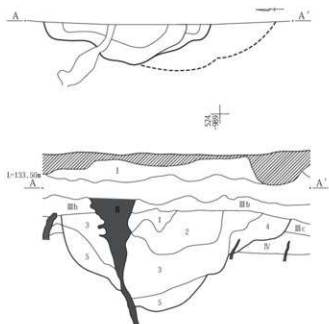
6区34号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒・ローム塊を少量含む。
- 2 にぶい、黄褐色土 汚れたローム粒を僅かに含む。



第75図 6区30～32号・34号・35号・37号土坑平・断面

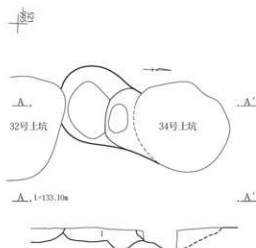
6区36号土坑



6区36号土坑

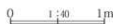
- I 暗灰褐色土 耕作土。
 II 黒褐色土 小粒の白色粒、橙色粒を多量に含む。
 IIIb 暗褐色土 縄文時代の遺物を含む。
 IIIc 褐色土 ローム漸移層。層下位にAs-YPを含む。
 IV 暗黒褐色ローム
 1 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。
 2 にぶい黄褐色土 ロームを主体とする。
 3 暗褐色土 汚れたローム粒を多く、ローム中塊を僅かに含む。
 4 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
 5 暗褐色土 汚れたローム粒・ローム小塊を多く含む。

6区38号土坑



6区38号土坑

- 1 黒褐色土 汚れたローム粒を多く含む。



第76図 6区36号・38号土坑平・断面

東側を試掘トレンチで壊されており全形はとらえられなかったが、楕円形と推定される。6区の南部で、6区32号土坑と重複して検出されたが、35号土坑が古い。上層はローム粒を多く含む暗褐色土で、下層はローム粒・塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区36号土坑(第76図 遺構一覧表P.133)

6区36号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区中央やや南で検出された。東半分が調査区域外となり全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。上層はローム粒・塊を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土で、下層はローム粒・小塊を多く含む暗褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

6区37号土坑(第75図 遺構一覧表P.133)

6区37号土坑は楕円形の土坑で、断面形は椀状である。6区中央で検出された。6区132号、133号、134号ピットと重複して検出されたが、いずれのピットよりも37号土坑が古い。上層はローム粒・小塊を多く含む黒褐色土で、下層はローム粒・塊を多量に含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

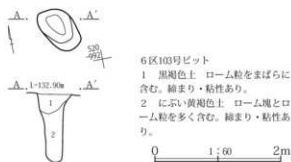
6区38号土坑(第76図 遺構一覧表P.133 PL.28)

6区38号土坑は楕円形の土坑で、断面形は皿状と推定される。6区の南部で、6区32号、34号土坑と重複して検出された。38号土坑がいずれの土坑よりも古い。ローム粒を多く含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(2)ピット(第77図 遺物一覧表P.141)

6区では全部で134基のピットが検出されたが、埋没土を分類して記録した。その分類によって、大半は古代以降のピットであることが判明したが、6区103号ピットのみ、古墳時代以降の軽石粒を含まない固く締まった埋没土の特徴から縄文時代のピットである可能性が高いと判断し、土層断面図を記録した。

6区103号ピットは長軸0.76m、短軸0.50mの楕円形で、1.08mの深さに掘られていた。ローム粒・塊を含む黒褐色土で埋まっており、他の縄文時代の住居や土坑と類似していた。周囲には複数の土坑が重複してあり同規模の30号土坑もあったが、時期や構造物の有無は明らかできなかった。遺物は出土しなかった。



第77図 6区103号ピット平・断面

(3)遺構外出土遺物

6区では、遺構に伴わない状態で縄文時代の遺物が出土した。出土した遺物は北半部の6区-1で土器破片190点、石器類8点、南半部の6区-2で土器破片21点、石器類3点、合計土器破片211点、石器類11点である。土器の細別型式や石器類の器種ごとの点数は第4表(P.143)・第7表(P.151)遺物一覧表に記載した。

ここでは、6区の遺構外出土土器・土製品と石器類を型式・器種を分類した上で、全体傾向を示せるように土器17点、石器1点を選択して、掲載・報告した。

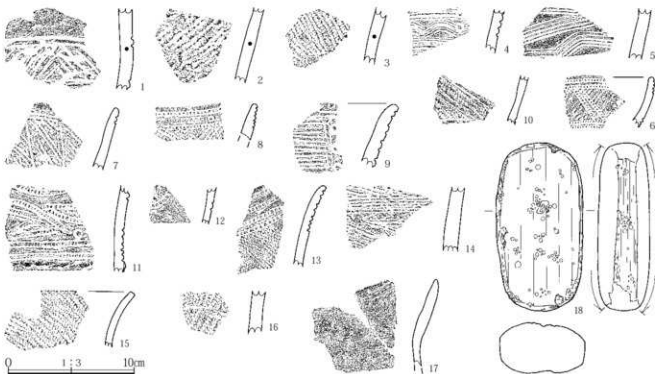
土器・土製品の個々の観察については本文で、石器の観察は第5表(P.148)に記載した。土器および石器の全体的な傾向は、第4章でまとめた。

出土土器(1~17)(第78図 遺物一覧表P.143 PL.48)

包含層中からの出土土器量は、総量211点を数え、前期中葉期24点、前期後葉期187点である。出土の傾向としては、6区の北側(6区-1)から出土するものが多く、南側(6区-2)では少ない状況にあった。

出土土器の内、17点を図示し以下に記す。

1~3は胎土に繊維を含み、1は胴部に平行沈線を描らせて胴部文様帯を区画し、区画帯内に鋸歯文を描く。2は胴部にLの縄文、3はRLの縄文を施す。これら1



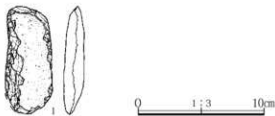
第78図 6区遺構外出土遺物

～3は黒浜式土器である。

4～17は胎土に繊維を含まない。4・5は口縁部に条線と平行沈線と波状沈線を巡らせ、4には縦位の円形刺突を配する。6は内反ぎみの平口縁の口縁部に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を巡らせて文様帯を区画し、区画帯内に鋸歯文を描き、地文にL R(0段多条)の縄文を施す。7は波状口縁の口縁部に平行沈線と縦位区画し、区画内に斜位の平行沈線を描く。8は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を2段巡らせ、口縁部に斜位の平行沈線を描き、円形刺突を配し、地文に縄文を施す。9は平口縁の口縁部に縦位の円形刺突を配して区画し、区画内に横位の平行沈線を充填する。10は口縁部に斜位の平行沈線を描き、地文にR Lの縄文を施す。11・12は口縁部に爪形刺突をもつ平行沈線と木の葉文を描き、11には円形刺突を配する。13は波状口縁の口縁下に細い半截竹管具による爪形刺突をもつ平行沈線を4段巡らせ、以下の胴部にR Lの縄文を施す。これら4～13は諸磯a式土器。14は胴部に半截竹管具による条線状の平行沈線を巡らせ、横位矢羽根や曲線的な文様を描き、地文に縄文を施す諸磯b式土器。15は平口縁の口縁下にR Lの縄文を、16は胴部にL Rの縄文を施す。17は波状口縁を呈し、頸部が括れ、胴部がやや膨れる無文の土器である。

出土石器(18)(第78図 石器観察表P.148 PL.48)

6区遺構外から出土した石器類は、石器1点、剥片10点(153.34g)であった。内訳は6区-1で石器1点、剥片7点(118.02g)、6区-2で剥片3点(35.32g)であった。6区で確認できた石器は石英閃緑岩製の凹石1点(第78図)であった。また、剥片は黒曜石剥片1点(22.38g)、チャート剥片1点(0.13g)、黒色頁岩剥片1点(5.65g)、ホルンフェルス剥片7点(125.18g)であった。他に区不明のホルンフェルス製の打製石斧(第79図1)が出土した。



第79図 遺構外出土遺物

第4節 古代以降の遺構と遺物

1. 概要

北山遺跡の弥生時代以降の状況については、不明な点が多い。これまでの調査では弥生時代以降の明確な遺構が検出されたことはない。みどり市教育委員会の発掘調査でも、平安時代以降のピットや地割れ跡を2011年の発掘調査で検出したにとどまっている。

今回の調査でも、検出された古代以降の遺構は、2区～6区で検出されたピット527基、2区で検出された1号溝1条、3区と6区で顕著に検出された地割れ痕跡のみであった。

ピットは平面図および底面標高を計測し、埋没土の種類をおこなって記録とした。掘立柱建物等の構造物の柱穴と断定できる遺構はなかった。分類した埋没土の記号と記載は下記の通りである。いずれも縄文時代以降の埋没土とは異なっていた。

A：黒色土(10YR2/1)を主体とする。基本層序のⅡ層に由来するか。

B：黒褐色土(10YR3/2)を主体とする。基本層序のⅢb層に由来するか。

C：黒色土にローム塊・粒がやや多量に混じる。

D：埋没土は不明であるが縄文時代の遺構ではない。

上記の記号はP.134～141の遺構一覧表に、内容は第81～83図の平面図に第82図の凡例のように図に示した。

地割れは人為的な遺構ではないが、自然災害との関連で重要な痕跡であり、特に赤城山南麓から東麓にかけては弘仁九(818)年の地震に起因する地割れや泥流と遺構との関連が注目されていることから、今回も平面図の記録をおこなった。今回の調査では直接的な遺構との関連はつかめなかった。

ここでは、第3節と同様に区ごとに検出遺構の記載をする。

2. 2区

2区では、溝1条、ピット284基を検出した。また南端部で地割れ痕跡を1条検出している。これについては3区・6区で詳述する。

(1)溝

2区1号溝(第80図 遺構一覧表P.141 PL.12)

2区1号溝は2区-3中央やや南寄り、縄文時代前期の2区3号・5号住居と重複して検出された。上幅0.68~0.96m、下幅0.53~0.80m、深さは3号住居西の発掘区西壁での計測で1.17mである。発掘区内を北西から南東方向に掘られた溝で、5.80mを調査することができた。

掘り込み面はII層上面であり、埋没土を1層が覆っていた。上層はローム粒を微量含む砂汁の黒褐色土、下層はローム粒を微量含む粘質黒色土で埋まっていた。底面標高は北西端で132.65m、南東端で132.30m、高低差は0.35mあるが、砂礫の堆積は見られないことから、水路ではなく区画溝と推定される。

遺物は出土しなかったことから、時期は不明であるが、II層を掘り込んでいることから近世以降の溝と推定される。

(2)ピット(第81図 遺構一覧表P.134~138 PL.1~3)

2区の古代以降のピットは284基が検出されている。2区全体に検出されているが、2区-2と2区-3の東半部にある凹地内には分布していなかった。2区北半部には埋没土Aの小規模なピットが多く検出されたが、南半部は比較的大きな埋没土A~Dのピットが混在していた。遺物は77号ピット、156号ピットから諸磯a式土器破片が出土したのみで、ピットの時期は不明である。

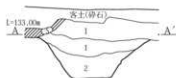
3.3区

(1)ピット(第82図 遺構一覧表P.138 PL.13)

3区の古代以降のピットは34基が検出されている。北半、特に北から10mほどの範囲に偏在して検出された。ほとんどは埋没土Aのピットで、埋没土Bが7基、Dが1基含まれていた。遺物は出土していないので、時期は不明である。

(2)地割れ(第82図 PL.15)

3区の中央やや北よりから南端にかけて、10数条の不定型な溝状の落ち込みを検出した。方向がN-50°-W前後で一定であり、不定型な形状から地震に起因する地割れと推定される。時期の分かる遺構との重複関係はと

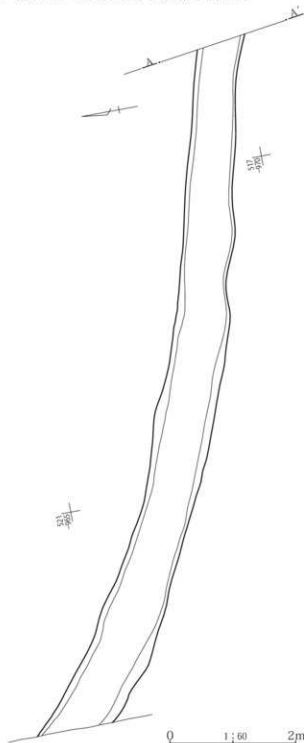


2区1号溝

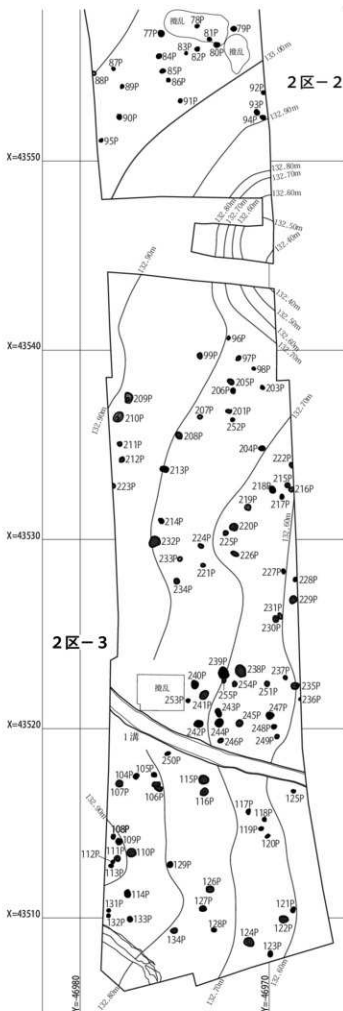
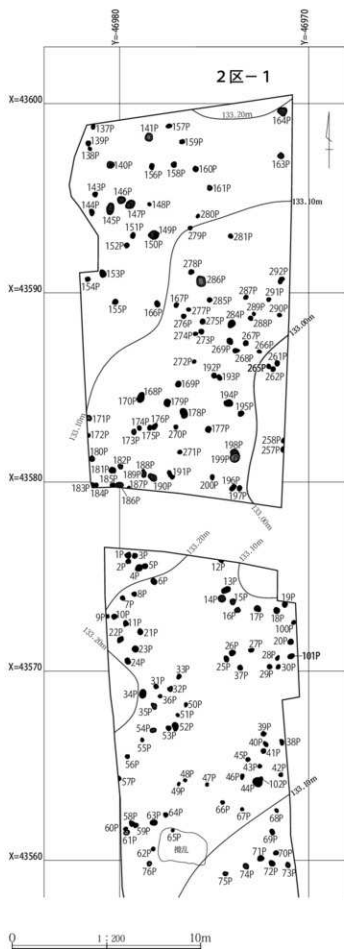
1 暗灰褐色土 耕作土。白色粒(φ2.0~5.0mm)を多量に含む。締まり非常に硬い。粘性なし。

1 黒褐色土 ローム粒を微量含む。砂質。締まりやや弱い。粘性ややあり。

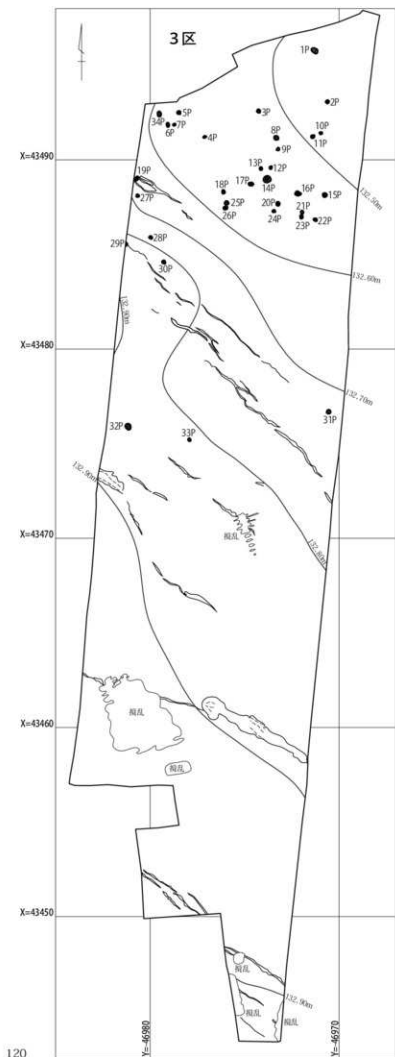
2 黒色土 ローム粒を微量含む。締まり弱い。粘性あり。



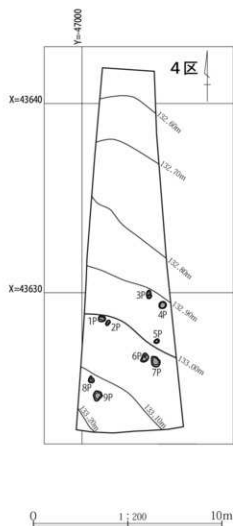
第80図 2区1号溝平・断面



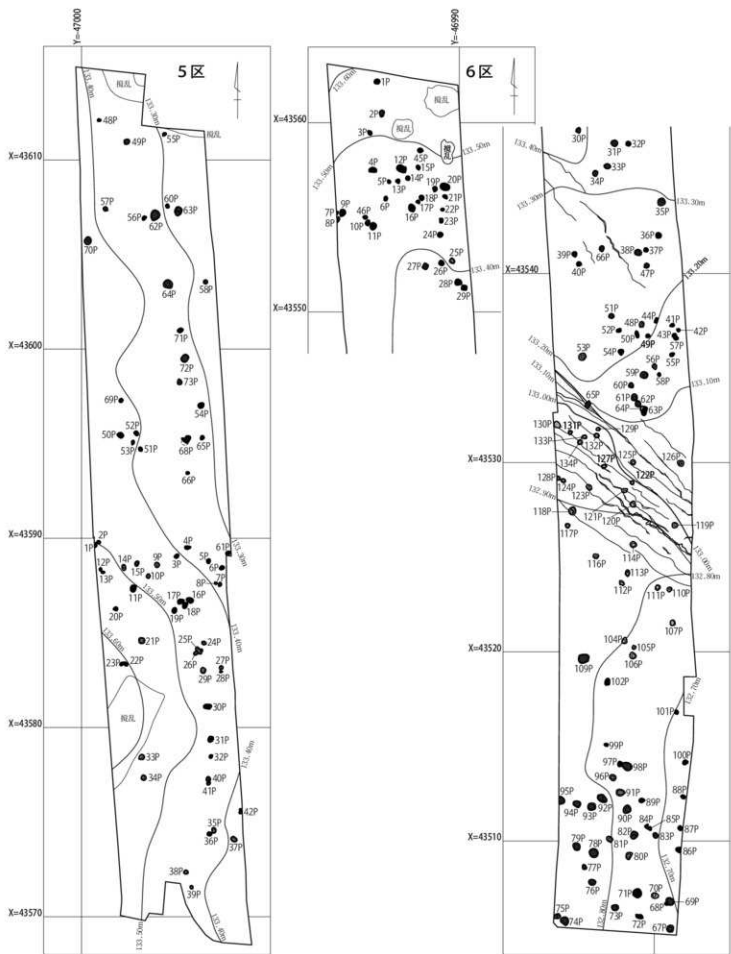
第81图 2区古代以降全体图



- 凡例
- 埋没土A
 - 埋没土B
 - 埋没土C
 - 埋没土D



第82图 3区·4区古代以降全体图



第83図 5区・6区古代以降全体図

第3章 検出された遺構と遺物

えられなかったので確定はできないが、この地割れも赤城山南東麓を襲った弘仁九(818)年の地震に起因する地割れの可能性が高い(文献17)。

4. 4区

(1)ピット(第82図 遺構一覧表P.138 PL.15・16)

4区の古代以降のピットは9基が検出されている。南半部に偏在して検出された。すべて埋没土Dのピットである。遺物は出土していないので、時期は不明である。

5. 5区

(1)ピット(第83図 遺構一覧表P.138・139 PL.19・20)

5区の古代以降のピットは67基が検出されている。全体に分布しているが、北部には埋没土Bのピットが、中央から南半部にかけては埋没土Aのピットが、南部には埋没土AとCのピットが多く分布する傾向があった。遺物は22号ピット、42号ピット、43号ピット、46号ピット、55号ピット、74号ピット、75号ピットから諸磯a式土器破片が、15号ピット、43号ピット、76号ピットから諸磯b式土器破片が出土したのみで、ピットの時期は不明である。

6. 6区

(1)ピット(第83図 遺構一覧表P.139～141 PL.23・24)

6区の古代以降のピットは133基が検出されている。全体に分布しているが、北部には埋没土Aのピットが、中央やや北寄りには埋没土AとBのピットが、中央からやや南にかけては埋没土Dのピットが、南部には埋没土A～Cのピットが混在して多く分布する傾向があった。遺物は22号ピット、33号ピットから黒浜式土器破片が、57号ピットから諸磯a式土器の細片が1点、62号ピットから諸磯a式土器破片が出土したのみで、ピットの時期は不明である。

(2)地割れ(第83図 PL.23)

6区の中央部で、やや方向を異にする2群の不定型な溝状の落ち込み群が検出された。北側はN-30°-W

の方向の2条である。南側は方向がN-50°-W前後の10数状である。いずれも方向が一定であり、不定型な形状から地震に起因する地割れと推定される。縄文時代の13号土坑や37号土坑の底面がずれており、縄文時代前期より新しいことがわかる。古代以降の時期の分かる遺構との重複関係はとらえられなかったので確定はできないが、この地割れも赤城山南東麓を襲った弘仁九(818)年の地震に起因する地割れの可能性が高い(文献17)。

2区南端、3区、6区の地割れの状況からみて、かなり広範囲に遺跡周辺が地震災害を受けたことが推定される。

第4章 北山遺跡調査の成果(総括)

第1節 遺構について

1. 縄文時代遺構の分布

北山遺跡は、阿左美沼と東貯水池のある東西2条の開析谷に挟まれた台地上にある(第84図)。赤城火山の梨木岩屑堆積物からなる地形であることから、浅海八幡宮のある流れ山や、現在東邦病院のある北山、北東部にある諏訪山など小高い丘がある以外は、北西から南東方向に緩やかな傾斜をもつ台地である。東西両側には開析谷が南北方向に刻まれ、そこから入り込む小規模な開析谷によって台地面が区切られているようにも見える。遺跡の範囲は台地全体に及んでいる。

今回の北山遺跡の調査で検出された遺構は、旧石器時代の土坑が3基、縄文時代前期前葉から後半の竪穴住居が6軒、掘立柱建物1棟、土坑162基、縄文時代以降のピット552基、中世以降の溝1条である。この中でまとめて検出された縄文時代の遺構の分布について、本節でまとめておこう。

北山遺跡の今回の発掘調査は、主要地方道桐生伊勢崎線のバイパス工事に伴うものであった。北山遺跡周辺では新たな道路の敷設ではなく、従来の道路の拡幅工事となったことから、既存の道路を維持しつつの発掘調査となった。したがって調査区が分断されることとなり、遺跡の全体像が把握しにくい調査となった。一方で、北山遺跡は第2章第2節で述べたように、昭和44年の[国道50号桐生バイパスの建設用地内の発掘調査を皮切りに]数次の発掘調査が実施されており、北山遺跡の全体像が少しずつではあるが明らかになってきている。これらの成果のうち、縄文時代の遺構が検出された発掘区を中心に図化したのが第84図である⁽⁸¹⁾。

今回の発掘区1～6区(平成22年度調査区③)は遺跡の範囲のほぼ中央にあたり、西の開析谷から入り込む2条の小さな谷頭に挟まれた丘の東斜面にある。小丘には現在東邦病院が建てられているが、元の地形はこの部分が最も高く東に傾斜していた。また東側の開析谷から発掘

区方向にも小規模な開析谷が入り込んでいる。

縄文時代の遺構が検出されたのは2区・5区・6区である。1区では駐車場の造成により不明な点が多く、北部の4区および台地南端付近となる3区においては遺構の分布は希薄であった。このような状況から本調査地の西側にある東邦病院の建物付近を頂点とした東へ延びる緩傾斜面に、縄文時代前期の集落が展開し、東から入り込む小規模な開析谷の谷頭周辺に遺跡が立地していることが想定できる。

それぞれの調査区で検出された縄文時代の遺構分布や遺物出土状況をまとめると、下記の通りである。

昭和44(1969)年調査区(国道50号桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会調査)では遺構は検出されなかったが、縄文時代早期の擦土土器である稲荷台式土器、夏島式土器、前期の黒浜式土器、諸磯式土器、浮島式土器、中期の阿玉台式土器、加曾利E式土器、後期の堀之内式土器が出土している。

昭和54(1979)年調査区(旧笠懸村教育委員会調査)では、後述するように旧石器時代の石器ブロック1か所と表土中からではあるが早期の戸下層式土器、前期の黒浜式土器、諸磯式土器、中期の加曾利E式土器が出土した。駐車場の造成工事で遺構の大部分は破壊されたと推定されている。遺構の検出はできなかったが、遺物出土地点の位置からすれば縄文時代前期の遺構分布が台地北西縁まで及んでいる可能性もあるだろう。

平成22(2011)年調査区①(みどり市教育委員会調査)では、縄文時代早期の穴穴1か所と平安時代の土坑が検出された。また、同年調査の別地点②では縄文時代前期諸磯c式期の住居1棟、諸磯b～c式期の土坑7基、数基のピットが検出されるにいたって、縄文時代の集落の様相が具体的に変わった。

そして、同じ平成22(2011)年に発掘された、今回報告する調査区③(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査)で縄文時代前期関山I式期の住居1棟、諸磯a式期の住居2棟、黒浜式期の住居2棟、時期不明の住居1棟と、諸磯a式期の住居より新しい縄文時代の掘立柱

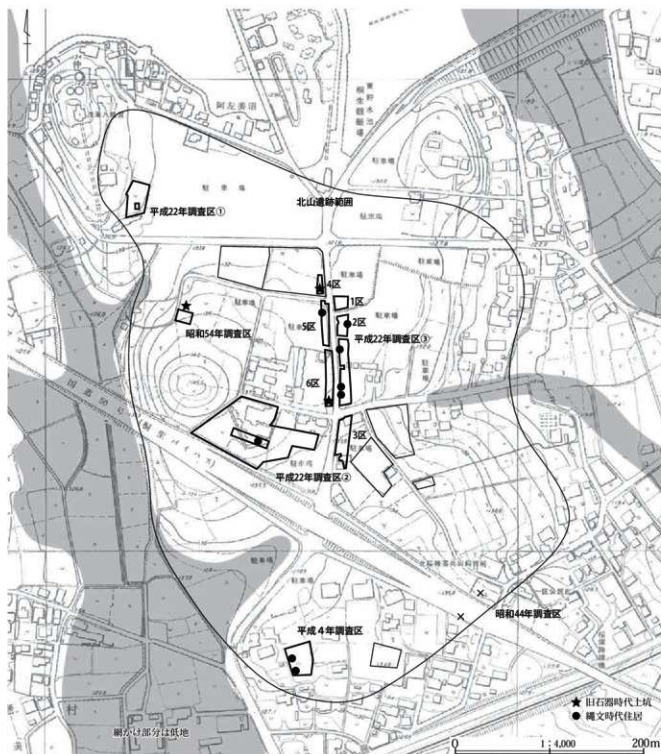
第4章 北山遺跡調査の成果(総括)

建物1棟、黒浜式期あるいは諸磯a式期の間の時期と推定される土坑162基が検出されて、北山遺跡における縄文時代前期の一つの集落の中心部が明らかになった。

以上のような調査成果から、北山の台地中央から東半部にかけて縄文時代前期の複数の時期で、いくつかの遺構群がまとまって散在している様相が明らかになってき

たといえよう。

遺跡の南部にある小開析谷の南側の平成4(1992)年調査区(笠懸町教育委員会調査)では、縄文時代中期加曾利E式期の住居1棟、土坑1基が検出されており、やや南に離れた地点では中期の遺構分布が及んでいたことも明らかになっている。今後の周辺の調査にあたっては遺跡



第84図 旧石器時代・縄文時代の遺構分布 旧笠懸村1/2,500地形図昭和40年代測量

全体に展開する縄文時代遺構の分布を念頭において実施することが必要となろう。

(註1)遺跡の調査内容については、みどり市教育委員会文化財保護課 萩谷千明氏のご指示を得た。

2. 旧石器時代の土坑

今回の北山遺跡の調査では関東ローム層中の二つの層位で土坑状の落ち込み3基を検出した。4区北半で検出された5号・6号土坑はAs-BPをブロック状に含むVII層上面で確認された。6区-2の南半で検出された33号土坑は暗色帯(X層)上面で検出された。

群馬県内で検出された旧石器時代の土坑については、平成24(2012)年3月に刊行された『上武道路・旧石器時代遺跡群(3)』(文献42)で自然現象の凹地と人為的な土坑の相違を再検討したうえで、10基が集成されている。集成には今回報告する北山遺跡の4区2の2例も含まれている。ここでは北山遺跡6区で検出された1基(33号土坑)を加えた11基の土坑図面を集成し、群馬県内で検出された旧石器時代の土坑について、規模や層位をまとめておきたい。なお、芳賀東部団地遺跡D区集石土坑は「縄文期・集石土坑と変わるところがない」とされる遺構で、他の遺構に比べて小規模で性格も異なると思われるが、検出層位が類似することから、参考資料として集成には含めた。

『上武道路・旧石器時代遺跡群(3)』では10基の土坑について検出された層位で分けて記載している。一つは「AT降下期以前に遡る」勝保沢中ノ山遺跡2号・3号土坑(文献40)、二つ目は「群馬IV期段階」(文献44)の二之宮宮下西遺跡1～3号土坑(文献39)、北山遺跡4区5号・6号土坑(本報告)、三つ目は「V期段階」の上原遺跡KP-1号・KP-2号土坑(文献43)である。形態からみると、AT降下期以前に遡るとした勝保沢中ノ山遺跡2号・3号土坑は断面漏斗状で、明らかに本例は大きさや形状、層位が他の土坑と異なり、他県例との共通性からも別タイプとするのは妥当な見解といえよう。

「群馬IV期段階」の二之宮宮下西遺跡1～3号土坑、北山遺跡4区5号・6号土坑、「V期段階」の上原遺跡KP-1号・KP-2号土坑はいずれも直径80cmほどの円形の土坑で、第85図に示したように概ね同規模の土坑であることが確

認できる。今回の報告書で追加した北山遺跡6区33号土坑も形態・規模からすれば、この「円形タイプ」に入ると思われる。

北山遺跡4区5号・6号土坑の埋没土はAs-BPを含む暗黄褐色土ローム(VI・VII層と同質)が壁際に三角堆積したのち、明るい褐色ローム土が流れ込んだ状態で埋没していた。この流入土には少量だが白色バミスが含まれており、As-BPを含む基本土層VI層に比べて明るい色調を呈していた。土坑上層を埋めるこの明褐色ローム層は本遺跡を含む赤城山東南麓の旧石器遺跡では確認されていないが、同質のローム層が赤城山西南麓の旧石器遺跡(文献42)においてはAs-BP・As-0k1間の間層としてあり、これが土坑の凹部に堆積したということかもしれない。土坑の構築時期については少なくともAs-BP降下より新しい時期の土坑とすることができるとは、土坑を埋めるローム層中の白色バミスがAs-SP(浅間白糸軽石、As-0k1の下位に堆積)と火山灰同定されれば、その構築時期がより明確となるだろう。

一方、北山遺跡6区33号土坑の検出層位は暗色帯(北山遺跡基本層序のX層)上面であり、As-BPグループのテフラが介在する地層に対比される北山遺跡基本層序のVII層・VIII層が覆っていることから、群馬旧石器編年(文献44)の概ねII期に相当する。『上武道路・旧石器時代遺跡群(3)』では、IV期に円形の土坑が増加するとされたが、この北山遺跡6区33号土坑はやや古い時期になる。本土坑を含む旧石器時代の土坑全体の動向については今後の資料増加を待つこととなろう。

また、北山遺跡では、昭和54(1979)年におこなわれた阿左美沼鏡蝦場に関係する有料駐車場造成工事に伴う発掘調査区で群馬旧石器編年のV期に相当する旧石器が出土している^(註2)。

この石器ブロックと今回報告した土坑の空間的關係は、台地西縁の小丘の裾部を東へ回り込んだ位置になり、4区の土坑が140m、6区の土坑が180m離れた位置にある。層位的にも三者は異なるので直接の關係は考えられない。石器ブロックと土坑の分布から、土坑の性格に迫ることは難しいと言わざるを得ない。旧石器時代の遺構については不明な点が多く、その機能・用途を断定するまでに至っていない。現状では群馬県内で検出されてい

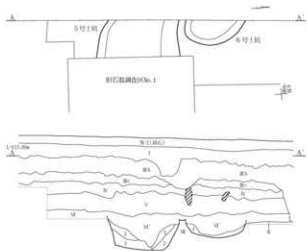
第4章 北山遺跡調査の成果(総括)

る旧石器時代の土坑には2タイプがあり、時期も群馬旧石器編年のⅡ～Ⅴ期にわたっていることが確認できたといえよう。今後の調査においては積極的な遺構検出と性

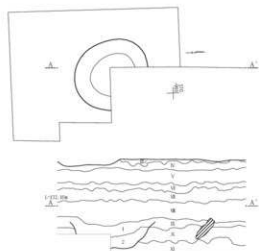
格究明への問題意識が重要となる。

(註2)石器の時期については岩崎泰一氏のご教示による。

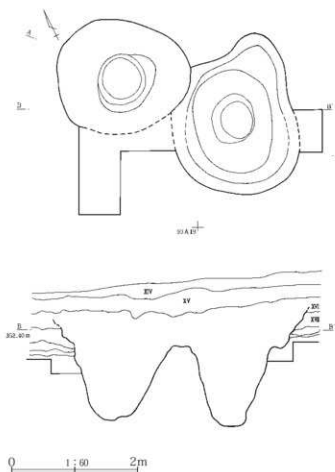
北山遺跡4区5号・6号土坑



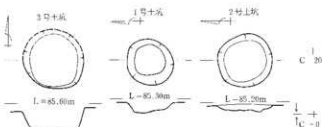
北山遺跡6区33号土坑



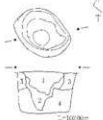
熊保沢中ノ山遺跡2号・3号土坑



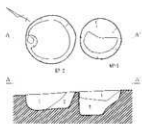
二之宮宮下遺跡4区1～3号土坑



富田西原遺跡65号土坑



上原遺跡6区KP-1 KP-2土坑



芳賀東部団地遺跡
D区集石土坑



第85図 群馬県内で検出された旧石器時代の土坑

第2節 縄文土器について

今回の調査において出土した縄文土器は、前期の黒浜式新段階から諸磯a式およびb式にかけての土器群が主体を占めていることは前述した通りである。これらの土器群について、若干の検討を加えておきたい。

まず、黒浜式新段階から諸磯a式土器への変遷に関わる点である。県内の黒浜式新段階の土器群については、これまで論議されることは少なかった。1997年に開催された第10回縄文セミナー「前期中葉の諸様相」においても、論議の主眼は黒浜式古段階期にあり、特に有尾式土器の変遷が主であった。黒浜式新段階の土器としては、糸井宮前遺跡100号住居および118号住居出土の米字文の土器(口端部が僅かに内反し、口縁部文様が二帯に分かれ、各帯には地文変換点に爪形刺突をもつ平行沈線帯が縦面画され、各区画内に縄の条に並行するように爪形平行沈線帯を箇函状に配し、口縁部文様としては米字文を構成させる。また、縦面画の接点には円形刺突が配される。)が当前期の土器として認識されているものの、資料数が少なくその様相は不明な点が多い。

本遺跡においても、第34図19~21に示した土器が同様な土器であるが、その出土量は極めて少ない。黒浜式新段階に位置づけられた2区3号住居出土土器には、この種の米字文の土器は含まれず、むしろコンパス文の施される土器が目につく。諸磯a式には黒浜式新段階からの米字文系土器が存続することは認知されており、黒浜式新段階の細分は可能性もあるが、現段階での県内における細分には資料が未だ乏しく、とりあえずこれらの土器群を黒浜式新段階として包括しておくざるを得ない。

近年の細田勝の論考「関東縄文前期後半期の系統性と連鎖関係—黒浜式と諸磯a式をめぐる諸関係—」『埼玉の考古学Ⅱ』(2006)にもあるように、黒浜式終末期の良好な遺構一括資料として埼玉県天神前遺跡5・18・26号住居での附加糸縄文の米字文対応の土器に繊維を含むものも多く、縄文地文の粗製土器には無繊維土器のものが多い傾向が見受けられ、群馬県中棚遺跡N-J-1出土資料では無繊維の諸磯a式古段階と繊維を含む米地文系土器という異系統共存関係がある。同様な状況は他の遺跡にも見られ、含繊維・無繊維の関係には地理的位置関係と共に他遺跡との系譜関係を反映している可能性が示唆され、同時に、諸磯a式の典型的組成とされている埼玉県塚屋遺跡10号住居を例に、

米字文系の繊維土器とそれ以外の無繊維土器の共時性を説いている。つまり、黒浜式終末期の土器と諸磯a式古段階の土器は、遺構内で供伴関係にある例が散見でき、同時存在することが明らかとされた訳で、今後の新たな検討が要とされる。本遺跡での黒浜式新段階とした土器群が、黒浜式終末期とするには無理であろう。2区3号住居出土土器をみても、諸磯a式古段階の要素の土器は全くない点で明らかである。しかしながら、県内でのこの時期の再検討が迫られていることは事実であり、そのために本資料は重要な意味づけとなろう。

次に、諸磯a式とした中に、刻みをもつ降帯を有する土器の存在である。第20図2区2号住居27~29、第37図2区50号土坑1・2、第45図2区遺構外91、第46図134・139、第47図154・165・166、第48図191~200、第66図5区遺構外18・22、第70図6区11号土坑9、第71図6区12号土坑17~19、第72図6区17号土坑2、第78図6区遺構外11がその土器であり、第37図2(2区50号土坑)71や第45図91(2区遺構外)に代表されるように口縁部の文様帯を区画する位置に巡らされる場合が多く、第47図154・165(2区遺構外)、第66図18(5区遺構外)・第78図11(6区遺構外)のように口縁部文様帯の下端を区画する位置に巡る例もある。

同様な資料として、群馬県清水山遺跡1区2号住居や埼玉県米島貝塚6号住居出土土器にも散見できるが、その出土量が少ないことからこれまで余り注目されていない土器である。この刻み降帯は、降帯が高いものや低いものも存在するが、いわゆる諸磯b式に特徴的な浮線文とは施文位置からして大きく異なる。しかし、降帯上の刻みのあり方は、斜めに刻むという点で類似性をもち、同一系譜上にあることを予測させる。従来、浮線文の出現をもって諸磯b2式とされてきている。

一方、山内清男の先史土器図譜には、諸磯a式土器として口縁部と胴部に口縁部文様帯を区画する刻みをもつ降帯が巡る土器が示されている。この先史土器図譜の土器からすれば、諸磯a式に刻み降帯をもつことは明らかであり、本遺跡資料や清水山遺跡・米島貝塚例も同様な資料として考えることができよう。むしろ、諸磯b式での代表的な施文文様である浮線文の系譜・変遷、あるいは起源の問題として、再度の検討が必要とされている状況が生じているものと考えられる。そういった意味でも、今回の資料は今後に向けた価値のあるものと評価できよう。

第3節 縄文時代石器について

北山遺跡では、住居・土坑出土の石器として31点が、包含層出土石器として132点が出土した。また、住居・土坑から74点(384.8g)、包含層から511点(5967.1g)の剥片類が出土している。出土した主な石器は、石鏃22点・石槍1点・石匙3点・石鎌4点・削器11点・加工痕ある剥片39点(以上、剥片系石器)、凹石13点・磨石11点・敲石5点・石皿5点・スタンプ形石器2点・多孔石2点(礫石器類)である。石製装身具として瑛状耳飾り1点・玉1点も出土している。住居・土坑出土石器の帰属時期については、概ね縄文時代前期を中心にした各遺構に伴う石器として考えているが、包含層出土の石器については、包含層中から縄文時代早期から中期にかけての上層片類も出土しており、多時期のものが混在していると考えられる。

個別住居毎の器種構成は剥片系石器と礫石器類からなり、特に指摘すべきことはない。土器の出土量(1号住居43点、2号住居246点、3号住居249点、4号住居15点、5号住居13点)と石器の出土点数・器種構成は関連しており、土器片量が多い住居ほど石器の出土点数も多い傾向にある。土坑出土石器は171基中12基から16点が出土しただけで、5-2区15号土坑(加工痕ある剥片3点)や6-1区12号土坑(打製石斧・削器・磨石各1点)を除いて、各土坑とも石器の出土量は少ない。基本的に、土坑は住居周辺や東側から入り込んだ谷頭に群在する傾向があり、土器片量が多い土坑は廃棄土坑ということになるが、剥片類の多い土坑は5-1区20号土坑や6-1区11～14土坑があるだけで、データの多い土器も石器も同時に廃棄されるということではないようである。現状で、出土状態から墓坑とされるようなものはないが、2-1区1号土坑のみ石皿(第29図2)が挿出し口を横にして直立気味に出土しており、人為的・意図的なものとして見ることができると考えられる。

包含層出土の剥片系石器については、その帰属時期が常に問題とされている。本遺跡の包含層出土土器の時期を見ると、5108点中に、黒浜式期の土器440点(8.6%)、諸磯a式期の土器4260点(83.4%)点が出土しており、厳密には2-2区～3-1区で黒浜式期の土器片が、2-1・2区に中期土器片類が分布する傾向にある。このことから、早期の石器と考えられる鎌形鏃や中期の例が多い分銅型

の打製石斧などを除いた石器類の大部分は前期後半期(黒浜式期～諸磯a式期)のものとして見ることができると考えられる。以下、包含層出土の石器について、その器種構成・石材構成の概要と傾向を述べておこう。

包含層出土の石器には、上述したとおり縄文時代石器の各種がある。器種構成から見ると、個別石器製作などに特化したような遺跡ではなく、集落を維持する上で必要な生産具が出土しているということであり、また、これに伴う剥片類は集落で不足した石器類の補充という観点で捉えるべきものだろうと考えている。区別に見た石器・剥片類の出土量は、石器類:2-1区80点・2-2区34点・2-3区10点・2-4区4点・3-1区1点・5-1区15点・5-2区6点・6-1区6点、剥片類:2-1区329点(1159.8g)・2-2区79点(2618.8g)・2-3区14点(84.2g)・2-4区1点(1.6g)・3-1区1点(35.8g)・5-1区77点(752.2g)・6-1区7点(118.0g)・6-2区3点(35.3g)となり、石器類・剥片類とも2-1区が圧倒的であることが分かる。石器剥片類の出土量は基本的に相関関係にあることが明らかであるが、これに区別剥片類の重量を加味してみると、2-1区では329点、1159.8gで、2-2区では79点、2618.8gとなり、点数/重量比が逆転していることが分かる。これは2-1区の剥片類では、黒曜石製剥片類(167点、平均重量0.65g)やチャート製剥片類(94点、平均重量2.1g)が主体を占めるためである。このことを踏まえ、石鏃その他の小形石器類の製作・廃棄地点としての性格を2-1区に想定してみたが、剥片類(破片類を含む)の出土量からみると、これらについては少なくとも遺跡内製作されていることは確かされたものの、特定の地点・範囲に剥片類が集中しないこと、また、上記石材以外の石器剥片類と混在・分布していることから、製作・廃棄地点としての本来的な姿は止めていないと判断した。

石器類と石材の対応関係を見ると、ホルンフェルスが打製石斧や削器と、チャートが石鏃・石鎌など小形石器類と対応関係にあることは明らかで、器種:石材レベルで言えばその使用石材は限定されていたことが分かる。上記2石材は渡良瀬川に濁沢であり、典型的な在地石材である。砂岩・砂質頁岩とされたものも在地石材として捉えることができるが、削器類の素材として使用されただけである。やや粗粒石材であることが小型石器の素材として敬遠されたということだろう。

これに対して非在地石材には2種類がある。一つは黒曜石であり、一つは黒色頁岩・黒色安山岩である。前者は珉品が含まれない良質な黒曜石で、肉眼レベルでは信州産とされるものであり、後者は利根川流域石材としてよく知られている。黒曜石については石鏃素材と使用されることが圧倒的である。石鏃8点には2点の木製品があり、石核としても2点が出土していることから、石鏃(狩猟具)の遺跡内製作は明らかであるが、すべてを自前で製作したのか、不足分を補充した程度か、については現状では判断が難しい。黒色頁岩・黒色安山岩については、黒色安山岩が石鏃・石匙の小形石器に、黒色頁岩が打製石斧や削器類に対応関係がある。両石材とも20km圏内に石材採集地があり直接採取も可能だが、石核としての出土は確認できていない。

通常、赤城山南麓の縄文時代遺跡では、もっぱら利根川流域石材(黒色頁岩・黒色安山岩など)を用いた石器製作が展開し、これに少量の非在地石材(黒曜石、碧玉類)製石器類が加わるのが一般的である。これを器種で見ると、黒色頁岩は石鏃から打製石斧まで広く使われ、黒色安山岩は打製石斧を除く小型石器類に使われることが明らかである。黒色頁岩は細部加工(石鏃)にも、衝撃(打製石斧)にも強い石材であり、石斧素材として使われない黒色安山岩は衝撃には弱い石材であるということができよう。本遺跡を含む渡良瀬川流域に立地する縄文時代遺跡ではホルンフェルスが黒色頁岩に、チャートが黒色安山岩に代わるものとして使われたことになる。

個別石器については、多時期ものが混在している可能性を指摘した。片刃打製石斧(第52図337)や分銅型打製石斧(第52図336・PL43-384)、鎌形鏃(第67図61)、スタンピング石器(第53図360・361)がそれで、片刃石斧は早期後半から前期初頭、分銅型石斧は中期以降、鎌形鏃は押型文期、スタンピング石器は燃糸文期に帰属するものである。このほか、多孔石(第53図359)としたものがある。これは上面の平坦な礫面に漏斗状の孔を評価・認定したものが、礫面には摩耗面と打痕があり、本来的には台石としての使用が想定されるものである。出土地点が2-1区であり、中・後期に多い分銅型の石斧や中期土器片が少量だが同地点に出土していることを踏まえれば、この種のタイプの石器も同時期に帰属するということになる。

その他の石器類は、基本的に前期後半期のものということができ、石鏃・打製石斧は集落を支えた主要生産具として捉えることができる。石鏃・石斧の大部分は完成状態にあり、未製品は石鏃5点、石斧1点と少ない。石斧18点は大部分が使用状態か、破損した状態で、ホルンフェルス製剥片類の出土量(包含層から91点が出土)を考えると、遺跡外で製作したものを遺跡に持ち込み、遺跡内では不足した石斧を補充する程度ということになる。形態的に見ると、石斧は短冊型・楕型、分銅型の三形態からなることが分かる。短冊タイプのは100g内外のものが大半で、分銅タイプのは300gを超え、明らかな重量差がある。楕型のは装着部を明確に意識したもので、完形で200g弱である。同タイプの石斧は6-1区12・13土坑(いずれも諸磯a式期の土器片多数が出土)にあり、短冊タイプの石斧に伴う可能性が高く、これが縄文時代中期の遺跡に散見されるようになる細い装着部に幅広い体部が取り付け石斧となるのかもしれない。

礫石器類では、凹石としたものに石皿破片を利用した可能性のあるもの(5-1区35号土坑、第64図2)があり注意を引いた。この石器は左側側面に敲打整形面をもつもので、表裏面とも平坦であることを特徴とする。特に側面の整形面は石皿側面の加工に酷似する。属性的に気掛かりであるのは石皿機能部(すり部)としての凹部が明瞭ではないことだが、背面右の下部付近が浅く窪んでいるようにも見え、これが石皿凹部の痕跡になるのかもしれない。ただ、この凹部も摩耗しているわけではなく、推測の域を出ないため判断は難しい。

以上、北山遺跡出土の縄文時代石器について、器種・石材構成、個別石器の帰属時期、前期後半期の石鏃・石斧類の製作状況についてその概要を述べた。削器を含む加工具類の製作についてここで述べるだけのものはないが、包含層出土石器類にホルンフェルス製の剥片類95点(2760.12g)、石核4点(1445.0g)があることから、ホルンフェルス製の石器は集落内で製作されたことは確実である。加工具類については遺跡内製作が基本的な製作の在り方とすることができるが、不足した石斧の製作時あるいは石斧再生時に出る剥片類を削器類の素材として使用することも充分可能であり、これが加工具類製作の実態ということなのであろう。

参考文献

- 1 群馬県教育委員会「Web版群馬県文化財情報誌システム」
- 2 桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会1974「桐生バイパス建設区域埋蔵文化財調査報告」
- 3 笠懸村教育委員会1980「笠懸村稲荷山道跡」
- 4 笠懸村教育委員会1983「笠懸村誌別巻1」
- 5 群馬県新田郡笠懸町教育委員会1993「笠懸町内道跡Ⅰ」
- 6 群馬県新田郡笠懸町教育委員会1995「笠懸町内道跡Ⅱ」
- 7 岩宿博物館2009「岩宿道跡はどのような道跡だったのか」
- 8 岩宿博物館2009「みどり市の縄文土器」
- 9 みどり市教育委員会2010「みどり市内道跡1」
- 10 みどり市教育委員会2011「みどり市内道跡2」
- 11 みどり市教育委員会2012「みどり市内道跡3」
- 12 桐生市教育委員会1996「桐生市文化財調査報告第17集」
- 13 桐生市教育委員会1997「桐生市文化財調査報告第18集」
- 14 桐生市教育委員会1998「桐生市文化財調査報告第19集」
- 15 敷塚本町教育委員会1988「堂ノ下道跡概報」
- 16 新里村教育委員会1984「新里村の道跡」
- 17 新里村教育委員会1991「赤城山麓の歴史地震」
- 18 赤城町教育委員会1991「平成2年度埋蔵文化財発掘調査概報」
- 19 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985「清水山道跡」
- 20 貝塚典平1958「関東平野の地形発達史」『地理学評論』第31巻第2号 P.59-85
- 21 町田 貞・大倉隼子1959「渡良瀬川上流域の河岸段丘堆積物について」『東京教育大学地理学研究所報告』 P.143-160
- 22 新井朋夫1962「関東盆地西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編第10巻第4号』 P.20-20
- 23 沢口 宏1966「大間々扇状地の地形発達史一予察一」『群馬県高等学校社会科研究会誌』第7号 P.12-24
- 24 沢口 宏1968「渡良瀬川の河岸段丘」『群馬県高等学校社会科研究会誌』第9号 P.40-47
- 25 沢口 宏1971「渡良瀬川流域の第四紀地形発達史」『群馬県教育センター紀要』第16号 P.102-111
- 26 塩島由植・大内俊二1978「北関東地方渡良瀬川流域の河岸段丘」『日本地理学会予稿集』第15号 P.112-113
- 27 高橋幸夫1983「第7章1 阿左美沼周辺の地形・地質」『笠懸村誌別巻一 資料編 自然編・原始古代編』 P.67-68
- 28 沢口 宏1984「第1章第2節地形・地質」『伊勢崎市史 自然編』
- 29 沢口 宏1985「第二章地形・地質、第三章土壌」『笠懸村誌 上巻』 P.3-43
- 30 新井朋夫1986「3.4 関東平野北部の更新統(3)大間々扇状地」『日本の地質3 関東地方』協立出版
- 31 早田 勉1990「第1章群馬県の風上-最終氷期の環境と地形形成 大間々扇状地と藤岡台地」『群馬県史 通史編1』 P.68-76
- 32 沢口 宏1991「第1章埴町の自然環境 第2節埴町の大地の姿と生い立ち」『埴町誌 自然』 P.5-38
- 33 澤口 宏1996「第一章第六節平野の地形・地質、第七節土壌、第八節水系と地下水、第九節地形環境」『太田市史 通史編 自然』 P.31-116
- 34 沢口 宏1996「第1章 地形」『大間々町誌 基礎資料編』 P.1-32
- 35 新井朋夫監修1999「群馬県10万分の1地質図」群馬県地質図作成委員会 内外地図株式会社
- 36 鈴木毅彦2007「2-4(2)渡良瀬川流域の地形」『日本の地形4 関東・伊豆・小笠原』財団法人東京大学出版会 P.83-85
- 37 山口敏夫2008「第2章阿左美沼と地域のふと 第1節地域の地形と阿左美沼の形成」『阿左美沼用水史/阿左美沼土地改良50年史編集委員会』 P.61-69
- 38 澤口 宏2010「大間々扇状地-社会基盤としての自然環境」『共同研究群馬県大間々扇状地の地域と景観』 P.7-17
- 39 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995「二之宮宮下西道跡」
- 40 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989「熊沢中ノ山道跡Ⅱ」
- 41 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「上武道路・旧石器時代道跡群(1)」
- 42 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「上武道路・旧石器時代道跡群(3)」
- 43 北橋村教育委員会2001「跋神道跡 箱田道跡群補遺」
- 44 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会2010「北関東地方の石器文化の特徴 予稿集」
- 45 安中市教育委員会1996「安中縦野平地区工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 中野谷松原道跡 縄文時代道跡編」

第3表 遺構一覽表

聚穴住居

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(ca)	
2区-2	1号住居	X=43,371	Y=46,976	楕円形	竈状~逆台形	N-10°-W	3.60	3.30	0.24	縄文時代前期後葉 諾畿 a 式副
		X=43,375	Y=46,979							
2区-1	2号住居	X=43,588	Y=46,971	不整楕円形	逆台形	N-85°-W	4.35	5.14	0.16	縄文時代前期後葉 諾畿 a 式副
		X=43,593	Y=46,976							
2区-3	3号住居	X=43,519	Y=46,975	方形	逆台形	N-13°-W	5.00	4.30	0.18	縄文時代前期
		X=43,524	Y=46,979							
2区-3	4号住居	X=43,520	Y=46,977	方形	逆台形	N-3°-E	6.54	(1.44)	0.24	縄文時代前期
		X=43,527	Y=46,979							
2区-3	5号住居	X=43,520	Y=46,975	方形	不明	N-77°-E	(2.50)	(1.80)	0.20	縄文時代前期
		X=43,521	Y=46,976							
5区-1	1号住居	X=43,599	Y=46,999	長方形	逆台形	N-20°-W	(4.80)	(4.00)	0.30	
		X=43,604	Y=47,000							

掘立柱建物

調査区	遺構番号	位置		形態	構造	桁行方位	規模				所属時期/備考
		X座標	Y座標				梁行(m)	梁柱間(m)	桁行(m)	桁柱間(m)	
2区-1	1号掘立柱建物	X=43,589 Y=43,598	Y=46,972 Y=46,981	長方形	2間×1間 3×2本柱	N-30°-W	西側5.2m 中央5.1m 東側5.8m	5.1m~5.8m	北側7.84m 南側7.0m	3.1m~3.96m	縄文時代

土坑

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(ca)	
2区-2	1号土坑	X=43,573	Y=46,973	楕円形	U字形	N-52°-W	1.26	1.14	0.21	縄文時代
2区-2	2号土坑	X=43,575	Y=46,972	不明	不整形	—	(1.08)	(0.70)	0.57	縄文時代
2区-2	3号土坑	X=43,567	Y=46,976	不整形	不整U字形	N-82°-E	1.20	1.14	0.26	縄文時代
2区-2	4号土坑	X=43,553	Y=46,976	不整形	逆台形	N-78°-W	1.28	1.06	0.23	縄文時代
2区-2	5号土坑	X=43,551	Y=46,977	方形基調	不整形	N-5°-W	1.24	1.12	0.14	縄文時代
2区-2	6号土坑	X=43,550	Y=46,971	不整門形	U字形	N-85°-W	1.28	(1.20)	0.63	縄文時代
2区-2	7号土坑	X=43,552	Y=46,971	楕円形	皿状	N-61°-W	0.86	0.60	0.12	縄文時代
2区-2	8号土坑	X=43,546	Y=46,971	不整形	逆台形	N-31°-W	1.60	1.14	0.43	縄文時代
2区-2	9号土坑	X=43,546	Y=46,972	不明	逆台形	—	1.22	(0.62)	0.85	縄文時代
2区-2	10号土坑	X=43,545	Y=46,972	不明	逆台形	—	1.40	(1.10)	0.57	縄文時代
2区-2	11号土坑	X=43,543	Y=46,976	楕円形	逆台形	N-74°-W	1.50	1.20	0.67	縄文時代
2区-2	12号土坑	X=43,541	Y=46,976	不整形	皿状	N-17°-E	1.28	1.14	0.21	縄文時代
2区-2	13号土坑	X=43,539	Y=46,976	不整形	U字形	N-38°-E	0.94	0.46	0.17	縄文時代
2区-2	14号土坑	X=43,551	Y=46,971	楕円形	逆台形	N-53°-W	1.54	1.38	0.50	縄文時代
2区-2	15号土坑	X=43,575	Y=46,973	楕円形	凸、U字形	N-4°-W	1.40	(1.22)	0.40	縄文時代
2区-4	16号土坑	X=43,516	Y=46,974	円形	桶状	N-56°-W	1.00	0.90	0.28	縄文時代
2区-4	17号土坑	X=43,517	Y=46,971	楕円形	逆台形状	N-32°-E	1.20	0.86	0.21	縄文時代
2区-4	18号土坑	X=43,516	Y=46,969	円形	袋状	—	1.52	1.46	0.63	縄文時代
2区-4	19号土坑	X=43,513	Y=46,969	円形	皿状	—	1.12	1.00	0.24	縄文時代
2区-4	20号土坑	X=43,515	Y=46,973	不整形	皿状	N-24°-E	1.60	1.26	0.19	縄文時代
2区-4	21号土坑	X=43,514	Y=46,974	隅丸方形	皿状	N-39°-W	1.02	(0.98)	0.23	縄文時代
2区-4	22号土坑	X=43,511	Y=46,975	不整門形	皿状	N-10°-W	1.20	1.10	0.24	縄文時代
2区-4	23号土坑	X=43,510	Y=46,975	円形	桶状	N-63°-E	(1.32)	1.14	0.28	縄文時代
2区-4	24号土坑	X=43,509	Y=46,973	不整門形	不整形	N-54°-W	0.76	0.80	0.29	縄文時代
2区-4	25号土坑	X=43,509	Y=46,976	楕円形	皿状	N-29°-E	1.02	0.86	0.20	縄文時代
2区-4	26号土坑	X=43,515	Y=46,977	楕円形	皿状	N-55°-W	(1.40)	1.10	0.21	縄文時代
2区-4	27号土坑	X=43,515	Y=46,978	不整楕円形	不整桶状	N-4°-E	0.90	0.74	0.34	縄文時代
2区-4	28号土坑	X=43,516	Y=46,977	円形	皿状	—	0.76	0.68	0.33	縄文時代
2区-4	29号土坑	X=43,509	Y=46,978	方形か?	不整形	N-59°-W	(1.22)	1.24	0.72	縄文時代
2区-4	30号土坑	X=43,511	Y=46,978	円形	皿状	N-79°-W	1.06	0.84	0.28	縄文時代
2区-4	31号土坑	X=43,507	Y=46,978	楕円形	漏斗状	N-50°-E	(1.50)	1.20	1.41	縄文時代
2区-4	32号土坑	X=43,515	Y=46,977	円形	逆台形状	—	0.76	0.72	0.48	縄文時代
2区-4	33号土坑	X=43,508	Y=46,977	方形	箱形	N-46°-W	1.50	0.76	0.40	縄文時代
2区-1	134号土坑	X=43,596	Y=46,979	不整楕円形	漏斗状	N-27°-W	0.96	0.70	0.57	縄文時代
2区-1	135号土坑	X=43,597	Y=46,980	楕円形	桶状	N-89°-W	0.60	0.54	0.29	縄文時代
2区-1	136号土坑	X=43,595	Y=46,978	円形	逆台形状	—	1.34	1.20	0.60	縄文時代
2区-1	137号土坑	X=43,594	Y=46,978	楕円形	皿状	N-48°-W	1.60	(1.10)	0.16	縄文時代
2区-1	138号土坑	X=43,592	Y=46,980	不整門形	U字形	N-83°-E	0.66	0.60	0.61	1号掘立柱建物北辺柱穴
2区-1	139号土坑	X=43,591	Y=46,980	不整楕円形	漏斗状	N-74°-E	1.12	1.02	0.42	縄文時代
2区-1	140号土坑	X=43,590	Y=46,979	不整楕円形	皿状	N-40°-W	1.14	0.82	0.25	縄文時代
2区-1	141号土坑	X=43,591	Y=46,979	不整楕円形	すり鉢状	N-73°-E	1.70	1.36	0.38	縄文時代
2区-1	142号土坑	X=43,593	Y=46,980	楕円形	皿状	N-33°-E	0.68	0.54	0.25	縄文時代
2区-1	143号土坑	X=43,597	Y=46,974	楕円形	皿状	N-5°-W	1.54	1.14	0.13	縄文時代
2区-1	144号土坑	X=43,586	Y=46,979	円形	逆台形	—	1.36	1.26	0.40	縄文時代
2区-1	145号土坑	X=43,595	Y=46,975	楕円形	すり鉢状	N-9°-E	1.16	0.92	0.45	縄文時代

遺構一覽表

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
2区-1	46	号土坑	X=43,597 Y=46,972	不整形	逆台形	N-59°-W	0.90	0.70	0.17	縄文時代
2区-1	47	号土坑	X=43,591 Y=46,978	不整形	すべ鉢状	N-11°-E	1.20	1.04	0.32	縄文時代
2区-1	48	号土坑	X=43,597 Y=46,972	櫛形	桶状	N-6°-W	0.86	0.52	0.28	縄文時代
2区-1	49	号土坑	X=43,596 Y=46,971	櫛形	逆台形	N-89°-W	(0.50)	0.48	0.18	縄文時代
2区-1	50	号土坑	X=43,587 Y=46,976	櫛形	箱形	N-60°-E	1.42	1.22	0.49	縄文時代
2区-1	51	号土坑	X=43,588 Y=46,976	不整櫛形	逆台形	N-81°-E	1.10	0.90	0.42	縄文時代
2区-1	52	号土坑	X=43,585 Y=46,973	不整櫛形	桶状	N-4°-E	1.00	0.98	0.62	縄文時代
2区-1	53	号土坑	X=43,582 Y=46,973	櫛形	皿状	N-41°-E	1.14	0.70	0.23	縄文時代
2区-1	54	号土坑	X=43,581 Y=46,972	不整櫛形	逆台形	N-32°-E	(1.20)	0.98	0.32	縄文時代
2区-1	55	号土坑	X=43,580 Y=46,973	不整櫛形	箱状	N-66°-W	1.18	1.12	0.92	縄文時代
2区-1	56	号土坑	X=43,597 Y=46,973	櫛形	皿状	N-26°-E	0.90	0.76	0.18	縄文時代
2区-1	57	号土坑	X=43,593 Y=46,973	不整櫛形	逆台形	N-85°-W	1.30	1.16	0.61	縄文時代
2区-1	58	号土坑	X=43,599 Y=46,977	不整櫛形	有段状	N-44°-E	1.24	0.50	0.29	縄文時代
2区-1	59	号土坑	X=43,588 Y=46,977	不整櫛形	U字形	N-7°-W	0.70	0.60	0.68	1号孤立柱建物南辺柱穴
2区-1	60	号土坑	X=43,586 Y=46,978	櫛形	有段状	N-56°-W	0.72	0.50	0.22	縄文時代
2区-1	61	号土坑	X=43,594 Y=46,972	櫛形	逆台形	N-35°-W	0.90	0.76	0.28	縄文時代
2区-1	62	号土坑	X=43,591 Y=46,973	不整櫛形	桶状	N-72°-W	1.14	1.06	0.36	縄文時代
2区-1	63~70	号土坑欠番								
2区-1	71	号土坑	X=43,537 Y=46,973	櫛形	皿状	N-89°-W	1.96	0.62	0.12	縄文時代
2区-1	72	号土坑	X=43,534 Y=46,969	櫛形	皿状	N-82°-E	1.20	0.64	0.19	縄文時代
2区-1	73	号土坑	X=43,532 Y=46,976	櫛形	皿状	N-70°-W	0.92	0.64	0.17	縄文時代
2区-1	74	号土坑	X=43,530 Y=46,977	円形	皿状	-	0.72	0.62	0.24	縄文時代
2区-1	75	号土坑	X=43,531 Y=46,970	円形	逆台形	-	1.08	0.98	0.49	縄文時代
2区-1	76	号土坑	X=43,529 Y=46,971	櫛形	皿状	N-45°-E	1.00	0.80	0.16	縄文時代
2区-1	77	号土坑	X=43,527 Y=46,973	不整櫛形	皿状	N-31°-E	1.46	1.38	0.25	縄文時代
2区-1	78	号土坑	X=43,526 Y=46,975	櫛形	皿状	N-86°-E	1.60	1.34	0.56	縄文時代
2区-1	79	号土坑	X=43,525 Y=46,971	不整櫛形	皿状	N-81°-E	0.88	0.70	0.23	縄文時代
2区-1	80	号土坑	X=43,530 Y=46,977	櫛形	皿状	N-28°-W	0.70	0.64	0.23	縄文時代
2区-1	81	号土坑	X=43,528 Y=46,977	不整櫛形	逆台形	N-31°-W	1.20	0.74	0.29	縄文時代
2区-1	82	号土坑	X=43,524 Y=46,974	円形	逆台形	-	0.92	0.90	0.27	縄文時代
2区-1	83	号土坑	X=43,524 Y=46,972	櫛形	袋状	N-68°-E	1.50	1.40	0.44	縄文時代
2区-1	84	号土坑	X=43,519 Y=46,969	不明	有段状	N-11°-W	(0.66)	0.22		縄文時代

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
3区-1	1	号土坑	X=43,493 Y=46,970	不整櫛形	逆台形	N-45°-W	1.22	0.96	0.41	縄文時代
3区-1	2	号土坑	X=43,489 Y=46,972	円形	U字形	-	0.78	0.78	0.27	縄文時代
3区-1	3	号土坑	X=43,479 Y=46,978	不整櫛形	不整形	N-42°-W	1.20	1.06	0.34	縄文時代

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
4区	1	号土坑	X=43,638 Y=46,997	円形	逆台形状	-	0.48	0.44	0.26	縄文時代
4区	2	号土坑	X=43,635 Y=46,999	不整形	不整筒	N-7°-W	1.02	0.68	0.91	縄文時代
4区	3	号土坑	X=43,634 Y=46,998	円形	皿状	-	0.84	0.74	0.14	縄文時代
4区	4	号土坑	X=43,633 Y=46,997	円形	V字形	-	0.56	0.52	0.43	縄文時代
4区	5	号土坑	X=43,637 Y=46,999	櫛形	逆台形	N-82°-W	0.60以上	1.32	1.02	旧石器時代
4区	6	号土坑	X=43,638 Y=46,999	円形?	皿状	N-37°-W	0.64以上	1.72	0.77	旧石器時代
4区	7	号土坑	X=43,628 Y=46,997	櫛形	皿状	N-63°-E	0.74	0.60	0.15	縄文時代
4区	8	号土坑	X=43,629 Y=46,996	不整形	皿状	N-64°-E	(1.02)	0.84	0.12	縄文時代
4区	9	号土坑	X=43,628 Y=47,000	円形	皿状	-	0.65	0.54	0.22	縄文時代
4区	10	号土坑	X=43,627 Y=46,999	櫛形	U字形	N-49°-E	0.84	0.52	0.29	縄文時代
4区	11	号土坑	X=43,623 Y=46,998	方形か?	逆台形	N-28°-E	(0.62)	(0.62)	0.29	縄文時代

調査区	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
5区-2	1	号土坑	X=43,588 Y=46,993	不整櫛形	有段U字形	N-34°-W	0.76	0.55	0.27	縄文時代
5区-2	2	号土坑	X=43,585 Y=46,997	櫛形	U字形	N-22°-E	0.52	0.68	0.29	縄文時代
5区-2	3	号土坑	X=43,584 Y=46,997	櫛形	U字形	N-50°-W	0.87	0.68	0.23	縄文時代
5区-2	4	号土坑	X=43,584 Y=46,992	長方形基調	逆台形	N-85°-W	0.96	(1.03)	0.25~0.51	縄文時代(前期後半) 土器a式附
5区-2	5	号土坑	X=43,582 Y=46,993	不整形	V字形	N-72°-E	0.98	0.74	0.26	縄文時代
5区-2	6	号土坑	X=43,589 Y=46,998	長方形	不整なV字形	N-12°-E	1.13	0.64	0.32	縄文時代
5区-2	7	号土坑	X=43,589 Y=46,997	長方形基調	逆台形	N-55°-E	(0.88)	0.59	0.25	縄文時代
5区-2	8	号土坑	X=43,579 Y=46,995	不整形	U字形	N-16°-W	(0.84)	0.88	0.29	縄文時代
5区-2	9	号土坑	X=43,578 Y=46,995	櫛形	不整形有段	N-20°-W	(1.20)	(1.01)	0.32	縄文時代
5区-2	10	号土坑	X=43,577 Y=46,994	円形	不整形	-	1.43	1.40	0.48	縄文時代
5区-2	11	号土坑	X=43,576 Y=46,993	円形	円筒形	-	0.57	0.54	1.14	縄文時代
5区-2	12	号土坑	X=43,571 Y=46,996	方形	不整形	N-81°-W	0.92	0.83	0.21	縄文時代
5区-2	13	号土坑	X=43,589 Y=46,994	円形	U字形	-	0.79	0.74	0.21	縄文時代
5区-2	14	号土坑	X=43,571 Y=46,992	不整形	不整形	N-26°-W	1.48	1.37	0.32	縄文時代
5区-2	15	号土坑	X=43,583 Y=46,996	櫛形基調	不整形	N-73°-E	1.60	(1.10)	0.28	縄文時代
5区-2	16	号土坑	X=43,583 Y=46,997	逆台形	逆台形基調	N-11°-W	(1.10)	(0.54)	0.26	縄文時代

調查區	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
5区-1	17	号土坑	X=43,608 Y=47,000	円形	円筒形	—	0.60	0.60	0.55	縄文時代
5区-1	18	号土坑	X=43,606 Y=46,997	方形	円筒形	N-5°-W	0.40	0.38	0.57	縄文時代
5区-1	19	号土坑	X=43,605 Y=46,994	円形	円筒形	—	0.44	0.40	0.73	縄文時代
5区-1	20	号土坑	X=43,605 Y=46,994	円形	袋状	—	1.36	1.26	0.60	縄文時代
5区-1	21	号土坑	X=43,603 Y=46,998	橢円形	U字形	N-72°-W	1.02	0.72	0.35	縄文時代
5区-1	22	号土坑	X=43,602 Y=46,998	橢円形	逆台形	N-56°-W	1.82	1.20	0.31	縄文時代
5区-1	23	号土坑	X=43,602 Y=46,994	円形	円筒形	—	0.78	0.60	1.03	縄文時代
5区-1	24	号土坑	X=43,603 Y=46,996	不整形	逆台形	N-83°-W	0.70	0.50	0.26	縄文時代
5区-1	25	号土坑	X=43,596 Y=46,993	不整形	すり鉢状	N-98°-W	(1.48)	1.74	0.38	縄文時代
5区-1	26	号土坑	X=43,597 Y=46,999	円形	U字形	—	(0.40)	(0.50)	0.25	縄文時代
5区-1	27	号土坑	X=43,594 Y=46,998	不整形	皿状	N-15°-W	0.84	0.76	0.19	縄文時代
5区-1	28	号土坑	X=43,592 Y=46,999	不整形	漏斗状	N-9°-W	1.03	0.56	0.47	縄文時代
5区-1	29	号土坑	X=43,590 Y=46,994	橢円形	逆台形	N-8°-E	1.52	1.20	0.33	縄文時代
5区-1	30	号土坑	X=43,603 Y=46,999	円形	U字形	—	0.50	0.42	0.19	縄文時代
5区-1	31	号土坑	X=43,606 Y=46,996	橢円形	逆台形	N-47°-W	0.56	0.40	0.42	縄文時代
5区-1	32	号土坑	X=43,604 Y=46,999	円形	U字形	—	0.44	0.44	0.36	縄文時代
5区-1	33	号土坑	X=43,604 Y=46,998	円形	円筒形	—	0.60	0.40	0.69	縄文時代
5区-1	34	号土坑	X=43,607 Y=46,998	橢円形	U字形	N-90°-E	0.68	0.52	0.35	縄文時代
5区-1	35	号土坑	X=43,600 Y=46,997	橢円形	すり鉢状	N-29°-E	0.96	0.60	0.22	縄文時代
5区-1	36	号土坑	X=43,599 Y=46,998	円形	逆台形	—	0.92	0.76	0.45	縄文時代

調査區	遺構番号	位置		平面形	断面形	長軸方位	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長軸長(m)	短軸幅(m)	壁高(cm)	
6区-1	1	号土坑	X=43,561 Y=46,995	橢円形	不整形	N-33°-E	(4.76)	1.44	0.25	縄文時代
6区-1	2	号土坑	X=43,561 Y=46,993	不整形	皿状	N-2°-W	1.86	1.00	0.26	縄文時代
6区-1	3	号土坑	X=43,558 Y=46,993	橢円形	桶状	N-74°-W	1.86	1.00	0.27	縄文時代
6区-1	4	号土坑	X=43,553 Y=46,992	円形	桶状	—	0.92	0.92	0.36	縄文時代
6区-1	5	号土坑	X=43,549 Y=46,996	円形	すり鉢状	—	1.10	(0.40)	0.37	縄文時代
6区-1	6	号土坑	X=43,549 Y=46,993	円形	皿状	—	0.90	(0.60)	0.80	縄文時代
6区-1	7	号土坑	X=43,549 Y=46,992	円形	逆台形	—	1.30	1.26	0.63	縄文時代
6区-1	8	号土坑	X=43,550 Y=46,991	橢円形	皿状	N-61°-W	1.20	0.95	0.26	縄文時代
6区-1	9	号土坑	X=43,549 Y=46,989	円形	逆台形	—	1.12	(0.84)	0.31	縄文時代
6区-1	10	号土坑	X=43,548 Y=46,991	円形	皿状	—	1.24	1.22	0.24	縄文時代
6区-1	11	号土坑	X=43,544 Y=46,990	円形	逆台形	—	1.36	1.20	0.40	縄文時代
6区-1	12	号土坑	X=43,543 Y=46,992	円形	袋状	—	1.70	1.60	0.67	縄文時代
6区-1	13	号土坑	X=43,543 Y=46,993	円形	皿状	—	1.20	1.10	0.26	縄文時代
6区-1	14	号土坑	X=43,542 Y=46,994	円形	箱形	—	1.10	1.10	0.33	縄文時代
6区-1	15	号土坑	X=43,542 Y=46,989	円形	皿状	—	1.50	(0.90)	0.22	縄文時代
6区-1	16	号土坑	X=43,540 Y=46,990	橢丸方形	皿状	N-75°-E	0.80	0.60	0.22	縄文時代
6区-1	17	号土坑	X=43,539 Y=46,990	円形	皿状	—	1.30	1.05	0.23	縄文時代
6区-1	18	号土坑	X=43,538 Y=46,990	円形	袋状	—	1.40	1.30	0.73	縄文時代
6区-1	19	号土坑	X=43,541 Y=46,992	橢丸方形	皿状	N-73°-W	(1.60)	0.12	0.24	縄文時代
6区-1	20	号土坑	X=43,539 Y=46,992	円形	桶状	—	1.30	1.30	0.53	縄文時代
6区-1	21	号土坑	X=43,557 Y=46,994	円形	袋状	—	1.36	(0.94)	0.94	縄文時代
6区-2	22	号土坑	X=43,507 Y=46,990	不整形	桶状	N-40°-W	0.80	0.80	0.26	縄文時代
6区-2	23	号土坑	X=43,509 Y=46,995	方形か?	皿状	N-28°-E	1.62	1.12	0.22	縄文時代
6区-2	24	号土坑	X=43,509 Y=46,994	円形	皿状	—	1.50	1.24	0.44	縄文時代
6区-2	25	号土坑	X=43,511 Y=46,995	橢円形	桶状	N-71°-E	(1.50)	0.74	1.10	縄文時代
6区-2	26	号土坑	X=43,511 Y=46,990	不整形	皿状	N-55°-E	1.30	0.68	0.16	縄文時代
6区-2	27	号土坑	X=43,512 Y=46,990	円形	皿状	—	0.74	0.74	0.25	縄文時代
6区-2	28	号土坑	X=43,515 Y=46,993	長方形	皿状	N-52°-E	2.32	1.14	0.20	縄文時代
6区-2	29	号土坑	X=43,516 Y=46,992	長方形	桶状か?	N-64°-E	1.70	1.12	0.28	縄文時代
6区-2	30	号土坑	X=43,520 Y=46,993	橢円形	橢円形	N-85°-W	0.68	0.40	0.29	縄文時代
6区-2	31	号土坑	X=43,517 Y=46,991	橢円形	漏斗状	N-31°-E	2.00	1.08	1.57	縄文時代
6区-2	32	号土坑	X=43,521 Y=46,994	橢円形	不整形	N-9°-W	1.40	1.08	0.29	縄文時代
6区-2	33	号土坑	X=43,509 Y=46,994	円形	皿状	—	1.20	1.06	0.36~1.42	旧石器時代
6区-2	34	号土坑	X=43,523 Y=46,994	円形	すり鉢状	—	1.04	0.88	0.35	縄文時代
6区-2	35	号土坑	X=43,522 Y=46,993	橢円形	皿状	N-35°-E	(1.48)	0.86	0.32	縄文時代
6区-2	36	号土坑	X=43,525 Y=46,988	不整形	桶状	—	1.76	(0.42)	0.75	縄文時代
6区-2	37	号土坑	X=43,531 Y=46,993	橢円形	桶状	N-50°-W	1.26	1.04	0.44	縄文時代
6区-2	38	号土坑	X=43,522 Y=46,994	橢円形	皿状か?	N-28°-E	(1.20)	0.82	0.13	縄文時代

遺構一覧表

ピット

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				径径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
2区-2	1	号ピット	X=43,576 Y=46,980	不整形	U字形	A	0.34	0.30	0.31	
2区-2	2	号ピット	X=43,576 Y=46,980	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.26	
2区-2	3	号ピット	X=43,576 Y=46,979	円形	U字形	A	0.30	0.28	0.33	
2区-2	4	号ピット	X=43,575 Y=46,979	円形	V字形	A	0.40	0.34	0.63	
2区-2	5	号ピット	X=43,576 Y=46,979	円形	U字形	A	0.30	0.28	0.44	
2区-2	6	号ピット	X=43,575 Y=46,978	楕円形	U字形	A	0.38	0.28	0.37	
2区-2	7	号ピット	X=43,574 Y=46,980	円形	U字形	A	0.36	0.22	0.30	
2区-2	8	号ピット	X=43,574 Y=46,979	円形	U字形	A	0.24	0.24	0.56	
2区-2	9	号ピット	X=43,573 Y=46,981	円形	U字形	A	0.29	0.18	0.37	
2区-2	10	号ピット	X=43,573 Y=46,980	楕円形	V字形	A	0.30	0.26	0.37	
2区-2	11	号ピット	X=43,573 Y=46,980	不整形	U字形	A	0.30	0.28	0.38	
2区-2	12	号ピット	X=43,576 Y=46,975	円形	U字形	A	0.26	0.12	0.54	
2区-2	13	号ピット	X=43,574 Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.50	0.30	0.65	
2区-2	14	号ピット	X=43,574 Y=46,975	円形	U字形	B	0.38	0.36	0.28	
2区-2	15	号ピット	X=43,574 Y=46,974	不整形	U字形	B	0.30	0.30	0.48	
2区-2	16	号ピット	X=43,573 Y=46,974	円形	U字形	B	0.30	0.26	0.67	
2区-2	17	号ピット	X=43,573 Y=46,973	不整形	U字形	A	0.40	0.32	0.49	
2区-2	18	号ピット	X=43,573 Y=46,972	円形	U字形	A	0.34	0.30	0.19	
2区-2	19	号ピット	X=43,574 Y=46,971	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.27	
2区-2	20	号ピット	X=43,572 Y=46,971	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.25	
2区-2	21	号ピット	X=43,572 Y=46,979	円形	U字形	A	0.32	0.30	0.57	
2区-2	22	号ピット	X=43,572 Y=46,980	楕円形	U字形	A	0.40	0.30	0.34	
2区-2	23	号ピット	X=43,571 Y=46,979	円形	U字形	A	0.36	0.34	0.48	
2区-2	24	号ピット	X=43,571 Y=46,980	楕円形	U字形	A	0.34	0.30	0.36	
2区-2	25	号ピット	X=43,571 Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.34	0.24	0.41	
2区-2	26	号ピット	X=43,571 Y=46,974	円形	U字形	A	0.32	0.28	0.39	
2区-2	27	号ピット	X=43,571 Y=46,973	楕円形	U字形	A	0.30	0.20	0.45	
2区-2	28	号ピット	X=43,571 Y=46,972	不整形	逆台形	A	0.28	0.18	0.40	
2区-2	29	号ピット	X=43,570 Y=46,972	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.41	
2区-2	30	号ピット	X=43,570 Y=46,972	円形	U字形	A	0.28	0.22	0.44	
2区-2	31	号ピット	X=43,569 Y=46,978	円形	V字形	A	0.26	0.24	0.56	
2区-2	32	号ピット	X=43,569 Y=46,977	不整形	U字形	B	0.30	0.26	0.33	
2区-2	33	号ピット	X=43,570 Y=46,977	円形	U字形	A	0.28	0.24	0.32	
2区-2	34	号ピット	X=43,569 Y=46,979	楕円形	逆台形	A	0.46	0.34	0.22	
2区-2	35	号ピット	X=43,568 Y=46,978	不整形	U字形	B	0.36	0.22	0.46	
2区-2	36	号ピット	X=43,569 Y=46,978	円形	U字形	B	0.20	0.18	0.30	
2区-2	37	号ピット	X=43,570 Y=46,974	方形	U字形	A	0.28	0.26	0.43	
2区-2	38	号ピット	X=43,566 Y=46,971	楕円形	不整形	A	0.32	0.20	0.41	
2区-2	39	号ピット	X=43,567 Y=46,972	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.65	
2区-2	40	号ピット	X=43,566 Y=46,972	楕円形	U字形	A	0.32	0.20	0.60	
2区-2	41	号ピット	X=43,566 Y=46,972	円形	U字形	A	0.26	0.26	0.46	
2区-2	42	号ピット	X=43,565 Y=46,972	円形	U字形	A	0.21	0.20	0.44	
2区-2	43	号ピット	X=43,565 Y=46,973	円形	U字形	A	0.22	0.22	0.42	
2区-2	44	号ピット	X=43,564 Y=46,973	円形	U字形	A	0.52	0.48	0.34	
2区-2	45	号ピット	X=43,565 Y=46,973	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.50	
2区-2	46	号ピット	X=43,564 Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.28	0.20	0.51	
2区-2	47	号ピット	X=43,564 Y=46,975	方形	V字形	A	0.20	0.20	0.28	
2区-2	48	号ピット	X=43,564 Y=46,977	方形	V字形	A	0.18	0.18	0.31	
2区-2	49	号ピット	X=43,564 Y=46,977	楕円形	V字形	A	0.20	0.16	0.21	
2区-2	50	号ピット	X=43,568 Y=46,976	楕円形	U字形	A	0.24	0.18	0.37	
2区-2	51	号ピット	X=43,568 Y=46,977	円形	U字形	A	0.20	0.16	0.33	
2区-2	52	号ピット	X=43,567 Y=46,977	楕円形	不整形	A	0.46	0.34	0.48	
2区-2	53	号ピット	X=43,567 Y=46,977	円形	不整形	A	0.26	0.24	0.44	
2区-2	54	号ピット	X=43,567 Y=46,978	楕円形	逆台形	B	0.32	0.22	0.27	
2区-2	55	号ピット	X=43,566 Y=46,979	楕円形	逆台形	A	0.22	0.16	0.37	
2区-2	56	号ピット	X=43,565 Y=46,980	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.43	
2区-2	57	号ピット	X=43,564 Y=46,980	円形	U字形	A	0.22	(0.16)	0.24	
2区-2	58	号ピット	X=43,562 Y=46,979	不整形	U字形	A	0.30	0.26	0.49	
2区-2	59	号ピット	X=43,562 Y=46,979	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.56	
2区-2	60	号ピット	X=43,562 Y=46,980	円形	U字形	A	0.24	0.16	0.55	
2区-2	61	号ピット	X=43,561 Y=46,980	円形	U字形	A	0.34	0.24	0.67	
2区-2	62	号ピット	X=43,561 Y=46,978	円形	U字形	A	0.12	0.12	0.55	
2区-2	63	号ピット	X=43,562 Y=46,978	楕円形	U字形	A	0.38	0.28	0.52	
2区-2	64	号ピット	X=43,562 Y=46,977	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.43	
2区-2	65	号ピット	X=43,562 Y=46,977	円形	U字形	A	0.16	0.16	0.46	
2区-2	66	号ピット	X=43,563 Y=46,975	円形	U字形	A	0.22	0.22	0.61	
2区-2	67	号ピット	X=43,563 Y=46,974	円形	U字形	A	0.18	0.18	0.65	
2区-2	68	号ピット	X=43,563 Y=46,972	円形	U字形	B	0.22	0.16	0.65	
2区-2	69	号ピット	X=43,561 Y=46,972	楕円形	U字形	A	0.30	0.24	0.62	
2区-2	70	号ピット	X=43,560 Y=46,972	円形	U字形	A	0.28	0.24	0.30	
2区-2	71	号ピット	X=43,560 Y=46,973	円形	U字形	A	0.34	0.32	0.36	
2区-2	72	号ピット	X=43,560 Y=46,972	楕円形	不整形	A	0.34	0.26	0.43	
2区-2	73	号ピット	X=43,560 Y=46,971	楕円形	U字形	B	0.30	0.24	0.52	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
2区-2	74	43,560	46,973	楕円形	逆台形	B	0.32	0.28	0.43	
2区-2	75	43,559	46,974	円形	U字形	B	0.26	0.22	0.38	
2区-2	76	43,560	46,978	円形	U字形	C	0.26	0.26	0.53	
2区-2	77	43,557	46,976	円形	U字形	A	0.34	0.32	-	
2区-2	78	43,557	46,974	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.23	
2区-2	79	43,557	46,972	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.52	
2区-2	80	43,556	46,973	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.49	
2区-2	81	43,556	46,973	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.34	
2区-2	82	43,556	46,974	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.58	
2区-2	83	43,556	46,974	円形	U字形	A	0.20	0.18	0.38	
2区-2	84	43,556	46,976	円形	逆台形	A	0.30	0.26	0.42	
2区-2	85	43,555	46,976	楕円形	U字形	A	0.30	0.24	0.49	
2区-2	86	43,554	46,975	円形	V字形	A	0.22	0.22	0.42	
2区-2	87	43,555	46,978	円形	U字形	A	0.22	0.18	0.50	
2区-2	88	43,555	46,979	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.30	
2区-2	89	43,554	46,978	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.24	
2区-2	90	43,552	46,978	円形	U字形	A	0.36	0.28	0.63	
2区-2	91	43,553	46,975	円形	V字形	B	0.22	0.22	0.47	
2区-2	92	43,554	46,970	円形	U字形	A	0.22	0.22	0.37	
2区-2	93	43,553	46,971	楕円形	U字形	A	0.32	0.26	0.44	
2区-2	94	43,552	46,970	円形	U字形	A	0.30	0.24	0.36	
2区-2	95	43,551	46,979	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.25	
2区-2	96	43,541	46,972	円形	U字形	B	0.22	0.18	0.36	
2区-2	97	43,540	46,972	楕円形	U字形	B	0.32	0.24	0.52	
2区-2	98	43,539	46,971	円形	U字形	B	0.22	0.18	0.40	
2区-2	99	43,540	46,974	楕円形	U字形	B	0.34	0.26	0.47	
2区-2	100	43,573	46,970	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.53	
2区-2	101	43,571	46,971	楕円形	U字形	A	0.36	0.28	0.64	
2区-2	102	43,564	46,973	円形	U字形	A	0.20	0.18	0.56	
2区-4	103	43,510	46,977	円形	U字形	その他	0.52	0.38	0.62	
2区-4	104	43,517	46,977	不整形	A	0.32	0.26	0.36		
2区-4	105	43,517	46,976	楕円形	U字形	A	0.28	0.26	0.41	
2区-4	106	43,517	46,976	楕円形	不整形	B	0.42	0.26	0.42	
2区-4	107	43,517	46,978	円形	U字形	B	0.48	0.48	0.25	
2区-4	108	43,514	46,978	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.44	
2区-4	109	43,514	46,978	不整形	不整形	A	0.38	0.34	0.58	
2区-4	110	43,513	46,977	楕円形	U字形	B	0.50	0.46	0.22	
2区-4	111	43,513	46,978	楕円形	U字形	B	0.32	0.29	0.21	
2区-4	112	43,513	46,978	方形	V字形	A	0.22	0.18	0.48	
2区-4	113	43,513	46,978	楕円形	U字形	A	0.26	0.20	0.36	
2区-4	114	43,511	46,978	楕円形	U字形	A	0.42	0.32	0.58	
2区-4	115	43,517	46,973	不整形	U字形	B	0.56	0.50	0.32	
2区-4	116	43,517	46,973	不整形	不整形	B	0.46	0.38	0.38	
2区-4	117	43,516	46,971	不整形	U字形	A	0.30	0.24	0.34	
2区-4	118	43,515	46,970	円形	V字形	A	0.24	0.20	0.38	
2区-4	119	43,515	46,970	楕円形	V字形	A	0.26	0.20	0.45	
2区-4	120	43,514	46,970	楕円形	V字形	A	0.26	0.20	0.42	
2区-4	121	43,510	46,969	楕円形	不整形	A	0.30	0.24	0.52	
2区-4	122	43,510	46,969	楕円形	不整形	B	0.50	0.40	0.27	
2区-4	123	43,508	46,970	不整形	不整形	A	0.34	0.26	0.23	
2区-4	124	43,509	46,971	楕円形	U字形	B	0.56	0.45	0.26	
2区-4	125	43,517	46,969	円形	不整形	A	0.22	0.20	0.25	
2区-4	126	43,512	46,973	楕円形	U字形	B	0.42	0.34	0.18	
2区-4	127	43,511	46,973	楕円形	U字形	A	0.36	0.30	0.24	
2区-4	128	43,509	46,973	楕円形	U字形	A	0.28	0.22	0.31	
2区-4	129	43,513	46,975	円形	U字形	A	0.32	0.30	0.50	
2区-4	130	43,516	46,977	楕円形	U字形	その他	0.42	0.24	0.56	
2区-4	131	43,510	46,979	円形	U字形	A	0.18	0.18	0.23	
2区-4	132	43,510	46,979	円形	U字形	A	0.18	0.18	0.27	
2区-4	133	43,510	46,977	不整形	V字形	A	0.30	0.30	0.45	
2区-4	134	43,509	46,975	円形	U字形	B	0.36	0.30	0.61	
2区-4	135	43,516	46,977	楕円形	U字形	B	0.30	0.24	0.52	
2区-1	136	43,597	46,975	楕円形	U字形	その他	0.70	0.60	0.53	1号竪立柱建物北辺柱穴
2区-1	137	43,599	46,981	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.53	
2区-1	138	43,598	46,982	円形	U字形	A	0.20	0.16	0.36	
2区-1	139	43,598	46,982	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.43	
2区-1	140	43,597	46,981	円形	V字形	B	0.40	0.34	0.35	
2区-1	141	43,598	46,978	円形	U字形	C	0.44	0.42	0.27	
2区-1	142	43,597	46,979	楕円形	U字形	B	0.22	0.16	0.44	縄文時代か
2区-1	143	43,595	46,981	円形	U字形	A	0.26	0.26	0.28	
2区-1	144	43,594	46,981	不整形	U字形	A	0.34	0.26	0.25	
2区-1	145	43,594	46,980	楕円形	U字形	B	0.42	0.40	0.20	
2区-1	146	43,595	46,980	円形	U字形	B	0.41	0.36	0.14	

遺構一覧表

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考	
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)		
2区-1	147	号ビット	X=43,595	Y=46,979	楕円形	有段	B	0.54	0.40	0.26	
2区-1	148	号ビット	X=43,595	Y=46,978	円形	V字形	A	0.20	0.16	0.43	
2区-1	149	号ビット	X=43,593	Y=46,978	円形	V字形	A	0.32	0.24	0.46	
2区-1	150	号ビット	X=43,593	Y=46,978	不整形	不整形	B	0.58	0.46	0.21	
2区-1	151	号ビット	X=43,593	Y=46,979	円形	U字形	A	0.32	0.22	0.44	
2区-1	152	号ビット	X=43,592	Y=46,980	方形	U字形	A	0.26	0.24	0.49	
2区-1	153	号ビット	X=43,591	Y=46,981	楕円形	有段	A	0.40	0.34	0.62	
2区-1	154	号ビット	X=43,591	Y=46,982	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.34	
2区-1	155	号ビット	X=43,590	Y=46,980	円形	U字形	A	0.30	0.28	0.41	
2区-1	156	号ビット	X=43,597	Y=46,978	楕円形	U字形	A	0.30	0.22	0.28	
2区-1	157	号ビット	X=43,589	Y=46,977	楕円形	U字形	A	0.32	0.20	0.26	
2区-1	158	号ビット	X=43,597	Y=46,977	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.34	
2区-1	159	号ビット	X=43,598	Y=46,977	不整形	V字形	A	0.26	0.22	0.39	
2区-1	160	号ビット	X=43,597	Y=46,976	円形	U字形	A	0.28	0.28	0.46	
2区-1	161	号ビット	X=43,596	Y=46,975	円形	U字形	B	0.26	0.26	0.52	
2区-1	162	号ビット	X=43,595	Y=46,975	円形	U字形	B	0.24	0.22	0.45	縄文時代か
2区-1	163	号ビット	X=43,597	Y=46,971	円形	V字形	B	0.30	0.30	0.35	
2区-1	164	号ビット	X=43,600	Y=46,971	不整形	有段	B	0.46	0.46	0.13	
2区-1	165	号ビット	X=43,591	Y=46,978	方形	U字形	その他	0.24	0.18	0.43	縄文時代か
2区-1	166	号ビット	X=43,589	Y=46,978	楕円形	V字形	A	0.34	0.28	0.57	
2区-1	167	号ビット	X=43,589	Y=46,977	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.38	
2区-1	168	号ビット	X=43,585	Y=46,979	円形	U字形	A	0.28	0.28	0.58	
2区-1	169	号ビット	X=43,585	Y=46,977	円形	U字形	A	0.32	0.28	0.36	
2区-1	170	号ビット	X=43,584	Y=46,979	楕円形	U字形	A	0.280	0.36	0.18	
2区-1	171	号ビット	X=43,583	Y=46,982	円形	U字形	C	0.26	0.28	0.47	
2区-1	172	号ビット	X=43,582	Y=46,982	円形	U字形	A	0.22	0.14	0.32	
2区-1	173	号ビット	X=43,583	Y=46,979	円形	U字形	B	0.30	0.24	0.56	
2区-1	174	号ビット	X=43,583	Y=46,979	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.44	
2区-1	175	号ビット	X=43,583	Y=46,978	楕円形	U字形	A	0.26	0.20	0.34	
2区-1	176	号ビット	X=43,583	Y=46,978	楕円形	有段	A	0.34	0.24	0.34	
2区-1	177	号ビット	X=43,583	Y=46,975	不整形	有段	A	0.30	0.28	0.24	
2区-1	178	号ビット	X=43,584	Y=46,977	不整形	有段	A	0.52	0.34	0.40	
2区-1	179	号ビット	X=43,584	Y=46,977	不整形	有段	A	0.38	0.32	0.56	
2区-1	180	号ビット	X=43,581	Y=46,981	円形	U字形	B	0.30	0.26	0.51	
2区-1	181	号ビット	X=43,581	Y=46,980	円形	有段	A	0.34	0.34	0.23	
2区-1	182	号ビット	X=43,581	Y=46,980	円形	U字形	B	0.26	0.26	0.42	
2区-1	183	号ビット	X=43,580	Y=46,981	楕円形	U字形	A	0.26	0.14	0.30	
2区-1	184	号ビット	X=43,580	Y=46,981	円形	V字形	A	0.20	0.20	0.38	
2区-1	185	号ビット	X=43,580	Y=46,980	円形	U字形	A	0.28	0.22	0.54	
2区-1	186	号ビット	X=43,580	Y=46,980	楕円形	V字形	B	0.42	0.26	0.32	
2区-1	187	号ビット	X=43,580	Y=46,979	円形?	U字形	A	0.20	-	0.40	
2区-1	188	号ビット	X=43,581	Y=46,979	円形	U字形	B	0.14	0.14	0.33	
2区-1	189	号ビット	X=43,580	Y=46,979	方形	不整形有段	B	0.32	0.22	0.42	
2区-1	190	号ビット	X=43,580	Y=46,978	不整形	U字形	B	0.50	0.34	0.40	
2区-1	191	号ビット	X=43,580	Y=46,977	不整形	U字形	A	0.50	0.20	0.27	
2区-1	192	号ビット	X=43,586	Y=46,975	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.39	
2区-1	193	号ビット	X=43,586	Y=46,975	楕円形	有段	A	0.32	0.22	0.40	
2区-1	194	号ビット	X=43,584	Y=46,974	円形	有段	A	0.44	0.36	0.45	
2区-1	195	号ビット	X=43,584	Y=46,974	不整形	U字形	A	0.34	0.28	0.26	
2区-1	196	号ビット	X=43,580	Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.40	0.24	0.38	
2区-1	197	号ビット	X=43,580	Y=46,974	方形	U字形	A	0.26	0.24	0.39	
2区-1	198	号ビット	X=43,582	Y=46,974	楕円形側か?	U字形	B	(0.24)	0.42	0.15	
2区-1	199	号ビット	X=43,581	Y=46,974	円形	すり鉢状	C	0.52	0.44	0.28	
2区-1	200	号ビット	X=43,580	Y=46,975	楕円形	U字形	A	0.28	0.22	0.30	
2区-3	201	号ビット	X=43,537	Y=46,972	不整形	U字形	B	0.34	0.20	0.44	
2区-3	202	号ビット	X=43,534	Y=46,969	方形側か?	U字形	C	0.30	-	0.18	
2区-3	203	号ビット	X=43,538	Y=46,970	円形	V字形	A	0.26	0.20	0.33	
2区-3	204	号ビット	X=43,535	Y=46,970	楕円形	U字形	A	0.34	0.26	0.45	
2区-3	205	号ビット	X=43,538	Y=46,972	不整形	不整形	B	0.40	0.28	0.23	
2区-3	206	号ビット	X=43,538	Y=46,972	不整形	不整形	A	0.30	0.26	0.31	
2区-3	207	号ビット	X=43,536	Y=46,974	楕円形	U字形	C	0.30	0.26	0.20	
2区-3	208	号ビット	X=43,535	Y=46,975	楕円形	U字形	B	0.42	0.34	0.17	
2区-3	209	号ビット	X=43,538	Y=46,977	楕円形	U字形	C	0.60	0.42	0.45	
2区-3	210	号ビット	X=43,536	Y=46,978	楕円形	U字形	C	0.60	0.50	0.37	
2区-3	211	号ビット	X=43,535	Y=46,978	方形	U字形	B	0.26	0.26	0.40	
2区-3	212	号ビット	X=43,534	Y=46,978	不整形	U字形	B	0.34	0.30	0.28	
2区-3	213	号ビット	X=43,534	Y=46,975	不整形	U字形	A	0.46	0.32	0.53	
2区-3	214	号ビット	X=43,531	Y=46,976	楕円形	U字形	A	0.22	0.26	0.29	
2区-3	215	号ビット	X=43,533	Y=46,989	円形	U字形	B	0.28	0.28	0.44	
2区-3	216	号ビット	X=43,533	Y=46,969	円形	U字形	C	0.28	0.26	0.52	
2区-3	217	号ビット	X=43,532	Y=46,969	円形	U字形	A	0.28	0.24	0.25	
2区-3	218	号ビット	X=43,533	Y=46,970	楕円形	U字形	A	0.44	0.32	0.55	
2区-3	219	号ビット	X=43,532	Y=46,971	やや方形	U字形	C	0.58	0.36	0.40	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考	
		X座標	Y座標				長さ(m)	幅(m)	高さ(cm)		
2区-3	220	号ビット	X=43,531	Y=46,972	円形	不整形	B	0.44	0.40	0.38	
2区-3	221	号ビット	X=43,529	Y=46,973	不整形	U字形	B	0.26	0.20	0.19	
2区-3	222	号ビット	X=43,534	Y=46,969	円形	U字形	B	0.30	(0.20)	0.37	
2区-3	223	号ビット	X=43,533	Y=46,978	方形	逆台形	C	0.28	(0.18)	0.18	
2区-3	224	号ビット	X=43,530	Y=46,974	楕円形	U字形	B	0.32	0.22	0.09	
2区-3	225	号ビット	X=43,530	Y=46,972	円形	U字形	B	0.26	0.26	0.25	
2区-3	226	号ビット	X=43,529	Y=46,972	楕円形	U字形	B	0.46	0.24	0.19	
2区-3	227	号ビット	X=43,528	Y=46,969	不整形	不整形	A	0.28	0.20	0.21	
2区-3	228	号ビット	X=43,528	Y=46,969	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.24	
2区-3	229	号ビット	X=43,527	Y=46,969	不整形	不整形	B	0.46	0.40	0.18	
2区-3	230	号ビット	X=43,526	Y=46,970	楕円形	U字形	B	0.38	0.30	0.38	
2区-3	231	号ビット	X=43,526	Y=46,970	不整形	U字形	C	0.36	0.20	0.37	
2区-3	232	号ビット	X=43,530	Y=46,976	不整形	不整形	B	0.64	0.54	0.25	
2区-3	233	号ビット	X=43,529	Y=46,975	円形	U字形	B	0.26	0.24	0.25	
2区-3	234	号ビット	X=43,528	Y=46,975	円形	U字形	B	0.32	0.32	0.22	
2区-3	235	号ビット	X=43,522	Y=46,969	円形	U字形	B	0.44	0.38	0.46	
2区-3	236	号ビット	X=43,522	Y=46,968	円形	逆台形	C	(0.12)	(0.14)	0.22	
2区-3	237	号ビット	X=43,523	Y=46,969	円形	U字形	B	0.24	0.24	0.25	
2区-3	238	号ビット	X=43,523	Y=46,971	楕円形	逆台形	B	0.66	0.56	0.23	
2区-3	239	号ビット	X=43,523	Y=46,972	不整形	不整形	A	0.64	0.54	0.12	
2区-3	240	号ビット	X=43,522	Y=46,974	楕円形	逆台形	A	0.46	0.38	0.63	
2区-3	241	号ビット	X=43,522	Y=46,973	楕円形	U字形	B	0.56	0.40	0.53	
2区-3	242	号ビット	X=43,520	Y=46,974	不整形	U字形	A	0.50	0.36	0.21	
2区-3	243	号ビット	X=43,521	Y=46,973	楕円形	不整形	A	0.46	0.38	0.20	
2区-3	244	号ビット	X=43,520	Y=46,973	楕円形	不整形	A	0.48	0.42	0.34	
2区-3	245	号ビット	X=43,520	Y=46,972	円形	U字形	B	0.40	0.40	0.27	
2区-3	246	号ビット	X=43,519	Y=46,973	楕円形	不整形	B	0.32	0.22	0.35	
2区-3	247	号ビット	X=43,521	Y=46,970	円形	U字形	A	0.42	0.40	0.40	
2区-3	248	号ビット	X=43,520	Y=46,970	円形	U字形	A	0.30	0.24	0.30	
2区-3	249	号ビット	X=43,520	Y=46,970	円形	U字形	B	0.24	0.24	0.17	
2区-3	250	号ビット	X=43,519	Y=46,975	円形	U字形	A	0.30	0.20	0.23	
2区-3	251	号ビット	X=43,522	Y=46,970	円形	U字形	B	0.30	0.28	0.19	
2区-3	252	号ビット	X=43,536	Y=46,972	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.20	
2区-3	253	号ビット	X=43,521	Y=46,974	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.39	
2区-3	254	号ビット	X=43,522	Y=46,972	円形	U字形	B	0.30	0.26	0.42	
2区-3	255	号ビット	X=43,522	Y=46,972	円形	U字形	B	(0.26)	0.24	0.47	
2区-1	256	号ビット	X=43,582	Y=46,972	楕円形	U字形	その他	0.48	0.24	0.26	縄文時代
2区-1	257	号ビット	X=43,582	Y=46,971	円形か?	U字形	A	0.32	(0.20)	0.34	
2区-1	258	号ビット	X=43,582	Y=46,971	円形か?	V字形	A	(0.20)	(0.14)	0.37	
2区-1	259	号ビット	X=43,583	Y=46,972	円形	U字形	A	0.52	0.38	0.29	
2区-1	260	号ビット	X=43,583	Y=46,972	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.72	
2区-1	261	号ビット	X=43,586	Y=46,972	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.36	
2区-1	262	号ビット	X=43,586	Y=46,972	円形	U字形	A	0.26	0.26	0.44	
2区-1	263	号ビット	X=43,594	Y=46,977	不明	U字形か?	その他	0.40	(0.26)	0.46	1号竪立柱建物北辺柱穴
2区-1	264	号ビット	X=43,596	Y=46,979	円形	U字形	その他	0.44	(0.30)	0.51	縄文時代
2区-1	265	号ビット	X=43,586	Y=46,972	楕円形	U字形	A	0.24	0.20	0.37	
2区-1	266	号ビット	X=43,587	Y=46,973	楕円形	V字形	A	0.24	0.16	0.42	
2区-1	267	号ビット	X=43,587	Y=46,973	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.23	
2区-1	268	号ビット	X=43,587	Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.36	0.22	0.46	
2区-1	269	号ビット	X=43,588	Y=46,974	楕円形	U字形	A	0.36	0.28	0.60	
2区-1	270	号ビット	X=43,583	Y=46,977	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.22	
2区-1	271	号ビット	X=43,587	Y=46,977	円形	V字形	A	0.22	0.20	0.33	
2区-1	272	号ビット	X=43,586	Y=46,976	円形	U字形	A	0.18	0.18	0.27	
2区-1	273	号ビット	X=43,588	Y=46,976	円形	U字形	A	0.26	0.26	0.56	
2区-1	274	号ビット	X=43,588	Y=46,976	楕円形	U字形	A	0.24	0.18	0.61	
2区-1	275	号ビット	X=43,589	Y=46,976	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.38	
2区-1	276	号ビット	X=43,589	Y=46,977	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.33	
2区-1	277	号ビット	X=43,589	Y=46,976	円形	U字形	A	0.22	0.16	0.26	
2区-1	278	号ビット	X=43,591	Y=46,976	円形	U字形	A	0.28	0.24	0.19	
2区-1	279	号ビット	X=43,593	Y=46,976	円形	V字形	A	0.22	0.20	0.36	
2区-1	280	号ビット	X=43,594	Y=46,976	楕円形	U字形	A	0.20	0.13	0.46	
2区-1	281	号ビット	X=43,593	Y=46,974	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.49	
2区-1	282	号ビット	X=43,591	Y=46,974	楕円形	不整V字形	その他	0.50	0.24	0.77	1号竪立柱建物南辺柱穴
2区-1	283	号ビット	X=43,593	Y=46,980	円形	V字形	B	0.46	0.42	0.39	
2区-1	284	号ビット	X=43,588	Y=46,974	楕円形	V字形	A	0.46	0.34	0.60	
2区-1	285	号ビット	X=43,590	Y=46,975	不整形	有段	A	0.26	0.24	0.47	
2区-1	286	号ビット	X=43,591	Y=46,976	方形	U字形	C	0.54	0.46	0.13	
2区-1	287	号ビット	X=43,590	Y=46,973	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.19	
2区-1	288	号ビット	X=43,589	Y=46,973	円形	V字形	A	0.24	0.24	0.31	
2区-1	289	号ビット	X=43,589	Y=46,973	円形	U字形	A	0.18	0.16	0.31	
2区-1	290	号ビット	X=43,589	Y=46,972	円形	U字形	A	0.22	0.16	0.34	
2区-1	291	号ビット	X=43,590	Y=46,972	円形	U字形	C	0.22	0.20	0.51	
2区-1	292	号ビット	X=43,591	Y=46,972	不整形	有段	A	0.40	0.22	0.31	

遺構一覧表

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
2区-1	293 号ビット	X=43,590	Y=46,973	楕円形	U字形	その他	0.48	0.32	0.56	縄文時代
2区-1	294 号ビット	X=43,592	Y=46,974	円形	V字形	その他	0.54	0.46	0.96	縄文時代
2区-1	295 号ビット	X=43,591	Y=46,974	円形か?	U字形	B	0.30	(0.20)	0.39	縄文時代
2区-1	296 号ビット	X=43,592	Y=46,974	楕円形	U字形	その他	0.34	0.30	0.71	縄文時代
2区-1	297 号ビット	X=43,592	Y=46,971	楕円形	U字形	その他	0.45	0.38	0.60	縄文時代
2区-1	298 号ビット	X=43,592	Y=46,972	円形	U字形	その他	0.56	0.40	0.65	1号直立柱建物南辺柱穴
2区-1	299 号ビット	X=43,589	Y=46,971	円形	U字形	その他	0.28	0.26	0.26	縄文時代

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
3区-1	1 号ビット	X=43,496	Y=46,971	楕円形	不整形	C	0.40	0.30	0.25	
3区-1	2 号ビット	X=43,493	Y=46,971	円形	V字形	A	0.22	0.22	0.26	
3区-1	3 号ビット	X=43,493	Y=46,974	方形	U字形	A	0.24	0.22	0.25	
3区-1	4 号ビット	X=43,491	Y=46,977	不整形	逆台形	A	0.22	0.14	0.33	
3区-1	5 号ビット	X=43,493	Y=46,978	不整形	U字形	A	0.24	0.24	0.42	
3区-1	6 号ビット	X=43,492	Y=46,979	楕円形	U字形	A	0.26	0.18	0.42	
3区-1	7 号ビット	X=43,492	Y=46,979	円形	U字形	A	0.18	0.16	0.38	
3区-1	8 号ビット	X=43,491	Y=46,973	楕円形	U字形	B	0.30	0.26	0.34	
3区-1	9 号ビット	X=43,491	Y=46,973	不整三角形	U字形	C	0.22	0.20	0.26	
3区-1	10 号ビット	X=43,491	Y=46,971	方形	U字形	A	0.20	0.18	0.33	
3区-1	11 号ビット	X=43,491	Y=46,971	上端方形	U字形	A	0.26	0.24	0.38	
3区-1	12 号ビット	X=43,490	Y=46,974	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.36	
3区-1	13 号ビット	X=43,490	Y=46,974	円形	U字形	A	0.20	0.18	0.51	
3区-1	14 号ビット	X=43,489	Y=46,974	円形	有段	B	0.42	0.40	0.27	
3区-1	15 号ビット	X=43,488	Y=46,971	円形	逆台形	A	0.28	0.26	0.26	
3区-1	16 号ビット	X=43,488	Y=46,972	不整形	逆台形	A	0.36	0.26	0.38	
3区-1	17 号ビット	X=43,489	Y=46,975	円形	有段	A	0.32	0.20	0.31	
3区-1	18 号ビット	X=43,488	Y=46,976	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.23	
3区-1	19 号ビット	X=43,489	Y=46,981	長方形	U字形	A	0.32	0.20	0.68	
3区-1	20 号ビット	X=43,488	Y=46,973	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.33	
3区-1	21 号ビット	X=43,487	Y=46,972	円形	V字形	B	0.20	0.18	0.40	
3区-1	22 号ビット	X=43,487	Y=46,971	楕円形	U字形	A	0.24	0.20	0.51	
3区-1	23 号ビット	X=43,487	Y=46,972	不整三角形	V字形	A	0.24	0.20	0.31	
3区-1	24 号ビット	X=43,487	Y=46,973	不整三角形	U字形	A	0.20	0.20	0.42	
3区-1	25 号ビット	X=43,488	Y=46,976	円形	U字形	B	0.24	0.24	0.31	
3区-1	26 号ビット	X=43,487	Y=46,976	楕円形	逆台形	A	0.26	0.30	0.36	
3区-1	27 号ビット	X=43,488	Y=46,981	不整形	不整形	B	0.22	0.18	0.27	
3区-1	28 号ビット	X=43,486	Y=46,980	楕円形	U字形	A	0.22	0.20	0.39	
3区-1	29 号ビット	X=43,486	Y=46,981	円形	U字形	A	0.24	(0.12)	0.41	
3区-1	30 号ビット	X=43,485	Y=46,979	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.34	
3区-1	31 号ビット	X=43,477	Y=46,970	方形	逆台形	B	0.26	0.26	0.37	
3区-1	32 号ビット	X=43,476	Y=46,981	不整形	U字形	B	0.38	0.32	0.47	
3区-1	33 号ビット	X=43,475	Y=46,978	円形	U字形	B	0.22	0.18	0.29	
3区-1	34 号ビット	X=43,492	Y=46,979	楕円形	U字形	B	0.32	0.24	0.61	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
4区	1 号ビット	X=43,629	Y=46,999	円形	U字形	C	0.40	0.32	0.30	
4区	2 号ビット	X=43,628	Y=46,999	楕円形	V字形	B	0.32	0.22	0.40	
4区	3 号ビット	X=43,630	Y=46,996	不整形	不整形	A	0.46	0.26	0.46	
4区	4 号ビット	X=43,629	Y=46,996	円形	U字形	B	0.40	0.40	0.20	
4区	5 号ビット	X=43,627	Y=46,996	楕円形	U字形	C	0.30	0.22	0.22	
4区	6 号ビット	X=43,627	Y=46,997	不整形	不整形	C	0.48	0.36	0.41	
4区	7 号ビット	X=43,628	Y=46,996	不整形	U字形	C	0.60	0.46	0.21	
4区	8 号ビット	X=43,625	Y=47,999	不整形	U字形	C	0.34	0.30	0.31	
4区	9 号ビット	X=43,624	Y=46,999	不整形	U字形	A	0.52	0.48	0.16	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
5区-2	1 号ビット	X=43,590	Y=46,999	不整形	U字形	A	(0.20)	0.19	0.50	
5区-2	2 号ビット	X=43,590	Y=46,999	楕円形	U字形	A	0.22	0.18	0.48	
5区-2	3 号ビット	X=43,589	Y=46,995	長方形	U字形	A	0.27	0.21	0.52	
5区-2	4 号ビット	X=43,590	Y=46,994	方形基調	U字形	A	(0.21)	0.33	0.56	
5区-2	5 号ビット	X=43,589	Y=46,993	方形基調	U字形	A	0.38	0.30	0.61	
5区-2	6 号ビット	X=43,588	Y=46,993	楕円形	U字形	C	0.27	0.22	0.51	
5区-2	7 号ビット	X=43,587	Y=46,993	不整形	U字形	B	0.24	0.17	0.52	
5区-2	8 号ビット	X=43,588	Y=46,993	円形	U字形	B	0.16	0.14	0.42	
5区-2	9 号ビット	X=43,589	Y=46,996	楕円形	不整形	C	0.29	0.25	0.41	
5区-2	10 号ビット	X=43,588	Y=46,996	方形	V字形	C	0.24	0.21	0.59	
5区-2	11 号ビット	X=43,587	Y=46,997	楕円形	U字形	A	0.38	0.30	0.74	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
5区-2	12	44	588	楕円形	U字形	A	0.18	0.16	0.24	
5区-2	13	44	588	楕円形	U字形	A	0.22	0.13	0.31	
5区-2	14	44	588	長方形	V字形	C	0.32	0.21	0.66	
5区-2	15	44	589	楕円形	U字形	B	0.29	0.22	0.45	
5区-2	16	44	587	不整形	不整形	A	0.40	0.30	0.35	
5区-2	17	44	587	楕円形	U字形	A	0.36	0.26	0.47	
5区-2	18	44	586	楕円形	不整形	A	0.36	0.27	0.43	
5区-2	19	44	586	楕円形	不整形	A	0.32	0.24	0.51	
5区-2	20	44	586	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.44	
5区-2	21	44	585	方形基調	U字形	C	0.33	0.32	0.51	
5区-2	22	44	583	楕円形	U字形	A	0.32	0.19	0.62	
5区-2	23	44	583	方形	U字形	A	0.18	0.13	0.42	
5区-2	24	44	585	円形	U字形	C	0.24	0.20	0.32	
5区-2	25	44	584	楕円形	U字形	C			0.48	
5区-2	26	44	584	楕円形	U字形	C	0.19	0.17	0.35	
5区-2	27	44	583	円形	U字形	C	0.22	0.22	0.67	
5区-2	28	44	583	楕円形	U字形	C	0.18	0.11	0.50	
5区-2	29	44	583	楕円形	不整形	C	0.34	0.28	0.39	
5区-2	30	44	581	不整形	U字形	A	0.46	0.30	0.74	
5区-2	31	44	579	楕円形	U字形	A	0.34	0.23	0.33	
5区-2	32	44	578	円形	V字形	A	0.24	0.18	0.32	
5区-2	33	44	578	不整形	U字形	C	0.34	0.30	0.27	
5区-2	34	44	577	円形	U字形	C	0.32	0.30	0.23	
5区-2	35	44	575	円形	U字形	C	0.26	0.24	0.51	
5区-2	36	44	574	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.45	
5区-2	37	44	574	楕円形	不整形	C	0.36	0.30	0.43	
5区-2	38	44	572	円形	不整形	C	0.26	0.24	0.29	
5区-2	39	44	572	円形	V字形	C	0.22	0.16	0.37	
5区-2	40	44	577	楕円形	U字形	B	0.26	0.24	0.57	
5区-2	41	44	577	円形	逆台形	B	0.22	0.18	0.48	
5区-2	42	44	576	円形	U字形	A	0.28	0.19	0.42	
5区-1	43	44	605	楕円形	U字形	その他	0.70	0.50	0.68	縄文時代
5区-1	44	44	603	円形	逆台形	その他	0.70	0.70	0.60	縄文時代
5区-1	45	44	603	円形	U字形	その他	0.30	0.22	0.61	縄文時代
5区-1	46	44	603	円形	U字形	その他	0.44	0.40	0.63	縄文時代
5区-1	47	44	605	楕円形	逆台形	その他	0.46	0.38	0.61	縄文時代
5区-1	48	44	612	楕円形	U字形	A	0.22	0.16	0.25	
5区-1	49	44	611	円形	U字形	B	0.34	0.30	0.24	
5区-1	50	44	595	楕円形	U字形	A	0.38	0.32	0.68	
5区-1	51	44	595	円形	V字形	A	0.26	0.22	0.46	
5区-1	52	44	596	円形	V字形	A	0.30	0.24	0.48	
5区-1	53	44	595	楕円形	V字形	A	0.28	0.18	0.28	
5区-1	54	44	597	円形	U字形	A	0.34	0.30	0.37	
5区-1	55	44	611	円形	U字形	B	0.24	0.20	0.41	
5区-1	56	44	607	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.35	
5区-1	57	44	607	円形	U字形	B	0.26	0.24	0.38	
5区-1	58	44	604	円形	U字形	B	0.26	0.26	0.58	
5区-1	59	44	606	楕円形	U字形	その他	0.70	0.52	0.77	縄文時代
5区-1	60	44	608	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.29	
5区-1	61	44	589	円形	U字形	A	0.28	0.22	0.61	
5区-1	62	44	607	円形	U字形	B	0.60	0.50	0.18	
5区-1	63	44	607	楕円形	有段	B	0.50	0.40	0.16	
5区-1	64	44	603	楕円形	不整形	B	0.52	0.48	0.21	
5区-1	65	44	595	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.32	
5区-1	66	44	593	円形	U字形	A	0.22	0.18	0.38	
5区-1	67	44	596	円形	U字形	A	0.24	0.20	0.52	
5区-1	68	44	595	有段楕円形	不整形	A	0.58	0.44	1.08	
5区-1	69	44	597	楕円形	U字形	A	0.24	0.22	0.50	
5区-1	70	44	606	円形	U字形	B	0.44	0.38	0.21	
5区-1	71	44	601	不整形	U字形	A	0.30	0.26	0.39	
5区-1	72	44	600	方形	U字形	B	0.44	0.38	0.20	
5区-1	73	44	598	円形	U字形	B	0.32	0.26	0.27	
5区-1	74	44	605	円形	U字形	その他	0.44	0.38	0.57	縄文時代
5区-1	75	44	605	円形	U字形	その他	0.20	-	0.40	縄文時代
5区-1	76	44	605	円形	U字形	その他	0.34	0.34	0.44	縄文時代

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
6区-1	1	43	562	円形	U字形	A	0.34	0.28	0.52	
6区-1	2	43	560	楕円形	逆台形	B	0.40	0.30	0.44	
6区-1	3	43	559	円形	U字形	A	0.30	0.24	0.31	
6区-1	4	43	558	不整形	U字形	A	0.42	0.40	0.48	

遺構一覽表

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	
6区-1	5	43,557	46,394	円形	U字形	A	0.20	0.18	0.33	
6区-1	6	43,556	46,394	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.33	
6区-1	7	43,555	46,396	円形	U字形	A	0.22	(0.10)	0.25	
6区-1	8	43,555	46,396	円形	U字形	B	0.32	(0.20)	0.15	
6区-1	9	43,555	46,396	円形	U字形	A	0.40	0.32	0.28	
6区-1	10	43,555	46,395	円形	U字形	A	0.32	0.24	0.44	
6区-1	11	43,554	46,395	円形	U字形	A	0.40	0.34	0.20	
6区-1	12	43,556	46,393	方形縮窄	階段	A	0.56	0.36	0.51	
6区-1	13	43,557	46,393	円形	U字形	A	0.24	0.24	0.29	
6区-1	14	43,557	46,393	円形	U字形	A	0.26	0.26	0.37	
6区-1	15	43,558	46,392	楕円形	U字形	A	0.28	0.20	0.33	
6区-1	16	43,555	46,393	円形	U字形	A	0.44	0.36	0.25	
6区-1	17	43,556	46,392	不整形	U字形	A	0.20	0.20	0.39	
6区-1	18	43,556	46,392	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.25	
6区-1	19	43,557	46,391	円形	U字形	A	0.30	0.26	0.43	
6区-1	20	43,557	46,391	楕円形	V字形	A	0.52	0.40	0.64	
6区-1	21	43,556	46,391	不整形	U字形	A	0.40	0.20	0.23	
6区-1	22	43,555	46,391	円形	U字形	A	0.20	0.16	0.38	
6区-1	23	43,555	46,391	楕円形	U字形	A	0.26	0.20	0.34	
6区-1	24	43,554	46,391	円形	U字形	A	0.30	0.28	0.34	
6区-1	25	43,553	46,390	方形	不整形	C	0.32	0.28	0.17	
6区-1	26	43,553	46,391	円形	不整形	A	0.32	0.28	0.24	
6区-1	27	43,552	46,392	方形	U字形	B	0.38	0.34	0.45	
6区-1	28	43,552	46,390	円形	U字形	A	0.38	0.34	0.43	
6区-1	29	43,551	46,390	方形	漏斗形	A	0.36	0.34	0.33	
6区-1	30	43,548	46,394	楕円形	不整形	B	0.32	0.26	0.18	
6区-1	31	43,547	46,392	円形	U字形	B	0.38	0.36	0.22	
6区-1	32	43,547	46,391	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.19	
6区-1	33	43,546	46,392	円形	U字形	B	0.38	0.30	0.25	
6区-1	34	43,545	46,393	円形	U字形	B	0.32	0.28	0.70	
6区-1	35	43,544	46,390	円形	U字形	B	0.42	0.40	0.45	
6区-1	36	43,542	46,390	円形	遊台形	A	0.32	0.30	0.38	
6区-1	37	43,541	46,390	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.24	
6区-1	38	43,541	46,391	楕円形	遊台形	B	0.40	0.32	0.24	
6区-1	39	43,541	46,394	円形	U字形	A	0.30	0.28	0.43	
6区-1	40	43,540	46,394	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.47	
6区-1	41	43,537	46,389	楕円形	U字形	A	0.28	0.20	0.38	
6区-1	42	43,537	46,389	円形	U字形	A	0.18	0.18	0.24	
6区-1	43	43,537	46,389	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.30	
6区-1	44	43,538	46,390	楕円形	不整形	A	0.30	0.18	0.37	
6区-1	45	43,559	46,392	円形	U字形	A	0.40	0.25	0.41	
6区-1	46	43,555	46,395	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.22	
6区-1	47	43,540	46,390	円形	U字形	B	0.30	0.28	0.16	
6区-1	48	43,537	46,391	楕円形	U字形	C	0.30	0.26	0.33	
6区-1	49	43,537	46,390	円形	U字形	A	0.22	0.20	0.31	
6区-1	50	43,537	46,391	楕円形	U字形	A	0.40	0.20	0.37	
6区-1	51	43,538	46,392	円形	U字形	B	0.30	0.30	0.28	
6区-1	52	43,537	46,392	円形	U字形	A	0.28	0.22	0.31	
6区-1	53	43,536	46,394	円形	U字形	C	0.42	0.36	0.46	
6区-1	54	43,536	46,392	円形	U字形	A	0.30	0.30	0.30	
6区-1	55	43,536	46,389	円形	U字形	A	0.30	0.21	0.37	
6区-1	56	43,535	46,390	楕円形	U字形	C	0.34	0.28	0.50	
6区-1	57	43,537	46,389	円形	U字形	A	0.26	0.20	0.29	
6区-1	58	43,535	46,390	円形	U字形	A	0.22	0.18	0.54	
6区-1	59	43,535	46,391	円形	U字形	B	0.44	0.38	0.43	
6区-1	60	43,534	46,391	円形	U字形	B	0.30	0.26	0.39	
6区-1	61	43,533	46,391	円形	遊台形	B	0.40	0.34	0.51	
6区-1	62	43,533	46,391	円形	U字形	B	0.36	0.30	0.38	
6区-1	63	43,533	46,390	楕円形	U字形	A	0.48	0.26	0.75	
6区-1	64	43,533	46,391	円形	遊台形	A	0.30	(0.12)	0.41	
6区-1	65	43,533	46,393	不整形	V字形	B	0.44	0.28	0.73	
6区-1	66	43,541	46,393	円形	U字形	B	0.30	0.30	0.30	
6区-2	67	43,505	46,389	円形	U字形	B	0.40	0.38	0.22	
6区-2	68	43,507	46,389	円形	U字形	A	0.22	0.22	0.29	
6区-2	69	43,507	46,389	円形	U字形	B	0.46	0.40	0.12	
6区-2	70	43,507	46,390	円形	U字形	A	0.30	0.22	0.42	
6区-2	71	43,507	46,391	不整形	不整形	C	0.50	0.46	0.31	
6区-2	72	43,506	46,391	方形	U字形	A	0.38	0.24	0.50	
6区-2	73	43,506	46,392	円形	U字形	B	0.38	0.32	0.31	
6区-2	74	43,506	46,395	円形	不整形	B	0.46	0.40	0.16	
6区-2	75	43,506	46,395	円形	階段	C	0.34	0.30	0.36	
6区-2	76	43,508	46,393	円形	U字形	B	0.38	0.34	0.48	
6区-2	77	43,509	46,394	楕円形	U字形	B	0.30	0.22	0.45	

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	埋没土分類	規模			所属時期/備考
		X座標	Y座標				長さ(m)	幅径(m)	深さ(m)	
6区-2	78	号ビット	X=43,509 Y=46,993	円形	U字形	B	0.50	0.48	0.13	
6区-2	79	号ビット	X=43,510 Y=46,994	円形	すり鉢	B	0.40	0.38	0.17	
6区-2	80	号ビット	X=43,509 Y=46,991	楕円形	V字形	C	0.40	0.32	0.31	
6区-2	81	号ビット	X=43,510 Y=46,992	楕円形	V字形	C	0.36	0.30	0.23	
6区-2	82	号ビット	X=43,510 Y=46,991	円形	有段	B	0.42	0.38	0.21	
6区-2	83	号ビット	X=43,510 Y=46,990	円形	U字形	B	0.36	0.32	0.22	
6区-2	84	号ビット	X=43,511 Y=46,990	円形	U字形	B	0.24	0.20	0.54	
6区-2	85	号ビット	X=43,511 Y=46,990	楕円形	U字形	A	0.22	0.18	0.33	
6区-2	86	号ビット	X=43,510 Y=46,989	楕円形?	U字形	A	(0.30)	0.32	0.16	
6区-2	87	号ビット	X=43,511 Y=46,989	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.29	
6区-2	88	号ビット	X=43,512 Y=46,989	不整形	U字形	A	0.26	0.22	0.23	
6区-2	89	号ビット	X=43,512 Y=46,991	円形	U字形	A	0.32	0.24	0.35	
6区-2	90	号ビット	X=43,512 Y=46,991	円形	U字形	B	0.48	0.32	0.18	
6区-2	91	号ビット	X=43,513 Y=46,992	楕円形	U字形	C	0.48	0.36	0.29	
6区-2	92	号ビット	X=43,512 Y=46,993	楕円形	有段	B	0.68	0.38	0.33	
6区-2	93	号ビット	X=43,512 Y=46,993	方形	U字形	B	0.40	0.32	0.21	
6区-2	94	号ビット	X=43,512 Y=46,994	円形	U字形	B	0.42	0.36	0.12	
6区-2	95	号ビット	X=43,512 Y=46,995	楕円形	U字形	B	(0.30)	0.44	0.12	
6区-2	96	号ビット	X=43,513 Y=46,992	円形	U字形	C	0.40	0.32	0.54	
6区-2	97	号ビット	X=43,514 Y=46,992	楕円形	U字形	A	0.30	0.28	0.37	
6区-2	98	号ビット	X=43,514 Y=46,992	楕円形	U字形	B	0.56	0.44	0.17	
6区-2	99	号ビット	X=43,515 Y=46,993	円形	U字形	A	0.30	0.18	0.44	
6区-2	100	号ビット	X=43,514 Y=46,988	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.59	
6区-2	101	号ビット	X=43,517 Y=46,989	円形	U字形	A	0.24	0.22	0.30	
6区-2	102	号ビット	X=43,518 Y=46,992	不整形	U字形	A	0.38	0.26	0.14	
6区-2	103	号ビット	X=43,521 Y=46,993	楕円形	有段	その他	0.76	0.50	1.08	縄文時代
6区-2	104	号ビット	X=43,521 Y=46,992	円形	U字形	B	0.34	0.30	0.71	
6区-2	105	号ビット	X=43,520 Y=46,991	円形	U字形	B	0.22	0.22	0.37	
6区-2	106	号ビット	X=43,520 Y=46,991	円形	U字形	B	0.36	0.36	0.62	
6区-2	107	号ビット	X=43,522 Y=46,989	円形	ほこ形	A	0.32	0.28	0.17	
6区-2	108	号ビット	X=43,521 Y=46,994	楕円形	U字形	B	0.26	0.22	0.46	
6区-2	109	号ビット	X=43,520 Y=46,994	円形	U字形	B	0.62	0.48	0.16	
6区-2	110	号ビット	X=43,523 Y=46,989	円形	U字形	A	0.28	0.24	0.47	
6区-2	111	号ビット	X=43,523 Y=46,990	方形	U字形	A	0.28	0.26	0.53	
6区-2	112	号ビット	X=43,524 Y=46,992	楕円形	U字形	A	(0.22)	0.24	0.22	
6区-2	113	号ビット	X=43,524 Y=46,991	楕円形	U字形	A	0.28	0.24	0.44	
6区-2	114	号ビット	X=43,526 Y=46,991	方形	U字形	A	0.36	0.34	0.40	
6区-2	115	号ビット	X=43,523 Y=46,995	円形	不整形	B	0.38	0.34	0.44	
6区-2	116	号ビット	X=43,525 Y=46,993	楕円形	V字形	A	0.30	0.26	0.19	
6区-2	117	号ビット	X=43,527 Y=46,995	円形	U字形	A	0.26	0.24	0.31	
6区-2	118	号ビット	X=43,527 Y=46,994	円形	U字形	A	0.44	0.40	0.24	
6区-2	119	号ビット	X=43,527 Y=46,989	円形	U字形	A	0.32	0.30	0.45	
6区-2	120	号ビット	X=43,528 Y=46,991	不整形	不整形	A	0.32	0.32	0.38	
6区-2	121	号ビット	X=43,529 Y=46,992	不整形	不整形	A	0.32	0.24	0.45	
6区-2	122	号ビット	X=43,529 Y=46,991	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.29	
6区-2	123	号ビット	X=43,529 Y=46,993	楕円形	不整形	A	0.34	0.26	0.58	
6区-2	124	号ビット	X=43,529 Y=46,995	円形	U字形	A	0.26	0.22	0.24	
6区-2	125	号ビット	X=43,530 Y=46,991	円形	U字形	A	0.28	0.26	0.23	
6区-2	126	号ビット	X=43,530 Y=46,989	円形	V字形	B	0.36	0.30	0.51	
6区-2	127	号ビット	X=43,530 Y=46,993	不整形	U字形	C	0.26	0.26	0.32	
6区-2	128	号ビット	X=43,529 Y=46,995	円形?	U字形	A	0.24	(0.18)	0.42	
6区-2	129	号ビット	X=43,532 Y=46,993	円形	U字形	A	0.24	0.18	0.34	
6区-2	130	号ビット	X=43,532 Y=46,995	円形	U字形	A	0.40	0.32	0.43	
6区-2	131	号ビット	X=43,532 Y=46,994	円形	U字形	A	0.22	0.22	0.35	
6区-2	132	号ビット	X=43,531 Y=46,993	楕円形	V字形	A	0.32	0.26	0.66	
6区-2	133	号ビット	X=43,531 Y=46,994	楕円形	U字形	A	0.28	0.20	0.51	
6区-2	134	号ビット	X=43,531 Y=46,994	円形	U字形	不明	0.28	0.26	0.36	

溝

調査区	遺構番号	位置		平面形態	断面形態	走向	規模				所属時期
		X座標	Y座標				調査長(m)	上端(m)	下端(m)	深さ(m)	
2区-3	1	1号溝	X=43,517 Y=46,969 X=43,523 Y=46,978	—	逆台形	N-68°-W	5.80	0.68-0.96	0.53-0.80	1.17	不明

出土縄文土器一覽表

第4表 出土縄文土器一覽表

	早期		前期						中期					不明	小計			
	船荷原式	岡山1式	黒沢式	諸磯a式	諸磯b式古段階	諸磯b式山形文	諸磯b式浮線文	諸磯b式浅線文	浮島式	諸磯c式	下島式	結束・羽文	中期前半			阿玉台式	加賀利E3式	ヒメチユウ
2-2区	1号住居		30	13														43
2-1区	2号住居			5	28			1									1	246
2-3区	3号住居		234	15														249
2-3区	4号住居		12	3														15
5-1区	1号住居	1	3	9														13
2-2区	1号坑			2														2
2-2区	2号坑		1	4														5
2-2区	4号坑		1															2
2-2区	5号坑			2														2
2-2区	6号坑		21	17			1											39
2-2区	7号坑			1														1
2-2区	8号坑		2	18														20
2-2区	9号坑		2	32		1												35
2-2区	11号坑		7	3														10
2-2区	12号坑		3	2														5
2-1区	13号坑		1	1														2
2-2区	14号坑		2	15														17
2-2区	15号坑			2														2
2-4区	16号坑		4															4
2-4区	17号坑		2															2
2-4区	18号坑		10															10
2-4区	23号坑		1															1
2-4区	25号坑		1															1
2-4区	29号坑		8	1														9
2-4区	33号坑		1	1														2
2-1区	35号坑			2														2
2-1区	36号坑			10		2												12
2-1区	37号坑			1														1
2-1区	38号坑		1	2														3
2-1区	43号坑			3														3
2-1区	44号坑		2															2
2-1区	45号坑			2														2
2-1区	50号坑			1														1
2-1区	50・51号坑			3														3
2-1区	52号坑		7															7
2-1区	53号坑			1														1
2-1区	55号坑			1														1
2-1区	57号坑			28		4												32
2-1区	61号坑			7		1	1											9
2-1区	62号坑			2														2
2-1区	71号坑		1															1
2-3区	74号坑		2															2
2-3区	75号坑		2	9														11
2-3区	77号坑		18															18
2-3区	82号坑		1															1
2-3区	83号坑		14	2														16
2-2区	85号坑			2														2
3-1区	1号坑		1															1
5-2区	1号坑			1														1
5-2区	2号坑			3														3
5-2区	4号坑			2		1												3
5-2区	8号坑			1														1
5-2区	9号坑			1														1
5-2区	10号坑			1														1
5-2区	11号坑		1															1
5-1区	17号坑			14														14
5-1区	18号坑		1	6		3												10
5-1区	20号坑			19		5	3				1							28
5-1区	22号坑			3						1								4
5-1区	23号坑						1											1
5-1区	27号坑					1					1							2
5-1区	33号坑		1															1
5-1区	35号坑				1													1

	早期		前期										中期					小計	
	船荷原式	関山1式	黒沢式	諸磯a式	諸磯b式古段階	諸磯b式古形窓	諸磯b式浮板窓	諸磯b式浮板窓	浮島式	諸磯c式	下島式	結束・羽状文	中期前半	阿玉付式	加賀利E3式	E2E3E4E5	土製品		不明
6-1区 1十坑				1					1									2	
6-1区 4十坑				1														1	
6-1区 9十坑				2	3													5	
6-1区 11十坑				2	42		1											45	
6-1区 12十坑				6	156													162	
6-1区 12・13十坑					9													9	
6-1区 13十坑				4	29													24	
6-1区 14十坑				3	57		1				1							62	
6-1区 16十坑				1	2													3	
6-1区 17十坑				3	3													6	
6-1区 18十坑				1	13		1											15	
6-1区 19十坑					5													5	
6-1区 20十坑					14													14	
6-2区 27十坑					1													1	
2-2区 43ビット					1													1	
2-2区 68ビット					2													2	
2-4区 70ビット				1	1													2	
2-2区 74ビット					1													1	
2-2区 77ビット					2													2	
2-2区 78ビット										1								1	
2-2区 79ビット					1													1	
2-2区 82ビット					1													1	
2-4区 101ビット				1														1	
2-1区 141ビット					1													1	
2-3区 218ビット					1													1	
2-3区 222ビット					3													3	
2-3区 232ビット				1														1	
2-3区 235ビット				1														1	
2-3区 255ビット				1														1	
2-1区 267ビット					1													1	
2-1区 268ビット					1													1	
2-1区 284ビット					1													1	
2-1区 296ビット					2													2	
5-2区 15ビット									1									1	
5-2区 22ビット					1													1	
5-1区 42ビット					1													1	
5-1区 43ビット					5													5	
5-1区 46ビット					1													1	
5-1区 55ビット					1													1	
5-1区 74ビット					7													7	
5-1区 75ビット					2													2	
5-1区 76ビット							1											1	
6-1区 22ビット				1														1	
6-1区 33ビット				1														1	
6-1区 57ビット					1													1	
6-1区 62ビット					1													1	
6-2区 95ビット					1													1	
1区 遺構外				1			1											2	
2-1区 遺構外	2			49	2334	29	93	72	13	1	13	6	17	1	5	1	3	10	2652
2-2区 遺構外				194	995	2	4	1	6		2	1			1			8	1215
2-3区 遺構外				118	175		12												305
2-4区 遺構外				21	5														26
3-1区 遺構外				28	11								1						40
3-2区 遺構外				1															1
4-2区 遺構外					2														2
5-1区 遺構外				6	536	3	41	26	4	4	2	5	5				1	633	
5-2区 遺構外					18		1						1					1	21
6-1区 遺構外				17	171			1	1										190
6-2区 遺構外				7	14														21
小計	2	1	876	5134	34	174	107	26	5	20	14	24	1	6	1	4	4	20	6453

出土石器観察表

第5表 出土石器観察表

押回番号	PL	出土遺構	出土位置	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
17	20	2区1号住居	南壁古い、床面直上	凹石	扁平楕円鏡	表裏面とも敲打痕・摩耗痕。小口部上部に敲打痕。下部部を欠損する。	粗粒輝石安山岩	(7.0)	7.3	3.2	270.1	
-	21	-	2区1号住居	南壁古い、床面直上	扁平鏡	下端部小口部・側縁が衝撃破損する。破損部に部分的加工があり、敲石の再利用を試みている。	ホルンフェルス	4.8	11.2	5.5	305.7	
21	45	30	2区2号住居	仰南縁。床面上5cm。	凹基無茎鏡	完成状態。返し部が大きく広がり、断面は知れない。右辺先端部が変形しており、先端部の作りに失敗している。	チャート	(1.2)	1.6	0.3	0.4	
21	46	30	2区2号住居	中央部。床面上15cm。	石鏡	不明	完成状態。残存状態からみて細身・長身の石鏡とすることができる。節理面で破損。	チャート	(1.8)	(0.8)	(0.5)	0.5
21	47	30	2区2号住居	北西部。床面上20cm。	石鏡	不明	既述加工して刃部を作出する。刃部エッジはシャープで、摩耗痕は見られない。掘み部は作出されない。	チャート	3.0	0.8	0.5	1.3
21	48	30	2区2号住居	中央や北寄り、床面上12cm。	打製石斧	分割型?	未製品? 装着部より上端部のみ残存。側縁には磨蝕痕は確認できない。	ホルンフェルス	(7.0)	6.7	2.0	117.4
-	49	30	2区2号住居	北東部埋没土中。	削器	幅広い削片	左側縁部の加工は丁寧で、エッジは磨耗しているように見えるのに対して、右側縁部の加工は粗く、エッジは新鮮。	黒色頁岩	4.5	4.5	1.2	25.4
-	50	-	2区2号住居	埋没土中。	加工痕ある削片	幅広い削片	加工意図? 削器	ホルンフェルス	4.9	5.1	2.1	44.8
25	35	31	2区3号住居	埋没土中。	石鏡	平基無茎鏡	完成状態。先端部が鋭り込まれ、五角形状を呈する。細身・長身の石鏡を再加工した可能性も否定できない。	チャート	1.7	1.5	0.4	0.9
25	36	31	2区3号住居	埋没土中。	磨製石斧	乳円状	器体下半部を大きく欠損する。両部先端は敲打され、これに伴う小凹痕が生じている。	変玄武岩	(10.9)	(3.9)	(2.3)	134.8
25	37	31	2区3号住居	埋没土中。	磨石	楕円鏡	表裏面とも弱く磨耗する。側縁に敲打痕がある。	変質安山岩	8.4	6.9	5.1	396.8
25	38	31	2区3号住居	中央部4号ピット上面。床面直上。	石皿	有縁	背面側を深く窪く、機能部としての。機能部(石皿凹部)は平坦で、アナタタの打痕が目立ち、使用頻度は低い。裏面側に漏斗状の孔2を穿つ。	粗粒輝石安山岩	49.8	29.4	11.5	24680.0
-	39	31	2区3号住居	埋没土中。	削器	幅広い削片	裏面側の削片端部を加工して刃部を作出する。刃部エッジはシャープで、磨耗は見られない。	黒色頁岩	6.1	(8.8)	1.8	93.5
-	40	-	2区3号住居	埋没土中。	加工痕ある削片	幅広い削片	加工意図? 削器	黒色頁岩	6.5	5.5	2.0	49.5
-	8	31	2区4号住居	仰南縁。床面直上。	磨石	棒状鏡	表裏面とも磨耗する。裏面側には敲打磨蝕痕が大きく広がり、これを磨耗痕が覆う。	粗粒輝石安山岩	15.4	6.7	4.7	797.8
29	2	31	2区1号土坑	中央部。床面直上。	石皿	有縁	機能部は深く、使い込みが激しい。側面は敲打整形され、長方形に形状を整えている。裏面側に漏斗状の凹部を穿つ。	粗粒輝石安山岩	29.4	(22.4)	7.2	3802.4
-	2	-	2区5号土坑	埋没土中。	加工痕ある削片	横長削片	加工意図? 削器	頁岩	6.2	3.3	0.6	16.4
32	7	32	2区14号土坑	埋没土中。	凹石	扁平楕円鏡	背面側の集合打痕・摩耗痕があるほか、小口部上部に敲打・摩耗痕が残る。下部部を欠損する。	粗粒輝石安山岩	(6.3)	(8.6)	3.7	204.1
-	4	-	2区36号土坑	下層埋没土中。	石核	分割鏡	小型・幅広い削片を剥離。	チャート	3.6	5.5	1.5	30.0
-	6	-	2区77号土坑	埋没土中。	加工痕ある削片	小型削片	加工意図? 石鏡	チャート	1.9	1.3	0.4	0.9
51	318	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。表裏面とも焼熱して光沢を欠いている。	チャート	1.4	1.0	0.2	0.2
51	319	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。加工状態は丁寧で、右辺先端部を欠損する。	チャート	(1.2)	1.3	0.3	0.4
51	320	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	未製品。加工が粗く、右辺側加工がノッチ状に入り込む。	黒曜石	1.6	1.8	0.5	0.8
51	321	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。加工は丁寧で、左辺側の返し部を欠損する。	黒曜石	2.0	1.1	0.4	0.4
51	322	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。やや厚味だが、石鏡としての形状は良好。	チャート	2.5	1.6	0.5	1.2
51	323	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。加工は丁寧。石鏡としては大型の部類。	黒曜石	2.5	2.1	0.3	0.4
51	324	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	未製品。加工が全体的に粗く、やや厚い。左辺側に素材面を残し、加工途中で製作を放棄。	チャート	3.4	1.8	0.7	2.5
51	325	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	不明	未製品。加工状態は粗い。	チャート	(2.7)	(1.5)	0.5	1.6
-	364	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	完成状態。右辺側の返し部を欠損する。石鏡としては大型品の部類に入る。	黒曜石	2.5	(2.0)	0.2	0.9
-	365	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無茎鏡	未製品。加工状態は粗く、両辺の返し部を欠損する。	黒曜石	(1.7)	(1.2)	0.2	0.4

検出 番号	P.L	出土遺構	出土位置	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
- 366	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無牙鏡	完成状態。加工は丁字で、加工最終段階で左辺側の返し部を欠損したものと見られる。	チャート	2.0	(1.6)	0.3	0.6
- 367	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無牙鏡	完成状態?左辺側の返し部を小さく欠損する程度で、左右の返し部のバランスを欠く。完成状態以降で破損した石鏡を再加工した可能性がある。	チャート	2.1	(1.6)	0.3	0.9
- 368	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	凹基無牙鏡	完成状態。正三角形形状をした石鏡の先端部を欠く。加工状態は、やや粗い。	チャート	(1.3)	2.3	0.5	1.7
- 369	42	2区-2遺構外	44号ピット埋没土中。	石鏡	凹基無牙鏡	完成状態。加工は丁字で、加工最終段階で先端部を欠損したものと見られる。	チャート	(1.4)	1.4	0.3	0.5
- 370	42	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	不明	完成状態。幅広削片を周辺加工する。形態的には石楯種だが、右辺エッジは摩耗して、尖頭部型とするべきか。	黒曜石	(1.6)	(1.2)	0.3	0.6
51 326	41	2区-1遺構外	包含層中。	石楯?	柳葉形?	完成状態。幅広削片を周辺加工する。形態的には石楯種だが、右辺エッジは摩耗して、尖頭部型とするべきか。	ホルンフェルス	(6.3)	2.8	0.8	22.4
51 327	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	楕型	表面とも素材面を部分的に残しているが、加工は丁字で、比較的形状の整った石鏡が出土されている。	黒色安山岩	2.9	5.5	0.4	8.4
51 328	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	楕型	幅広削片を楕型に用い、周辺加工して石鏡を作出。裏面側には素材側面を大きく残す。	黒色安山岩	3.4	4.1	0.4	8.5
51 329	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	楕型	表面とも丁寧な理し施。左辺・裏面側に磨理面を大きく残す。精製石鏡の部類に入る。	チャート	2.4	3.9	0.2	2.5
51 330	41	2区-1遺構外	包含層中。	石鏡	不明	刃部先端は摩耗が著しく、激しく使い込まれている。幅み部を磨理面で欠く。	チャート	3.4	0.6	0.4	0.9
51 331	41	2区-2遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	幅広削片の裏面側端部に浅く粗い磨理面を欠す。弧状刃部を作出する。	砂岩	5.7	8.9	2.0	93.3
51 332	41	2区-4遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	表面を粗く周辺加工する。加工状態は石楯種だが、加工は初期段階であり、石楯と捉えるにはサイズ的に無理があり、削器として捉えた。	黒色頁岩	(8.4)	3.0	1.7	43.0
51 333	41	2区-1遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	表面側・削片端部に浅く粗い磨理面を施し、刃部を作出する。	チャート	(3.2)	(2.8)	1.0	6.8
- 371	42	2区遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	左右の両側縁を浅く加工して刃部を作出する。	黒色頁岩	7.7	10.4	2.3	198.4
- 372	42	2区-1遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	右辺側加工が整う以外、加工は粗い。右辺側は石楯種で、その破片を再加工している可能性が指摘される。	黒色頁岩	3.9	4.5	0.8	15.0
- 373	42	2区-1遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	削片端部を浅く加工して、弧状刃部を作出する。	黒色頁岩	4.6	7.8	1.3	37.7
- 374	42	2区-1遺構外	包含層中。	削器	幅広削片	削片端部の直線的形状を利用して粗く加工、刃部を作出。	珪質頁岩	4.3	5.8	1.3	36.6
- 375	-	2区-1遺構外	包含層中。	削器?	小型削片	背面側両側縁から浅く薄い磨理面を施す。削器の刃部として捉えることができる。判断が難しい。	チャート	2.3	1.1	0.8	2.0
52 334	41	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	未製品。右辺側比べ、左辺側加工は粗く、縁部加工としては不十分。	ホルンフェルス	9.8	(4.9)	1.8	95.9
52 335	41	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態。両側縁ともよく磨れ、装着部の加工は完成されている。破損部に加工があり、再加工の意図は決める。	ホルンフェルス	(8.5)	5.6	1.5	112.2
52 336	41	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	分楕型	完成状態。風化して刃部磨耗・接合部等は不明。上端部エッジは磨れて、磨耗しているのに見える。	ホルンフェルス	12.4	7.2	2.6	317.6
52 337	41	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	片刃・楕状	完成状態。両側縁を線形的に磨理。裏面側から加工して刃部を作出する。刃部磨耗は不明。	黒色頁岩	8.1	5.8	1.5	76.7
- 376	42	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態。左辺側エッジは磨れているのに対し、右辺側はシャープ。サイズ的に刃部再生も明らかで、左辺側を除き大きく変形。短楕型石斧が側縁を含め大きく変形する例。	ホルンフェルス	8.0	3.5	1.6	55.6
- 377	42	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態。両側縁ともエッジは磨れる。装着部が上端側に偏るタイプの石斧。	ホルンフェルス	(5.5)	(3.8)	1.7	35.7
- 378	42	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態?前部側を欠損しているが、破損面は磨耗しているように見える。刃部エッジは新鮮。ミニチュアサイズ。	ホルンフェルス	(6.5)	3.5	0.7	23.0
- 379	42	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態。表面とも磨理面あり。側部破片。	ホルンフェルス	(5.4)	4.6	1.3	36.2
- 380	42	2区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態?側部破片。側面磨理は新鮮で、磨理面を示す磨理痕は見られない。	黒色頁岩	7.2	4.1	1.1	37.3
- 381	42	2区-3遺構外	包含層中。	打製石斧	短楕型	完成状態。風化が激しく、磨理面等は不明。刃部を破損。	ホルンフェルス	9.1	4.9	1.6	91.6

出土石器観察表

探検番号	P.L	出土遺構	出土位置	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
- 382	42	2区-1遺構外	包含層中	打製石斧	楕型?	完成状態。体部上半を大きく絞り込み、装着部を作出する。風化が激しく、刃部摩耗等は不明。	ホルンフェルス	12.1	7.3	1.7	165.6
- 383	43	2区-1遺構外	包含層中	打製石斧	楕型?	完成状態。右辺側エッジが摩耗する。形状は不明だが刃部が幅広く、第529D336に類似する。	ホルンフェルス	(5.3)	7.3	1.2	76.4
- 384	43	2区-1遺構外	包含層中	打製石斧	分刺型	完成状態? 側縁は潰れているが、エッジはシャープで刃部が幅広く、第529D336に類似する。上半部欠損。	ホルンフェルス	(9.4)	6.1	1.3	89.0
52 338	41	2区-2遺構外	包含層中	磨製石斧	乳円状	完成状態。軸身の石斧刃部破片。裏面側の破損面には破損後の研摩があり、転用・使用している意図が窺える。	硬玄武岩	(10.0)	(3.9)	(2.2)	128.6
52 339	41	2区-1遺構外	包含層中	磨製石斧	乳円状	完成状態。上半部には黒色の光沢面が広がり、磨損痕として捉えることができる。体部下半を大きく欠損。	硬砂岩	(7.8)	(4.8)	(1.5)	70.1
- 385	43	2区-1遺構外	包含層中	磨製石斧	乳円状	完成状態。石斧体部破片で、破損面の大部分は被熱割離面で覆われている。向側縁には敲打に伴う小凹磨痕があり、転用使用された可能性がある。	輝緑岩	(5.3)	(6.6)	2.9	105.0
52 340	41	2区-1遺構外	包含層中	石核	簀子状?	上端側の角礫面より小形幅広く割片を剥離する。	黒曜石	1.9	1.5	1.3	2.9
52 341	41	2区-2遺構外	包含層中	石核	分刺鏃	杖状を呈する石核の表裏面で、作業面と固定して小形幅広く割片を剥離する。	チャート	5.5	8.3	3.5	178.2
52 342	41	2区-1遺構外	包含層中	石核	大型割片	表裏面で幅広く割片を剥離する。エッジには敲打痕が残り、石核を転用して敲打具として再利用した可能性がある。	ホルンフェルス	5.9	6.9	3.2	145.1
52 343	41	2区-1遺構外	包含層中	石核	大型割片	上端側小凹部で幅広く割片を剥離する。裏面は破面。	ホルンフェルス	7.9	8.0	3.4	209.4
- 386	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	大型割片	幅広く割片を剥離。	ホルンフェルス	7.6	7.2	2.6	119.4
- 387	-	2区-1遺構外	包含層中	石核	簀子状	小形割片を剥離。	黒曜石	1.6	2.8	1.0	4.1
- 388	-	2区-1遺構外	包含層中	石核	板状割片	幅広く割片を剥離。	チャート	3.6	5.4	2.9	53.9
- 389	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	板状割片	幅広く割片を剥離。	チャート	5.4	9.3	3.1	205.1
- 390	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	小型割片	表裏面とも対向側面がある。やぶ素材が厚く、石礫小製品とすることはできない。	チャート	2.1	2.9	1.1	7.8
- 391	-	2区-1遺構外	包含層中	石核	割片	小型割片を剥離。	チャート	2.9	2.0	0.7	5.1
- 392	-	2区-1遺構外	包含層中	石核?	割片	幅広く割片を剥離。	頁岩	6.1	6.7	1.9	85.8
- 393	-	2区-4遺構外	134号ピット埋没土中	石核	分刺鏃	幅広く割片を剥離。	ホルンフェルス	12.9	14.0	4.7	971.1
- 394	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	分刺鏃?	幅広く割片を剥離。	チャート	4.4	3.4	2.9	41.4
- 395	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	分刺鏃	幅広く割片を剥離。	チャート	5.2	4.4	4.8	153.5
- 396	-	2区-2遺構外	包含層中	石核	分刺鏃	向側縁側して小形割片を剥離。	チャート	2.3	3.0	1.5	8.5
52 344	41	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	板状鏃	小凹部表裏面を粗く加工する。加工意図については不明。	粗粒輝石安山岩	6.7	11.5	5.1	390.0
52 345	41	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	割片端部を粗く加工して、弧状刃部を作出。エッジが潰れ臭味で、敲打具として使用されたかもしれない。	砂岩	9.4	9.5	4.4	403.0
- 397	-	2区遺構外	中央トレンチ内	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	黒色頁岩	4.6	5.7	1.1	31.6
- 398	-	2区遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：打製石斧?	ホルンフェルス	(7.5)	(6.2)	1.9	124.3
- 399	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	ホルンフェルス	(5.1)	6.5	2.6	91.5
- 400	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	砂岩	8.5	(6.2)	2.0	90.6
- 401	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：不明	黒色頁岩	6.1	(4.9)	1.6	46.4
- 402	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	ホルンフェルス	4.3	5.2	0.8	20.6
- 403	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：不明	ホルンフェルス	3.7	5.2	1.2	27.0
- 404	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	頁岩	5.7	6.3	1.2	54.3
- 405	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：打製石斧	砂質頁岩	3.9	6.3	1.3	35.3
- 406	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：石礫?	チャート	2.1	2.1	0.6	2.8
- 407	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	ホルンフェルス	(7.3)	(4.2)	1.8	59.5
- 408	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	チャート	(2.3)	(3.5)	1.0	8.0
- 409	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：不明	ホルンフェルス	(7.5)	(6.6)	2.0	97.7
- 410	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：削器	ホルンフェルス	(1.9)	(4.8)	1.0	10.9
- 411	-	2区-3遺構外	包含層中	加工痕ある割片	幅広く割片	加工意図：打製石斧	砂岩	7.0	8.0	2.4	183.8
- 412	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	大型割片	加工意図：削器	ホルンフェルス	(5.8)	(3.9)	1.6	30.3
- 413	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	大型割片	加工意図：削器?	黒色頁岩	7.7	6.0	2.0	86.9
- 414	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	小型割片	加工意図：石礫?	黒色安山岩	3.0	1.8	0.9	3.4
- 415	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	小型割片	加工意図：削器	黒色頁岩	4.3	(3.9)	1.3	19.7
- 416	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	小型割片	加工意図：石礫?	黒曜石	(1.5)	2.2	0.4	1.5
- 417	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある割片	小型割片	加工意図：石礫?	砂岩	1.9	4.1	0.9	5.2
- 418	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある割片	小型割片	加工意図：不明	黒色頁岩	(2.1)	(2.1)	0.8	2.7

構内 番号	P.L	出土遺構	出土位置	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
- 419	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	小型銅片	加工意図：石鏝？	チャート	1.6	1.4	0.5	1.3
- 420	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	板状銅片	加工意図：形削	チャート	9.0	3.9	1.7	73.6
- 421	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	扁平鏝	加工意図：不明	雲母石炭片岩	8.9	5.1	1.7	79.5
- 422	-	2区-2遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	板状鏝	加工意図：形削	チャート	6.6	4.4	3.0	107.7
- 423	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	鏝片	加工意図：不明	砂岩	4.1	(6.6)	2.2	61.6
- 424	-	2区-1遺構外	包含層中	加工痕ある銅片	打製石斧	加工意図：形削	ホルンフェルス	8.0	5.5	2.0	100.5
52 346	42	2区-1遺構外	包含層中	凹石	楕円鏝	表裏面とも扁平状の凹部があるほか、小凹部の両側・両縁に敲打痕がある。石材が粗く、摩耗痕は不明瞭。	粗粒輝石安山岩	10.7	7.6	5.6	675.5
52 347	42	2区-1遺構外	包含層中	凹石	楕円鏝	楕面の摩耗が顕著で、よく使われている。凹石としての属性以外に、左側縁は溝状に窪み、数割以上の目的で使われたものと見られる。	粗粒輝石安山岩	(10.6)	7.8	5.2	553.6
52 348	42	2区遺構外	包含層中	凹石	楕円鏝？	裏面側が加熱処理して原形を大きく欠いている。背面側が削けて、黒く着色している。	粗粒輝石安山岩	(8.3)	7.4	4.0	312.7
52 349	42	2区-2遺構外	包含層中	凹石	楕円扁平鏝	背面側に集合打痕があるほか、側縁に敲打・摩耗痕が残る。右端部の変質は使用時によるものとは不明瞭。	粗粒輝石安山岩	(8.5)	8.0	4.2	437.1
52 350	42	2区-2遺構外	包含層中	凹石	球形鏝	表裏面とも中央付近に敲打痕が残る。小型で、凹石としたものと異なる用途が想定されるべきか。	粗粒輝石安山岩	5.5	4.9	4.1	145.7
52 351	42	2区-1遺構外	包含層中	凹石	右腕型	背面側に扁平状の凹部。裏面側に集合打痕があるほか、小凹部両端・両側縁の敲打・摩耗が著しい。	粗粒輝石安山岩	10.5	6.3	3.7	323.0
- 425	43	2区-1遺構外	包含層中	凹石	楕円鏝	表裏面とも扁平状の凹部があるほか、楕面に摩耗する。被熱して変ける。	粗粒輝石安山岩	12.4	7.9	4.6	675.9
- 426	43	2区-4遺構外	134号ピット埋没土中	凹石	楕円扁平鏝	表裏面とも敲打・摩耗痕が著しいほか、上端縁小凹部に敲打痕がある。	常陸炭灰岩	11.5	6.5	4.0	428.7
52 352	42	2区-4遺構外	134号ピット埋没土中	礫石	扁平楕円鏝	表裏面とも弱く摩耗する。側縁の敲打痕は見られない。	粗粒輝石安山岩	10.5	7.3	3.9	473.2
53 353	42	2区-1遺構外	包含層中	礫石	楕円鏝	表裏面とも弱く摩耗する。裏面側は背面側に比べ平坦で、摩耗度も高い。	粗粒輝石安山岩	(9.7)	8.4	3.5	697.9
- 427	43	2区-1遺構外	包含層中	礫石	楕円扁平鏝	表裏面とも著しく摩耗する。破損してサイズ等は不明。	粗粒輝石安山岩	(6.8)	(4.1)	4.6	150.3
- 428	43	2区-1遺構外	包含層中	礫石	楕円鏝	表裏面とも摩耗する。摩耗して部分的に縁が生じている。	粗粒輝石安山岩	8.2	6.3	4.0	342.3
- 429	43	2区-1遺構外	包含層中	礫石	扁平楕円鏝	表裏面に弱い摩耗痕がある。サイズ的には台石に近い。裏面側は加熱処理済。	粗粒輝石安山岩	(9.9)	(16.0)	5.0	1115.4
- 430	43	2区-2遺構外	包含層中	礫石？	棒状鏝	表裏面とも弱く摩耗する。下端部は意図的に打割され、弱く摩耗しており、スタンプ的に使用されたものか。	閃緑岩	(10.9)	7.9	5.9	974.3
53 354	42	2区-1遺構外	包含層中	敲石	楕円鏝	小凹部両端・側縁に敲打痕がある。	粗粒輝石安山岩	7.3	5.5	3.7	178.4
53 355	42	2区-2遺構外	包含層中	敲石	扁平楕円鏝	小凹部上端に敲打痕があるほか、背面側中央に敲打痕がある。	砂岩	10.8	7.8	3.4	458.7
53 356	42	2区-1遺構外	包含層中	敲石	扁平鏝	小凹部上端・側縁に敲打に伴う小剥離痕が連続する。	黒色片岩	13.2	6.2	2.1	256.2
- 431	43	2区-1遺構外	包含層中	敲石	扁平鏝	上端側に敲打に伴う剥離痕がある。	ホルンフェルス	(10.5)	3.0	2.3	82.9
53 357	42	2区-2遺構外	包含層中	石皿	有縁	石面の左辺・上端部破片。底部は平坦で、側縁は丁寧に敲打・整形されている。	粗粒輝石安山岩	(6.5)	(3.7)	4.0	84.8
53 358	42	2区-2遺構外	包含層中	石皿	定型	石面の左辺部破片。左辺側の土縁部が下階部で鉄より、機軸部は上階部の摩耗が著しいことから、掻き出しは下階部に想定されよう。	粗粒輝石安山岩	(8.5)	(11.1)	6.3	733.6
53 359	42	2区-1遺構外	包含層中	多孔石	楕円鏝	背面側平坦面に扁平状の孔を穿つ。裏面側は加熱処理済。	粗粒輝石安山岩	(13.9)	(9.3)	(10.7)	1305.9
53 360	42	2区-1遺構外	包含層中	スタンプ型石皿	柱状鏝	分割面が弱く摩耗するほか、体部側面に歯状剥離痕が見られる。	炭酸岩	9.9	5.9	5.5	515.7
53 361	42	2区-2遺構外	包含層中	スタンプ型石皿	棒状鏝	分割面が摩耗するほか、敲打に伴う剥離痕が体部に付く。	変成武岩	12.2	7.0	4.7	603.2
53 362	42	2区-1遺構外	包含層中	石製品	白玉	径50mmの孔を両側穿孔する。	滑石	1.6	1.5	0.6	2.3
53 363	42	2区-1遺構外	包含層中	石製品	球状貝跡形	上端側に径4mm(最小)の孔を補修孔として両側穿孔。	雲ろう石	(1.3)	(1.2)	0.6	1.8
55 9 3	43	3区遺構外	包含層中	打製石斧	短卵型	完成状態。風化が激しく、刃部摩耗等は不明。	ホルンフェルス	10.5	4.7	2.3	149.0
- 2	-	5区11号土坑	埋没土中	石核	角鏝	小型銅片を剥離。	黒曜石	2.6	3.6	2.2	19.2
- 1	-	5区15号土坑	埋没土中	加工痕ある銅片	板状銅片	加工意図：不明	チャート	2.7	3.0	1.1	11.1
- 2	-	5区16号土坑	埋没土中	加工痕ある銅片	小型銅片	加工意図：石鏝？(両極剥離)	チャート	(2.4)	(2.6)	0.7	3.8
- 3	-	5区17号土坑	埋没土中	加工痕ある銅片	小型銅片	加工意図：石鏝？(両極剥離)	チャート	2.8	(2.4)	0.9	5.4
64 1 44		5区32号土坑	埋没土中	凹石	扁平楕円鏝	表裏面とも摩耗する。背面側に集合打痕があるほか、側縁の敲打・摩耗が激しい。	粗粒輝石安山岩	12.0	8.2	4.4	601.5

出土石器観察表

探検	番号	PL	出土遺構	出土位置	器種	形態・素材	製作状況・使用状況	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
64	2	44	5区35号土坑	埋没土中。	多孔石	石皿?	表裏面に漏斗状の孔を穿つ。左側面は磨打され、右側縁の加工に似た整形が施されている。	新粒輝石安山岩	(10.4)	8.8	3.9	427.3
67	61	46	5区-1遺構外	包含層中。	石鏃	凹基無茎鏃	完成状態。基部を深くU字状に採る。早期特有の縦形鏃。	黒曜石	1.8	(1.3)	0.3	1.0
67	62	46	5区-2遺構外	包含層中。	石鏃	平基無茎鏃	完成状態。先端部には衝撃剥離面に似た剥離面がある。	チャート	(1.6)	1.3	0.3	0.5
67	63	46	5区-1遺構外	包含層中。	石鏃	凹基無茎鏃	完成状態。縦身・長身の石鏃。	黒色安山岩	2.8	1.6	0.5	1.2
-	73	46	5区-2遺構外	包含層中。	石鏃	凹基無茎鏃	完成状態。表裏面とも素材面を大きく残す。加工状態は丁寧で、右辺部・返し部の欠損は裏面側の破品が影響したものと見られる。	黒曜石	1.7	(1.3)	0.2	0.3
67	64	46	5区-1遺構外	包含層中。	石鏃		先端部を細く実らせ、機能部を作出している。先端部エッジはシャープで、摩耗面は見られない。刃部再生の可能性が指摘できよう。横み部は作出されない。	チャート	3.5	1.2	0.6	2.2
67	65	46	5区-1遺構外	包含層中。	石鏃		大きな横み部に機能部を小さく作出するタイプの石鏃。先端の摩耗は見られない。	チャート	2.7	1.8	0.8	3.7
67	66	46	5区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短冊型	完成状態。大型で重量感のある石斧。側縁は良く直れ、刃部は直刃様。風化して刃部摩耗等は不明。	ホルンフェルス	(13.0)	5.4	3.0	289.4
67	67	46	5区-1遺構外	50号ピット埋没土中。	打製石斧	短冊型?	完成状態。刃部摩耗・磨耗面がある。側縁材料に比べて、背面側の刃部摩耗は弱く、刃部再生は明らか。	黒色頁岩	11.5	(5.9)	1.2	83.5
67	68	46	5区-1遺構外	包含層中。	打製石斧	短冊型?	完成状態。体部上半を大きく絞り込み、装着部を作出する。刃部摩耗等は器面が風化して不明。	ホルンフェルス	12.0	7.3	2.4	190.1
-	74	-	5区-1遺構外	包含層中。	加工痕ある割片	幅広割片	加工痕四：打製石斧	ホルンフェルス	(6.3)	5.9	2.0	94.6
-	75	-	5区-1遺構外	包含層中。	加工痕ある割片	小型割片	加工痕四：石鏃	黒曜石	1.2	1.7	0.6	1.3
67	69	46	5区-1遺構外	包含層中。	凹石	楕円鏃	表裏面とも漏斗状の凹部・集合打痕があるほか、側縁に打痕・摩耗がある。磨石としての使用も顕著で、稜が形成されている。被熱して屈折。	新粒輝石安山岩	10.5	8.1	5.6	670.2
67	70	46	5区-1遺構外	包含層中。	磨石	扁平楕円鏃	表裏面とも磨料する。下部部を欠損する。	新粒輝石安山岩	(8.3)	11.0	4.1	450.7
67	71	46	5区-1遺構外	包含層中。	磨石	楕円鏃	側縁の磨打・摩耗が明確で、磨打に伴う剥離面・平坦な磨料面が形成されている。	新粒輝石安山岩	11.9	8.9	5.9	836.9
67	72	46	5区-1遺構外	包含層中。	石皿	有縁	石皿の右辺・土層側破片。底部は平坦で漏斗状の孔を穿つ。側縁整形は丁寧で、磨打整形していることが明らか。	新粒輝石安山岩	(12.7)	(8.4)	4.2	465.7
70	10	46	6区11号土坑	埋没土中。	打製石斧	短冊型	完成状態。装着部を上端部に作出する。刃部欠損。	黒色頁岩	(6.1)	(3.6)	1.4	36.6
71	33	47	6区12号土坑	埋没土中。	打製石斧	短冊型?	完成状態。体部上半を大きく絞り込み、装着部を作出。刃部欠損を大きく破損する。	ホルンフェルス	(8.5)	(6.5)	1.6	78.4
71	34	47	6区12・13号土坑	埋没土中。	打製石斧	短冊型?	完成状態。体部上半を大きく絞り込み、装着部を作出する。部分的に刃部摩耗・磨耗面がある。	ホルンフェルス	10.1	5.8	1.6	96.6
71	35	47	6区12号土坑	埋没土中。	磨石	扁平楕円鏃	表裏面とも滑い沢尻面を有する。側縁の打痕は未発達。	新粒輝石安山岩	6.4	5.5	3.1	172.6
-	36	47	6区12号土坑	埋没土中。	磨石	分別鏃	節理で割れた厚い鏃のエッジを加工。粗い刃部を作出する。	チャート	9.2	6.8	3.7	237.0
78	18	48	6区遺構外	包含層中。	凹石	石鏃型	表裏面・両側縁・小1上部とも磨打・摩耗面が著しく、よく使われている。背面側が被熱してヒビ割れている。	石英閃緑岩	13.2	6.8	4.6	620.6
79	1	48	遺構外	包含層中。	打製石斧	短冊型	完成状態。裏面・刃部側が節理面で破損。破損面エッジは鋭く、これを刃部として再利用しているように見える。	ホルンフェルス	(8.5)	3.7	1.6	64.1

報告書抄録

書名ふりがな	きたやまいせき
書名	北山遺跡
副書名	主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	545
編著者名	谷藤保彦 小島敦子 岩崎泰一
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120919
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	きたやまいせき
遺跡名	北山遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんみどりしかさがりけちまちあざみ
遺跡所在地	群馬県みどり市笠懸町阿左美
市町村コード	10212
遺跡番号	K0003
北緯(世界測地系)	36° 26' 28"
東経(世界測地系)	139° 18' 34"
調査期間	20100401-20100630
調査面積	3507
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	旧石器／縄文／不明
遺跡概要	集落-旧石器-土坑3 / 集落-縄文-竪穴住居6 + 土坑162 + ビット25 - 縄文土器 + 縄文石器 / その他-縄文-遺構外-縄文土器 + 縄文石器 / その他-平安-地割れ / その他-時期不明-溝1 + 土坑527
特記事項	旧石器時代の土坑状の落ち込みが3基検出された。
要約	渡良瀬川左岸、赤城山梨木岩屑流堆積物面に立地する縄文時代前期の集落遺跡。遺跡の東西は阿左美沼方向からの小規模な開析谷に面している。以前から発掘調査が行われてきたが、今回の調査で縄文時代前期の竪穴住居6軒と土坑が検出された。従前の調査で台地西側には旧石器も出土しているが、今回の調査では関東ローム層の中で土坑状の落ち込み3基が検出された。土坑の性格は不明であるが、遺構の検出がごく少ない時期であることから注目される。

写真図版



1区 調査区全景 南から



2区-1 調査区全景 南から



2区-2 調査区全景 南から



2区-3 調査区全景 南から



2区-4 調査区全景 北から



2区-1 旧石器調査坑No. 1 北壁土層断面



2区-1 旧石器調査坑No. 2 東壁土層断面



2区-1 旧石器調査坑No. 4 確認状況



2区-1 旧石器調査坑No. 5 確認状況



2区-2 旧石器調査状況全景 南から



2区-2 旧石器調査坑No. 1 東壁土層断面



2区-2 旧石器調査坑No. 2 東壁土層断面



2区-2 旧石器調査坑No. 3 東壁土層断面



2区-3 旧石器調査坑No. 1 東壁土層断面



2区-3 旧石器調査坑No. 2 As-BP上面



2区-3 旧石器調査坑No. 3 東壁土層断面



2区-4 旧石器調査坑 東壁土層断面



2区-1 遺構確認時の遺物出土状況 全景 南から



2区-1 遺構確認時の遺物出土状況 南から



2区 1号住居 全景 南から



2区 1号住居 遺物出土状態 南から



2区 1号住居 遺物出土状態 南から



2区 1号住居 炉 南から



2区 2号住居 全景 南から



2区 2号住居 遺物出土状態 南から



2区 2号住居 遺物出土状態 西から



2区 2号住居 炉 西から



2区 3・4号住居 全景 東から



2区 3号住居 全景 東から



2区 3号住居 遺物出土状態 南から



2区 3号住居 遺物出土状態 北から



2区 3号住居 遺物出土状態 北から



2区 4号住居 全景 北から



2区 4号住居 全景 南から



2区 4号住居 炉 東から



2区 1号掘立柱建物 全景 北東から



2区 1号掘立柱建物 全景 北西から



2区 1号土坑 西から



2区 2・15号土坑 南から



2区 3号土坑 東から



2区 4号土坑 東から



2区 5号土坑 東から



2区 6・14号土坑 西から



2区 7号土坑 南から



2区 8号土坑 南東から



2区 9号土坑 東から



2区 10号土坑 北から



2区 11号土坑 東から



2区 12号土坑 北から



2区 13号土坑 北から



2区 16号土坑 東から



2区 17号土坑 北から



2区 18号土坑 東から



2区 19号土坑 東から



2区 20号土坑 南から



2区 21号土坑 東から



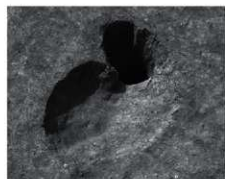
2区 22号土坑 東から



2区 23号土坑 東から



2区 24号土坑 東から



2区 25号土坑 北東から



2区 26・32号土坑 北東から



2区 27号土坑 東から



2区 28号土坑 東から



2区 29号土坑 東から



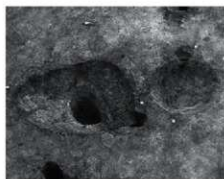
2区 30号土坑 東から



2区 31号土坑 北東から



2区 33号土坑 北から



2区 34・35号土坑 北東から



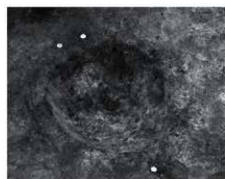
2区 36・37号土坑 南東から



2区 38・39・41号土坑 南東から



2区 40・47号土坑 南東から



2区 42号土坑 西から



2区 43号土坑 西から



2区 44号土坑 北から



2区 45号土坑 北西から



2区 46・48号土坑 北西から



2区 50・51号土坑 東から



2区 52号土坑 東から



2区 53・54号土坑 東から



2区 55号土坑 東から



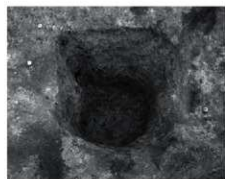
2区 56号土坑 北西から



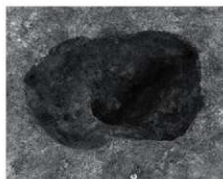
2区 57号土坑 西から



2区 58号土坑 西から



2区 59号土坑 南から



2区 60号土坑 南から



2区 61号土坑 南から



2区 62号土坑 西から



2区 71号土坑 南から



2区 72号土坑 南から



2区 73号土坑 南から



2区 74・80号土坑 南から



2区 75号土坑 南東から



2区 76号土坑 南から



2区 77号土坑 南から



2区 78号土坑 南から



2区 79号土坑 南東から



2区 81号土坑 南から



2区 82号土坑 南から



2区 83号土坑 南から



2区 84号土坑 上から



2区 1号溝西半 西から



2区 1号溝東半 西から



3区-1 調査区全景 南から



3区-2 調査区全景 北から



3区-1 旧石器調査状況全景 南から



3区-2 旧石器調査状況全景 北から



3区-1 旧石器調査坑No. 1 東壁土層断面



3区-1 旧石器調査坑No. 2 東壁土層断面



3区-1 旧石器調査坑No. 3 東壁土層断面



3区-2 旧石器調査坑No. 1 東壁土層断面



3区-2 旧石器調査坑No. 2 東壁土層断面



3区-2 旧石器調査坑No. 3 東壁土層断面



3区 1号土坑 南から



3区 2号土坑 南から



3区 3号土坑 南から



3区-1 地割れ状況 西壁土層断面付近



3区-2 地割れ状況 東壁土層断面付近



4区南側 調査区全景 北から



4区北側 調査区全景 南から



4区北側 旧石器調査 西壁土層断面に確認された旧石器時代の土坑断面



4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-BP層上面 北から



4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-BP層上面 南から



4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-BP層上面 東から



4区 旧石器時代の遺構確認状況 As-BP層上面 北東から



4区 5号土坑(旧石器時代)遺構確認状況 東から



4区 6号土坑(旧石器時代)遺構確認状況 東から



4区 5号土坑(旧石器時代)掘削状況 東から



4区 5号土坑(旧石器時代)掘削状況 南東から



4区 5号土坑(旧石器時代)掘削状況 東から



4区 5号土坑(旧石器時代) 東から



4区 6号土坑(旧石器時代) 東から



4区南側 旧石器調査 A5-BP層上面 北から



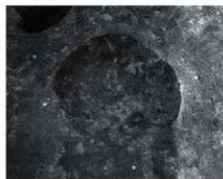
4区 5・6号土坑(旧石器時代) 全景・土層断面 東から



4区 1号土坑 南から



4区 2号土坑 南から



4区 3号土坑 南から



4区 4号土坑 南から



4区 7・8号土坑 南から



4区 9・10号土坑 南から



5区-1 調査区全景 南から



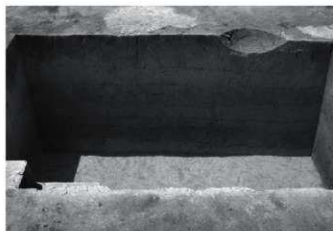
5区-2 調査区全景 南から



5区-1 旧石器調査坑No. 1 西壁土層断面



5区-1 旧石器調査坑No. 2 西壁土層断面



5区-2 旧石器調査坑No. 1 西壁土層断面



5区-2 旧石器調査坑No. 2 西壁土層断面



5区 1号住居 全景 南東から



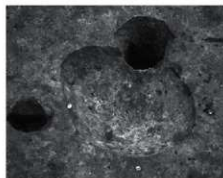
5区 1号住居 遺物出土状態 東から



5区 1号土坑 南から



5区 2号土坑 南東から



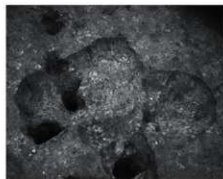
5区 3号土坑 南から



5区 4号土坑 西から



5区 5号土坑 南から



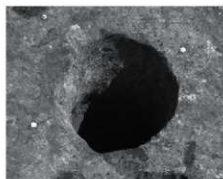
5区 6・7号土坑 南東から



5区 8・9号土坑 東から



5区 10号土坑 南から



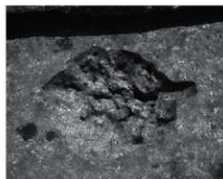
5区 11号土坑 南から



5区 12号土坑 南から



5区 13号土坑 南から



5区 14号土坑 西から



5区 15・16号土坑 東から



5区 17号土坑 東から



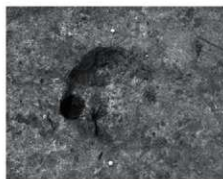
5区 19・20号土坑 南から



5区 21・22号土坑 東から



5区 23号土坑 南から



5区 24号土坑 東から



5区 25号土坑 西から



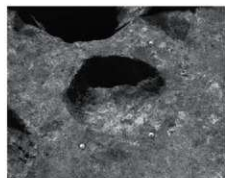
5区 26号土坑 東から



5区 28号土坑 東から



5区 29号土坑 南から



5区 30号土坑 東から



5区 35・36号土坑 南から



6区-1 調査区全景 南から



6区-2北側 調査区全景 南から



6区-2 南側 調査区全景 南から



6区-1 旧石器調査坑No. 1 西壁土層断面



6区-1 旧石器調査坑No. 2 西壁土層断面



6区-1 旧石器調査坑No. 3 西壁土層断面



6区-2 (北側) 旧石器調査坑No. 1 西壁土層断面



6区-2 (北側) 旧石器調査坑No. 1 北壁土層断面



6区-2 (南側) 旧石器調査坑No. 2 西壁土層断面



6区-2 (南側) 旧石器調査坑No. 3 西壁土層断面



6区-2 旧石器調査坑No. 3 暗色帯上面 遺構確認状況



6区-2 旧石器調査坑No. 3 暗色帯上面 遺構確認状況および西壁土層断面



6区-2 旧石器調査坑No. 3 暗色帯上面 遺構確認状況



6区-2 旧石器調査坑No. 3 暗色帯上面 遺構確認状況



6区-2 旧石器調査坑No. 3 拡張区 暗色帯上面 遺構(33号土坑)確認状況 東から



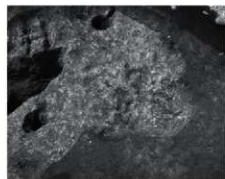
6区-2 旧石器時代 暗色帯上面 33号土坑 北東から



6区-2 旧石器時代 暗色帯上面 33号土坑 南から



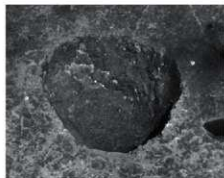
6区 1号土坑 南から



6区 2号土坑 南から



6区 3号土坑 南から



6区 4号土坑 南から



6区 5号土坑 東から



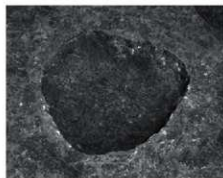
6区 6・7号土坑 南から



6区 8号土坑 南から



6区 9号土坑 西から



6区 10号土坑 南から



6区 11号土坑 南から



6区 12号土坑 南から



6区 13号土坑 南から



6区 14号土坑 南から



6区 15号土坑 西から



6区 16号土坑 西から



6区 17号土坑 南から



6区 18号土坑 西から



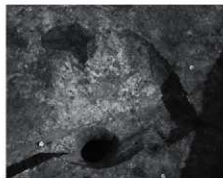
6区 19号土坑 東から



6区 20号土坑 南から



6区 21号土坑 東から



6区 22号土坑 南から



6区 23・24号土坑 南から



6区 25号土坑 南から



6区 26号土坑 南から



6区 27号土坑 南から



6区 28号土坑 南から



6区 29号土坑 南から



6区 30・32号土坑 南から



6区 31号土坑 南から

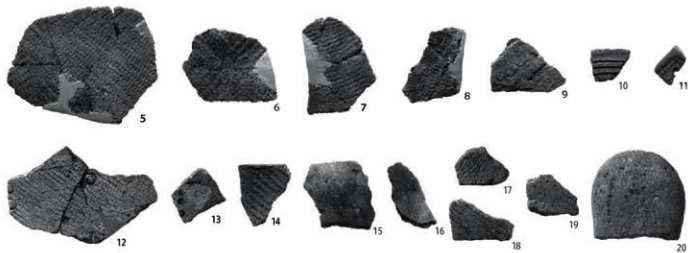
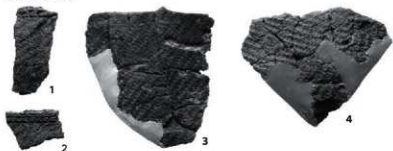


6区 34・35・38号土坑 東から

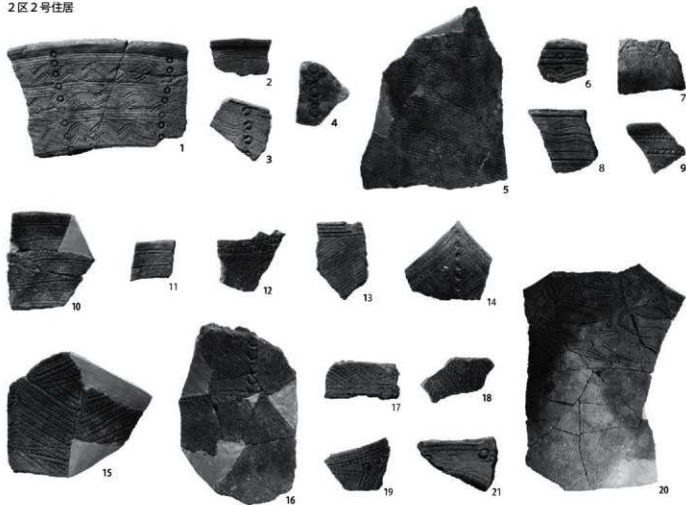
1区遺構外出土遺物

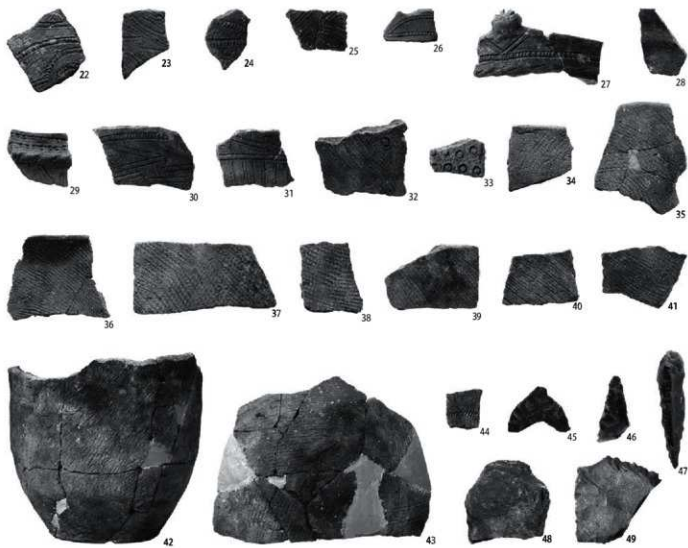


2区1号住居

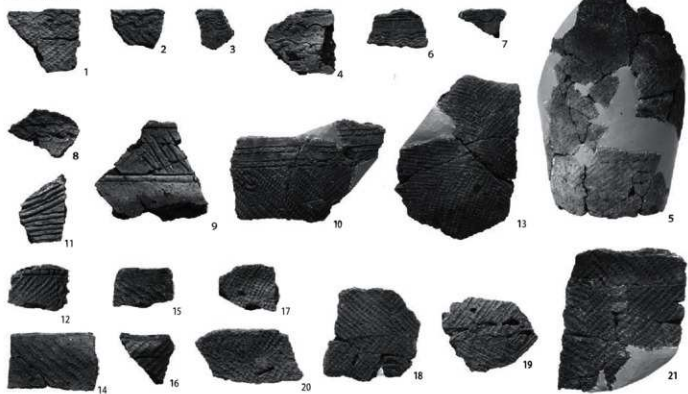


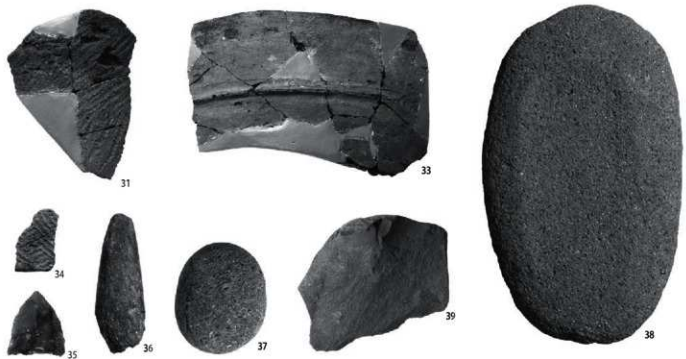
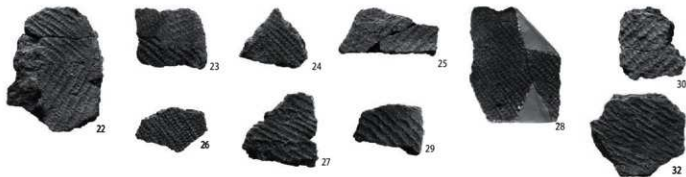
2区2号住居





2区3号住居





2区4号住居



2区1号掘立柱建物



2区2号土坑



2区1号土坑



2区4号土坑



2区5号土坑



PL.32

2区6号土坑



2区7号土坑



2区8号土坑



2区9号土坑



2区11号土坑



2区12号土坑



2区13号土坑



2区14号土坑



2区15号土坑



2区16号土坑



2区17号土坑



2区23号土坑



2区18号土坑



2区25号土坑



2区29号土坑



2区33号土坑



2区35号土坑



2区36号土坑



2区37号土坑



2区43号土坑



2区44号土坑



2区45号土坑



2区52号土坑



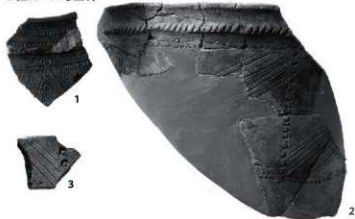
2区53号土坑



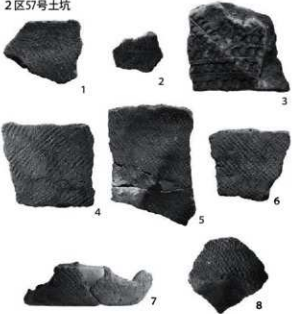
2区55号土坑



2区50·51号土坑



2区57号土坑



2区61号土坑



2区62号土坑



2区75号土坑



2区74号土坑



2区77号土坑



PL.34

2区82号土坑

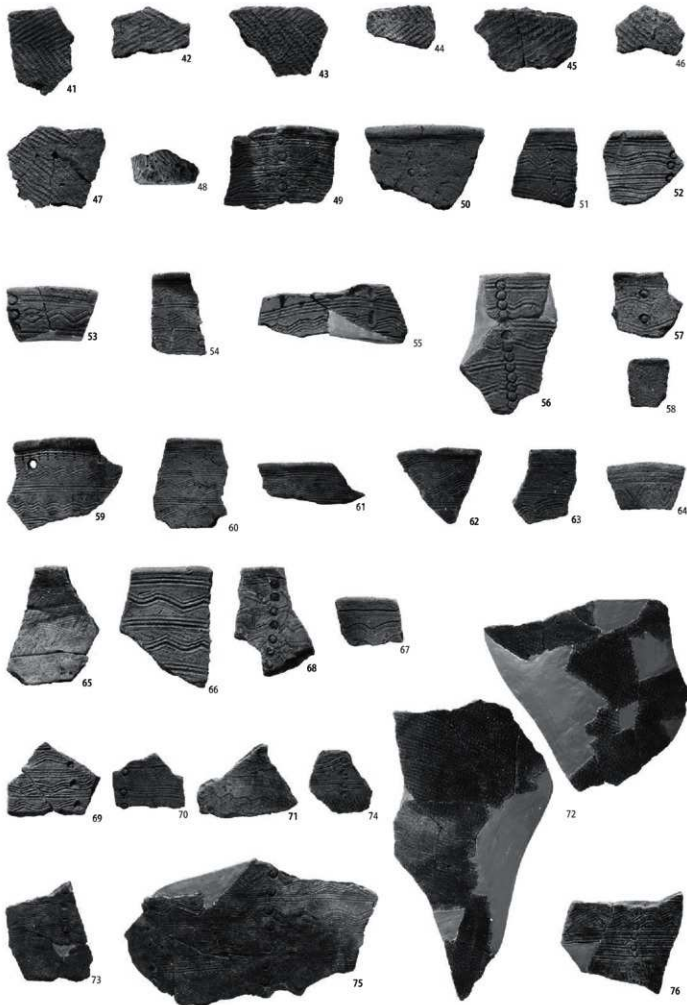


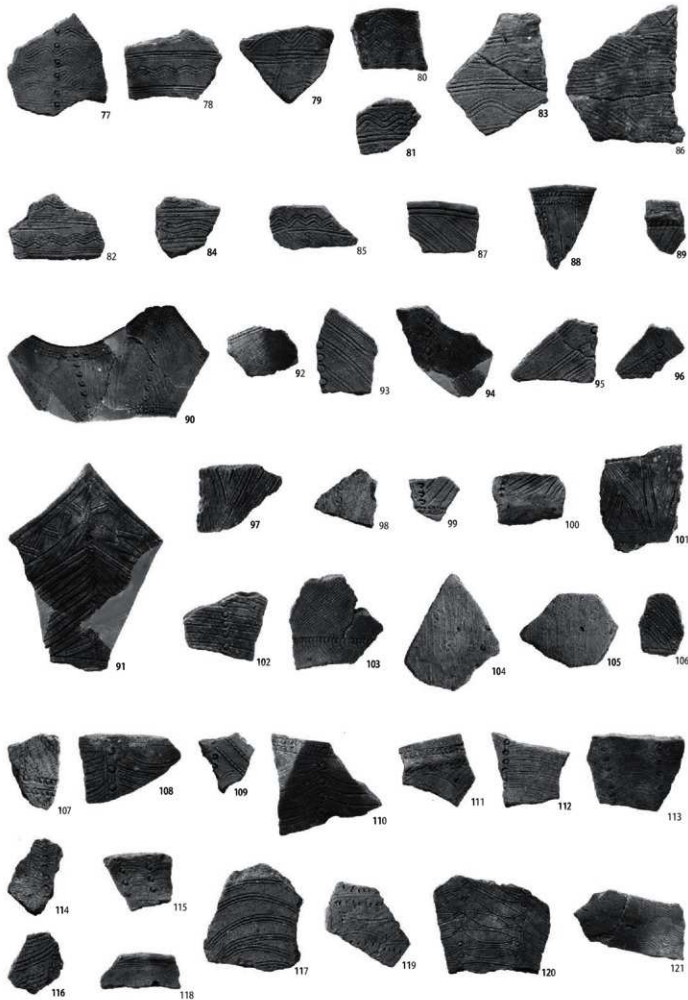
2区83号土坑

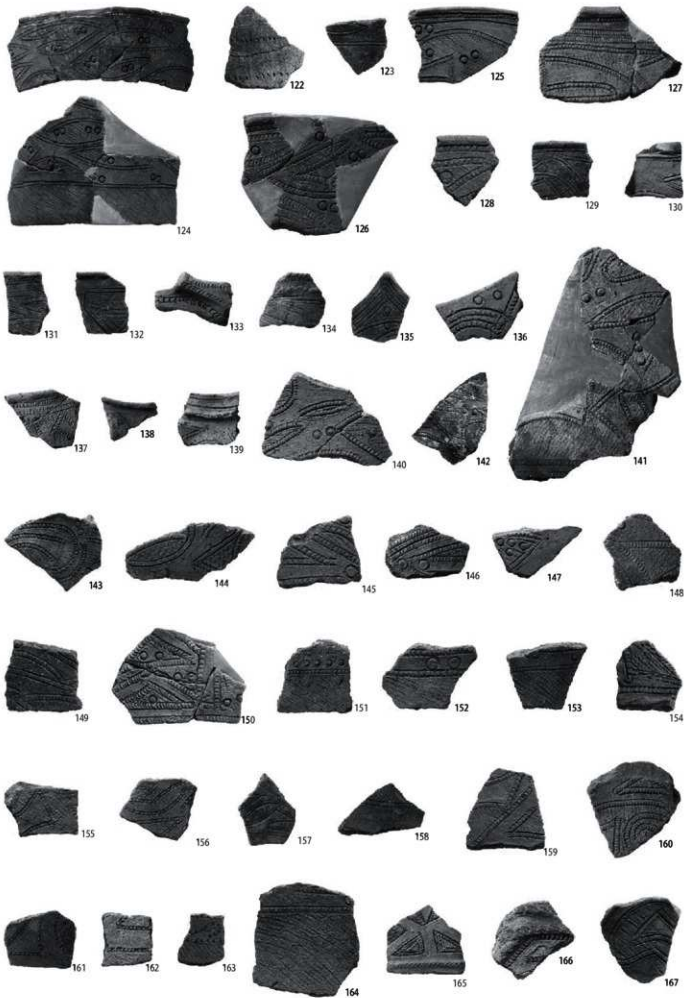


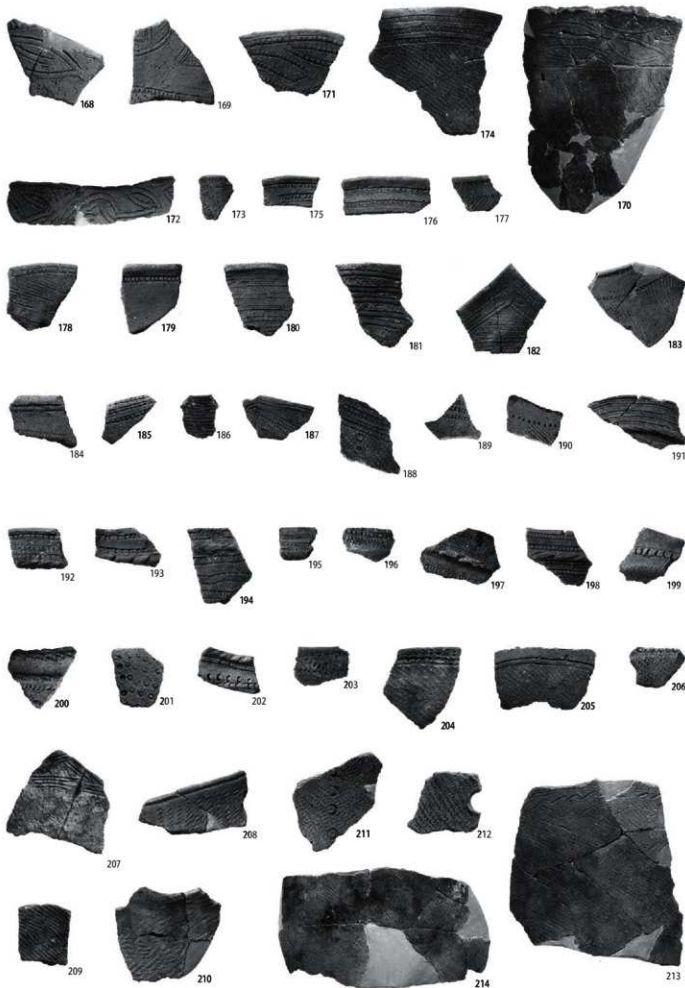
2区道槽外出土遗物

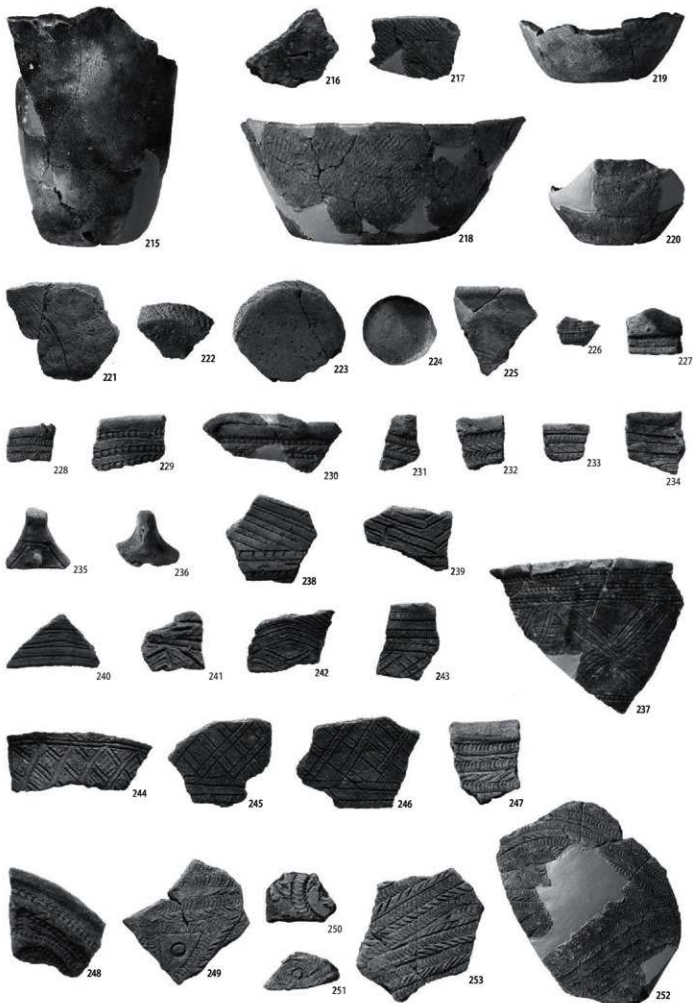


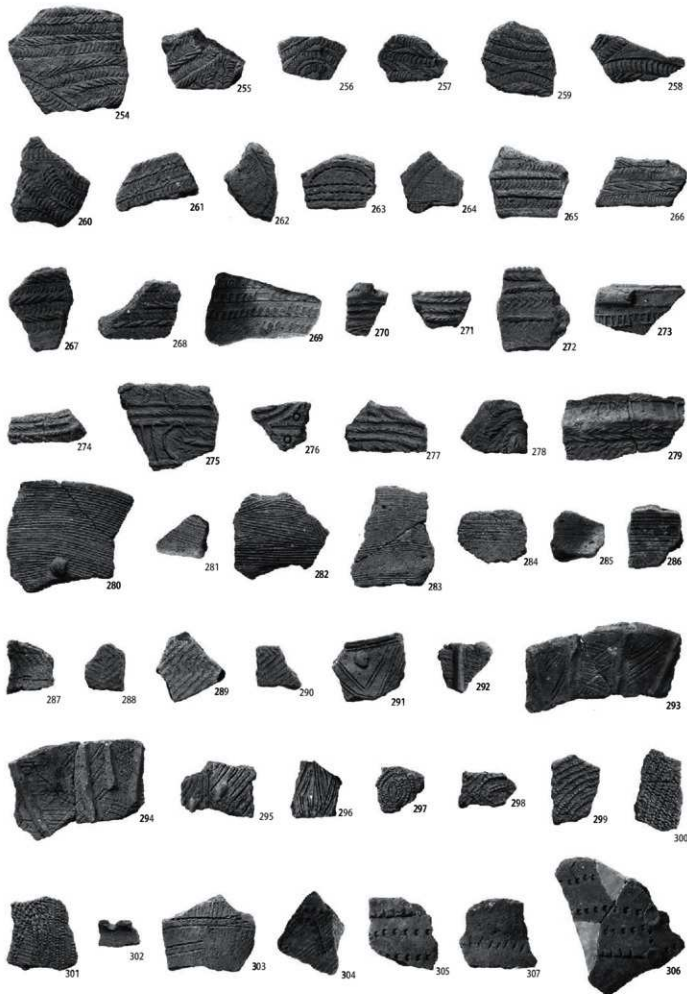
















380



381



382



383



385



384



338



339



340



341



342



343



344



345



346



347



348



349



350



351



425



426



352



353



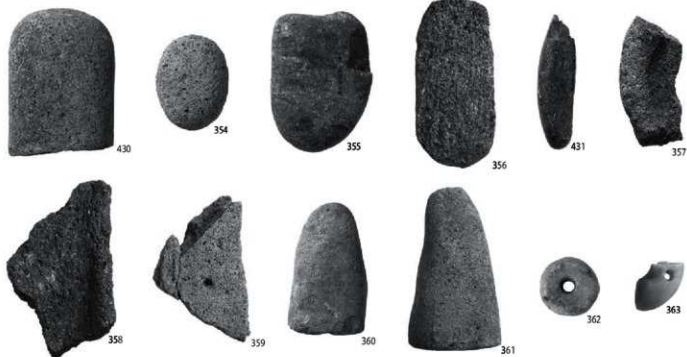
427



428



429



3区1号土坑

3区遗構外出土遺物



5区1号住居



4区遺構外出土遺物



5区1号土坑



5区4号土坑



PL.44

5区2号土坑



5区8号土坑



5区9号土坑



5区10号土坑



5区11号土坑



5区18号土坑



5区17号土坑



5区20号土坑



5区23号土坑



5区22号土坑



5区27号土坑



5区33号土坑



5区32号土坑



5区35号土坑



5区43号ビット

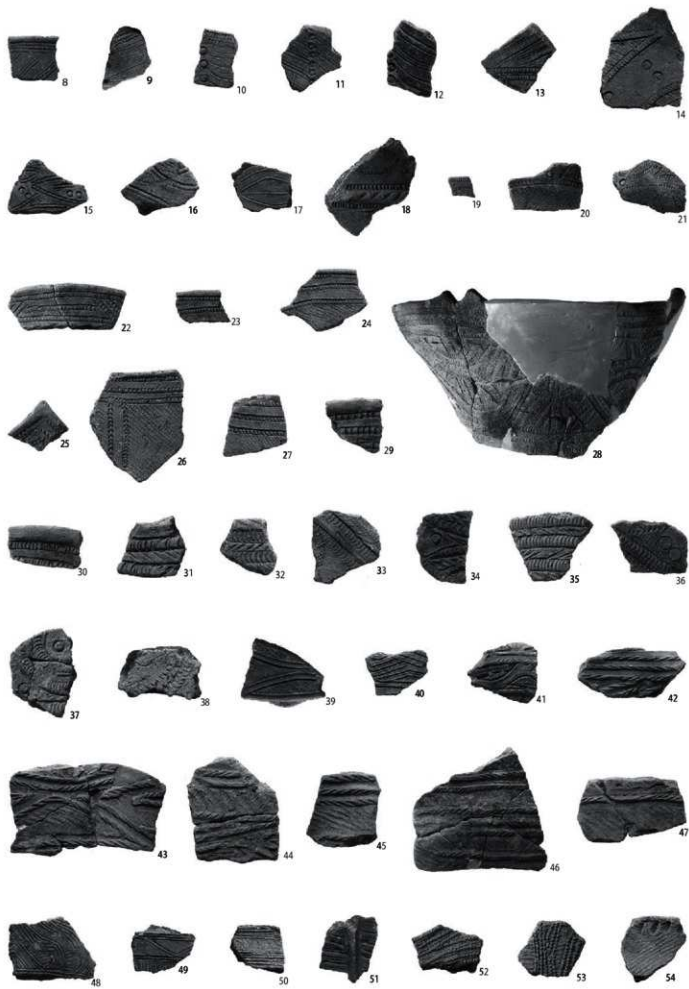


5区76号ビット



5区遺構外出土遺物







6区1号土坑



6区4号土坑



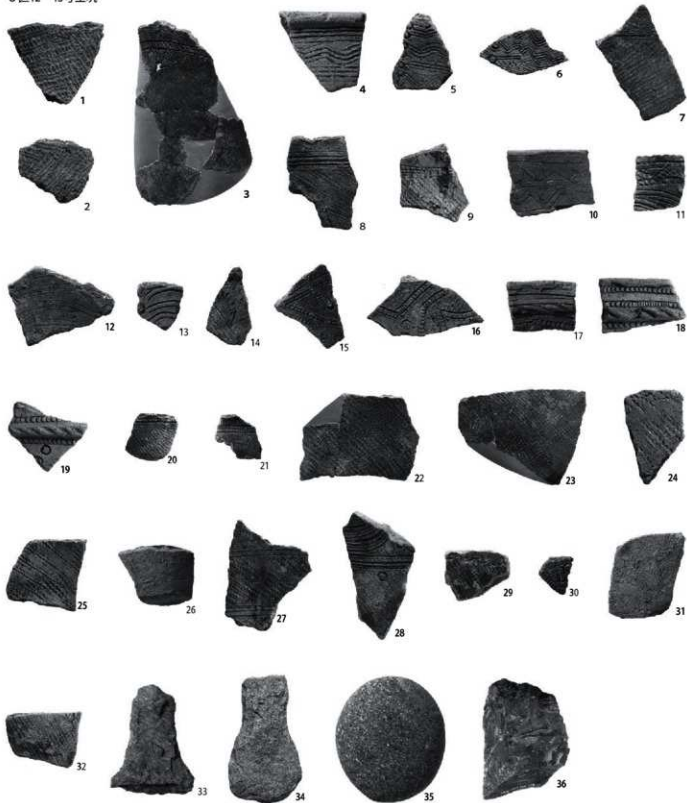
6区9号土坑



6区11号土坑

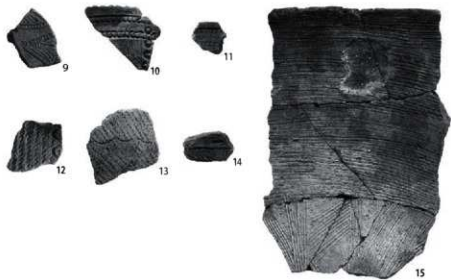


6区12·13号土坑



6区14号土坑





6区16号土坑



6区19号土坑



6区17号土坑



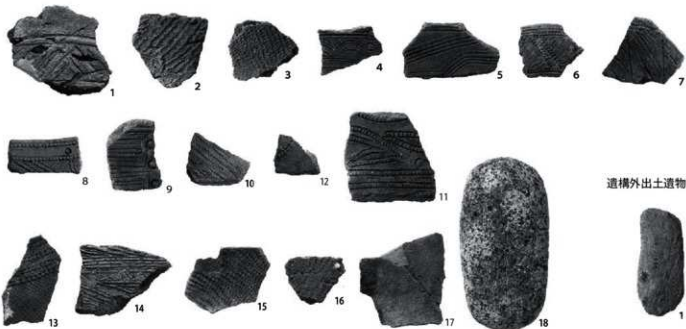
6区18号土坑



6区20号土坑



6区遗構外出土遺物



遺構外出土遺物



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第545集

北山遺跡 縄文時代集落の調査

主要地方道桐生伊勢崎線(阿左美バイパス)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年9月12日 印刷

平成24(2012)年9月19日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/株式会社 開文社印刷所
